ワークスペース エンバイロメント マネジメント™ 2308

Workspace Environment Management は、インテリジェントなリソース管理およびプロファイル管理テクノロジーを使用して、Citrix Virtual Apps and Desktops™展開向けに最高のパフォーマンス、デスクトップログオン、およびアプリケーション応答時間を提供します。これはソフトウェアのみの、ドライバー不要のソリューションです。

リソース管理 - ユーザーに最高の体験を提供するために、Workspace Environment Management は、ユーザーとアプリケーションの動作をリアルタイムで監視および分析し、その後、ユーザーワークスペース環境で RAM、CPU、および I/O をインテリジェントに調整します。

プロファイル管理 - 最高のログオンパフォーマンスを提供するために、Workspace Environment Management は、一般的に使用される Windows グループポリシーオブジェクト、ログオンスクリプト、および設定を、各仮想マシンまたはサーバーに展開されるエージェントに置き換えます。エージェントはマルチスレッドであり、必要な場合にのみユーザー環境に変更を適用するため、ユーザーは常に可能な限り迅速にデスクトップにアクセスできます。

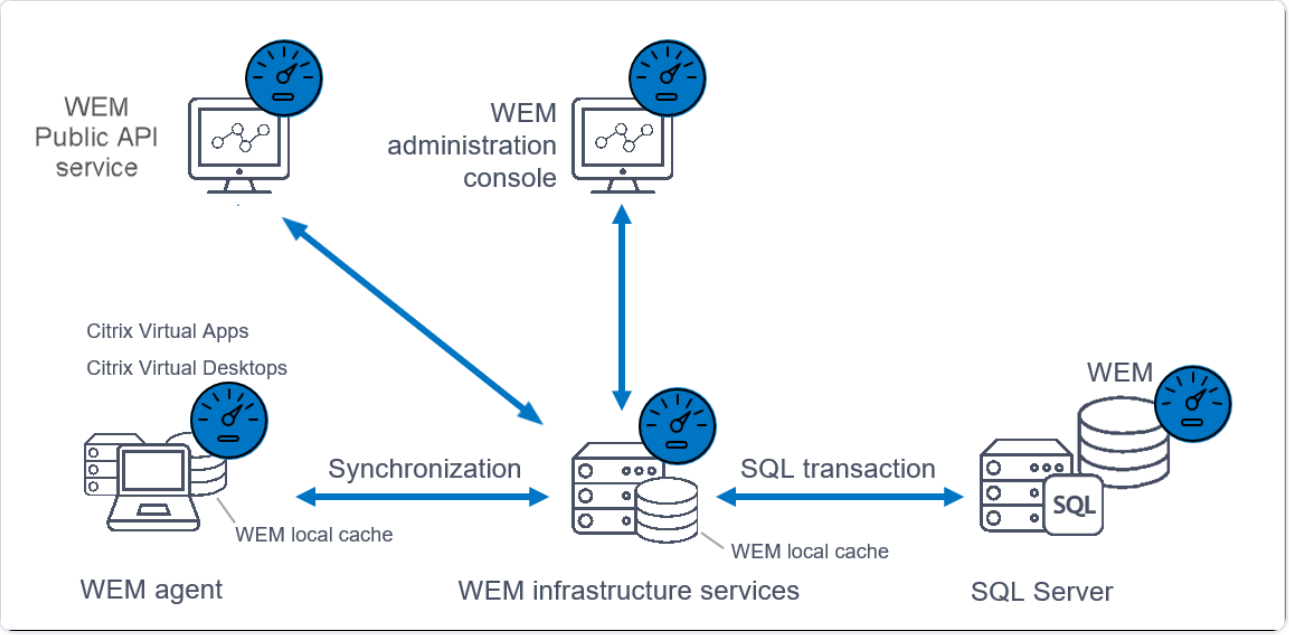
アップグレードについては、展開のアップグレードを参照してください。

現在のリリースをインストールする方法については、インストールと構成を参照してください。

> **注:**
>
> Workspace Environment Management は、Citrix Virtual Apps and Desktops の Current Releases (CR) ライフサイクルに含まれます。詳細については、製品マトリックスを参照してください。

技術概要

Workspace Environment Management (WEM) のアーキテクチャは次のとおりです。



インフラストラクチャサービス。インフラストラクチャサービスは、マルチセッションOSにインストールされます。これらは、さまざまなバックエンドコンポーネント（SQL ServerおよびActive Directory）をフロントエンドコンポーネント（管理コンソールおよびエージェント）と同期します。

> **注:**
>
> インフラストラクチャサービスはドメインコントローラーにインストールできません。Kerberos認証の問題により、このシナリオではインフラストラクチャサービスが機能しません。

> **管理コンソール**。Workspace Environment Management 管理コンソールは、シングルセッションまたはマルチセッションOSにインストールされます。これはインフラストラクチャサービスに接続します。管理コンソールを使用して、Workspace Environment Management のインストールを管理します。たとえば、リソースの作成と割り当て、ポリシーの管理、ユーザーの承認などを行います。

WEM Public API サービス。Workspace Environment Management Public API サービスは、WEM Web コンソールをサポートし、WEM インフラストラクチャサービスと通信するための HTTPS サービスを提供します。

エージェント。Workspace Environment Management エージェントは、Workspace Environment Management インフラストラクチャサービスに接続し、管理コンソールで構成した設定を適用します。エージェントは Virtual Delivery Agent (VDA) に展開できます。これにより、シングルセッ

ションまたはマルチセッション環境を管理できます。物理 Windows エンドポイントにエージェントを展開することもできます。

注:

- エージェントはインフラストラクチャサーバーにインストールできません。このシナリオでは、エージェントインストーラーは失敗します。
- Transformer機能はマルチセッションOSではサポートされていません。

SQL Serverデータベース。Workspace Environment Managementでは、設定を保存するためにSQL Serverデータベースが必要です。必要に応じて、データベースをSQL Server Always On可用性グループでホストできます。(詳細については、「システム要件」を参照してください。)

Microsoft Active Directoryサーバー。Workspace Environment Managementでは、ユーザーに設定をプッシュするためにActive Directoryへのアクセスが必要です。

ヒント:

最新のWorkspace Environment Managementインストーラーは、Citrix Virtual Apps and Desktopsのダウンロードページ `<https://www.citrix.com/downloads/citrix-virtual-apps-and-desktops/>` からダウンロードできます。そのページで、Citrix Virtual Apps and Desktopsの最新バージョンの**コンポーネント**の下にあるインストーラーにアクセスしてください。

新機能

2308の新機能

> ヒント:

> 最新のWorkspace Environment Managementインストーラーは、Citrix Virtual Apps and Desktopsのダウンロードページ `<https://www.citrix.com/downloads/citrix-virtual-apps-and-desktops/>` からダウンロードできます。そのページで、Citrix Virtual Apps and Desktopsの最新バージョンの**コンポーネント**の下にあるインストーラーにアクセスしてください。

> このリリースには、ユーザーエクスペリエンスを向上させるための以下の新機能と問題への対応が含まれています。

Webコンソール（プレビュー）

新しいWebベースのWorkspace Environment Management™ (WEM) コンソールが利用可能になりました。レガシーコンソールからWebコンソールへの重要な機能の移行プロセスが完了しました。Webコンソールは通常、レガシーコンソールよりも高速に応答します。以下の機能はWebコンソールでのみ利用可能です。

- スクリプト化されたタスク
- トリガー
- グループポリシー管理用テンプレートを使用したWindows GPOの構成
- インサイト
- 構成セットのバックアップを自動的に保存する機能など。

詳しくは、「Webコンソール」を参照してください。

WEMエージェントイベントログの強化

トラブルシューティング機能を向上させることを目的として、WEMエージェントイベントログを強化しました。強化点には以下が含まれます。

- 包括的なイベントログ: エージェントのアクティビティの全体像を把握できる、包括的なイベントログを提供しました。
- 一意のイベントID: 各イベントログに一意のIDが付与され、特定のイベントをフィルタリングして識別しやすくなりました。

詳しくは、「エージェントイベントログ」を参照してください。

WEM TransformerのMicrosoft Edgeブラウザサポート

WEM Transformerは、Microsoft Edgeブラウザの最新バージョンをサポートするようになりました。

CPUスパイク保護の機能強化

このリリースでは、CPUスパイク保護機能が強化され、よりきめ細かな制御が可能になりました。機能強化には、以下の変更が含まれます。

- CPUスパイク保護オプションを、より直感的なロジックで再編成し、設定を容易にしました。これはWEM Webコンソールにのみ適用されます。
- CPUスパイク保護をカスタマイズする際、CPU使用率の制限を非整数値で設定できるようになりました。この設定は、レガシーコンソールとWebコンソールの両方に適用されます。
- 新しいオプション「**単一CPUコアに対する制限を設定**」が利用可能になり、Webコンソールに適用されます。これにより、単一のCPUコアを基準としてCPU使用率の制限を設定できます。

詳細については、「CPUスパイク保護オプション」を参照してください。

WEM AdminConsoleおよびインフラストラクチャインストーラーのWiXサポート

Citrix®は、インフラストラクチャサービスおよび管理コンソール用のWiXベースのインストーラーを提供しています。新しいインストーラーには、.Netフレームワーク、インストールパス、サービス名、イベントログ名、パラメーターなどに対する変更が含まれています。

詳細については、「管理コンソール」および「インフラストラクチャサービス」を参照してください。

グループポリシー設定の動的トークンサポート

グループポリシー設定で動的トークンを使用できるようになりました。この機能により、さまざまな環境でのポリシー設定の適応性が向上し、手動設定が削減され、ポリシー管理が簡素化されます。詳細については、「グループポリシー設定の動的トークンサポート」を参照してください。

修正された問題

Workspace Environment Management™ 2308 には、Workspace Environment Management 2305 と比較して、以下の修正された問題が含まれています。

- Windowsイベントログに断続的に表示される以下のエラーが表示されることがあります: `HostDirectoryServicesController.IsCurrentDomainReachable(): Checking domain status timed out`。 WEMがドメインに到達可能であることを確認できないたびに、エラーがWindowsイベントログに書き込まれます。WEMがポリシーを処理する際に、これらのチェックが必要です。この問題は、WEMエージェントの機能には影響しません。
- プロファイルにパスの長さが260文字を超えるファイルまたはフォルダーが含まれている場合、ツール (ProfilesCleanserCmd.exe, ProfilesCleanserGUI.exe) を使用したプロファイルのスキャンが失敗します。
- WEM管理コンソールを介してプロファイル管理設定を構成した場合、プロファイル管理設定の**Enable OneDrive container**が有効にならないことがあります。回避策として、WEM管理コンソールではなく、グループポリシー設定を介して**OneDrive container**を構成してください。

既知の問題

Workspace Environment Management™ 2308 には、以下の既知の問題が含まれています。

- 「**Citrix Workspace™ (StoreFront™) リソース**」タイプの一部のアプリケーション（SaaSアプリケーションなど）が、エージェントマシンで起動に失敗する場合があります。
- WEMエージェントがWindows Server 2022で実行されている場合、特定のプロセスに適用したメモリ使用量制限が期待どおりに機能しないことがあります。
- WEMエージェントが起動時にポリシー設定の取得に失敗すると、SMB接続を設定するために構成されたSMB共有設定がすぐに利用できません。15分ごとに発生する次回の接続更新プロセスを待つ必要があります。
- Profile Managementが正しく構成されている場合でも、Profile Managementの健全性列にエラーが表示されることがあります。この問題は、WEMエージェントが使用する `UpmConfigCheck.ps1` スクリプトが期待どおりに機能しないために発生します。この問題は、Profile Management設定の**ログファイルへのパス**が有効になっており、そのパスに `%SystemRoot%` が含まれているマシンに影響します。

サードパーティに関する通知

Workspace Environment Management™ の現在のリリースには、以下のドキュメントで定義されている条件に基づいてライセンス供与されたサードパーティ製ソフトウェアが含まれている場合があります。

ワークスペース環境管理 サードパーティ通知

非推奨

この記事のお知らせは、段階的に廃止されるプラットフォームおよびWorkspace Environment Management™の機能について事前に通知し、お客様が適切なビジネス上の意思決定を行えるようにすることを目的としています。Citrix®は、いつ廃止されるかを判断するために、お客様の使用状況とフィードバックを監視しています。お知らせは、その後のリリースで変更される可能性があり、すべての非推奨の機能や機能性を含まない場合があります。

製品ライフサイクルサポートの詳細については、「製品ライフサイクルサポートポリシー」を参照してください。

非推奨と削除

次の表は、非推奨または削除されたプラットフォームおよびWorkspace Environment Management (WEM)の機能を示しています。

*非推奨*の項目は、すぐに削除されるわけではありません。Citrixは、このリリースでは引き続きサポートしますが、将来の現行リリースで削除されます。アスタリスク（*）が付いている項目は、次回のCitrix Virtual Apps and Desktops Long Term Service Release (LTSR)リリースまでサポートされます。

*削除済み*の項目は、Workspace Environment Managementで削除されたか、またはサポートされなくなった項目です。

項目	発表日	削除日	代替
キャッシュ同期ポートのサポート（Workspace Environment Management 1909以前に適用。Workspace Environment	2012	**2103**	Workspace Environment Management 1912以降にアップグレードしてください。注：Workspace Environment Management 2103以

項目	発表日	削除日	代替
Management 1912以降ではキャッシュデータ同期ポートに置き換えられました）。			降を使用している場合は、Workspace Environment Managementエージェントを1912以降にアップグレードしてください。
VMware Persona設定のサポート。	1906	**1909**	
以下のOSプラットフォームでのWEMインフラストラクチャサービスのサポート：Windows Server 2008 R2 SP1、およびWindows Server 2012。	4.7	**1808**	
WEM 管理コンソールの次の OS プラットフォームでのサポート: Windows Vista SP2 32 ビットおよび 64 ビット、Windows 7 SP1 32 ビットおよび 64 ビット、Windows 8.x 32 ビットおよび 64 ビット、Windows Server 2008 SP2、Windows Server 2008 R2 SP1、および Windows Server 2012。	4.7	**1808**	
WEM エージェントの次の OS プラットフォームでのサポート: Windows Vista	4.7	**1808**	

項目	発表日	削除日	代替
SP2 32 ビットおよび 64 ビット、および Windows Server 2008 SP2。			
WEM 3.0、3.1、3.5、3.5.1 から WEM 4.x へのインプレースアップグレード。*	4.5	WEM 3.5.2 にアップグレードしてから、WEM 4.x にアップグレードします。	
Windows XP SP3 32 ビットおよび 64 ビットでのすべての WEM コンポーネントのサポート。	4.5	4.5	サポートされている OS プラットフォームを使用してください。
WEM エージェントの次の OS プラットフォームでのサポート: Windows XP SP3 32 ビットおよび 64 ビット、Windows Server 2003 32 ビットおよび 64 ビット、Windows Server 2003 R2 32 ビットおよび 64 ビット	4.5	4.5	サポートされているOSプラットフォームを使用してください。
GPOを介して既存の（バージョン4.3以前の）エージェントをサイトに割り当ててバインドするサポート。	4.3		エージェントを Workspace Environment Management 4.3以降にアップグレードしてください。
以下のOSプラットフォームでのWEM管理コンソールのサポート：Windows XP SP3 32ビットおよび64ビット、	4.2	4.5	サポートされているOSプラットフォームを使用してください。

項目	発表日	削除日	代替
Windows Server 2003 32ビットおよび64ビット、Windows Server 2003 R2 32ビットおよび64ビット			
以下のOSプラットフォームでのWEM管理コンソールのサポート：Windows Vista SP1 32ビットおよび64ビット、Windows Server 2008、Windows Server 2008 R2	4.2	4.5	
Microsoft .NET Framework 4.0、4.5.0、または4.5.1上のすべてのWEMコンポーネントのサポート。	4.2	4.5	Microsoft .NET Framework 4.5.2 にアップグレードします。

クイックスタートガイド

このガイドでは、Workspace Environment Management™ (WEM) のインストールと構成の方法について説明します。段階的なインストールと構成の手順、および推奨されるベストプラクティスを提供します。

概要

WEM は、ユーザーに最高のワークスペースエクスペリエンスを提供できるように設計されたユーザー環境管理ソリューションです。これはソフトウェアのみで、ドライバー不要のソリューションです。

前提条件

環境に WEM をインストールする前に、すべてのシステム要件を満たしていることを確認してください。詳細については、「システム要件」を参照してください。

インストールと構成

Citrix® は、最新バージョンの WEM をインストールすることをお勧めします。WEM の展開は、インフラストラクチャサービス、管理コンソール、エージェントの 3 つのコアコンポーネントのインストールと構成で構成されます。次の手順では、これらのコンポーネントのインストールと構成方法について詳しく説明します。

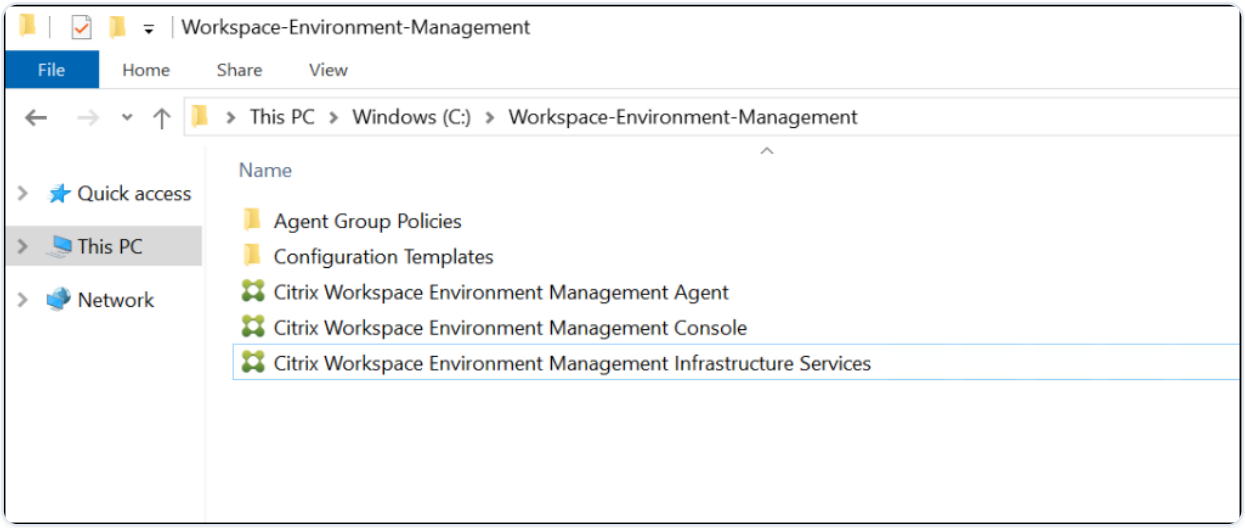
- インフラストラクチャサービス
- 管理コンソール
- Web コンソール
- エージェント

> **注:**
>
> - 上記のコンポーネントをドメインコントローラーにインストールしないでください。

- Delivery Controller™ がインストールされているサーバーにインフラストラクチャサービスをインストールしないでください。

ステップ 1: インフラストラクチャサービスをインストールする

1. Citrix Virtual Apps and Desktops Advanced または Premium Edition Components のダウンロードページ `<https://www.citrix.com/downloads/citrix-virtual-apps-and-desktops/>` から最新の WEM インストーラーをダウンロードします。zip ファイルを任意のフォルダーに抽出します。



2. インフラストラクチャサーバーで **Citrix Workspace Environment Management Infrastructure Services.exe** を実行します。
3. 「**インストール**」をクリックします。
4. **次へ**をクリックします。
5. ライセンス契約で「ライセンス条項と条件に同意します」を選択します。

   WEMライセンス契約インフラストラクチャサービス(/en-us/workspace-environment-management/2308/media/wem-license-agreement-infrastructure-services-broker-installer.PNG)
6. ウィザードの指示に従って手順を完了します。

ステップ2：WEMデータベースを作成する

1. データベース管理ユーティリティで、**Create Database** をクリックして、展開用のWEMデータベースを作成します。データベース作成ウィザードが表示されます。

> **注:**
>
> SQL ServerでWindows認証を使用している場合は、システム管理者権限を持つIDでデータベース作成ユーティリティを実行してください。

> WEMデータベースの作成01(/en-us/workspace-environment-management/2308/media/wem-creating-a-wem-database-01.png)

2. ようこそページで、**Next** をクリックします。

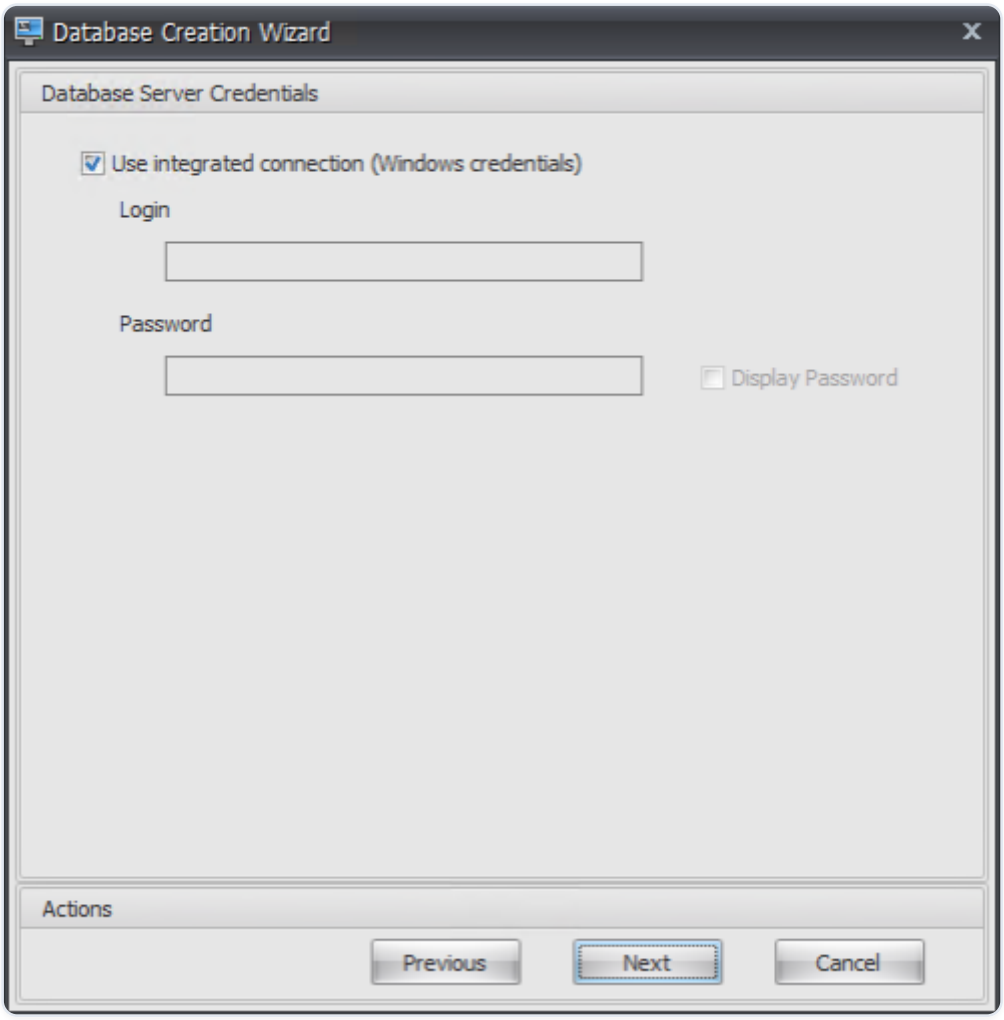
   WEMデータベースの作成02(/en-us/workspace-environment-management/2308/media/wem-creating-a-wem-database-02.png)

3. データベース情報ページで、必要な情報を入力し、**Next** をクリックします。

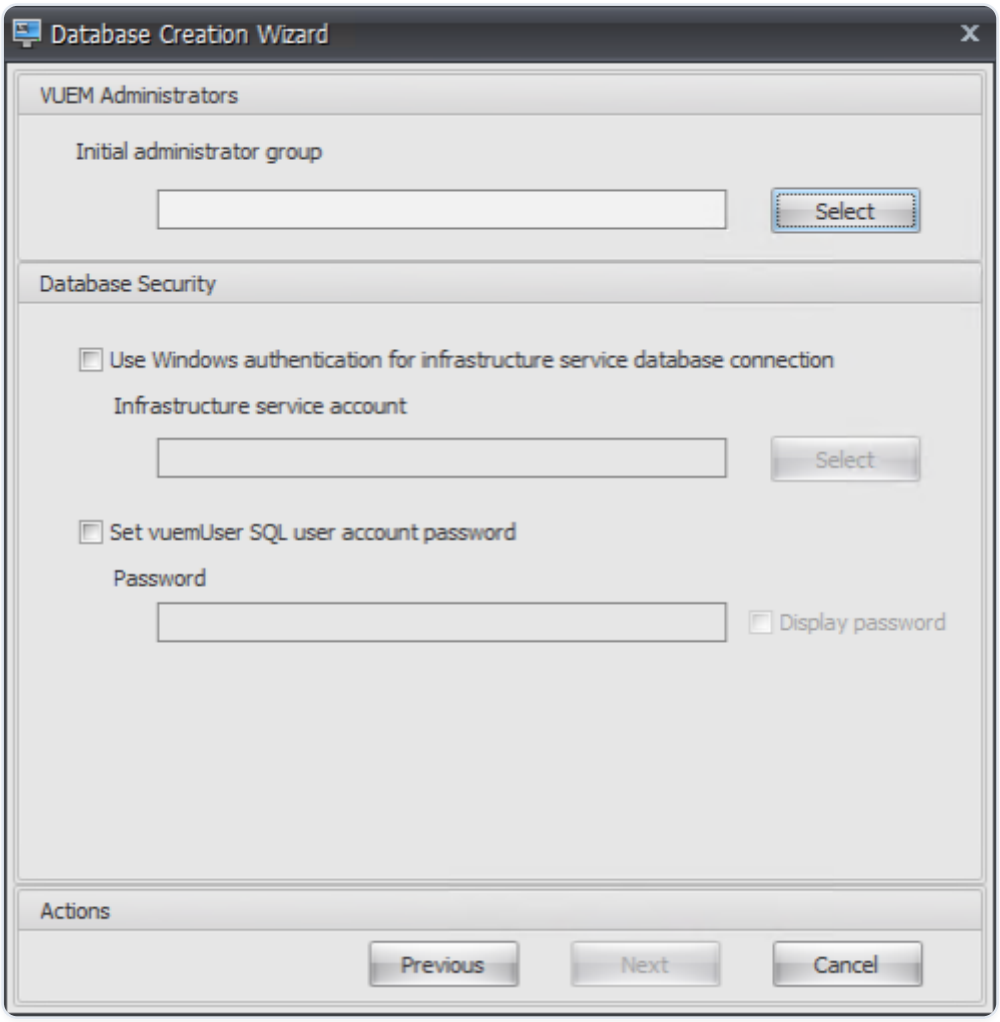
> **注:**
>
> - サーバー名とインスタンス名には、マシン名、完全修飾ドメイン名、またはIPアドレスを入力します。
> - ファイルパスには、データベース管理者が指定した正確なパスを入力します。自動入力されたファイルパスが正しいことを確認してください。

> WEMデータベースの作成03(/en-us/workspace-environment-management/2308/media/wem-creating-a-wem-database-03.png)

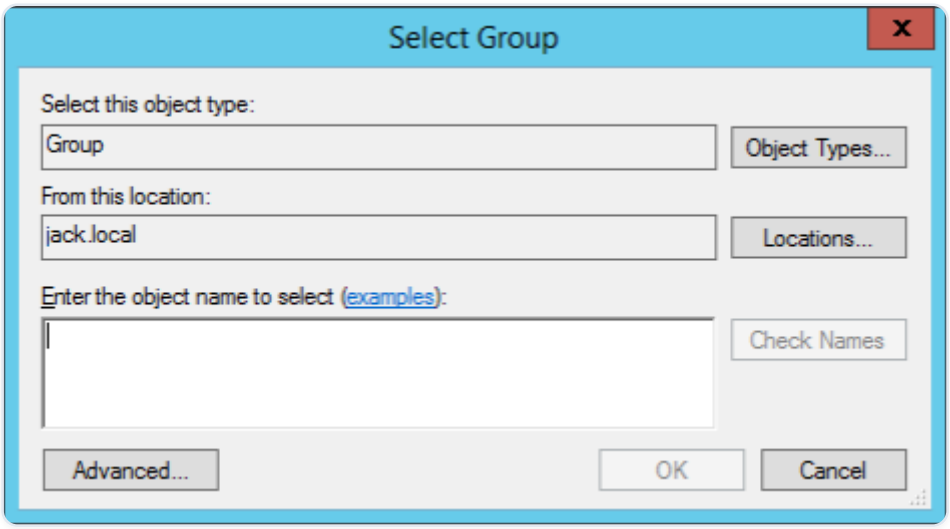
4. データベースサーバー資格情報ページで、必要な情報を入力し、**Next** をクリックします。



5. VUEM Administratorsの下で、**Select**をクリックします。



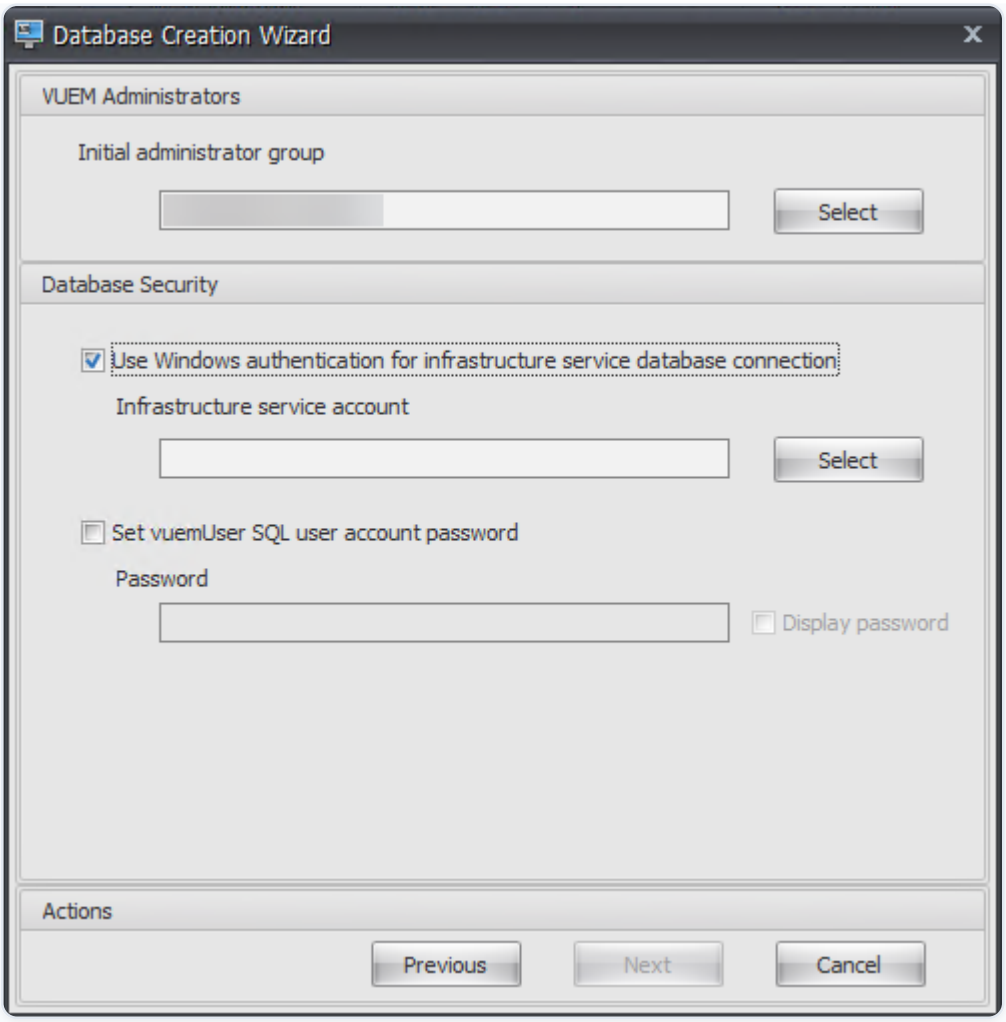
6. Select Groupウィンドウで、管理コンソールへの管理権限を持つユーザーグループを入力し、**Check Names**をクリックしてから、**OK**をクリックします。



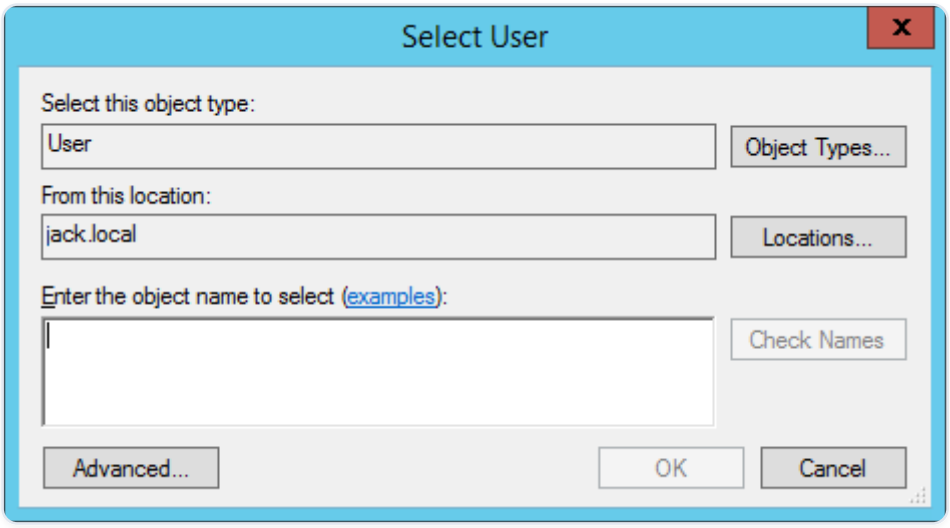
7. データベースセキュリティで、**Use Windows authentication for infrastructure service database connection** を選択し、その後 **Select** をクリックします。

> **注:**

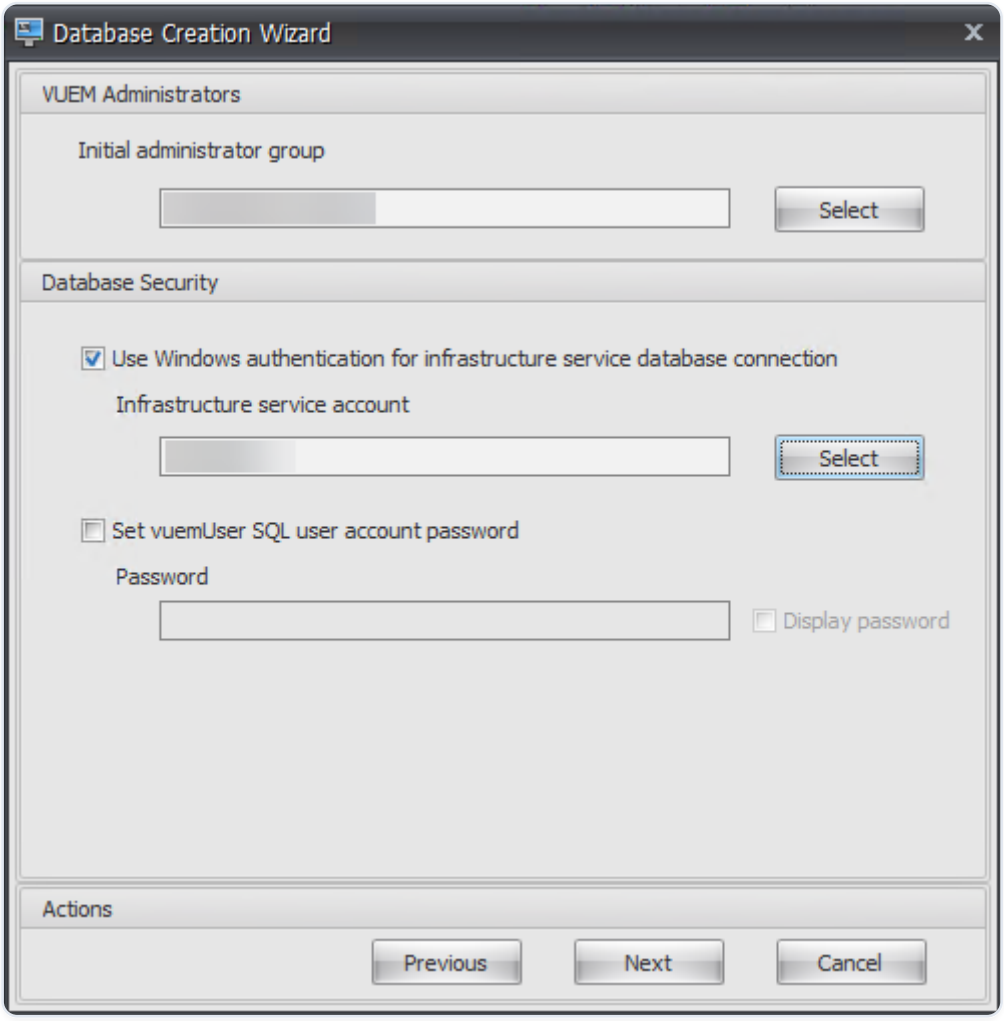
- **Use Windows authentication for infrastructure service database connection**も**Set vuemUser SQL user account password**も選択しない場合、SQLユーザーアカウントがデフォルトで使用されます。
- 独自のvuemUser SQLアカウントパスワードを使用する場合（たとえば、SQLポリシーでより複雑なパスワードが必要な場合）は、**Set vuemUser SQL user account password**を選択します。



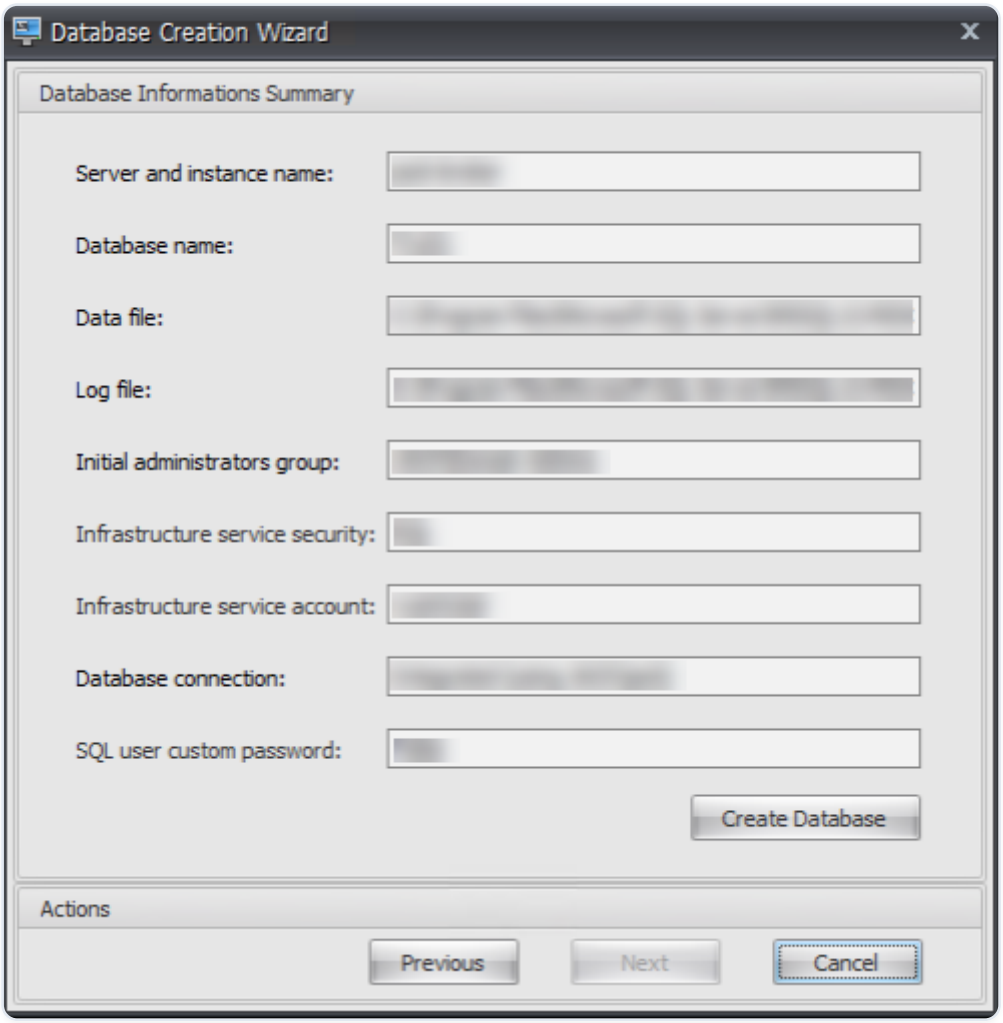
8. Select Userウィンドウで、インフラストラクチャサービスアカウントの名前を入力し、**Check Names**をクリックしてから、**OK**をクリックします。



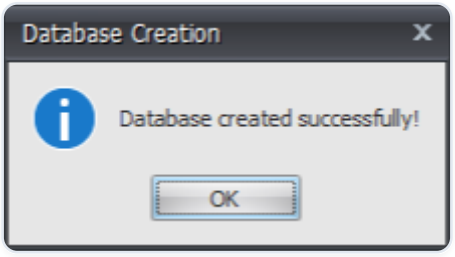
9. **次へ**をクリックします。



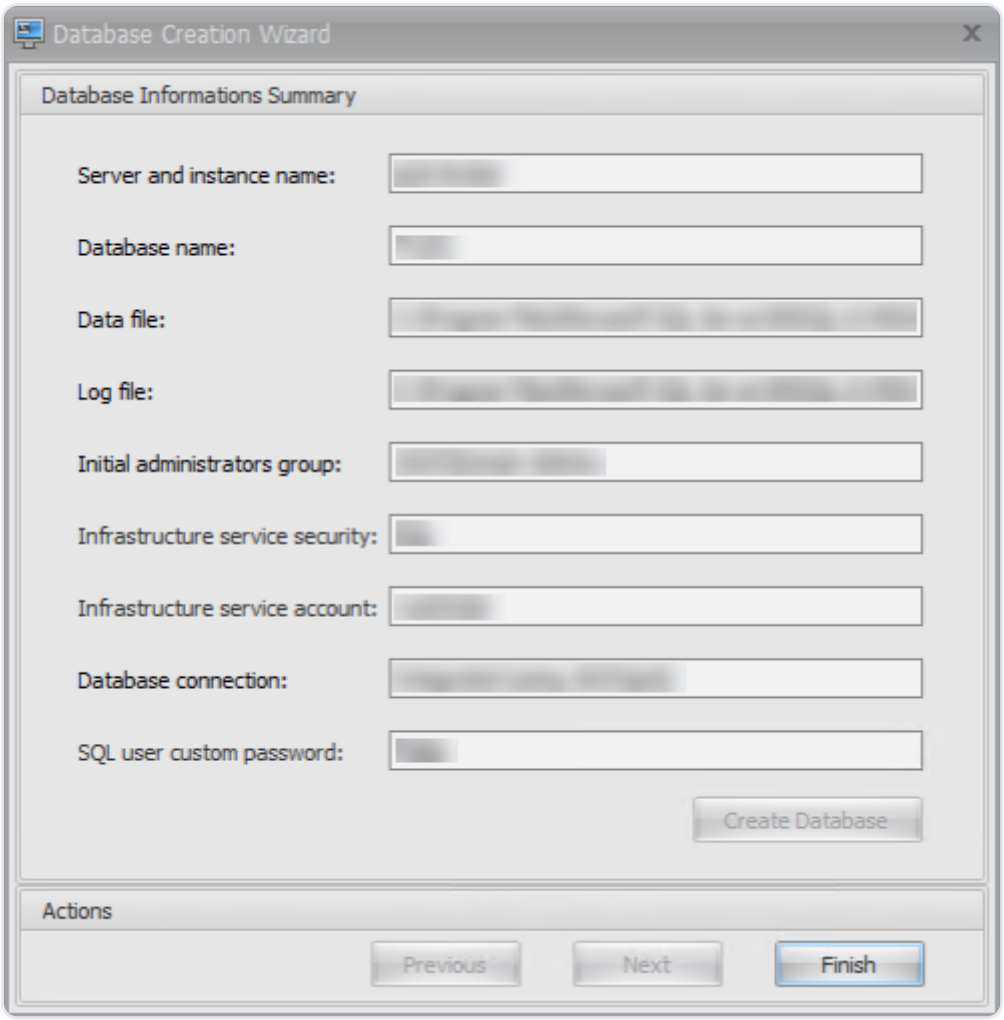
10. Database Information Summaryページで、**Create Database**をクリックします。



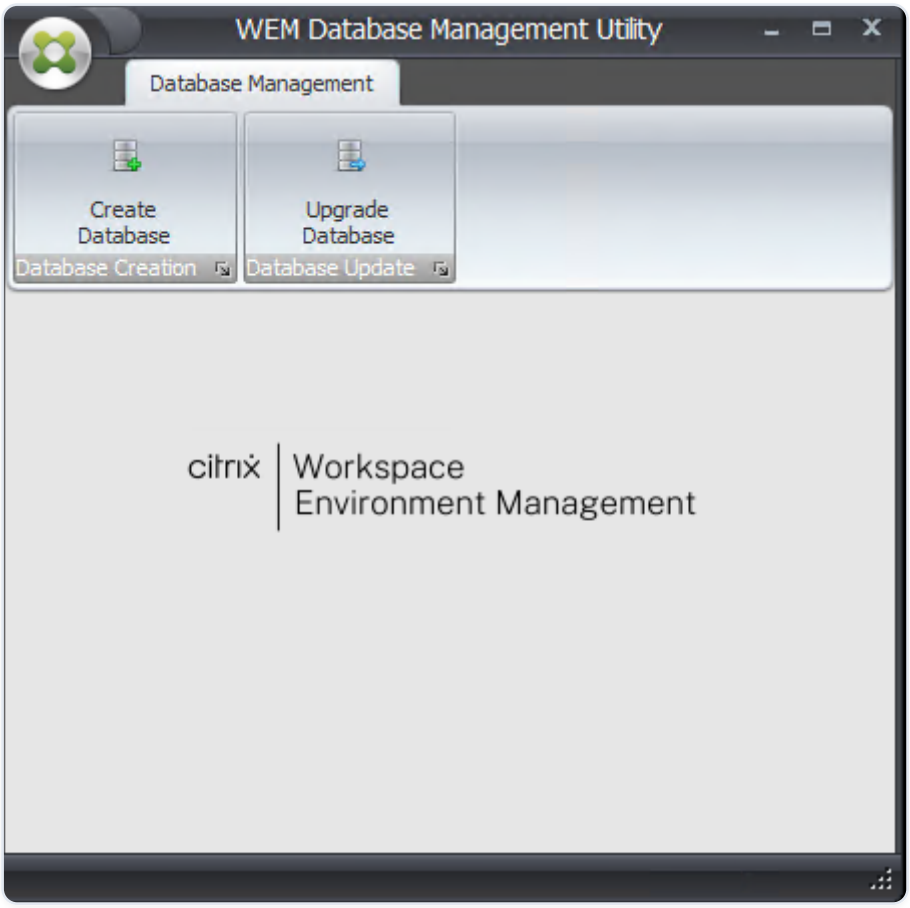
11. **OK**をクリックします。



12. 「データベース情報概要」ページで、**「完了」**をクリックします。

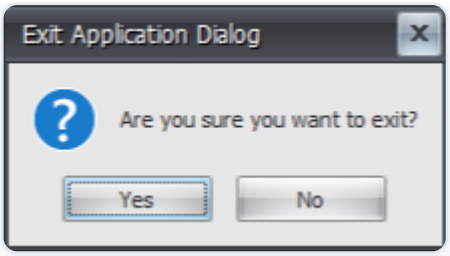


13. **WEMデータベース管理ユーティリティ**を閉じます。



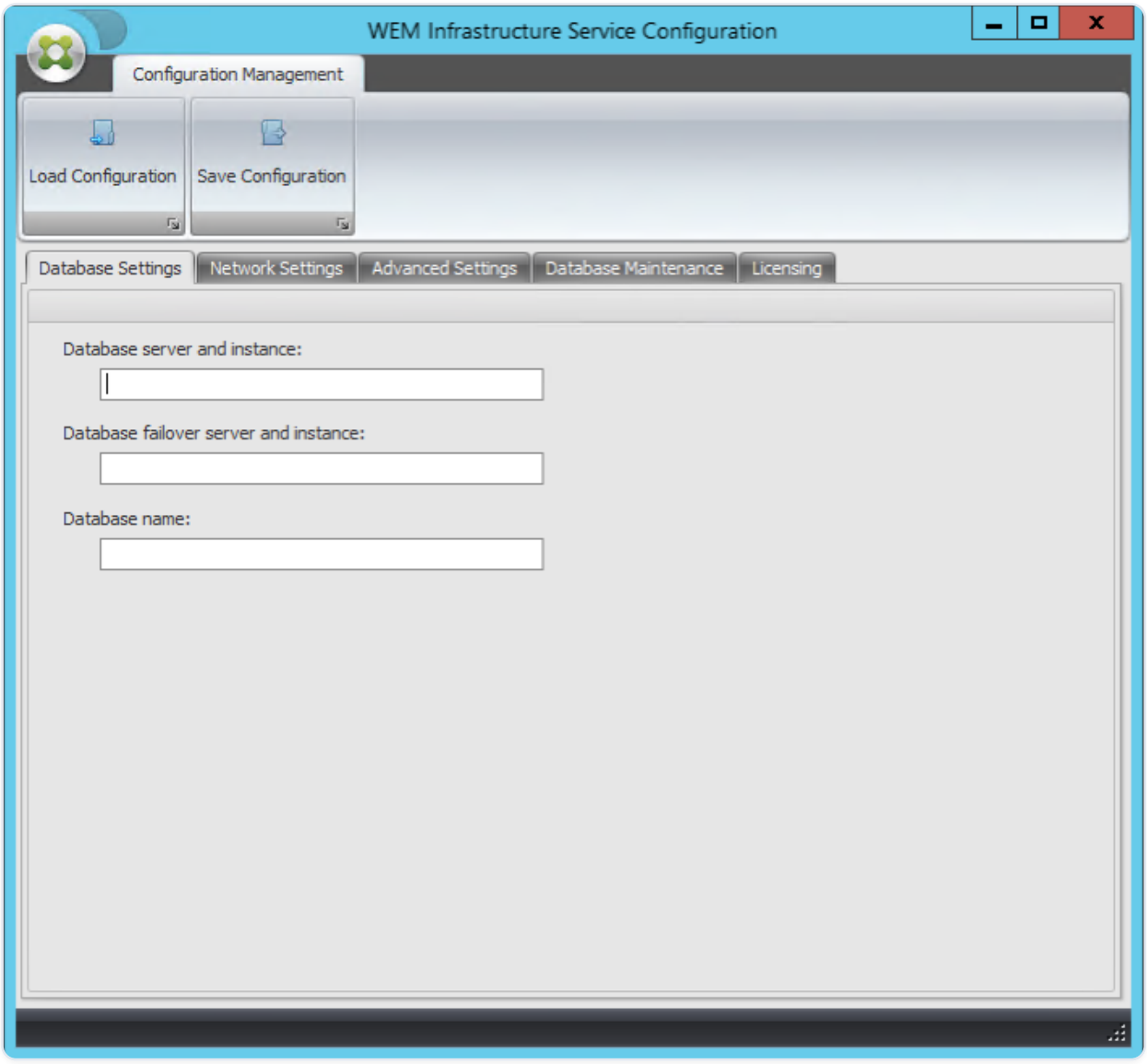
14. 「アプリケーションの終了」ダイアログで、**「はい」**をクリックします。

> **注:**
>
> データベースの作成中にエラーが発生した場合は、詳細について、インフラストラクチャサービスのインストールフォルダーにあるログファイル「Citrix WEM Database Management Utility Debug Log.log」を確認してください。



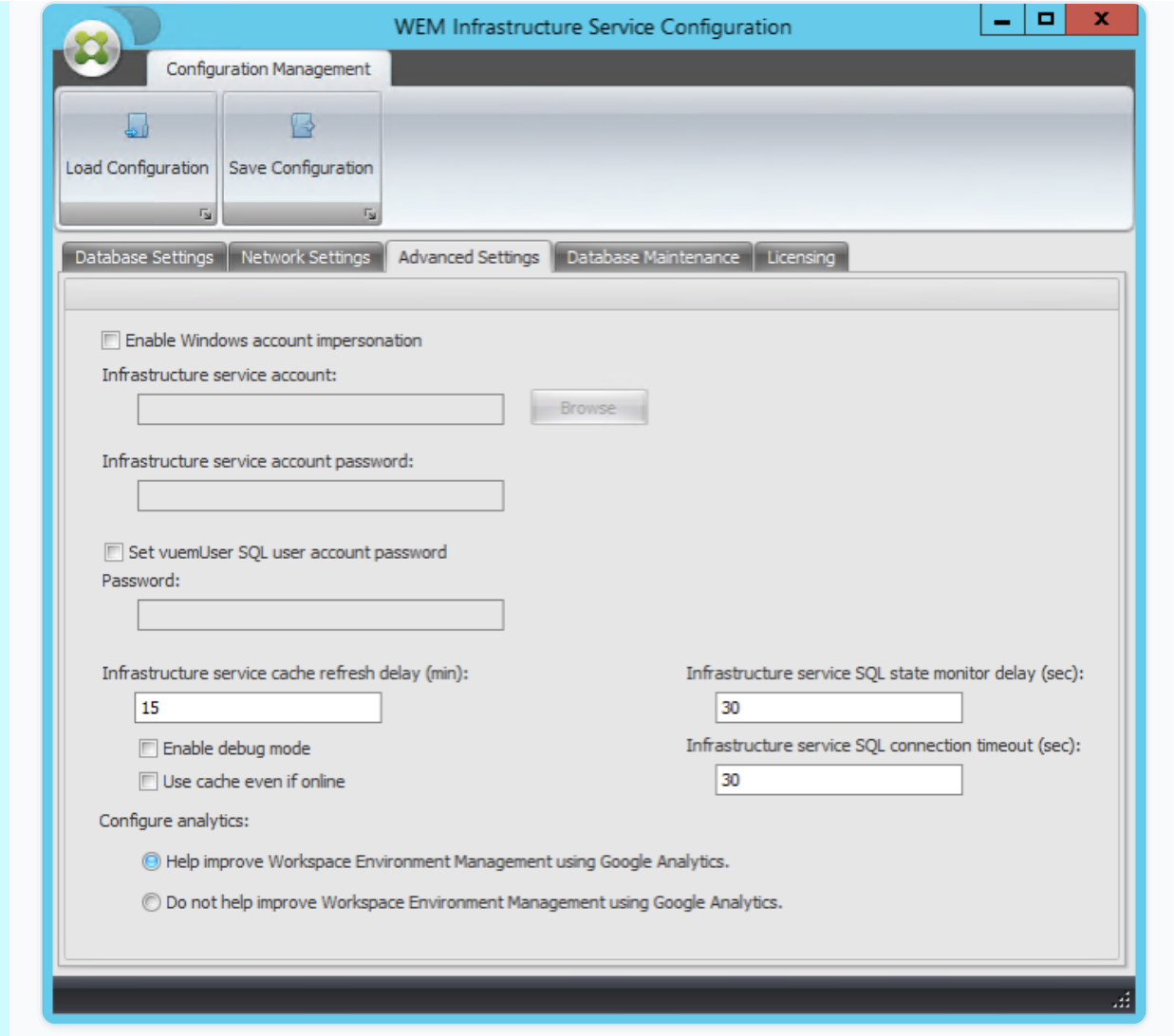
ステップ3：インフラストラクチャサービスを構成する

1. **スタート**メニューから**WEMインフラストラクチャサービス構成ユーティリティ**を開きます。
2. **「データベース設定」**タブで、必要な情報を入力します。

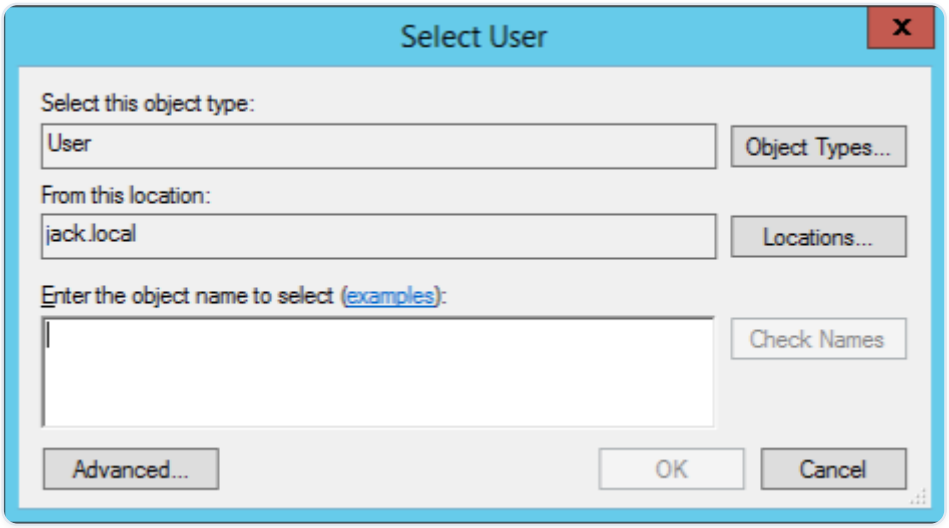


3. **「詳細設定」**タブで、**「Windowsアカウントの偽装を有効にする」**を選択し、**「参照」**をクリックします。

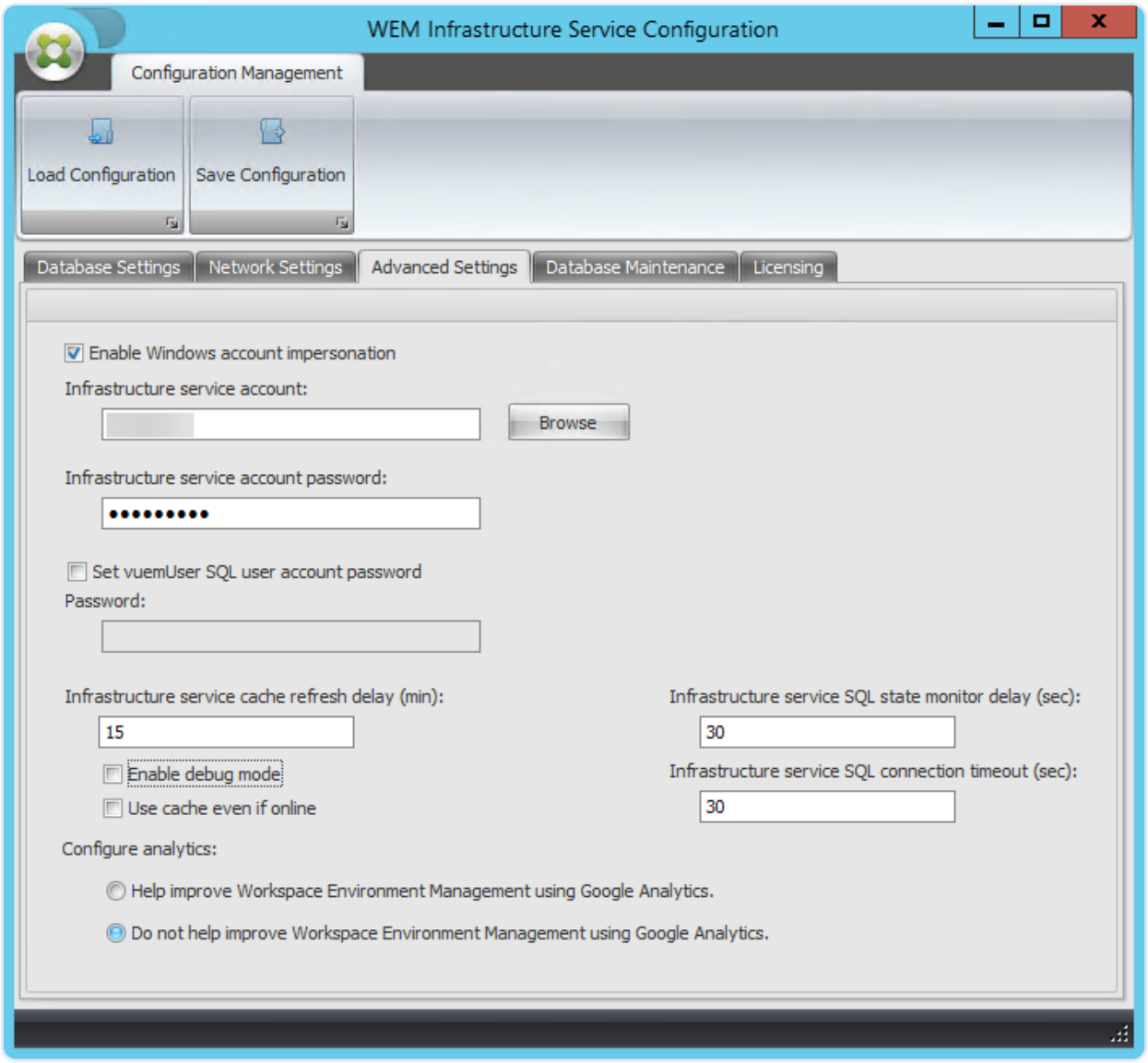
> **注:**
>
> ステップ2のWEMデータベース作成時に行った選択に応じて、**「Windowsアカウントの偽装を有効にする」**または**「vuemUser SQLユーザーアカウントのパスワードを設定する」**を選択します。



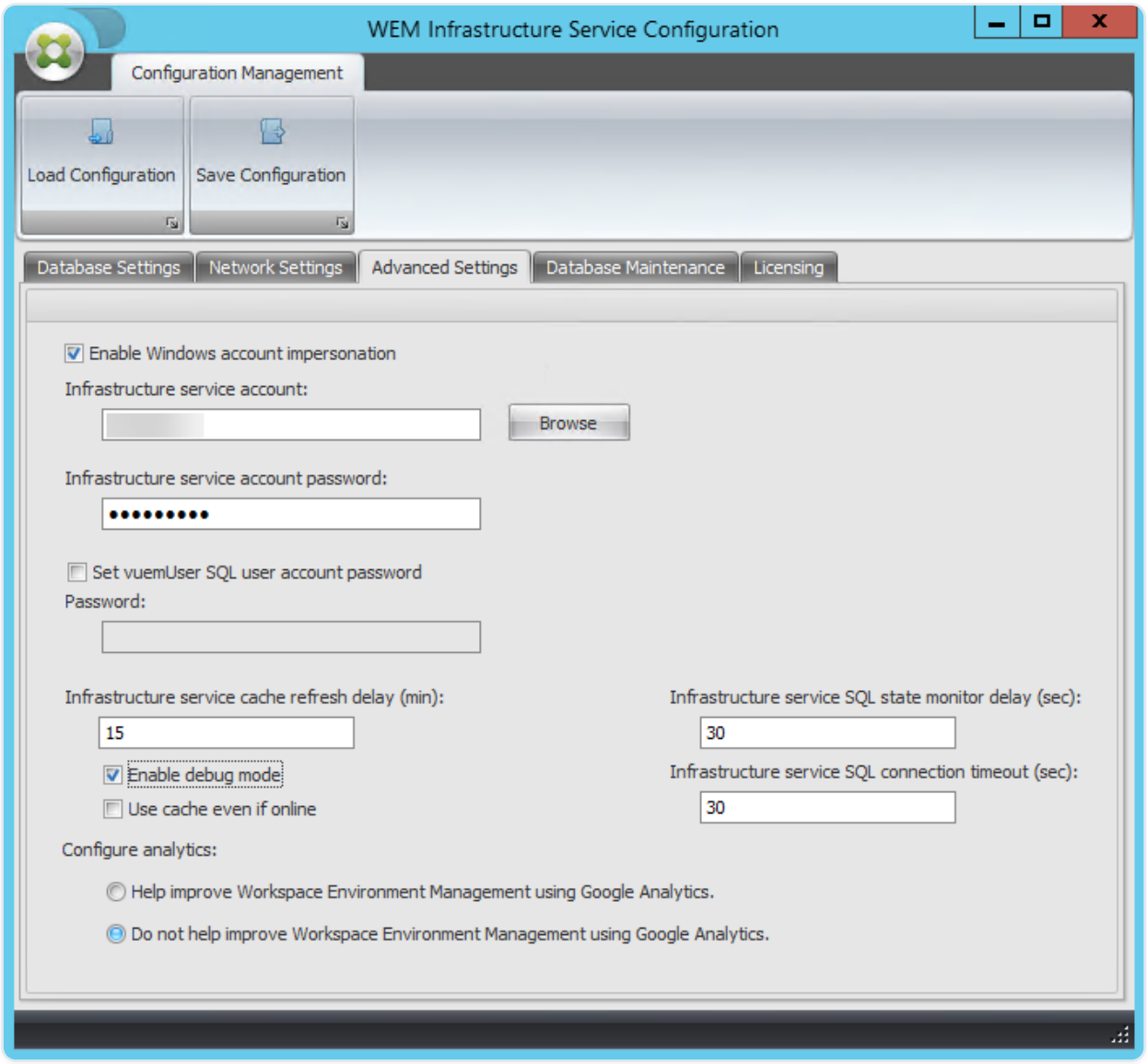
4. ユーザー名を入力し、**「名前の確認」をクリックしてから「OK」**をクリックします。



5. インフラストラクチャサービスアカウントのパスワードを入力します。



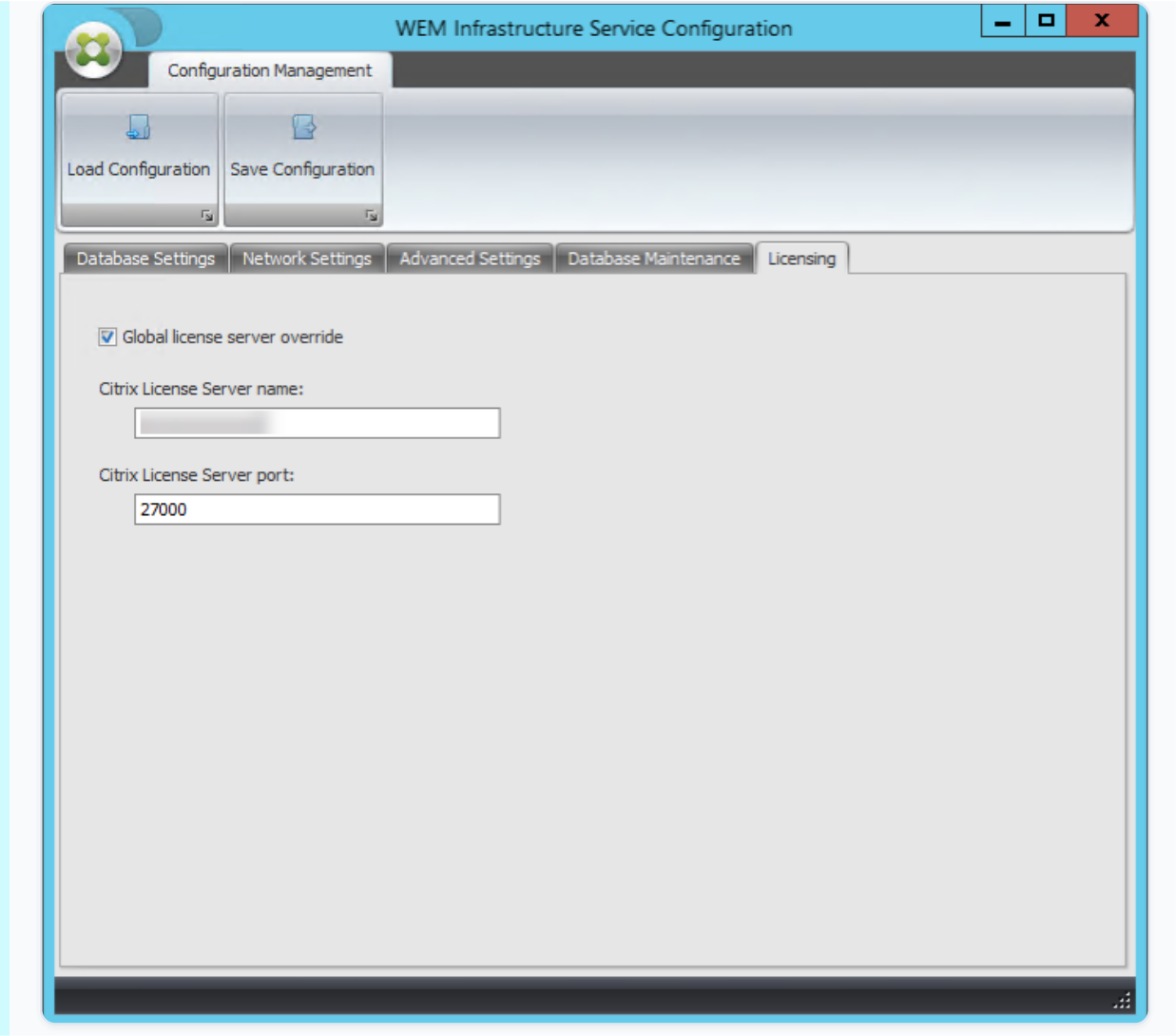
6. **デバッグモードを有効にする**を選択します。



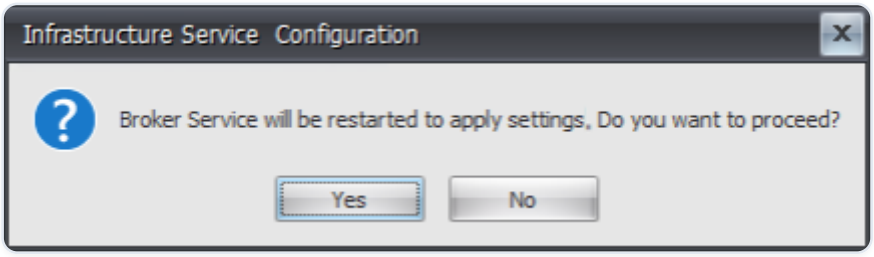
7. **ライセンス**タブで、**グローバルライセンスサーバーのオーバーライド**を選択し、ライセンス情報を入力してから、**構成を保存**をクリックします。

注:

- Citrix License Server名には、ライセンスサーバーのマシン名、完全修飾ドメイン名、またはIPアドレスを入力します。
- Citrix License Serverポートの場合、デフォルトポートは27000です。



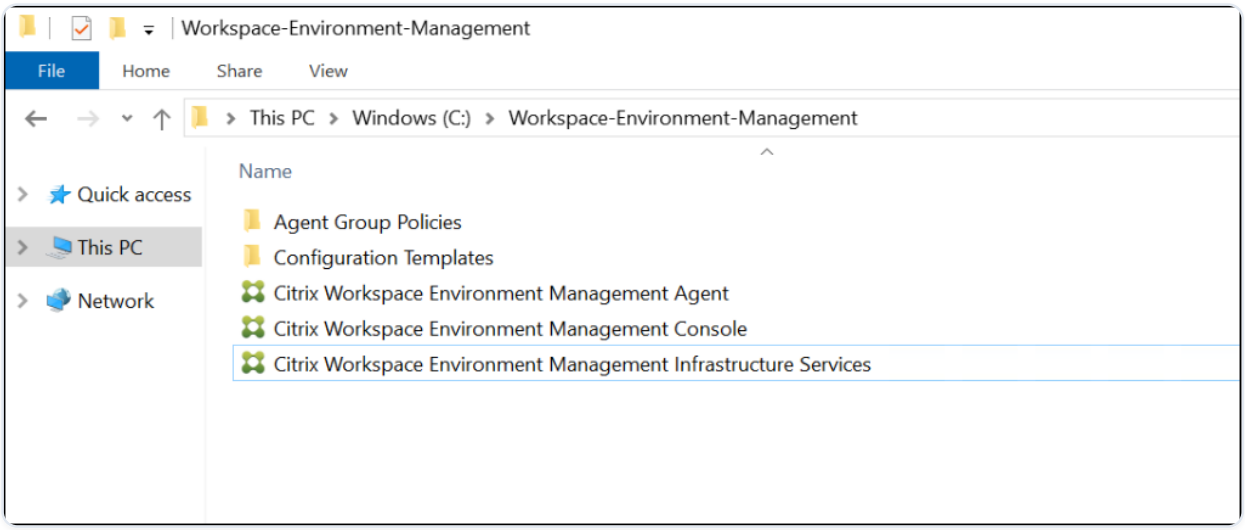
8. **はい**をクリックします。



9. **WEM Infrastructure Service Configuration**ユーティリティを閉じます。

ステップ4：管理コンソールをインストールする

1. **Citrix Workspace Environment Management Console.exe** を実行してください。



2. 「ライセンス契約」ページで、「ライセンス条項と条件に同意します」を選択します。

   管理コンソールのインストール 02(/en-us/workspace-environment-management/2308/media/wem-installing-the-administration-console-02.png)

3. ウィザードの指示に従って手順を完了します。

ステップ5：構成セットを構成する

1. **スタート**メニューから**WEM管理コンソール**を開き、**接続**をクリックします。

   構成セットの構成 01(/en-us/workspace-environment-management/2308/media/wem-configuring-configuration-sets-01.png)

2. 「新しいインフラストラクチャサーバー接続」ウィンドウで情報を確認し、**接続**をクリックします。

   > **注:**
   >
   > - インフラストラクチャサーバー名には、WEMインフラストラクチャサーバーのマシン名、完全修飾ドメイン名、またはIPアドレスを入力します。
   > - 管理ポートのデフォルトポートは8284です。

   > 構成セットの構成 02(/en-us/workspace-environment-management/2308/media/wem-configuring-configuration-sets-02.png)

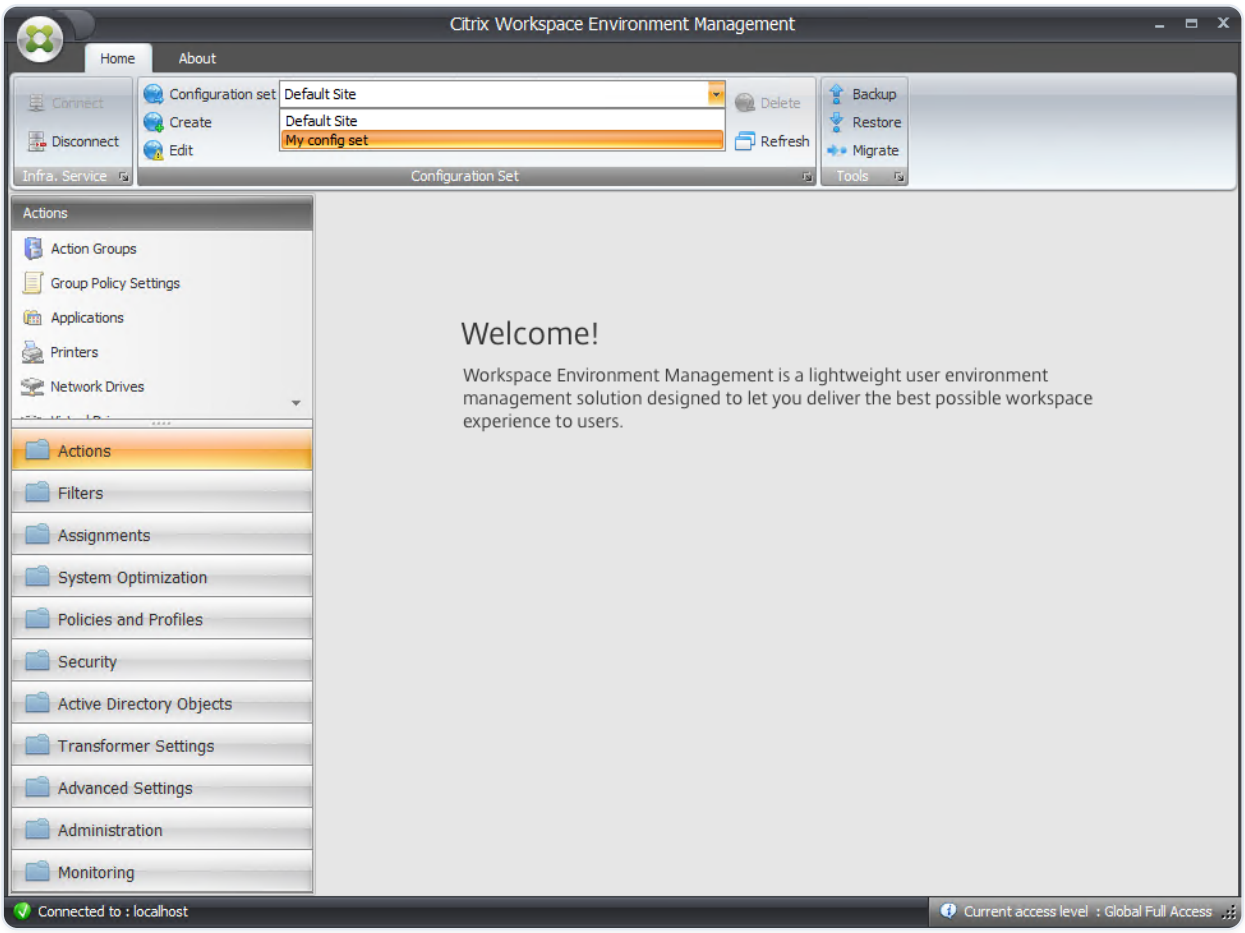
3. **ホーム**タブのリボンで、**作成**をクリックして構成セットを作成します。

構成セットの構成 03(/en-us/workspace-environment-management/2308/media/wem-configuring-configuration-sets-03.png)

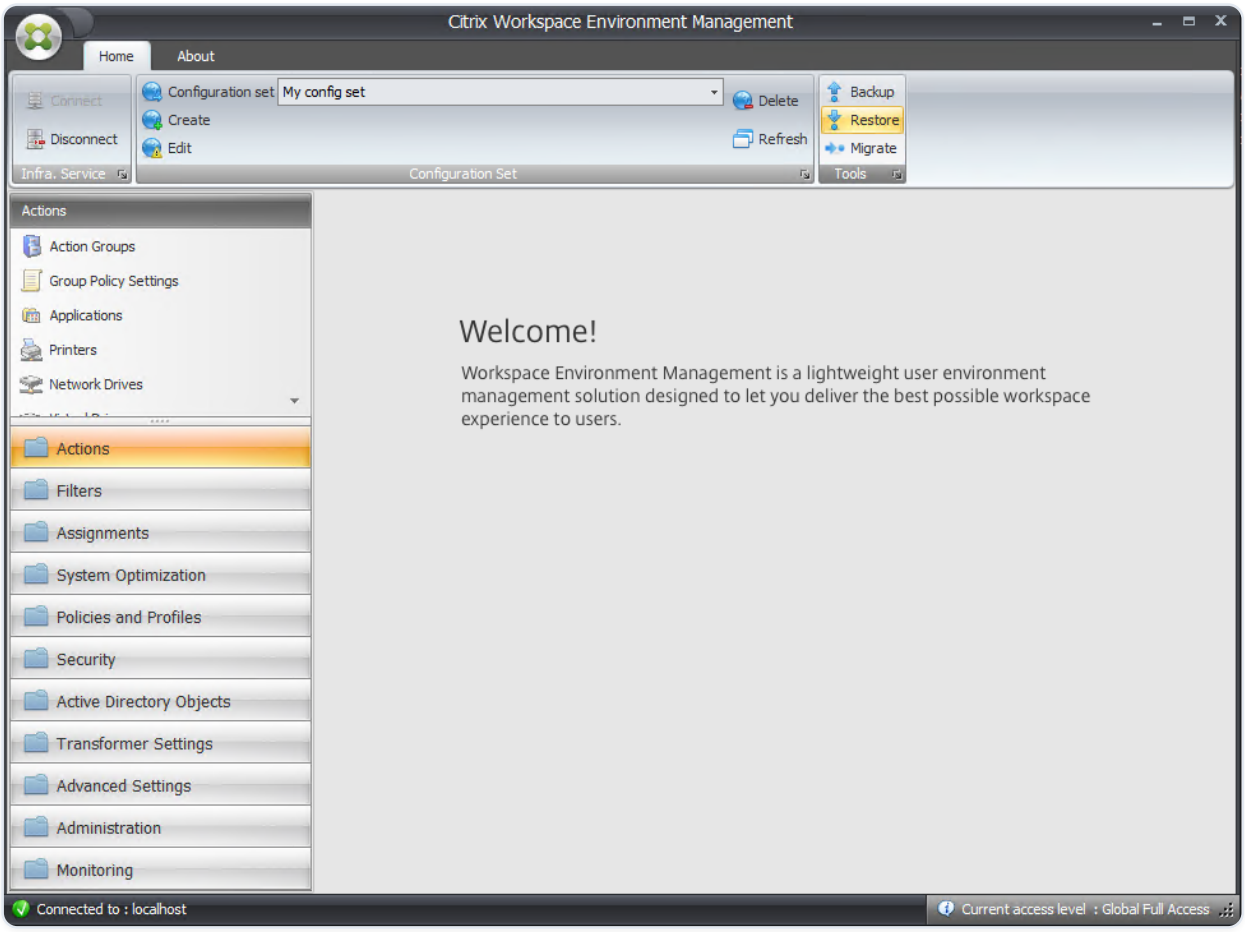
4. 「構成セットの作成」ウィンドウで、構成セットの名前と説明を入力し、**OK**をクリックします。

構成セットの構成 04(/en-us/workspace-environment-management/2308/media/wem-configuring-configuration-sets-04.png)

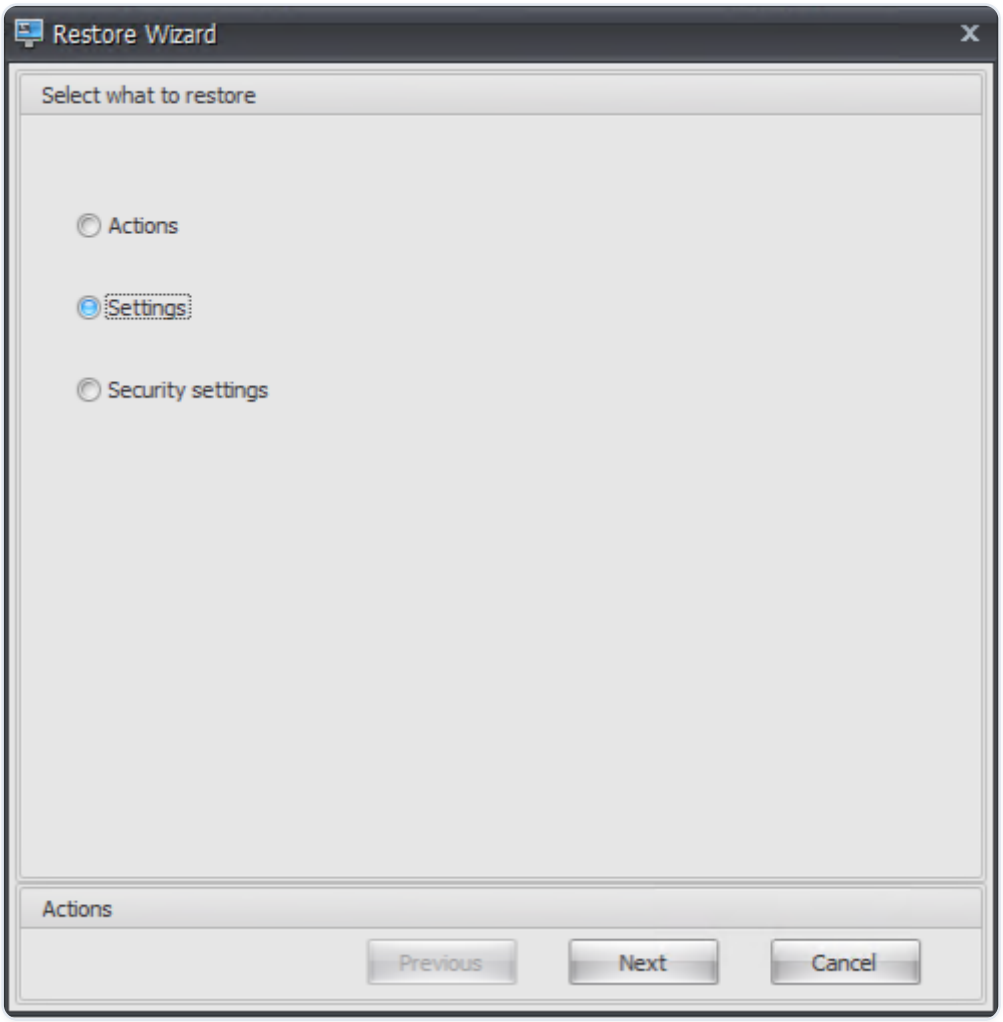
5. リボンで、**構成セット**の下にある新しく作成した構成セットを選択します。



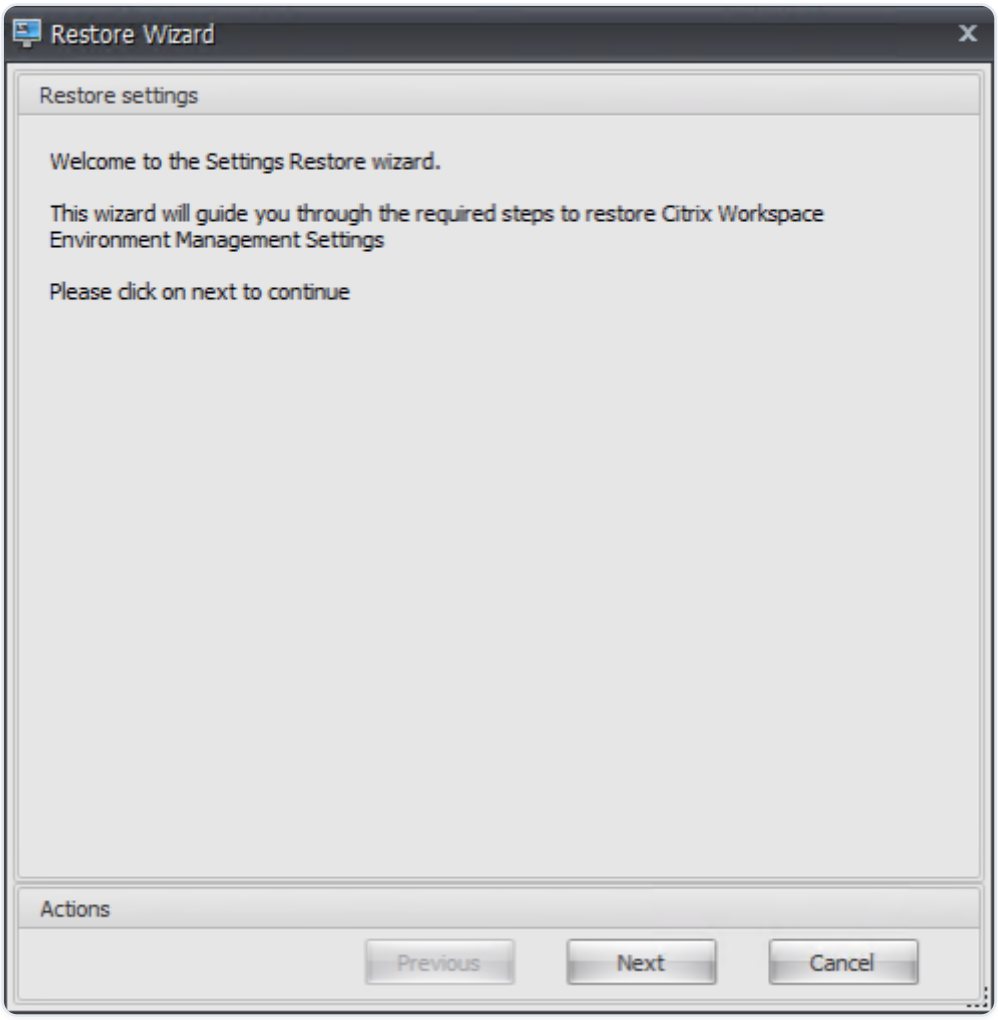
6. リボンで、**バックアップ**の下にある**復元**をクリックします。復元ウィザードが表示されます。



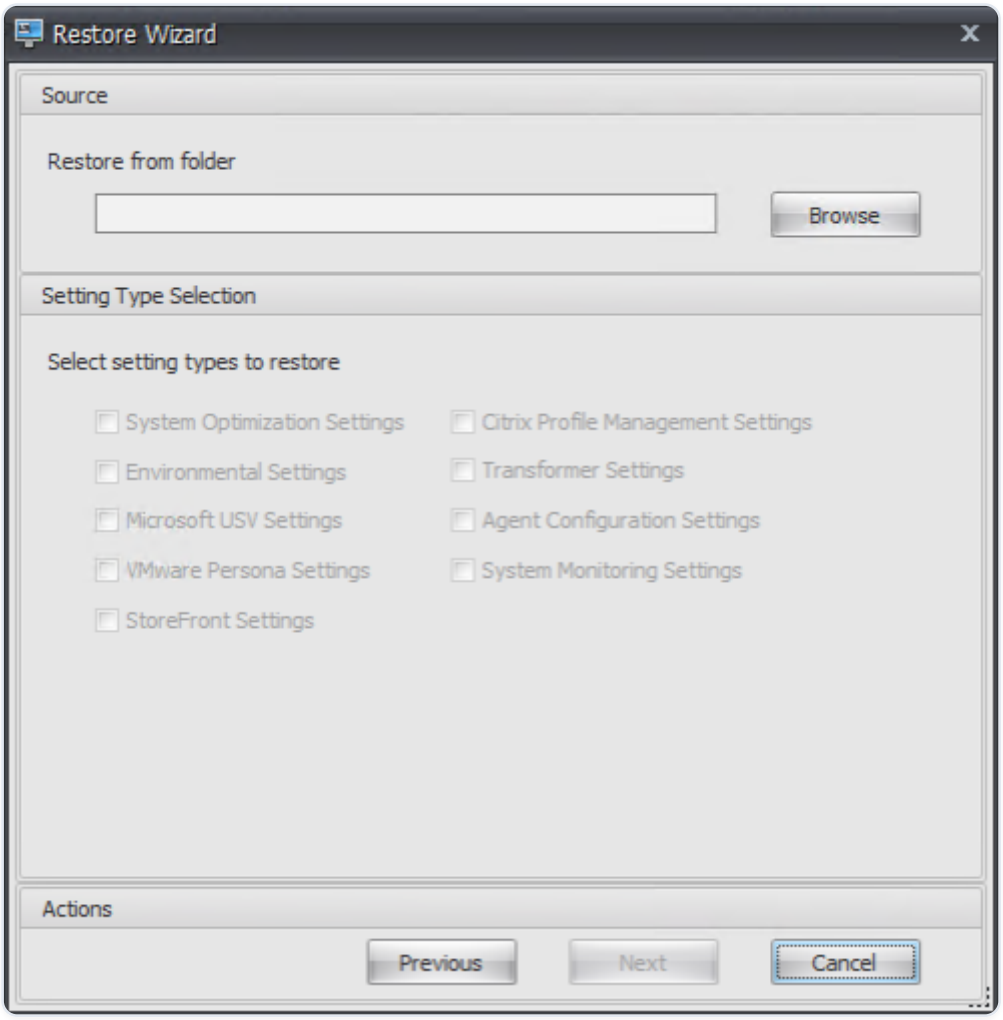
7. 復元する項目を選択ページで、**設定**を選択し、**次へ**をクリックします。



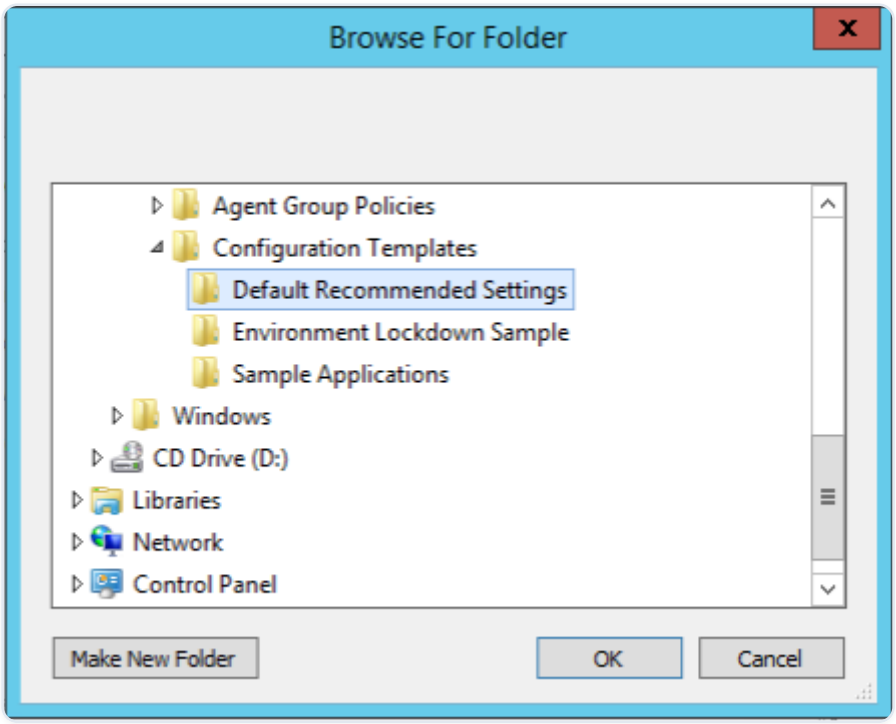
8. 設定の復元ページで、**次へ**をクリックします。



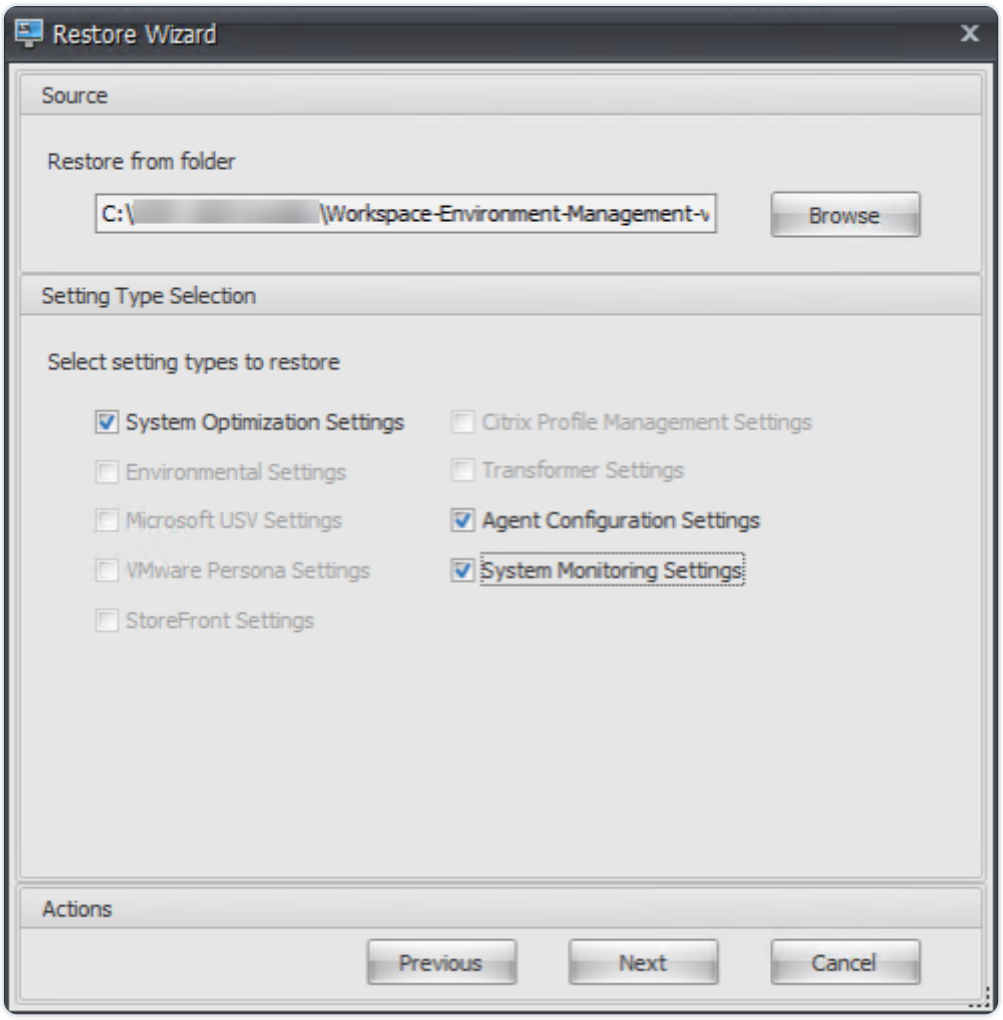
9. ソースページで、**参照**をクリックします。



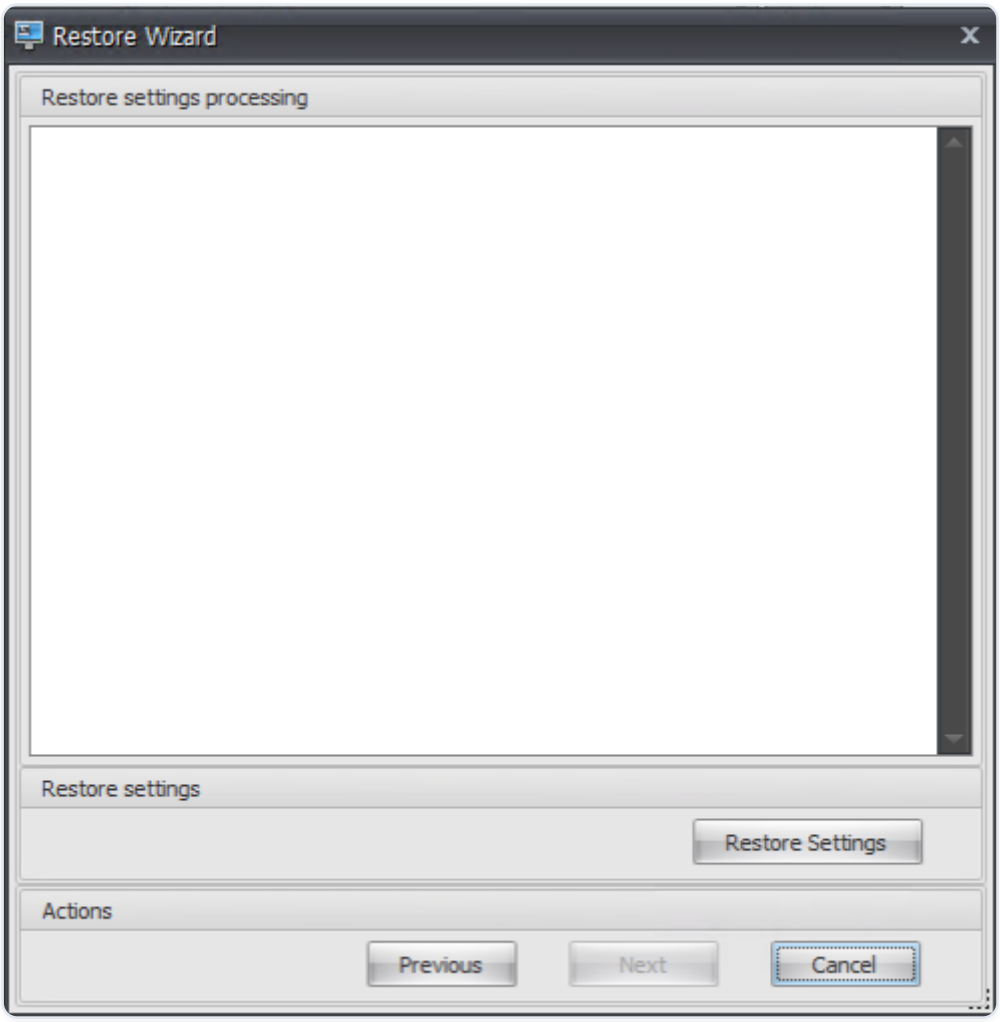
10. フォルダーの参照ウィンドウで、**Default Recommended Settings**フォルダー（Workspace Environment Management に付属）を参照し、**OK**をクリックします。



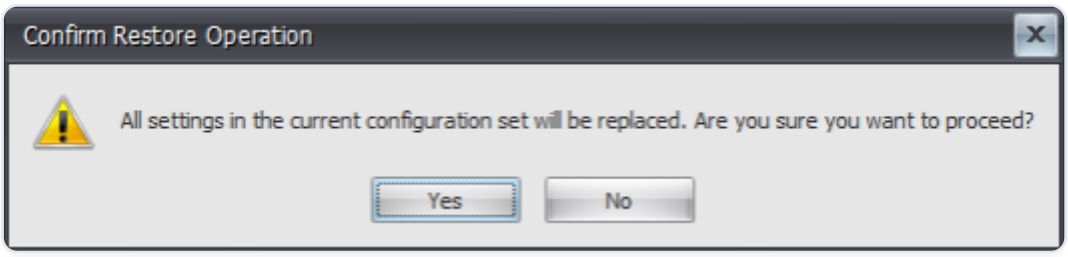
11. ソースページで、**System Optimization Settings**、**Agent Configuration Settings**、および**System Monitoring Settings**を選択し、**次へ**をクリックします。



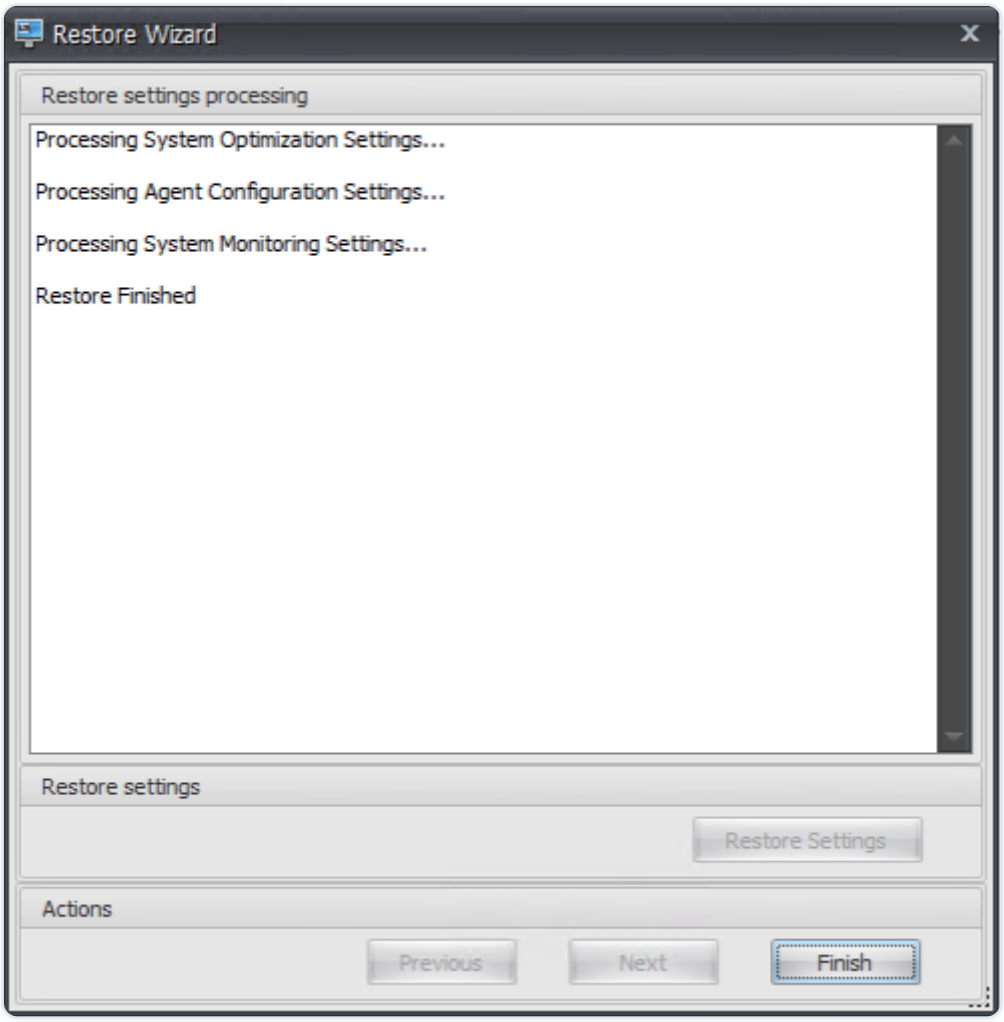
12. 設定の復元処理ページで、設定の復元の下にある**設定の復元**をクリックします。



13. **はい**をクリックします。



14. 「**完了**」をクリックします。



ステップ6: グループポリシーテンプレートを追加する (オプション)

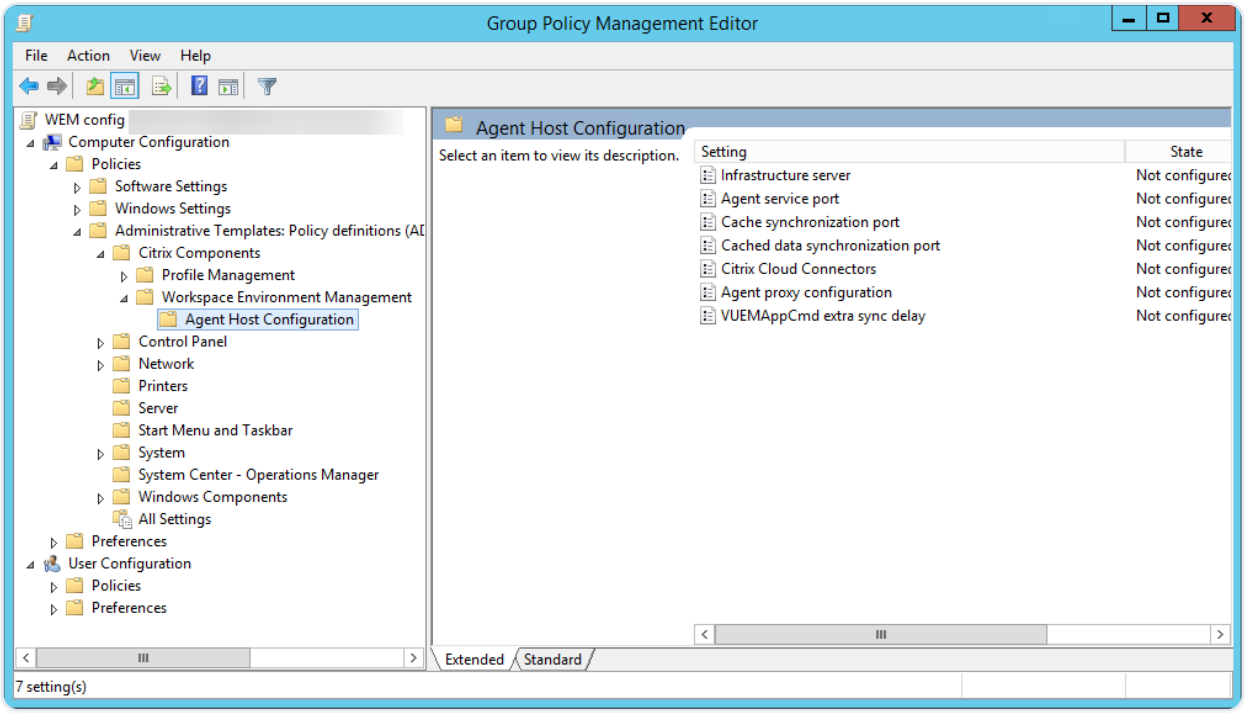
必要に応じて、グループポリシーを構成できます。WEMエージェントパッケージで提供される**Agent Group Policies**管理用テンプレートは、Agent Host Configurationポリシーを追加します。

1. WEMインストールパッケージに付属している**Agent Group Policies**フォルダーをWEMドメインコントローラーにコピーします。
2. .admxファイルを追加します。
   a. A**gent Group Policies > ADMX**フォルダーに移動します。
   b. 2つのファイル（*Citrix Workspace Environment Management Agent Host Configuration.admx* および *CitrixBase.admx*）をコピーします。
   c. `<C:\Windows>\PolicyDefinitions` フォルダーに移動し、ファイルを貼り付けます。
3. .admlファイルを追加します。
   a. **Agent Group Policies > ADMX > en-US**フォルダーに移動します。

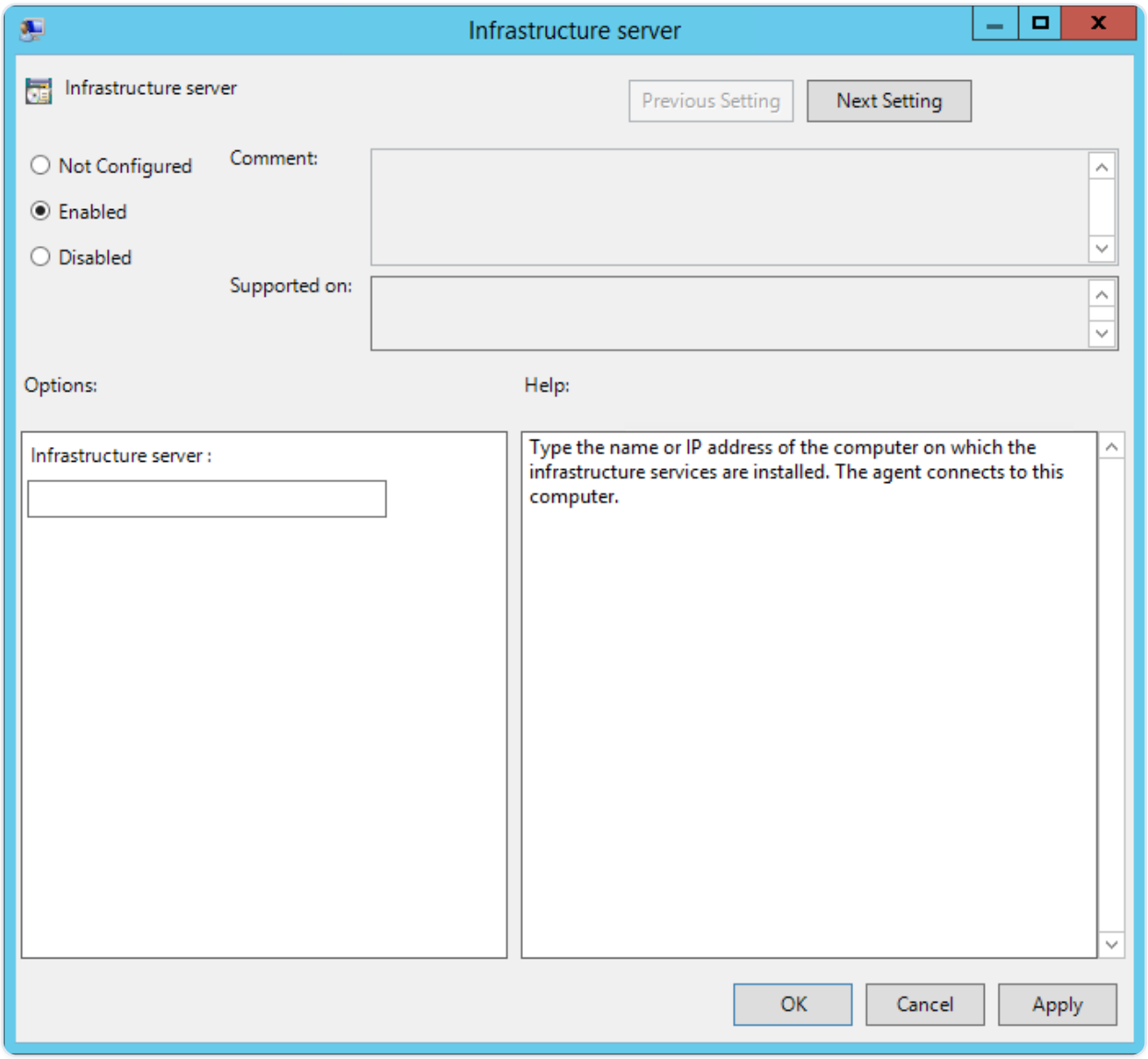
b. 2つのファイル（*Citrix Workspace Environment Management Agent Host Configuration.adml* および *CitrixBase.adml*）をコピーします。

c. `<C:\Windows>\PolicyDefinitions\en-US` フォルダーに移動し、ファイルを貼り付けます。

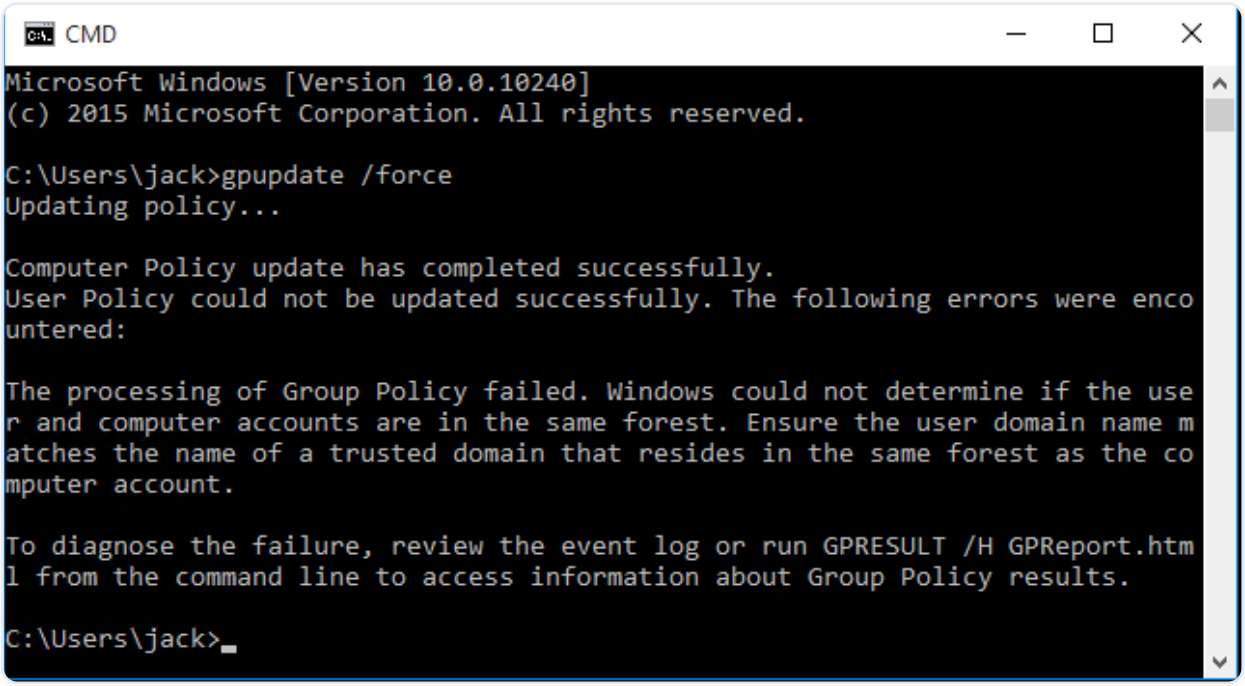
4. グループポリシー管理エディターウィンドウで、**Computer Configuration > Policies > Administrative Templates > Citrix Components > Workspace Environment Management > Agent Host Configuration**に移動し、**Infrastructure server**をダブルクリックします。



5. ［インフラストラクチャサーバー］ウィンドウで、**［有効］**を選択し、**［オプション］の下にインフラストラクチャサービスがインストールされているコンピューターのIPアドレスを入力し、**［適用］と［OK］**をクリックします。



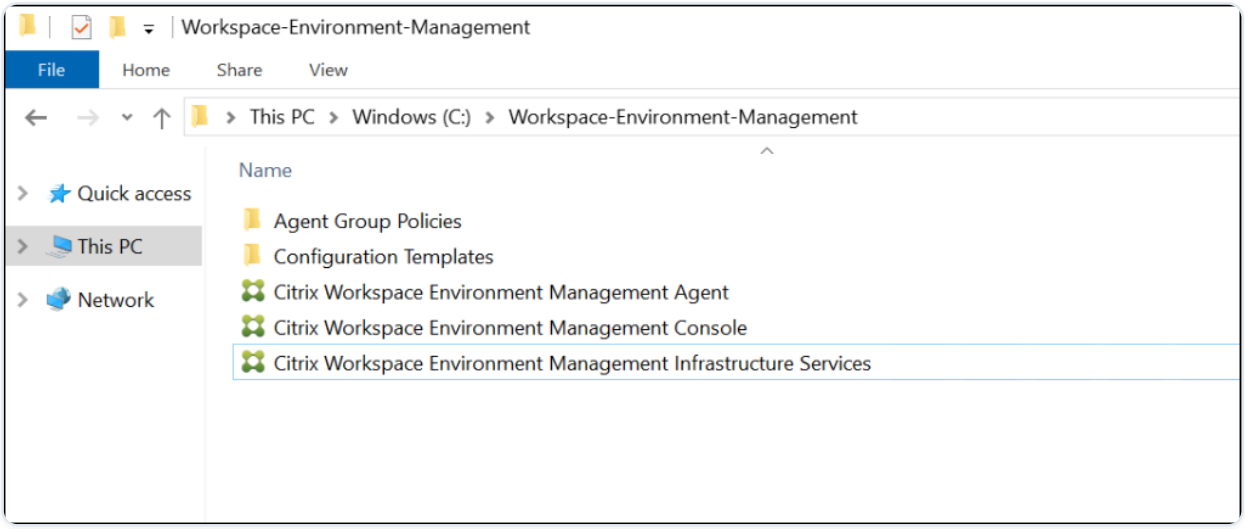
6. エージェントホストに移動し、コマンドラインを開いて`gpupdate /force`と入力します。



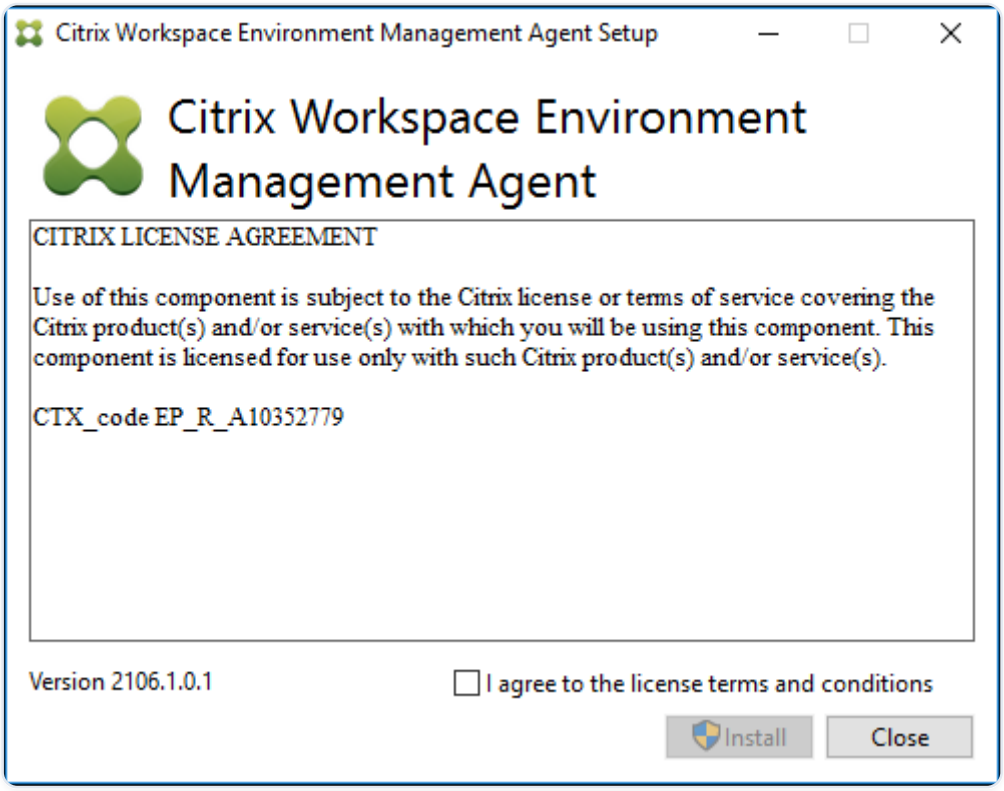
手順7：エージェントをインストールする

> **重要：**
>
> インフラストラクチャサーバーにはWEMエージェントをインストールしないでください。

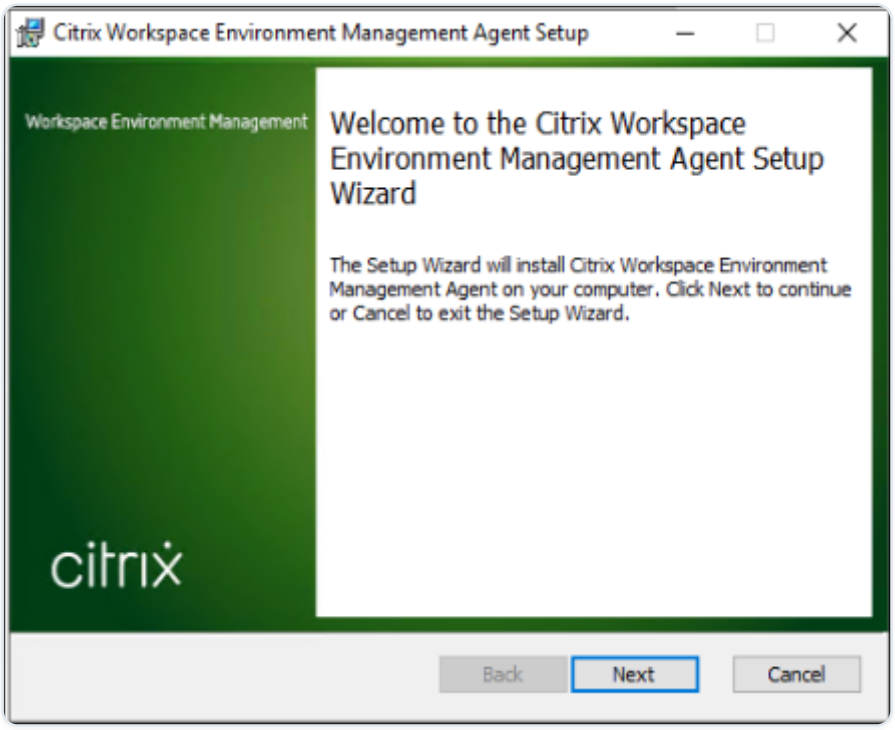
1. マシンで**Citrix Workspace Environment Management Agent.exe**を実行します。



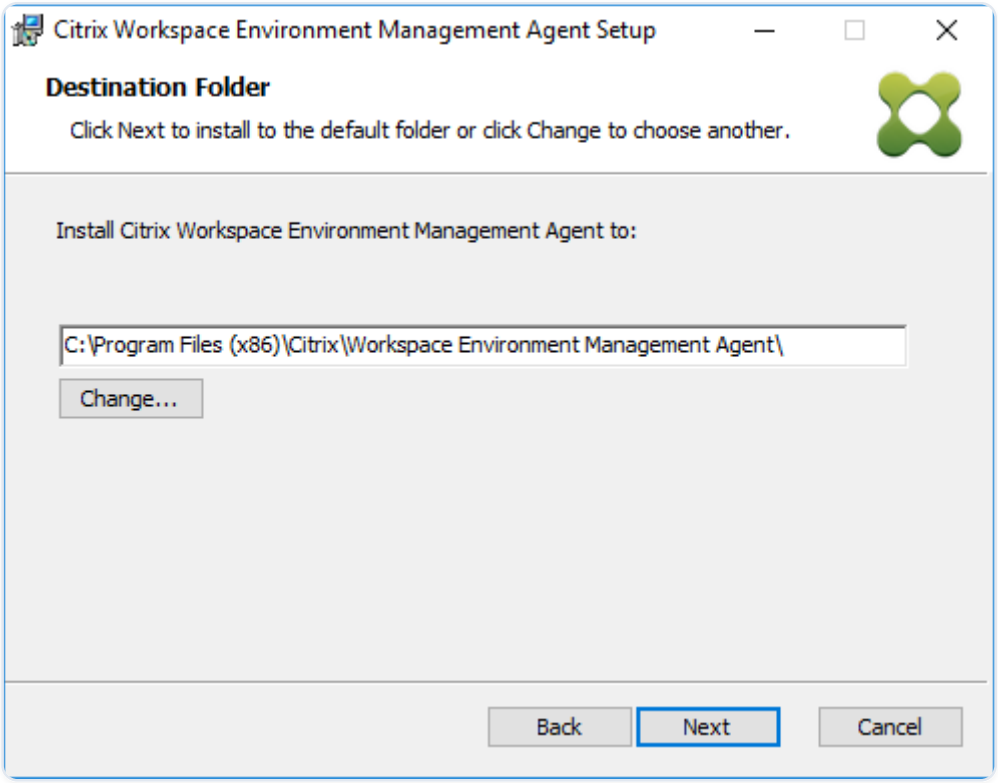
2. **［ライセンス条項に同意します］を選択し、［インストール］**をクリックします。



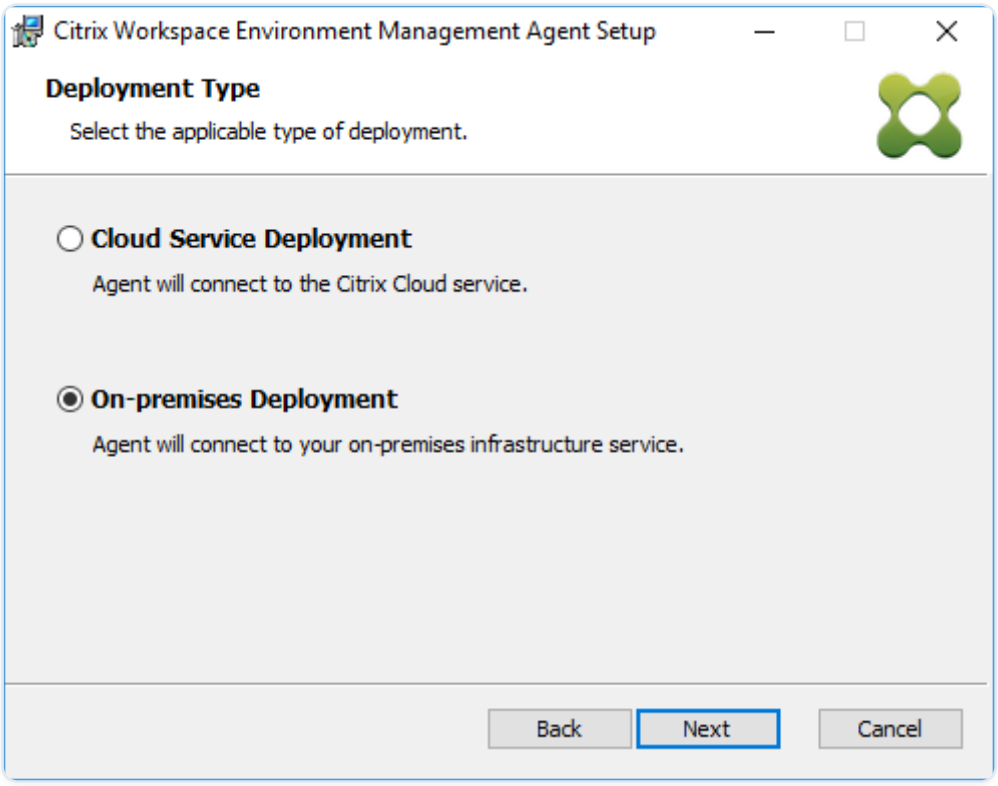
3. ［ようこそ］ページで、**［次へ］**をクリックします。



4. ［インストール先フォルダー］ページで、**［次へ］**をクリックします。

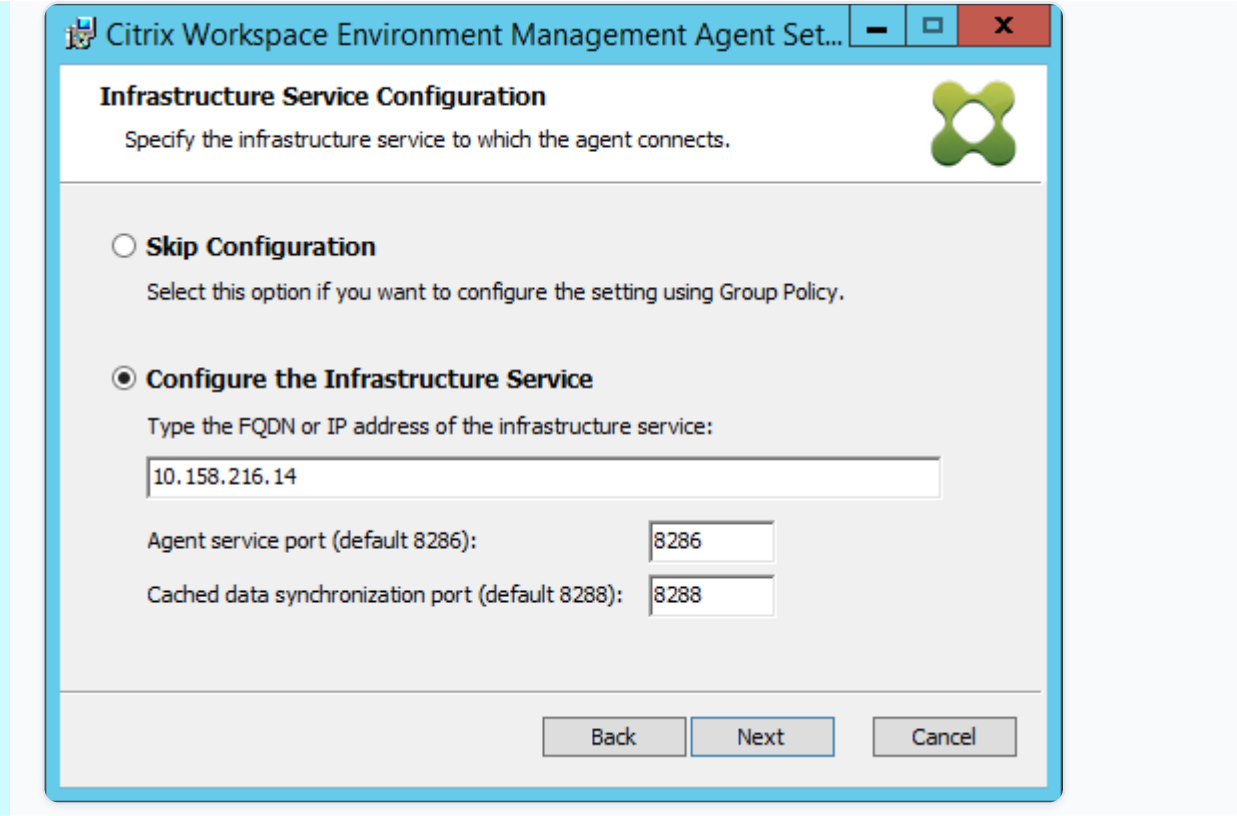


5. 「展開の種類」ページで、該当する展開の種類を選択し、「**次へ**」をクリックします。この場合は、「**オンプレミス展開**」を選択します。

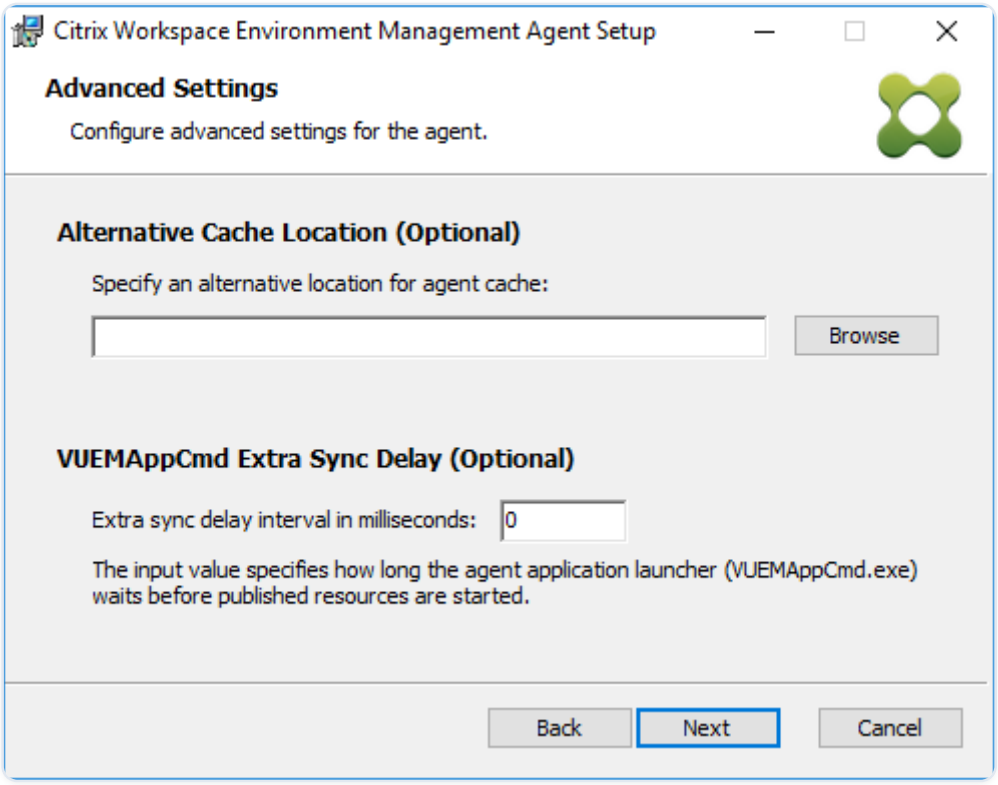


6. 「インフラストラクチャサービス構成」ページで、「**インフラストラクチャサービスを構成**」を選択し、インフラストラクチャサービスのFQDNまたはIPアドレスを入力して、「**次へ**」をクリックします。

> **注:**
>
> エージェントサービスポートのデフォルトポートは8286です。キャッシュデータ同期ポートのデフォルトポートは8288です。詳細については、「ポート情報」(/ja-jp/workspace-environment-management/2308/reference/ports.html)を参照してください。



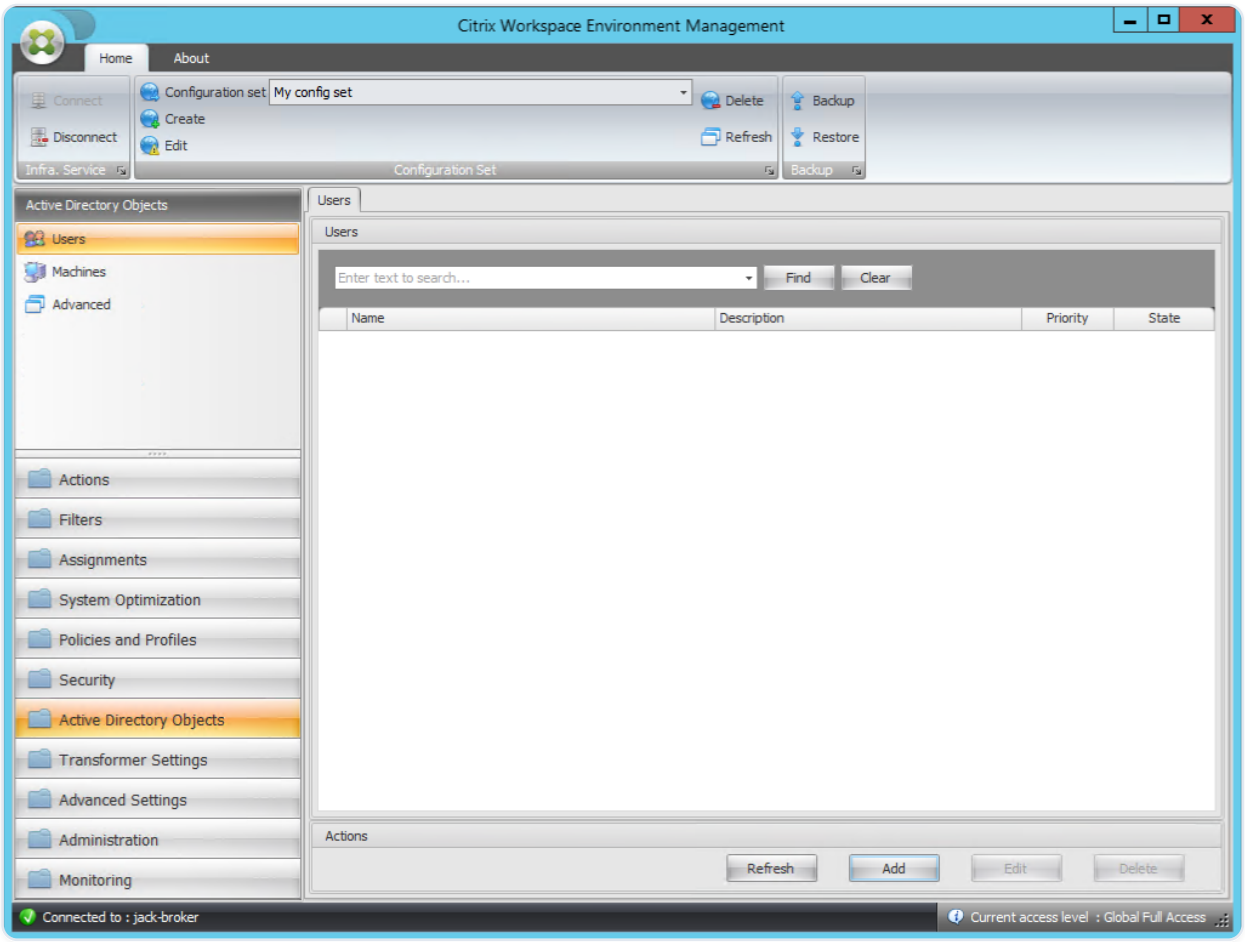
7. 「詳細設定」ページで、「**次へ**」をクリックします。



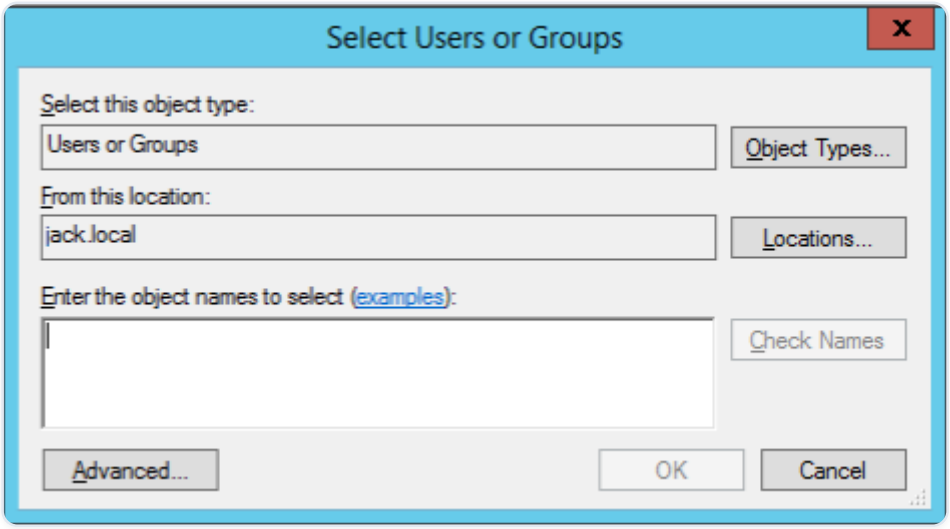
8. 「インストール準備完了」ページで、「**インストール**」をクリックします。
9. 「**完了**」をクリックして、インストールウィザードを終了します。

ステップ8：作成した構成セットにエージェントを追加する

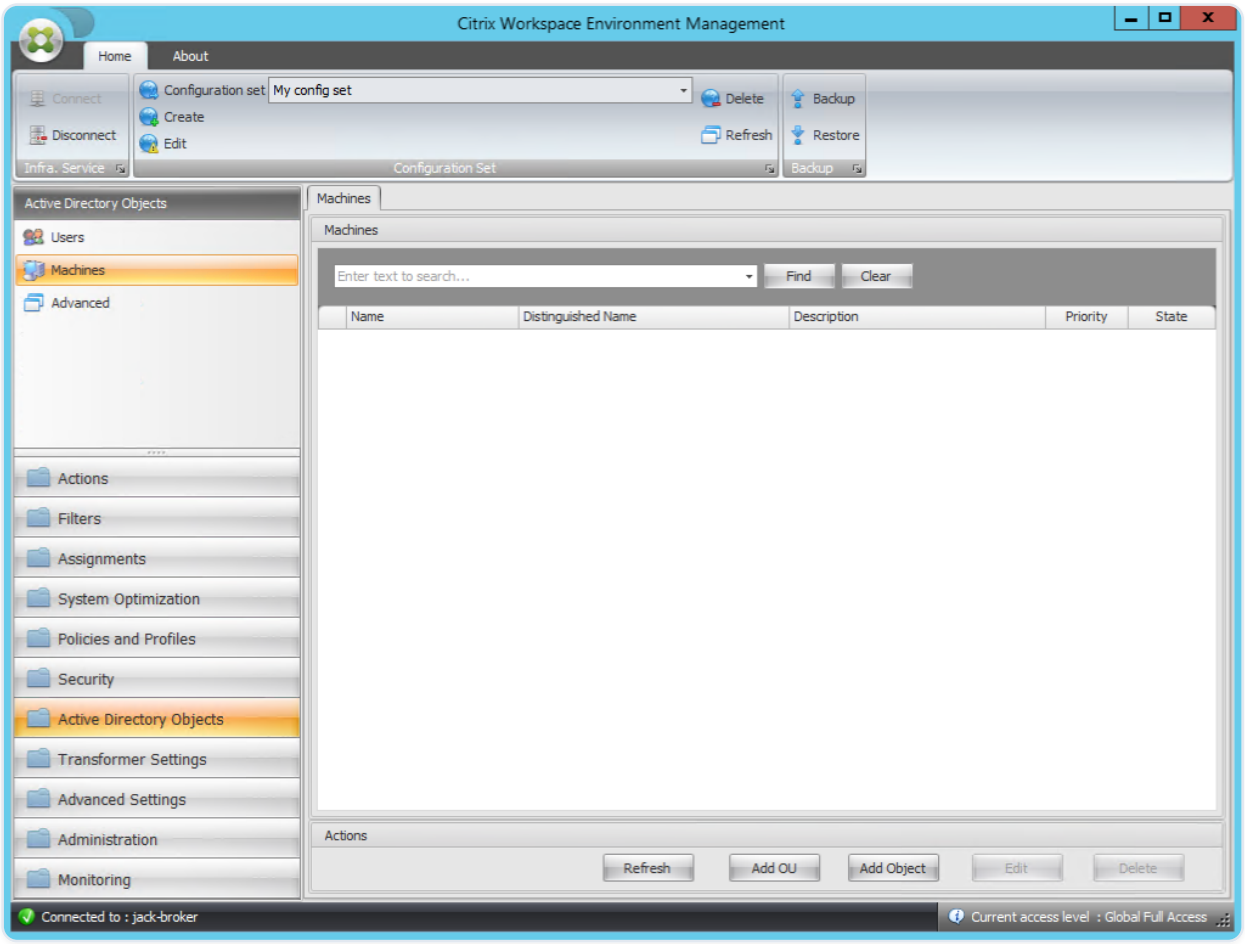
1. 「**スタート**」メニューから「**WEM管理コンソール**」を開き、「**Active Directoryオブジェクト**」をクリックして、「**追加**」をクリックします。



2. 「ユーザーまたはグループの選択」ウィンドウで名前を入力し、「**名前の確認**」をクリックして、「**OK**」をクリックします。



3. 「**マシン**」をクリックします。



4. 「**マシン**」タブで、「**OUの追加**」または「**オブジェクトの追加**」をクリックし、管理するマシンを作成した構成セットに追加します。

システム要件

ソフトウェアの前提条件

.NET Framework 4.7.1以降。このコンポーネントは、Workspace Environment Managementエージェントに必要です。まだインストールされていない場合、エージェントのインストール中に自動的にインストールされます。ただし、エージェントをインストールする前に、この前提条件を手動でインストールすることをお勧めします。そうしないと、エージェントのインストールを続行するためにマシンを再起動する必要があり、完了までに時間がかかる場合があります。

.NET Framework 4.8以降。このコンポーネントは、Workspace Environment Managementインフラストラクチャサービス、管理コンソール、およびWebコンソールに必要です。まだインストールされていない場合、インストール中に自動的にインストールされます。

Microsoft Visual C++。このコンポーネントは、Workspace Environment Management™エージェントに必要です。まだインストールされていない場合、Microsoft Visual C++ 2015–2019再頒布可能パッケージはエージェントのインストール中に自動的にインストールされます。

Microsoft Edge WebView2 Runtimeバージョン98以降。このコンポーネントは、Workspace Environment Managementサービスエージェントに必要です。まだインストールされていない場合、エージェントのインストール中に自動的にインストールされます。

> **注:**
>
> - バージョン2209以降のみ、このコンポーネントを必要とします。
> - Microsoft Edge WebView2 Runtimeをダウンロードしてインストールするには、インターネットアクセスが必要です。

Microsoft SQL Server 2012以降。Workspace Environment Managementでは、データベースを作成するためにSQL Serverインスタンスへの**sysadmin**アクセス、およびデータベースを使用するためにデータベースへの**読み取り/書き込み**アクセスが必要です。データベースの作成中に、Workspace Environment ManagementはSQLログインを作成し、そのログインにデータベースユーザーマッピングを追加します。ユーザーには、データベースへの読み取り/書き込みアクセスが*自動的に*付与されます。SQL Serverインスタンスは、大文字と小文字を

区別しない照合順序を使用する必要があります。そうしないと、データベースの作成またはアップグレードが失敗します。

注:

アップグレード中は、**sysadmin**サーバーロールを持つユーザーアカウントを使用することをお勧めします。

Microsoft Active Directory。Workspace Environment Managementでは、構成された設定をユーザーにプッシュするために、Active Directoryへの**読み取りアクセス**が必要です。

注:

- *外部信頼*関係は、フォレスト内のすべてのActive Directoryオブジェクトのコピーを保存するWEMのグローバルカタログではサポートされていません。代わりに、*フォレスト信頼*関係などの他の関係タイプを使用する必要があります。
- WEMは、フォレスト間の片方向フォレスト信頼関係もサポートしていません。

Citrix License Server 11.14。Workspace Environment ManagementにはCitrixライセンスが必要です。Citrixライセンスは、Citrix License Serverで管理および保存されます。

Citrix Virtual Apps and Desktops。Workspace Environment Managementのこのリリースには、Citrix Virtual AppsまたはCitrix Virtual Desktopsのサポートされているバージョンが必要です。

Citrix Workspace™ app for Windows。Workspace Environment Management管理コンソールから構成されたCitrix StoreFront™ストアリソースに接続するには、管理コンソールマシンとエージェントホストマシンにCitrix Workspace app for Windowsがインストールされている必要があります。サポートされているバージョンは次のとおりです。

- 管理コンソールマシン上:
  - Citrix Receiver for Windows のバージョン: 4.9 LTSR、4.10、4.10.1、4.11、および 4.12
  - Citrix Workspaceアプリ 1808 for Windows 以降
- エージェントホストマシン上:

- Citrix Receiver for Windows のバージョン: 4.4 LTSR CU5、4.7、4.9、4.9 LTSR CU1、および 4.10
- Citrix Workspaceアプリ 1808 for Windows 以降

Transformerキオスク対応マシンでは、Citrix Workspaceアプリ for Windows は、シングルサインオンを有効にしてインストールし、パススルー認証用に構成する必要があります。詳細については、Citrix Workspaceアプリのドキュメントを参照してください。

オペレーティングシステムの前提条件

注:

Workspace Environment Management および関連コンポーネントは、製造元によってサポートされているオペレーティングシステムのバージョンでのみサポートされます。オペレーティングシステムの製造元から拡張サポートを購入する必要がある場合があります。

インフラストラクチャサービス

サポートされているオペレーティングシステム：

- Windows Server 2022 Standard および Datacenter エディション
- Windows Server 2019 Standard および Datacenter エディション
- Windows Server 2016 Standard および Datacenter エディション
- Windows Server 2012 R2 Standard および Datacenter エディション

注:

異なるオペレーティングシステムバージョンのサーバープール (インフラストラクチャサーバー) で Workspace Environment Management インフラストラクチャサービスを実行することはサポートされています。インフラストラクチャサーバーのオペレーティングシステムをアップグレードするには、まず新しいオペレーティングシステムを搭載した別のマシンにインフラストラクチャサービスをインストールし、同じインフラストラクチャサービス設定で手動で構成してから、「古い」インフラストラクチャサーバーを切断します。

管理コンソール

サポートされているオペレーティングシステム：

- Windows 11、32ビットおよび64ビット
- Windows 10 バージョン 1607 以降、32ビットおよび64ビット
- Windows Server 2022 Standard および Datacenter エディション
- Windows Server 2019 Standard および Datacenter エディション
- Windows Server 2016 Standard および Datacenter エディション
- Windows Server 2012 R2 Standard および Datacenter エディション

Webコンソール

サポートされているオペレーティングシステム：

- Windows Server 2022 Standard および Datacenter エディション
- Windows Server 2019 Standard および Datacenter エディション
- Windows Server 2016 Standard および Datacenter エディション
- Windows Server 2012 R2 Standard および Datacenter エディション

エージェント

サポートされているオペレーティングシステム：

- Windows 11、32ビットおよび64ビット
- Windows 10 バージョン 1607 以降、32ビットおよび64ビット
- Windows 8.1 Professional および Enterprise Edition、32ビットおよび64ビット
- Windows 7 SP1 Professional、Enterprise、および Ultimate Edition、32ビットおよび64ビット
- Windows Server 2022 スタンダード および データセンター エディション*
- Windows Server 2019 スタンダード および データセンター エディション*
- Windows Server 2016 スタンダード および データセンター エディション*
- Windows Server 2012 R2 スタンダード および データセンター エディション*
- Windows Server 2012 Standard および Datacenter Editions*
- Windows Server 2008 R2 SP1 Standard、Enterprise、および Datacenter Editions*

* Transformer機能は、マルチセッションオペレーティングシステムではサポートされていません。

WEM 4.4では、Windows XPがサポートされていました。

> **注:**
>
> Citrix Workspace Environment Management エージェントは、Microsoft の Dynamic Fair Share Scheduling (DFSS) が有効になっている場合、マルチセッションオペレーティングシステム上で正しく動作できません。DFSS を無効にする方法については、CTX127135 を参照してください。

SQL Server オールウェイズオン

Workspace Environment Management は、Microsoft SQL Server に基づくデータベースの高可用性のために、Always On 可用性グループ (Basic および Advanced) をサポートしています。Citrix® は、Microsoft SQL Server 2017 を使用してこれをテストしました。

Always On 可用性グループを使用すると、プライマリまたは主要な SQL Server のハードウェアまたはソフトウェアに障害が発生した場合に、データベースが自動的にフェールオーバーできるようになり、Workspace Environment Management が期待どおりに動作し続けることが保証されます。Always On 可用性グループ機能では、SQL Server インスタンスが Windows Server フェールオーバークラスター (WSFC) ノード上に存在する必要があります。詳細については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/sql/database-engine/availability-groups/windows/always-on-availability-groups-sql-server?view=sql-server-ver15>` を参照してください。

Always On 可用性グループで Workspace Environment Management (WEM) を使用するには：

1. 「**WEM Database Management Utility**」を開き、WEMデータベースを作成します。
    - 「**Set vuemUser SQL user account password**」オプションを選択し、vuemUser SQL ユーザーアカウントのパスワードを入力してください。このパスワードは、データベースを可用性グループに追加する際に必要になります。
    - 「サーバーとインスタンス名」に、プライマリSQL Serverの名前を入力します。

    > **注:**
    >
    > WEMデータベースはプライマリSQL Server上に作成されます。

2. プライマリSQL Serverに移動し、作成したWEMデータベースをバックアップします。

- **Add Database to Availability Group > Select Databases**ページでWEMデータベースを選択するには、パスワード（手順1で作成したパスワード）を入力する必要があります。これを行うには、パスワード列の対応する空白領域を右クリックし、パスワードを入力して、**Refresh**をクリックします。
- データベースバックアップの回復モデルとして**Full**を選択します。

3. SQL Serverで、WEMデータベースを可用性グループに追加し、可用性グループリスナーを構成します。
4. WEMインフラストラクチャサービスマシンに移動し、「**WEM Infrastructure Service Configuration**」ユーティリティを開きます。
   - **データベースサーバーとインスタンス**。可用性グループリスナーの名前を入力します。
   - **データベースフェールオーバーサーバーとインスタンス**。空のままにします。
   - **データベース名**。データベースの名前を入力します。

ハードウェアの前提条件

インフラストラクチャサービス: 4 vCPU、8 GB RAM、80 GBの空きディスク容量。インフラストラクチャサービスの規模とサイズに関する考慮事項については、「展開の規模とサイズに関する考慮事項」を参照してください。

管理コンソール: 最小デュアルコアプロセッサ、2 GB RAM、40 MBの空きディスク容量（インストール中は100 MB）。

エージェント: 平均RAM消費量は10MBですが、安全のため20MBを確保することをお勧めします。利用可能なディスク容量は40MB（インストール中は100MB）です。

データベース: Workspace Environment Managementデータベース用に最低75MBのディスク空き容量が必要です。

サービス依存関係

Netlogon。エージェントサービス（「Norskale Agent Host service」）は、ログオンが行われる前にエージェントサービスが実行されていることを確認するために、Net Logon Dependenciesリストに追加されます。

ウイルス対策の除外

デフォルトでは、Workspace Environment Managementエージェントとインフラストラクチャサービスは次のフォルダーにインストールされます。

- エージェント
  - `C:\Program Files (x86)\Citrix\Workspace Environment Management Agent` (64ビットOSの場合)
  - `C:\Program Files\Citrix\Workspace Environment Management Agent` (32ビットOSの場合)
- インフラストラクチャサービス
  - `C:\Program Files (x86)\Citrix\Workspace Environment Management Infrastructure Services`

エージェントおよびインフラストラクチャサービスの場合、「Citrix」インストールフォルダー全体でオンアクセススキャンを無効にする必要があります。「Citrix」インストールフォルダーでオンアクセススキャンを無効にできない場合は、次のプロセスを除外する必要があります。

インフラストラクチャサービスのインストールフォルダー内

- WEM インフラストラクチャサービス.exe
- WEM インフラストラクチャサービス構成ユーティリティ.exe
- WEM インフラストラクチャデータベース管理ユーティリティ.exe

エージェントのインストールフォルダー内

- エージェント ログ パーサー.exe
- AgentCacheUtility.exe
- AgentGroupPolicyUtility.exe
- AppsMgmtUtil.exe
- Citrix.Wem.Agent.Service.exe
- Citrix.Wem.Agent.LogonService.exe
- PrnsMgmtUtil.exe
- VUEMAppCmd.exe
- VUEMAppCmdDbg.exe

- VUEMAppHide.exe
- VUEMCmdAgent.exe
- VUEMMaintMsg.exe
- VUEMRSAV.exe
- VUEMUIAgent.exe

インストールと構成

以下のコンポーネントをインストールおよび構成します。

- インフラストラクチャサービス(/ja-jp/workspace-environment-management/2308/install-and-configure/infrastructure-services.html)
- 管理コンソール(/ja-jp/workspace-environment-management/2308/install-and-configure/admin-console.html)
- Webコンソール(/ja-jp/workspace-environment-management/2308/install-and-configure/web-console.html)
- エージェント(/ja-jp/workspace-environment-management/2308/install-and-configure/agent-host.html)

インフラストラクチャサービス

Windowsインフラストラクチャサービスは1つあります: **Citrix WEM Infrastructure Service(NT SERVICE\\Citrix WEM Infrastructure Service)**。これはWorkspace Environment Management (WEM)インフラストラクチャサービスを管理します。アカウント: LocalSystem、またはインフラストラクチャサービスが実行されるインフラストラクチャサーバー上の管理者ユーザーグループに属する指定されたユーザーアカウント。

インフラストラクチャサービスをインストールする

> **重要：**

> - インフラストラクチャサービスはドメインコントローラーにインストールできません。Kerberos認証の問題により、このシナリオではインフラストラクチャサービスが機能しません。
> - Delivery Controller™がインストールされているサーバーには、インフラストラクチャサービスをインストールしないでください。

> **使用状況データ収集に関する通知:**

- デフォルトでは、インフラストラクチャサービスは毎晩WEMの使用状況に関する匿名の分析データを収集し、HTTPS経由でGoogle Analyticsサーバーに即座に送信します。分析データの収集は、Citrixプライバシーポリシーに準拠しています。
- インフラストラクチャサービスをインストールまたはアップグレードすると、データ収集はデフォルトで有効になります。オプトアウトするには、WEM Infrastructure Service Configurationダイアログの**Advanced Settings**タブで、**Do not help improve Workspace Environment Management™ using Google Analytics**オプションを選択します。

インフラストラクチャサービスをインストールするには、インフラストラクチャサーバーで**Citrix Workspace Environment Management Infrastructure Services.exe**を実行します。PowerShell SDKモジュールはデフォルトでインストールされます。デフォルトでは、インフラストラクチャサービスは次のフォルダーにインストールされます: `C:\Program Files (x86)\Citrix\Workspace Environment Management Infrastructure Services`。SDKドキュメントについては、Citrix Developer Documentationを参照してください。

インフラストラクチャサービスのサイレントインストールまたはアップグレードを選択できます。例:

- .\Citrix Workspace Environment Management インフラストラクチャサービス.exe `/quiet BrokerLocation="C:\test\Infrastructure Services" /log "C:\test\test.log"`
- `/quiet BrokerLocation="C:\test\Infrastructure Services" /log "C:\test\test.log"`
  - `/quiet`。サイレントモードを示します。
  - `/log`。ログファイルの場所を示します。
  - `BrokerLocation`。インフラストラクチャサービスのインストールパスを示します。

サービスプリンシパル名を作成する

重要：

- 同じフォレスト内にある別々のドメインに対して、複数のサービスプリンシパル名 (SPN) を作成しないでください。環境内のすべてのインフラストラクチャサービスは、同じサービスアカウントを使用して実行する必要があります。
- **負荷分散**を使用する場合、インフラストラクチャサービスのすべてのインスタンスは、同じサービスアカウント名を使用してインストールおよび構成する必要があります。
- **Windows認証**は、ADを使用するSQLインスタンスの特定の認証方法です。もう1つのオプションは、代わりにSQLアカウントを使用することです。

インストーラーの完了後、インフラストラクチャサービス用のSPNを作成します。WEMでは、エージェント、インフラストラクチャサービス、ドメインコントローラー間の接続と通信はKerberosによって認証されます。SPNは、Kerberos認証によってサービスインスタンスをサービスログオンアカウントに関連付けるために使用されます。インフラストラクチャサービスインスタンスのログオンアカウントと、SPNに登録されているアカウントとの間にリレーションシップを構成する必要があります。したがって、Kerberos認証要件に準拠するために、環境に適したコマンドを使用して、WEM SPNを既知のADアカウントに関連付けるように構成します。

- Windows認証または負荷分散を使用しない場合は、次のコマンドを使用します。
  - `setspn -C -S Norskale/BrokerService [hostname]`

  ここで、`hostname` はインフラストラクチャサーバーの名前です。
- Windows認証または負荷分散（Windows認証が必要）を使用する場合は、次のコマンドを使用します。
  - `setspn -U -S Norskale/BrokerService [accountname]`

  ここで、`accountname` はWindows認証に使用されているサービスアカウントの名前です。

SPNでは大文字と小文字が区別されます。

グループ管理サービスアカウント

WEMにグループ管理サービスアカウント (gMSA) ソリューションを実装できます。gMSAソリューションを使用すると、新しいgMSAプリンシパルに対してサービスを構成でき、パスワード管理はWindowsによって処理されます。詳しくは、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/security/group-managed-service-accounts/group-managed-service-accounts-overview>` を参照してください。gMSAがサービスプリンシパルとして使用される場合、Windowsオペレーティングシステムは、管理者がパスワードを管理するのではなく、アカウ

ントのパスワードを管理します。これにより、後でアカウントのパスワードを変更した場合に、インフラストラクチャサービス用に構成したWindowsアカウントの偽装設定を変更する必要がなくなります。

WEMにgMSAソリューションを実装するには、次の手順に従います。

1. 既存のgMSAがすでにある場合は、次の操作を行います。
   a. 次のコマンドを使用して、Citrix WEM SPNをアカウントにバインドします。
      - `setspn -C -S Norskale/BrokerService [gMSA]$`

      ここで、`gMSA` はgMSAアカウントの名前です。
   b. 次のコマンドを使用して、関連するマシンをアカウントに追加します。
      - `Set-ADServiceAccount -Identity [gMSA] -PrincipalsAllowedToRetrieveManagedPassword [hostname]`

      ここで、 はインフラストラクチャサーバーの名前です。
2. gMSA をお持ちでない場合は、ドメインコントローラーに移動して作成し、Citrix WEM SPN をそれにバインドします。次のコマンドを使用します。
   - `New-ADServiceAccount [gMSA] -DNSHostName [hostname 1] -PrincipalsAllowedToRetrieveManagedPassword [hostname 2], [hostname 3] -KerberosEncryptionType RC4, AES128, AES256 -ServicePrincipalNames Norskale/BrokerService`

   ここで、 は DNS サーバーの名前です。

   ここで、、 はインフラストラクチャサーバーの名前です。

   gMSA の作成の詳細については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows-server/security/group-managed-service-accounts/getting-started-with-group-managed-service-accounts>` を参照してください。
3. gMSA を手動で構成します。
   a. アカウントがデータベースにアクセスできるようにします。
      i. プライマリ SQL Server で、 > に移動し、 を右クリックして、 を選択します。
      ii. ウィンドウで、 をクリックします。
      iii. ウィンドウで、次のように設定を構成し、 をクリックしてウィンドウを閉じます。

- 。 のみを選択します。
- 。 を選択します。
- オブジェクト名。手順 1 で作成したアカウント名を入力します。

iv. ページで、gMSA を適用するデータベースを選択し、データベースのロールメンバーシップとして **db-owner** を選択します。

v. 「**Status**」ページで、「**Grant**」と「**Enabled**」オプションが選択されていることを確認します。

vi. 「**OK**」をクリックして、「**Login - New**」ウィンドウを閉じます。

b. 追加したサービスアカウントを使用して、Citrix WEM Infrastructure Serviceを開始します。

i. インフラストラクチャサーバーで、Windowsサービスマネージャーを開き、Citrix WEM Infrastructure Serviceを右クリックして、「**Properties**」を選択します。

ii. 「**Log On**」ページで、「**This account**」を選択し、「**Browse**」をクリックして、手順3の3番目のサブステップで説明されているように設定を構成します。

iii. 「**OK**」をクリックして、「**Citrix WEM Infrastructure Service Properties**」ウィンドウを閉じます。

iv. Windowsサービスマネージャーで、Citrix WEM Infrastructure Serviceを再起動します。

> **注:**
>
> または、WEM GUIを使用してアカウントを構成することもできます。「WEMデータベースの作成」および「インフラストラクチャサービスの構成」を参照してください。

負荷分散の構成

> **ヒント:**
>
> 「Citrix ADCによる負荷分散」の記事では、WEM管理コンソールとWEMエージェントからの受信要求を負荷分散するようにCitrix ADCアプライアンスを構成する方法について詳しく説明しています。

WEMを負荷分散サービスで構成するには：

1. WEMインフラストラクチャサービスがWEMデータベースに接続するためのWindowsインフラストラクチャサービスアカウントを作成します。
2. WEMデータベースを作成するときに、「**Use Windows authentication for infrastructure service database connection**」オプションを選択し、インフラストラクチャサービスアカウント名を指定します。詳しくは、「Workspace Environment Managementデータベースの作成」を参照してください。
3. 各インフラストラクチャサービスを、SQL認証ではなくWindows認証を使用してSQLデータベースに接続するように構成します。「**Enable Windows account impersonation**」オプションを選択し、インフラストラクチャサービスアカウントの資格情報を指定します。詳しくは、「インフラストラクチャサービスの構成」を参照してください。
4. WEMインフラストラクチャサービスがインフラストラクチャサービスアカウント名を使用するようにSPNを構成します。詳しくは、「サービスプリンシパル名の作成」を参照してください。

   重要：

   WEM環境を展開する前に、サービスアカウントを使用するかマシンアカウントを使用するかを決定します。WEM環境がすでに展開されている場合、元に戻すことはできません。たとえば、マシンアカウントをすでに使用している状態で受信要求の負荷分散を行いたい場合は、サービスアカウントの代わりにマシンアカウントを使用する必要があります。

5. VIPの背後に配置するインフラストラクチャサーバーの数をカバーする仮想IPアドレス (VIP) を作成します。エージェントがVIPに接続する際、VIPでカバーされているすべてのインフラストラクチャサーバーが対象となります。
6. エージェントホスト構成GPOを構成するときは、インフラストラクチャサーバーの設定を個々のインフラストラクチャサーバーのアドレスではなくVIPに設定します。詳細については、「エージェントのインストールと構成」を参照してください。
7. 管理コンソールとインフラストラクチャサービス間の接続には、セッション永続性が必要です。(エージェントとインフラストラクチャサービス間のセッション永続性は不要です。) 各管理コンソールは、VIPを使用するのではなく、インフラストラクチャサービスサーバーに直接接続することをお勧めします。

Workspace Environment Managementデータベースの作成

ヒント:

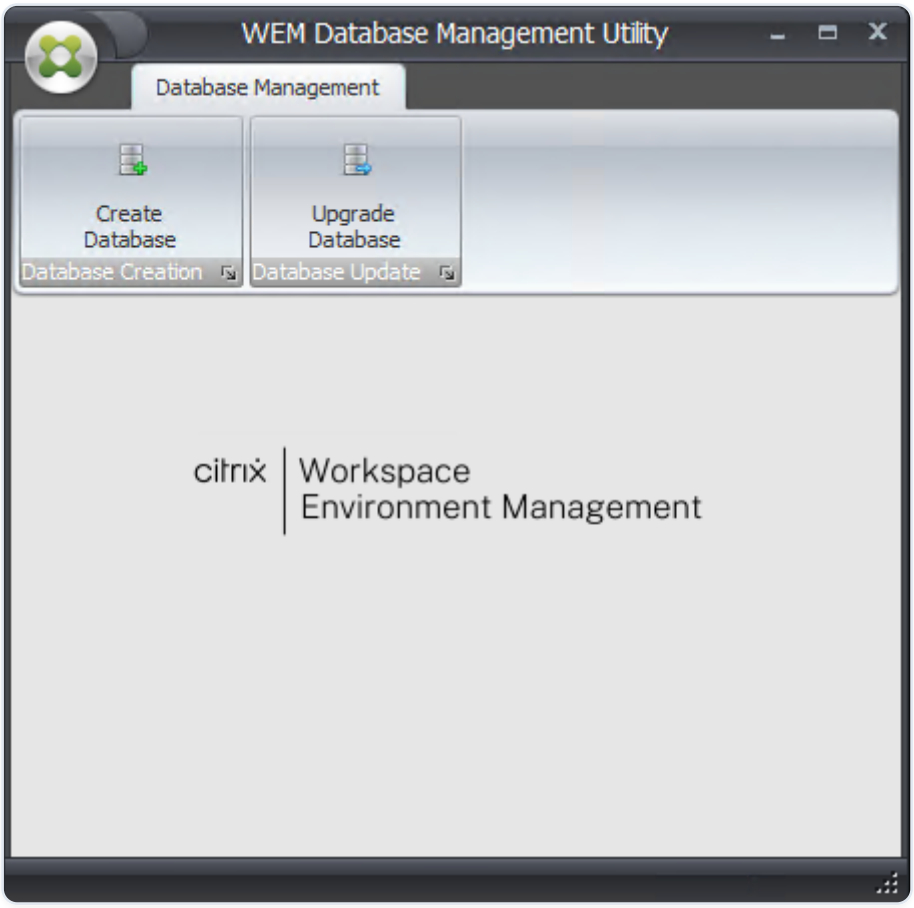
WEM PowerShell SDKモジュールを使用してデータベースを作成することもできます。SDKのドキュメントについては、「Citrix Developer Documentation」を参照してください。

注:

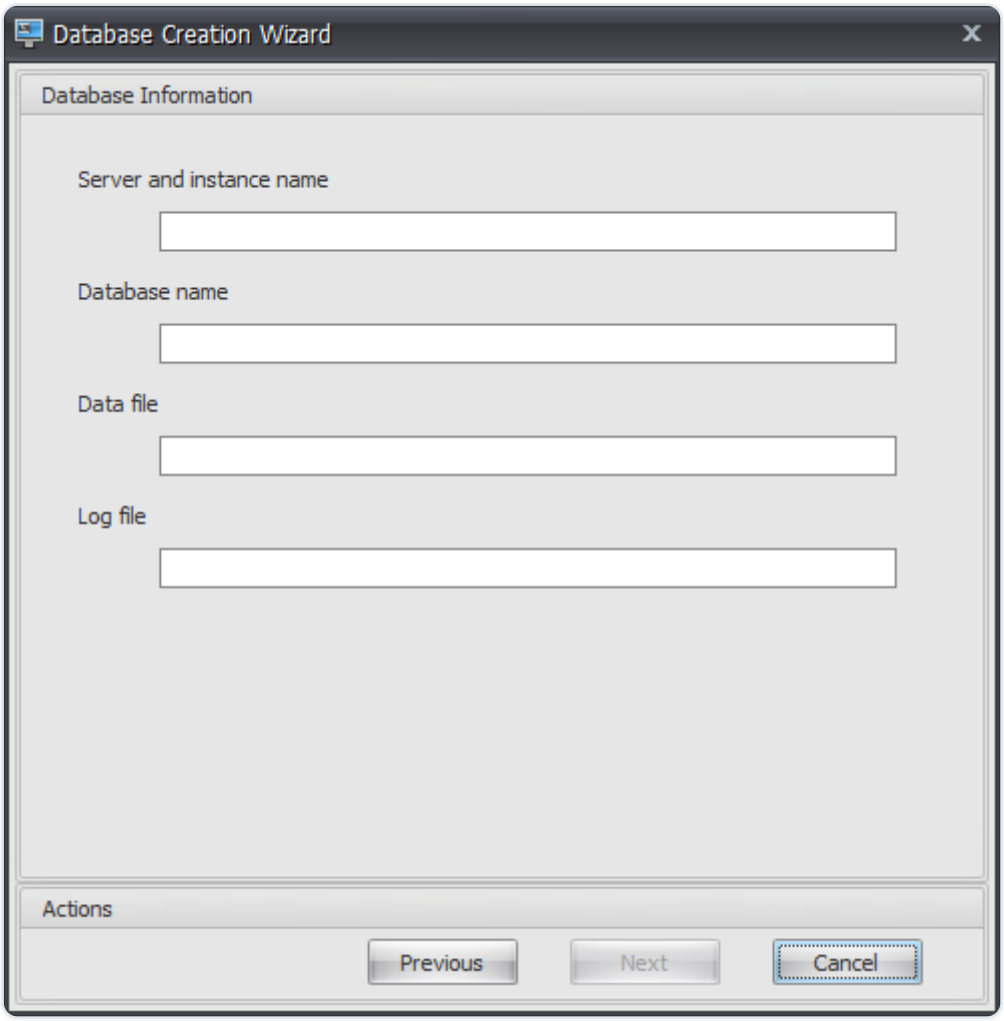
- SQL ServerにWindows認証を使用している場合は、sysadmin権限を持つIDでデータベース作成ユーティリティを実行します。
- Citrixでは、WEMデータベースのプライマリファイル (.mdfファイル) をデフォルトサイズ50 MBで構成することをお勧めします。

データベースを作成するには、**WEM Database Management Utility**を使用します。これはインフラストラクチャサービスのインストールプロセス中にインストールされ、インストール直後に起動します。

1. Database Management Utilityがまだ開いていない場合は、**スタート**メニューから**Citrix>Workspace Environment Management>WEM Database Management Utility**を選択します。



2. **Create Database**をクリックし、**Next**をクリックします。



3. 次のデータベース情報を入力し、**Next**をクリックします。

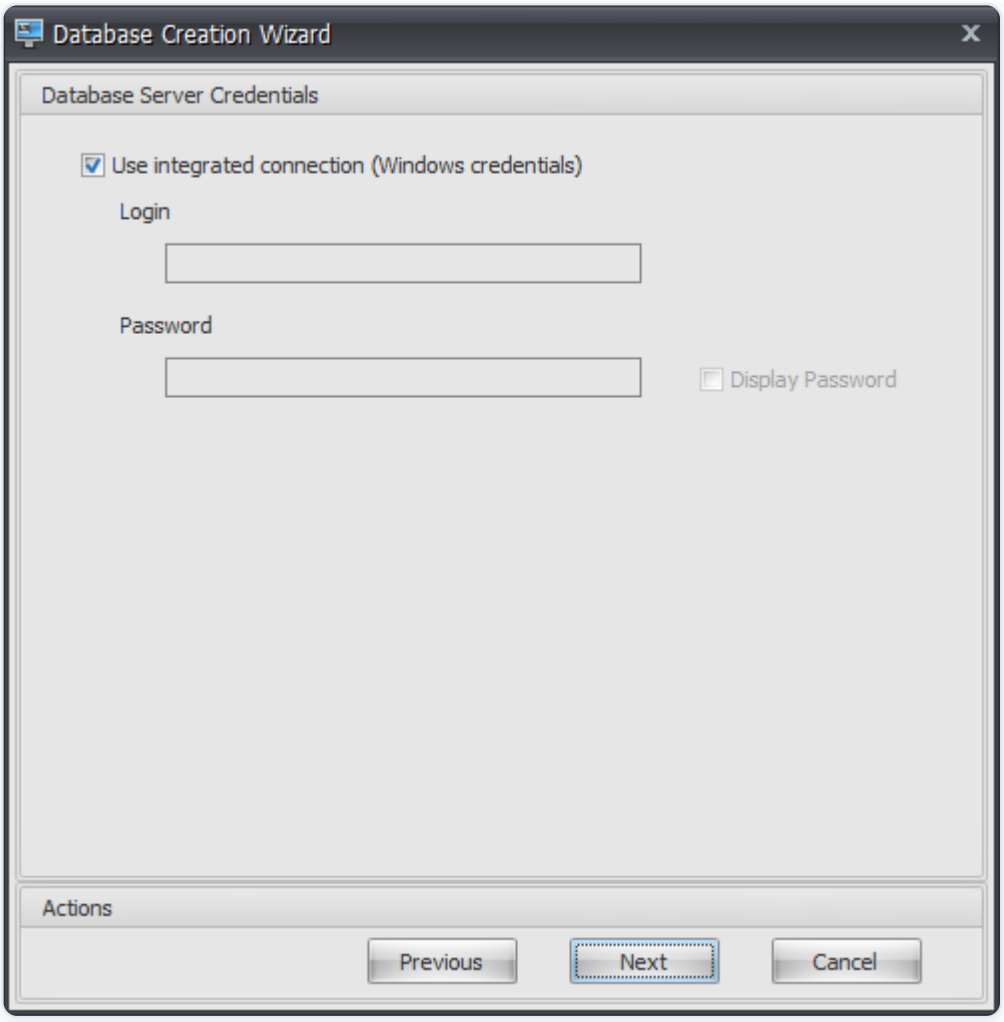
- **サーバーとインスタンス名**。データベースがホストされるSQL Serverのアドレス。このアドレスは、インフラストラクチャサーバーから入力されたとおりに到達可能である必要があります。サーバーとインスタンス名は、マシン名、完全修飾ドメイン名、またはIPアドレスとして入力します。完全なインスタンスアドレスは、**serveraddress,port\ \instancename**として指定します。ポートが指定されていない場合、デフォルトのSQLポート番号 (1433) が使用されます。
- **データベース名**。作成するSQLデータベースの名前。

> **注:**
>
> ハイフン (-) やスラッシュ (/) などの特殊文字は、データベース名では使用できません。

- **データファイル**: SQL Server上の **.mdf** ファイルの場所へのパス。
- **ログファイル**: SQL Server上の **.ldf** ファイルの場所へのパス。

注:

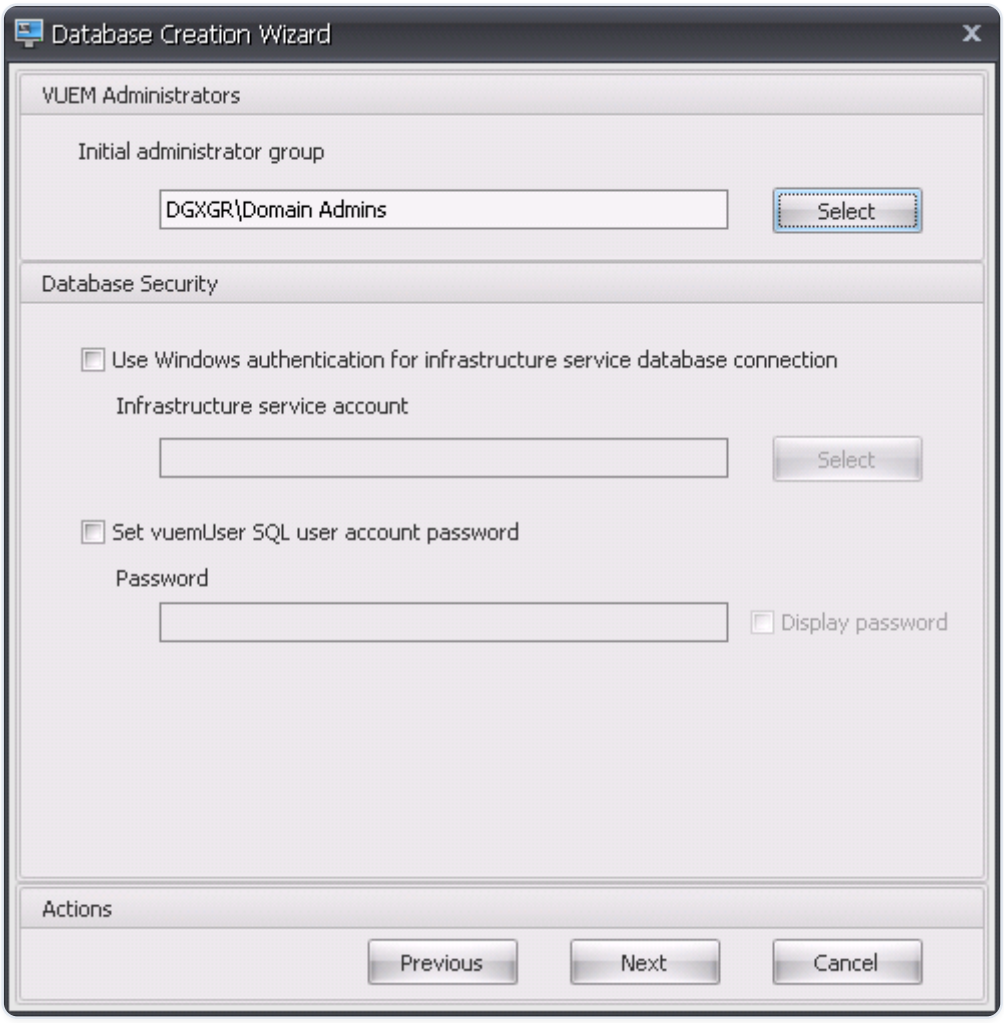
データベース管理ユーティリティは、データファイルとログファイルのデフォルトの場所についてSQL Serverにクエリを実行できません。これらは、MS SQL Serverのデフォルトインストールにおけるデフォルト値に設定されます。これらの2つのフィールドの値がMS SQL Serverのインストールに対して正しいことを確認してください。そうしないと、データベース作成プロセスが失敗します。



4. ウィザードがデータベースの作成に使用できるデータベースサーバーの資格情報を入力し、**次へ**をクリックします。これらの資格情報は、インフラストラクチャサービスがデータベース作成後にデータベースに接続するために使用する資格情報とは独立しています。これらは保存されません。

   統合接続を使用オプションはデフォルトで選択されています。これにより、ウィザードは実行中のIDのWindowsアカウントを使用してSQLに接続し、データベースを作成できます。このWindowsアカウントにデータベースを作成する十分な権限がない場合、十分な権限を持つ

Windowsアカウントとしてデータベース管理ユーティリティを実行するか、このオプションをクリアして十分な権限を持つSQLアカウントを提供するかのいずれかを選択できます。



5. VUEM管理者とデータベースセキュリティの詳細を入力し、**次へ**をクリックします。ここで提供する資格情報は、インフラストラクチャサービスがデータベース作成後にデータベースに接続するために使用されます。これらはデータベースに保存されます。

   - **初期管理者グループ**。このユーザーグループは、管理コンソールのフルアクセス管理者として事前設定されています。Workspace Environment Management管理者として設定されたユーザーのみが管理コンソールを使用できます。有効なユーザーグループを指定しないと、ご自身で管理コンソールを使用できなくなります。
   - **インフラストラクチャサービスのデータベース接続にWindows認証を使用する**。このオプションがクリアされている場合（デフォルト）、データベースはインフラストラクチャサービスが*vuemUser* SQLユーザーアカウントを使用して接続することを想定します。vuemUser SQLユーザーアカウントはインストールプロセスによって作成されます。これには、SQLインスタンスで混合モード認証が有効になっている必要があります。

このオプションが選択されている場合、データベースはインフラストラクチャサービスがWindowsアカウントを使用して接続することを想定します。この場合、選択するWindowsアカウントは、SQLインスタンスにすでにログインを持っていてはなりません。つまり、データベースの作成に使用したのと同じWindowsアカウントをインフラストラクチャサービスの実行に使用することはできません。

gMSAを選択するには、ADユーザーを選択する場合と同じ手順に従います。

- **vuemUser SQLユーザーアカウントのパスワードを設定する**。デフォルトでは、vuemUser SQLアカウントは、大文字と小文字、数字、句読点を使用する8文字のパスワードで作成されます。独自のvuemUser SQLアカウントパスワードを入力したい場合（たとえば、SQLポリシーでより複雑なパスワードが必要な場合）は、このオプションを選択します。

> **重要：**
>
> - SQL Server Always On 可用性グループに Workspace Environment Management データベースを展開する場合、vuemUser SQL ユーザーアカウントのパスワードを設定する必要があります。
> - ここでパスワードを設定した場合、インフラストラクチャサービスを構成する際に同じパスワードを指定することを忘れないでください。

6. 概要ペインで、選択した設定を確認し、問題がなければ**データベースの作成**をクリックします。
7. データベースの作成が正常に完了したという通知を受け取ったら、**完了**をクリックしてウィザードを終了します。

   データベースの作成中にエラーが発生した場合は、インフラストラクチャサービスのインストールディレクトリにあるログファイル「Citrix WEM Database Management Utility Debug Log.log」を確認してください。

インフラストラクチャサービスを構成する

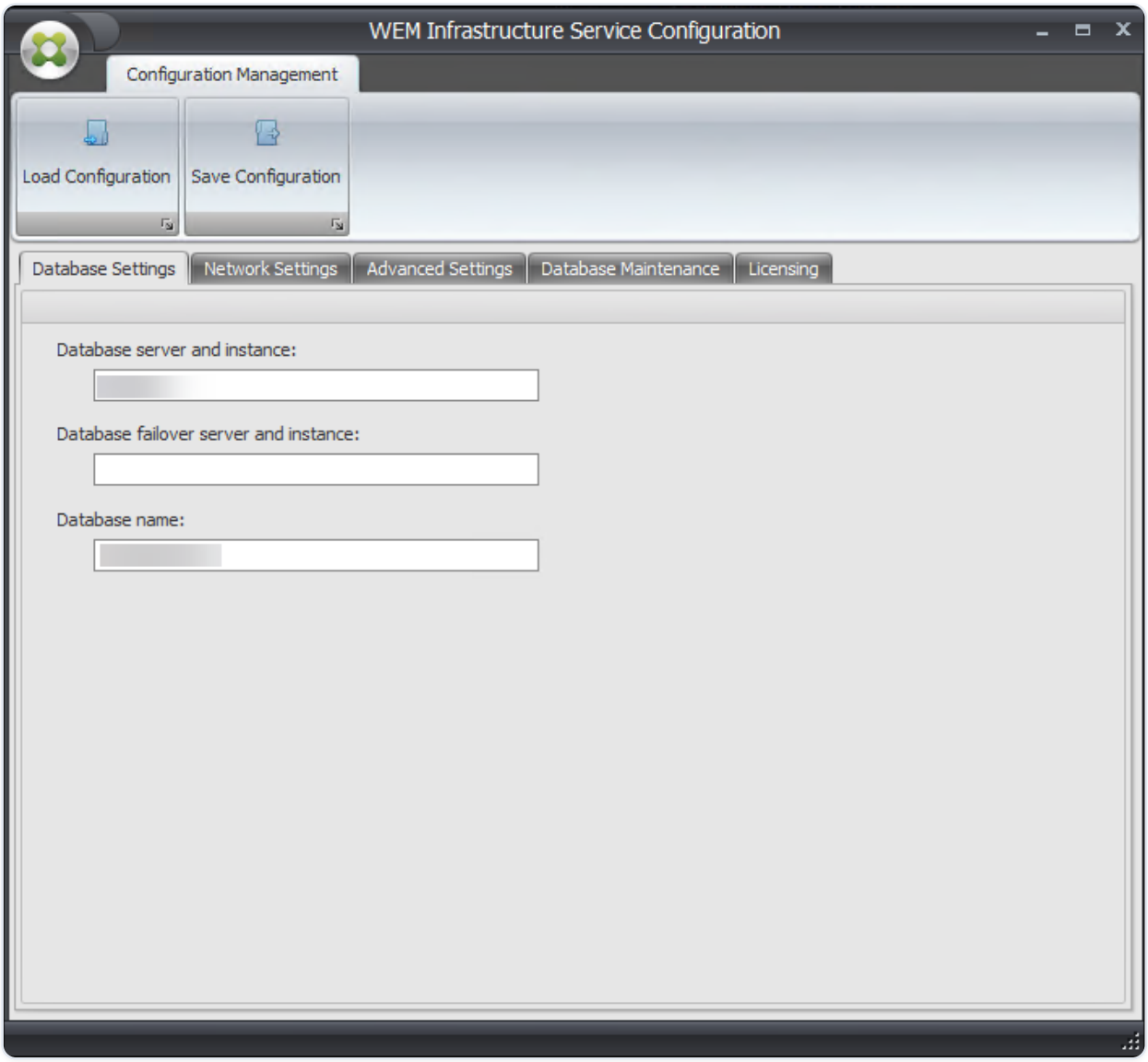
> **ヒント:**

> Workspace Environment Management PowerShell SDKモジュールを使用して、インフラストラクチャサービスを構成することもできます。SDKのドキュメントについては、Citrix Developer Documentationを参照してください。

> インフラストラクチャサービスを実行する前に、ここで説明するように、**WEM Infrastructure Service Configuration**ユーティリティを使用して構成する必要があります。

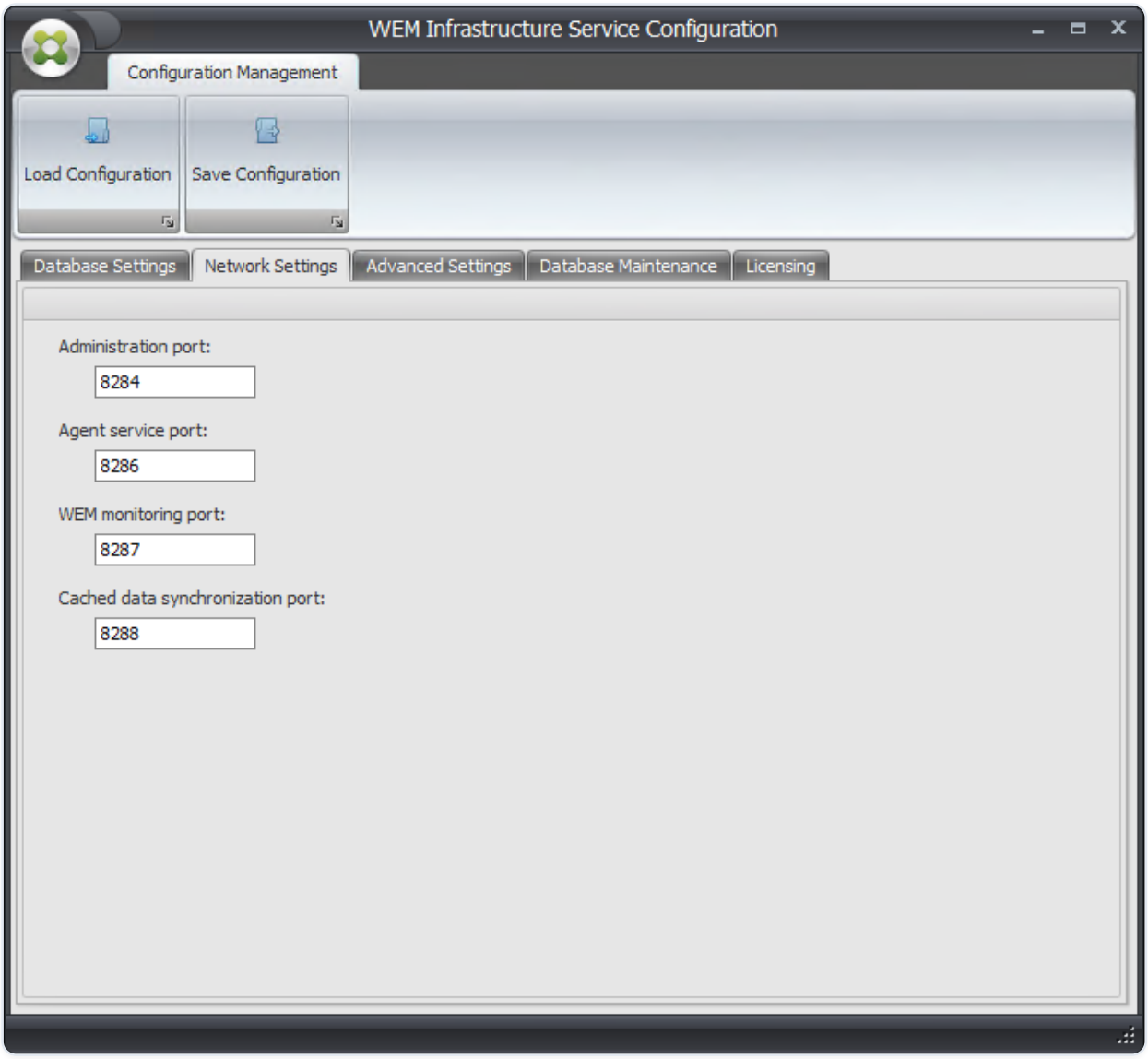
1. **スタート**メニューから、**Citrix>Workspace Environment Management>WEM Infrastructure Service Configuration Utility**を選択します。
2. **データベース設定**タブで、次の詳細を入力します。

   - **データベースサーバーとインスタンス**。Workspace Environment Managementデータベースがホストされ ているSQL Serverインスタンスのアドレス。これは、インフラストラクチャサーバーから入力されたとおりに到達可能である必要があります。完全なインスタンスアドレスを「serveraddress,port\\instancename」として指定します。ポートが指定されていない場合、デフォルトのSQLポート番号（1433）が使用されます。
   - **データベースフェールオーバーサーバーとインスタンス**。データベースミラーリングを使用している場合は、ここにフェールオーバーサーバーアドレスを指定します。
   - **データベース名**。SQLインスタンス上のWorkspace Environment Managementデータベースの名前。



3. **ネットワーク設定**タブで、インフラストラクチャサービスが使用するポートを入力します。

   - **管理ポート**。このポートは、管理コンソールがインフラストラクチャサービスに接続するために使用されます。
   - **エージェントサービスポート**。このポートは、エージェントホストがインフラストラクチャサービスに接続するために使用されます。
   - **キャッシュ同期ポート**。このポートは、エージェントサービスがキャッシュをインフラストラクチャサービスと同期するために使用されます。
   - **WEM監視ポート**。



4. **Advanced Settings**タブで、偽装と自動更新の設定を入力します。

   - **Windowsアカウントの偽装を有効にする**。デフォルトでは、このオプションはオフになっており、インフラストラクチャサービスは混合モード認証を使用してデータベースに接続します（データベース作成時に作成されたSQLアカウント*vuemUser*を使用）。代わりに、データベース作成時にWindowsインフラストラクチャサービスアカウントを選択した場合は、このオプションを選択し、接続時にインフラストラクチャサービスが偽装するWindowsアカウントを指定する必要があります。選択するアカウントは、インフラストラクチャサーバーのローカル管理者である必要があります。

     gMSAを選択するには、ADユーザーを選択する場合と同じ手順に従います。

   - **vuemUser SQLユーザーアカウントのパスワードを設定する**。データベース作成時に*vuemUser* SQLユーザー用に構成されたカスタムパスワードをインフラストラクチャサービスに通知できます。このオプションは、データベース作成時に独自のパスワードを指定した場合にのみ有効にしてください。

- **インフラストラクチャサービスのキャッシュ更新遅延**。インフラストラクチャサービスがキャッシュを更新するまでの時間（分）。インフラストラクチャサービスがSQLに接続できない場合、キャッシュが使用されます。
- **インフラストラクチャサービスのSQL状態監視遅延**。インフラストラクチャサービスがSQLサーバーをポーリングする各試行間の時間（秒）。
- **インフラストラクチャサービスのSQL接続タイムアウト**。インフラストラクチャサービスがSQLサーバーとの接続を確立しようとするときに、試行を終了してエラーを生成するまでに待機する時間（秒）。
- **デバッグモードを有効にする**。有効にすると、インフラストラクチャサービスは詳細ログモードに設定されます。
- **オンラインでもキャッシュを使用する**。有効にすると、インフラストラクチャサービスは常にサイト設定をキャッシュから読み取ります。
- **パフォーマンスチューニングを有効にする**。接続されているエージェントの数が特定のしきい値（デフォルトでは200）を超えたシナリオでパフォーマンスを最適化できます。その結果、エージェントまたは管理コンソールがインフラストラクチャサービスに接続するまでの時間が短縮されます。
    - **ワーカー スレッドの最小数**。スレッド プールがオンデマンドで作成するワーカー スレッドの最小数を指定します。ワーカー スレッドの数は30～3000の範囲で設定します。接続されているエージェントの数に基づいて値を決定します。デフォルトでは、ワーカー スレッドの最小数は200です。
    - **非同期I/Oスレッドの最小数**。スレッド プールがオンデマンドで作成する非同期I/Oスレッドの最小数を指定します。非同期I/Oスレッドの数は30～3000の範囲で設定します。接続されているエージェントの数に基づいて値を決定します。デフォルトでは、非同期I/Oスレッドの最小数は200です。

> **重要：**
>
> この機能は、エージェントまたは管理コンソールがインフラストラクチャサービスから断続的に切断される場合に特に役立ちます。

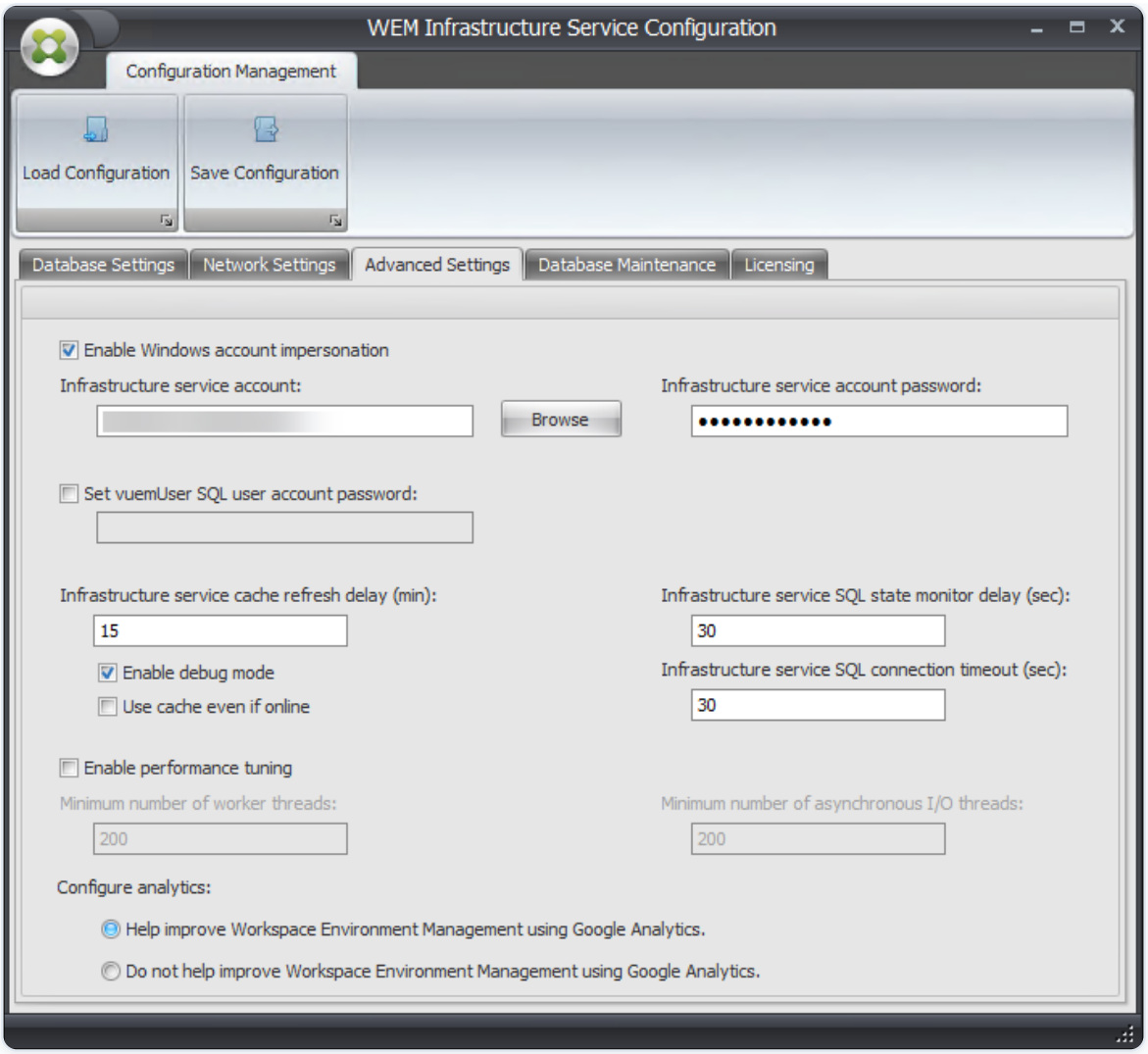
> **注:**
>
> ［パフォーマンスチューニングを有効にする］フィールドで設定した値は、新しい要求が行われたとき、およびスレッドの作成と破棄を管理するアルゴリズムに切り替える前

に使用されます。詳しくは、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/dotnet/api/system.threading.threadpool.setminthreads?view=netframework-4.8>`および`<https://support.microsoft.com/en-sg/help/2538826/wcf-service-may-scale-up-slowly-under-load>`を参照してください。

- **Google Analyticsを使用してWorkspace Environment Managementの改善に協力する。**選択すると、インフラストラクチャサービスは匿名の分析データをGoogle Analyticsサーバーに送信します。
- **Google Analyticsを使用してWorkspace Environment Managementの改善に協力しない**。選択すると、インフラストラクチャサービスは匿名の分析データをGoogle Analyticsサーバーに送信しません。

重要：

2212以降、Workspace Environment Managementは、インフラストラクチャサービスをホストするマシンの地域に基づいて、選択するオプションを決定します。マシンがヨーロッパ以外の地域にある場合は、最初のオプションが選択されます。マシンがヨーロッパ地域にある場合は、2番目のオプションが選択されます。この動作は、新規インストールにのみ適用されます。

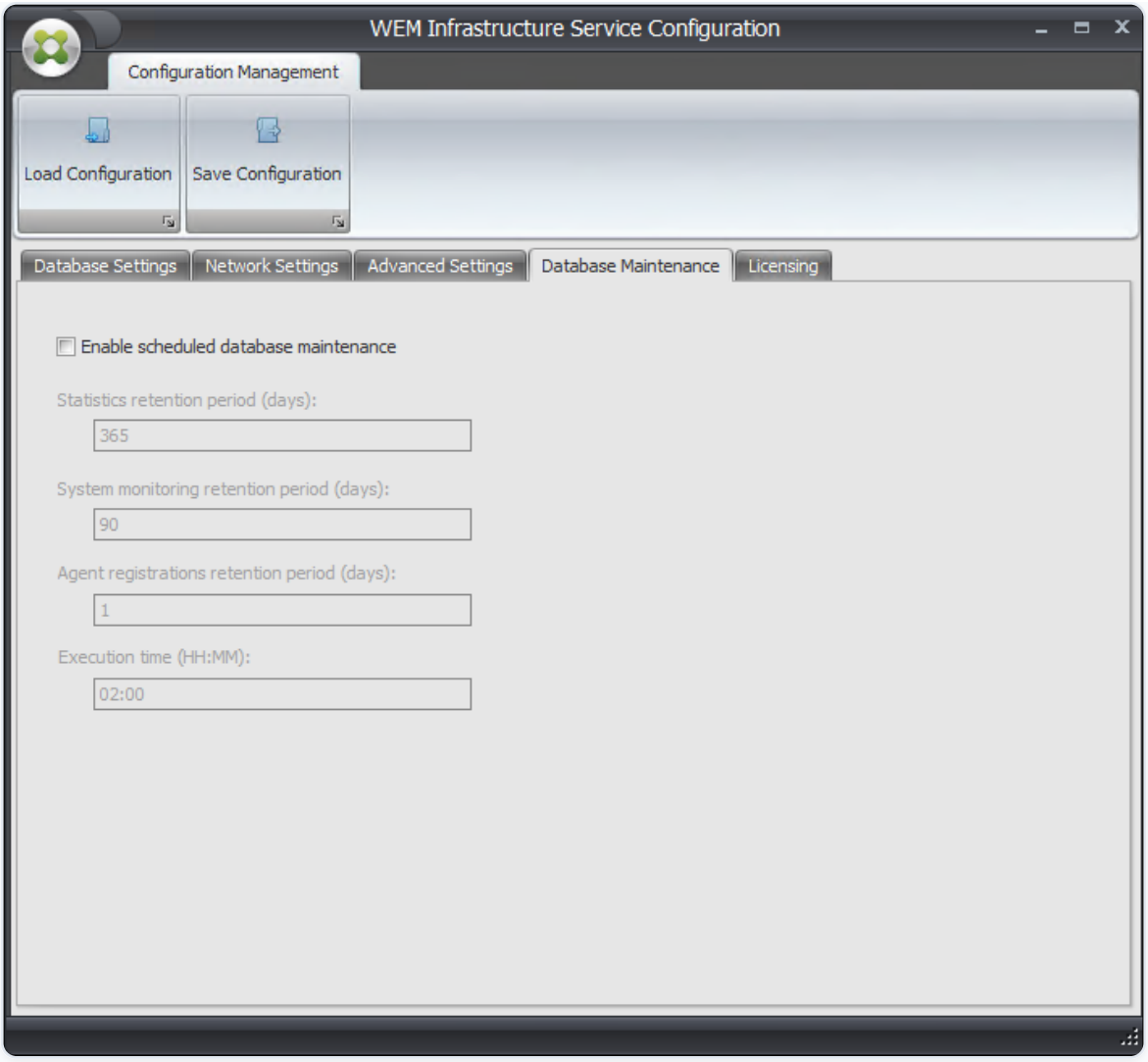


5. **データベースメンテナンス**タブを使用して、データベースメンテナンスを構成できます。

   - **スケジュールされたデータベースメンテナンスを有効にする**。有効にすると、この設定により、古い統計レコードが定期的にデータベースから削除されます。
   - **統計の保持期間**。ユーザーおよびエージェントの統計が保持される期間を決定します。デフォルトは365日です。
   - **システム監視の保持期間**。システム最適化の統計が保持される期間を決定します。デフォルトは90日です。
   - **エージェント登録の保持期間**。エージェント登録ログがデータベースに保持される期間を決定します。デフォルトは1日です。
   - **実行時間**。データベースメンテナンスアクションが実行される時間を決定します。デフォルトは02:00です。

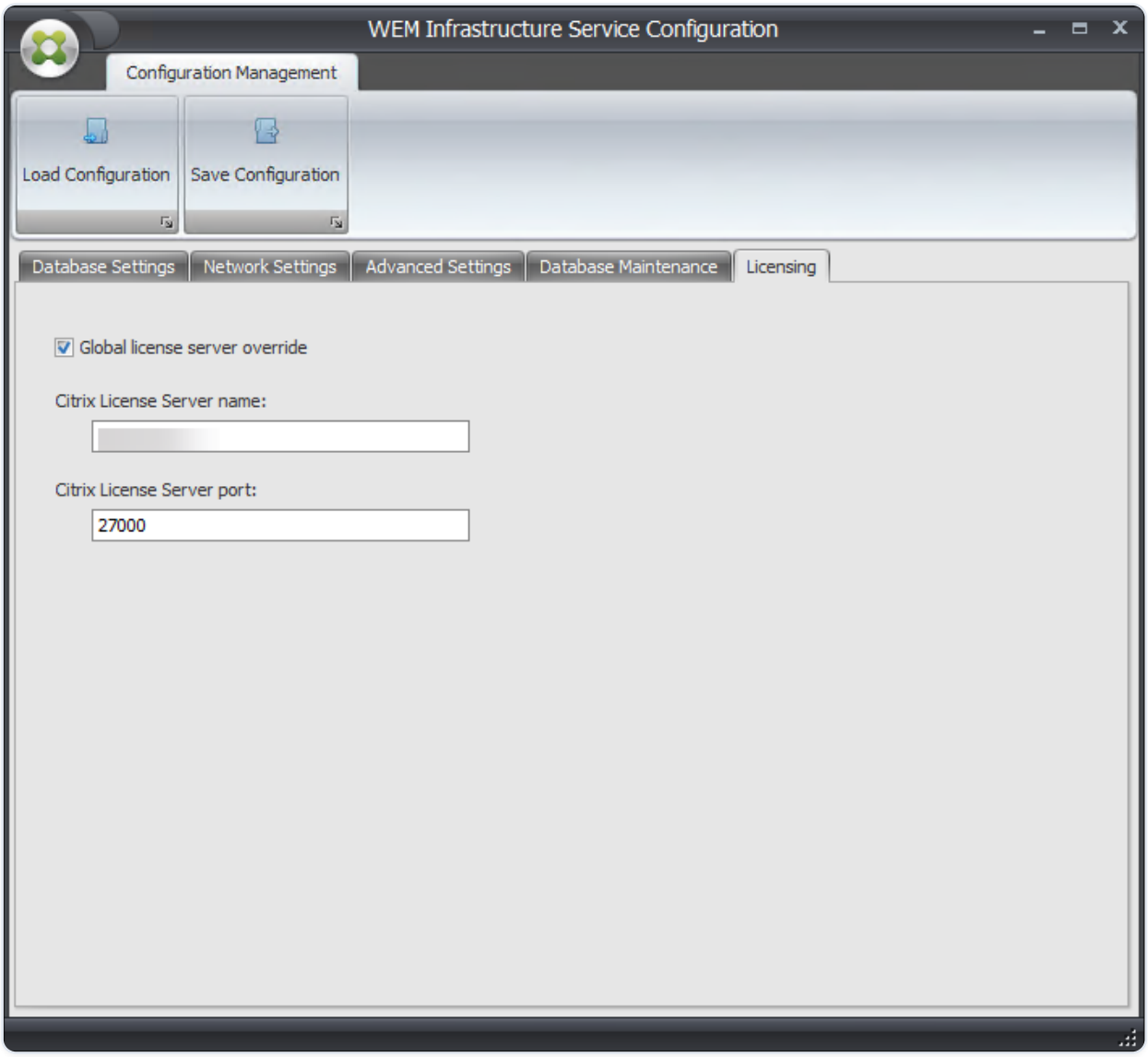
> **ヒント**

ベストプラクティスとして、データベースサイズを削減し、最高のパフォーマンスを実現するために、スケジュールされたデータベースメンテナンスを有効にすることをお勧めします。単一のWEM展開に複数のインフラストラクチャサービスがある場合は、1つのインフラストラクチャサービスのみで有効にしてください。



6. インフラストラクチャサービスの構成中に、オプションで**ライセンス**タブを使用してCitrixライセンスサーバーを指定できます。指定しない場合、管理コンソールが新しいWorkspace Environment Managementデータベースに初めて接続するときに、管理コンソールリボンの**バージョン情報**タブでCitrixライセンスサーバーの資格情報を入力する必要があります。どちらの場合も、Citrixライセンスサーバーの情報はデータベース内の同じ場所に保存されます。

   - **グローバルライセンスサーバーのオーバーライド**。このオプションを有効にすると、Workspace Environment Managementで使用されるCitrixライセンスサーバーの名前を入力できます。ここに入力した情報は、Workspace Environment Managementデータベースに既に存在するCitrixライセンスサーバー情報をすべて上書きします。



インフラストラクチャサービスが希望どおりに構成されたら、**構成の保存**をクリックしてこれらの設定を保存し、インフラストラクチャサービス構成ユーティリティを終了します。

管理コンソール

管理コンソールをインストールする

> **注:**
>
> 管理コンソールからWorkspace Environment ManagementでCitrix StoreFrontストアに公開されているリソースをアプリケーションショートカットとして割り当てる場合は、管理コンソールマシンとエージェントホストマシンにCitrix Workspaceアプリ for Windowsがインストールされていることを確認してください。詳細については、「システム要件」を参照してください。

> 管理者コンソール環境で **Citrix Workspace Environment Management Console.exe** を実行します。

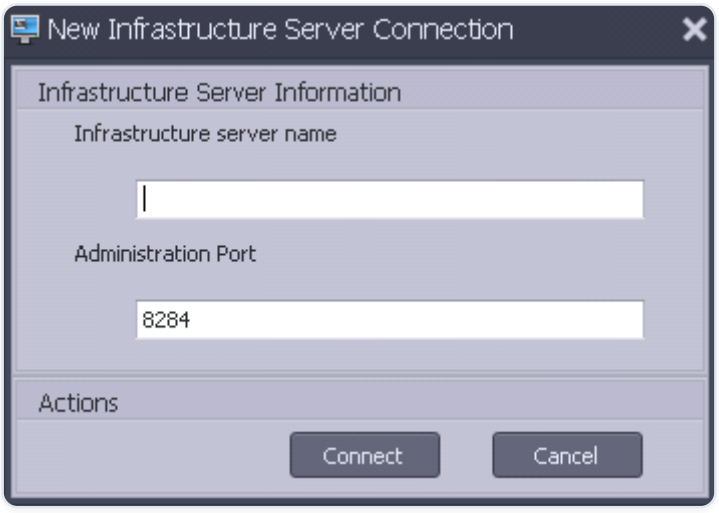
インフラストラクチャサービスのサイレントインストールまたはアップグレードを選択できます。例：

- .\Citrix Workspace Environment Management Console.exe を実行します。`/quiet ConsoleLocation="C:\test\Administration Console" /log "C:\test\test.log"`
- `/quiet ConsoleLocation="C:\test\Administration Console" /log "C:\test\test.log"`
  - `/quiet`。サイレントモードを示します。
  - `/log`。ログファイルの場所を示します。
  - `ConsoleLocation`。管理コンソールのインストールパスを示します。

インフラストラクチャサーバー接続を作成する

スタートメニューで、**Citrix®>Workspace Environment Management™>WEM Administration Console**を選択します。デフォルトでは、管理コンソールは切断された状態で起動します。

リボンで、**接続**をクリックして**新しいインフラストラクチャサーバー接続ウィンドウ**を開きます。



次の値を入力し、**接続**をクリックします。

インフラストラクチャサーバー名。Workspace Environment Managementインフラストラクチャサーバーの名前です。管理コンソール環境から入力したとおりに正確に解決できる必要があります。

管理ポート。管理コンソールがインフラストラクチャサービスに接続するポート。

新しいデータベースに初めて接続するとき、有効なライセンスを持つCitrixライセンスサーバーがまだ構成されていないため、次のメッセージが表示されます。

WEMライセンスサーバーの警告(/en-us/workspace-environment-management/2308/media/wem-license-server-warning.png)

データベースをライセンスサーバーで構成する

データベースをライセンスサーバーで構成するには、管理コンソールのリボンで をクリックし、次に をクリックして、Citrixライセンスサーバーの詳細を入力します。Citrixライセンスサーバーのアドレスは、入力されたとおりに管理コンソール環境から解決できる必要があります。

ライセンスサーバーの構成(/en-us/workspace-environment-management/2308/media/wem-config-license-server.png)

クイックスタート設定のインポート

Workspace Environment Managementには、Workspace Environment Managementデータベースをすぐに概念実証できる状態に事前構成するために使用できるXMLファイルが含まれています。XMLファイルは、Workspace Environment Managementインストーラーパッケージの「Configuration Templates」フォルダーに用意されています。

クイックスタート設定ファイルをインポートするには、 リボンで をクリックします。

管理コンソールリボン(/en-us/workspace-environment-management/2308/media/wem-admin-console-ribbon-home.png)

で、 を選択し、 をクリックします。

復元ウィザード(/en-us/workspace-environment-management/2308/media/wem-admin-console-restore-settings.png)

で、クイックスタート設定ファイルを含む「Configuration Templates」フォルダーを選択し、すべての設定タイプを選択します。

Webコンソール

Windowsインフラストラクチャサービスは1つあります: **Citrix WEM Public API Service** (NT SERVICE\\Citrix WEM Public API Service)。これは、Workspace Environment Management (WEM) Webコンソールをサポートし、WEMインフラストラクチャサービスと通信するためのHTTPSサービスを提供します。 アカウント: WEMグローバルフルアクセス権を持ち、Webコンソールサービスが実行されているWebコンソールサーバーの管理者ユーザーグループに属する、

指定されたドメインユーザーアカウント。 Webコンソールサービスは、WEMインフラストラクチャサービスが実行されているマシンにインストールすることをお勧めします。

Webコンソールサービスをインストールする

Webコンソールサービスをインストールするには、**Citrix Workspace Environment Management Web Console.exe**を実行します。デフォルトでは、インフラストラクチャサービスは次のフォルダーにインストールされます: `C:\\Program Files (x86)\\Citrix\\Workspace Environment Management Web Console`。

次の引数を使用して、インストールをカスタマイズできます。

ApiLocation: Webコンソールサービスをインストールするディレクトリ。

インフラストラクチャサービスのサイレントインストールまたはアップグレードを選択できます。例:

- .\Citrix Workspace Environment Management Web Console.exe `/quiet ApiLocation="C:\WEM\webconsole"` を実行します。
- `.\setup.exe /quiet ApiLocation="path:\to\install" /log="path:\to\log"`
  - setup.exe。インストーラーのファイル名に置き換えることができます。
  - `/quiet`。インストール中にユーザーインターフェイスが表示されないことを示します。
  - `/log`。ログファイルの場所を示します。
  - `ApiLocation="path:\to\install"`。Webコンソールサービスをインストールする場所を指定します。

Webコンソールの構成

インストールパスにある次のツールを使用して、Webコンソールを構成する必要があります。`WEM Web Console Configuration.exe`

前提条件

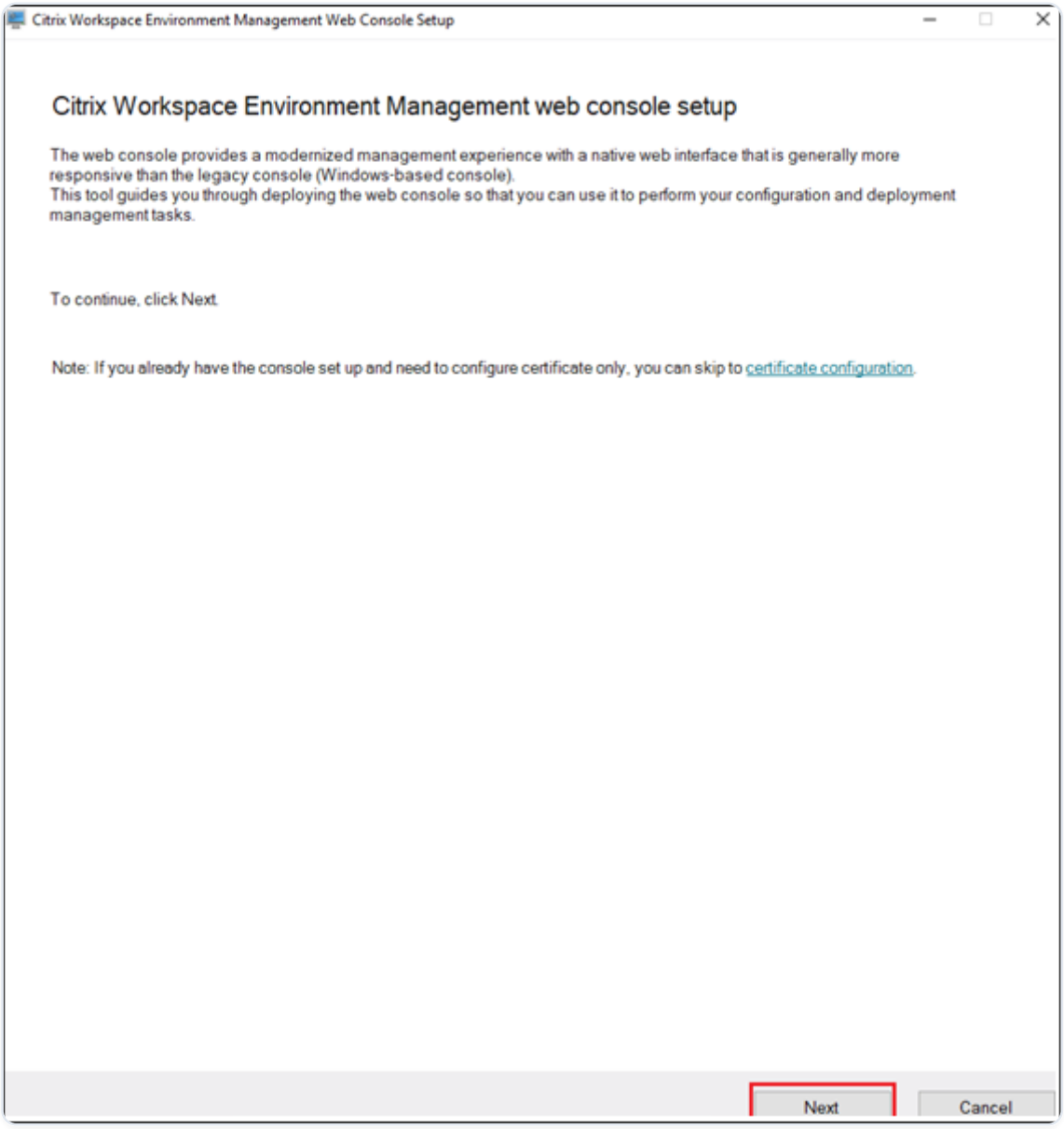
このWebコンソールのリリースは、WEM 2303以降の展開と互換性があります。

2303より前の展開の場合、まず2303にアップグレードしてから、Webコンソールを構成します。

Webコンソールの構成と起動

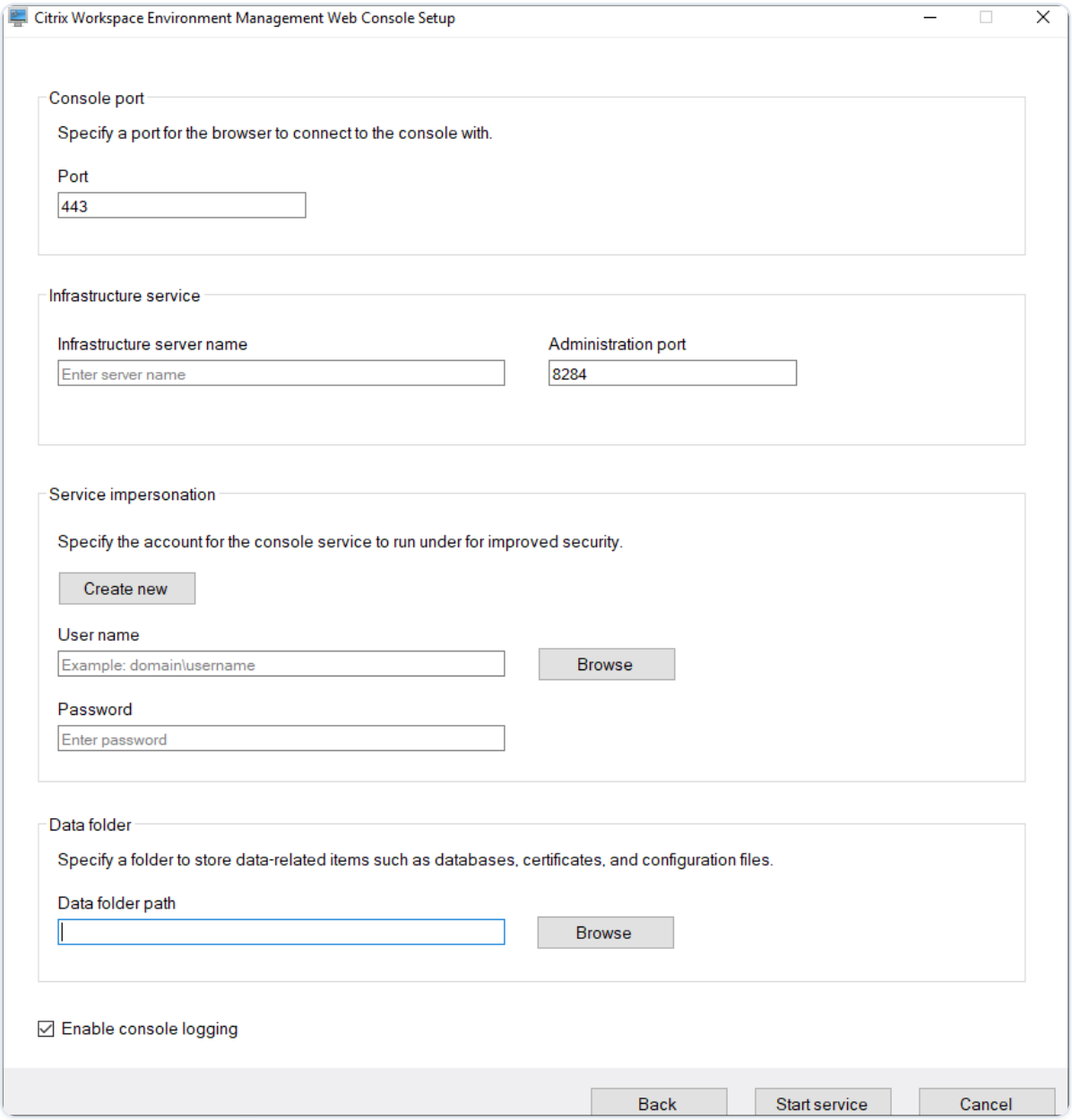
Webコンソールを構成して起動するには、次の手順を実行します。

1. Webコンソールフォルダーで`WEM Web Console Configuration.exe`ツールを起動し、**次へ**をクリックします。



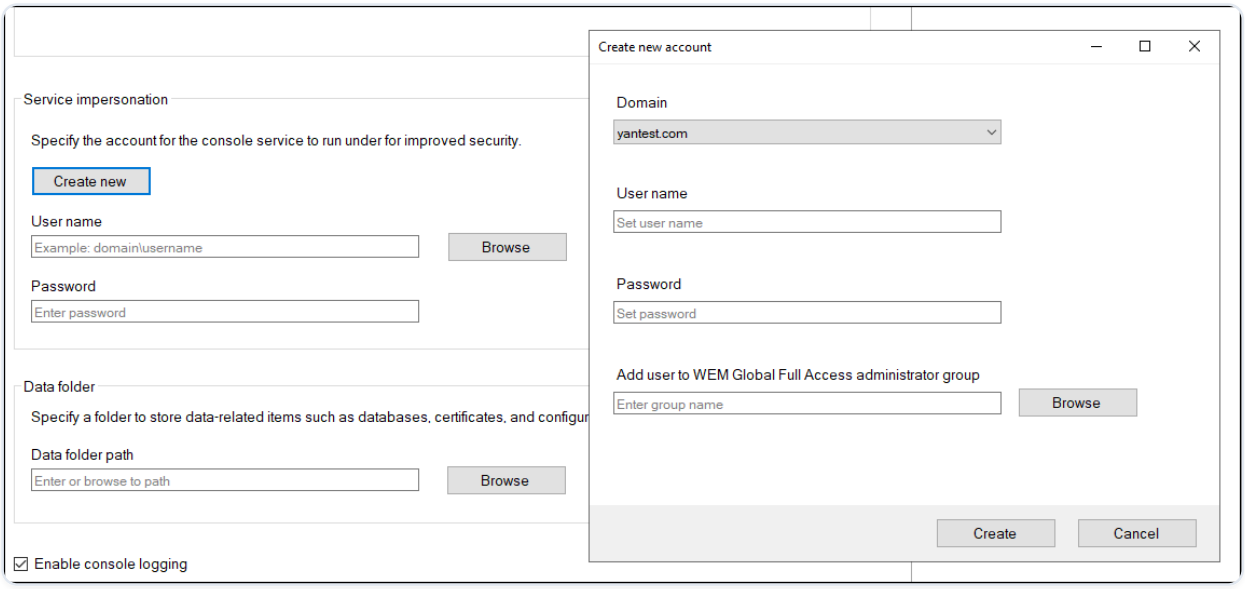
2. ブラウザーがコンソールに接続するためのポートを指定して、コンソールポートを構成します。デフォルトポートは443です。
3. インフラストラクチャサービス情報を指定して、インフラストラクチャサービスを構成します。

   - インフラストラクチャサーバー名には、WEMインフラストラクチャサーバーのマシン名、完全修飾ドメイン名、またはIPアドレスを入力します。
   - 管理ポートには、Webコンソールがインフラストラクチャサービスに接続するポートを入力します。デフォルトポートは8284です。

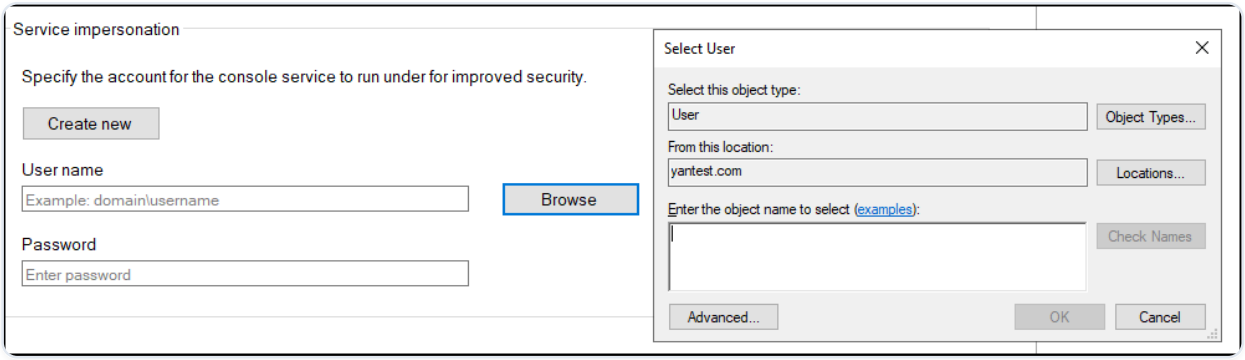


4. Webコンソールサービスが特定のアカウントを偽装してセキュリティを向上させる場合は、**サービス偽装**を構成します。新しいユーザーを作成するか、既存のユーザーを選択できます。

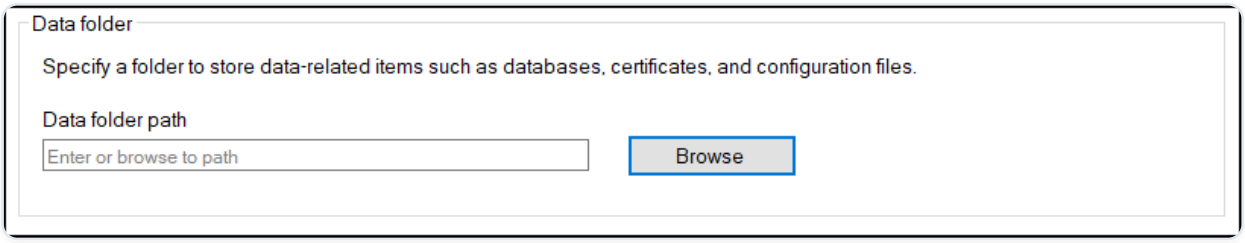
   - 新しいユーザーを作成し、そのユーザーをWEMグローバルフルアクセス管理者グループに追加します。



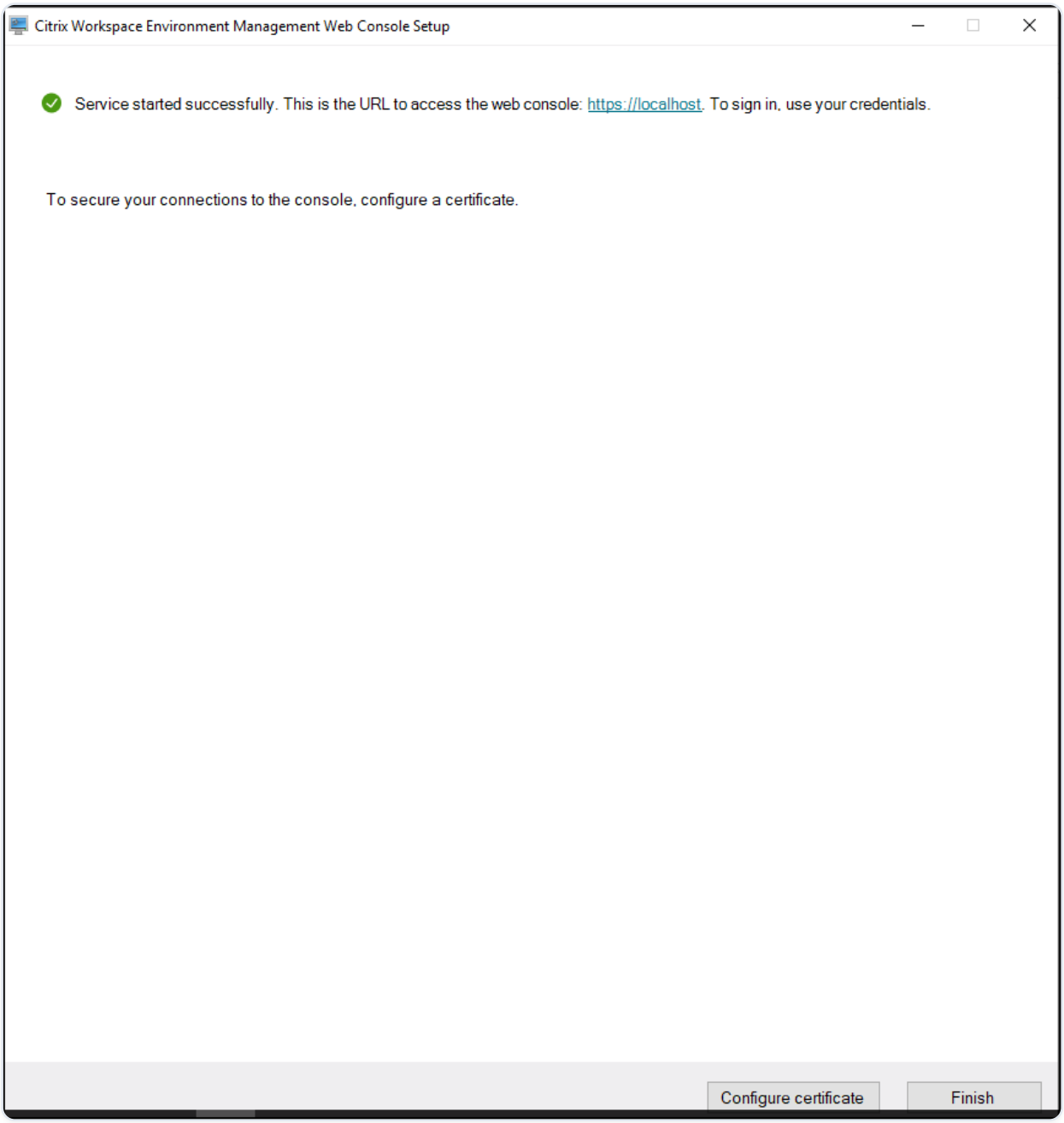
- WEMグローバルフルアクセス管理者グループから既存のユーザーを選択します。



5. データベースや構成ファイルなどのデータ関連アイテムを共有するフォルダーを指定して、**データフォルダー**を構成します。

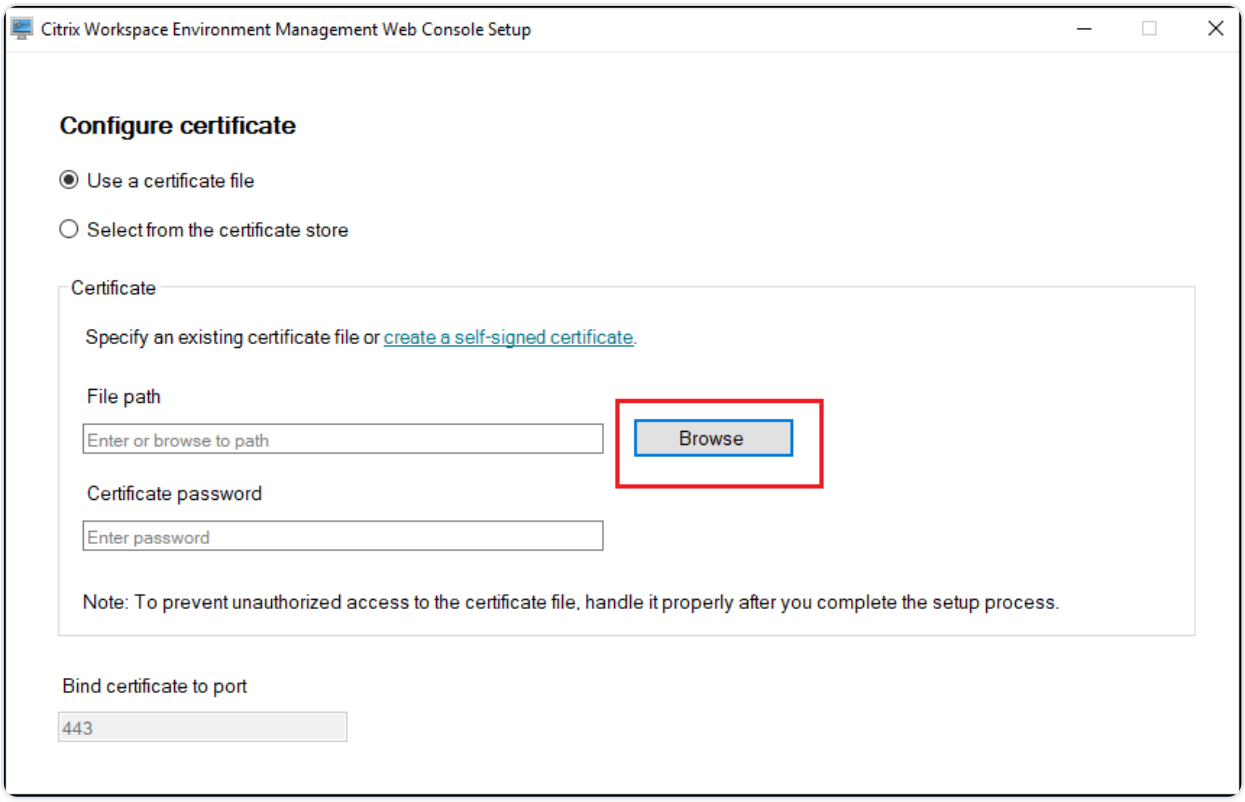


6. **サービスを開始**をクリックします。

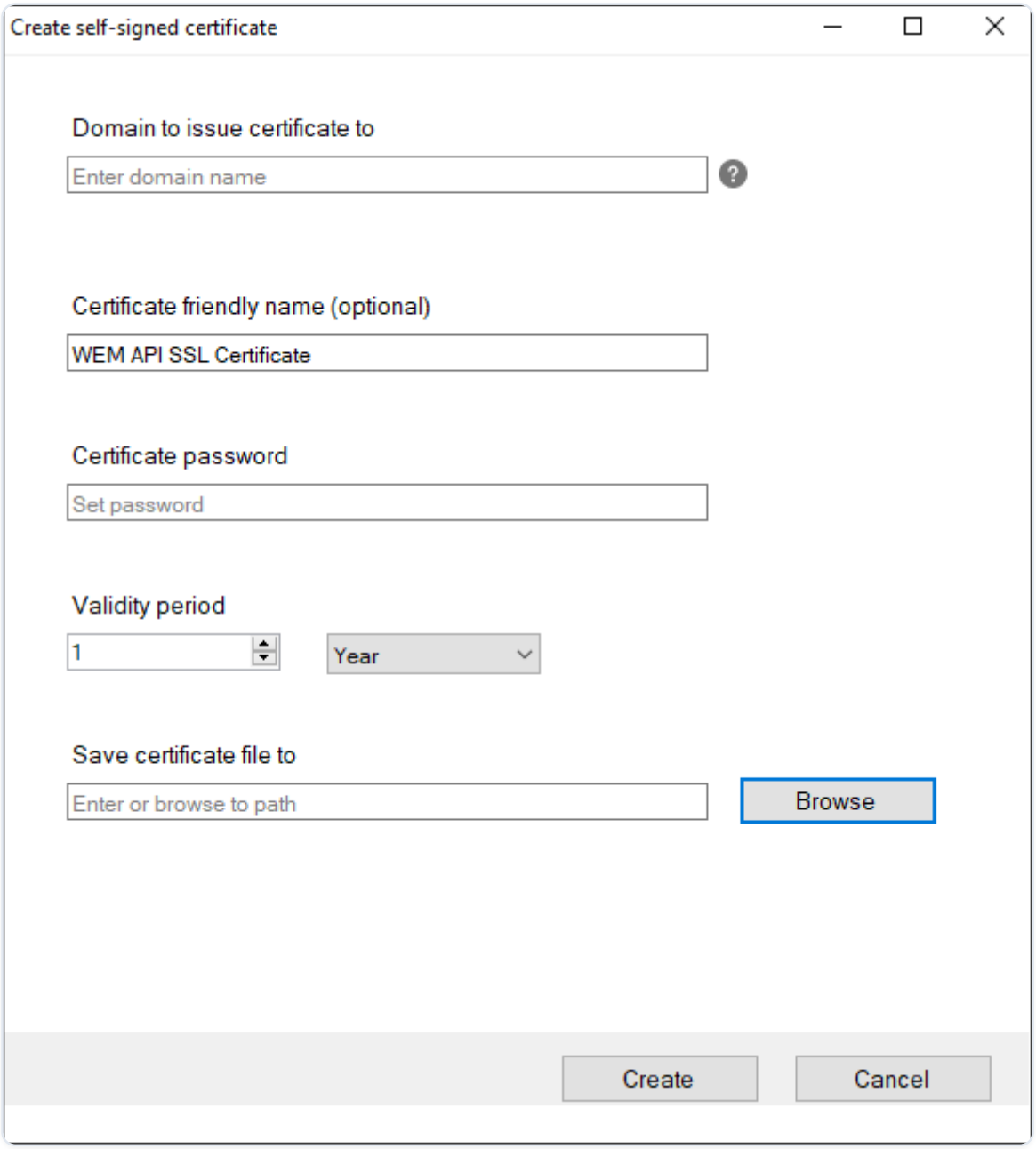


7. Webコンソールサービスの起動が成功したら、**証明書の構成**をクリックして証明書を構成します。証明書を構成する方法は2つあります。

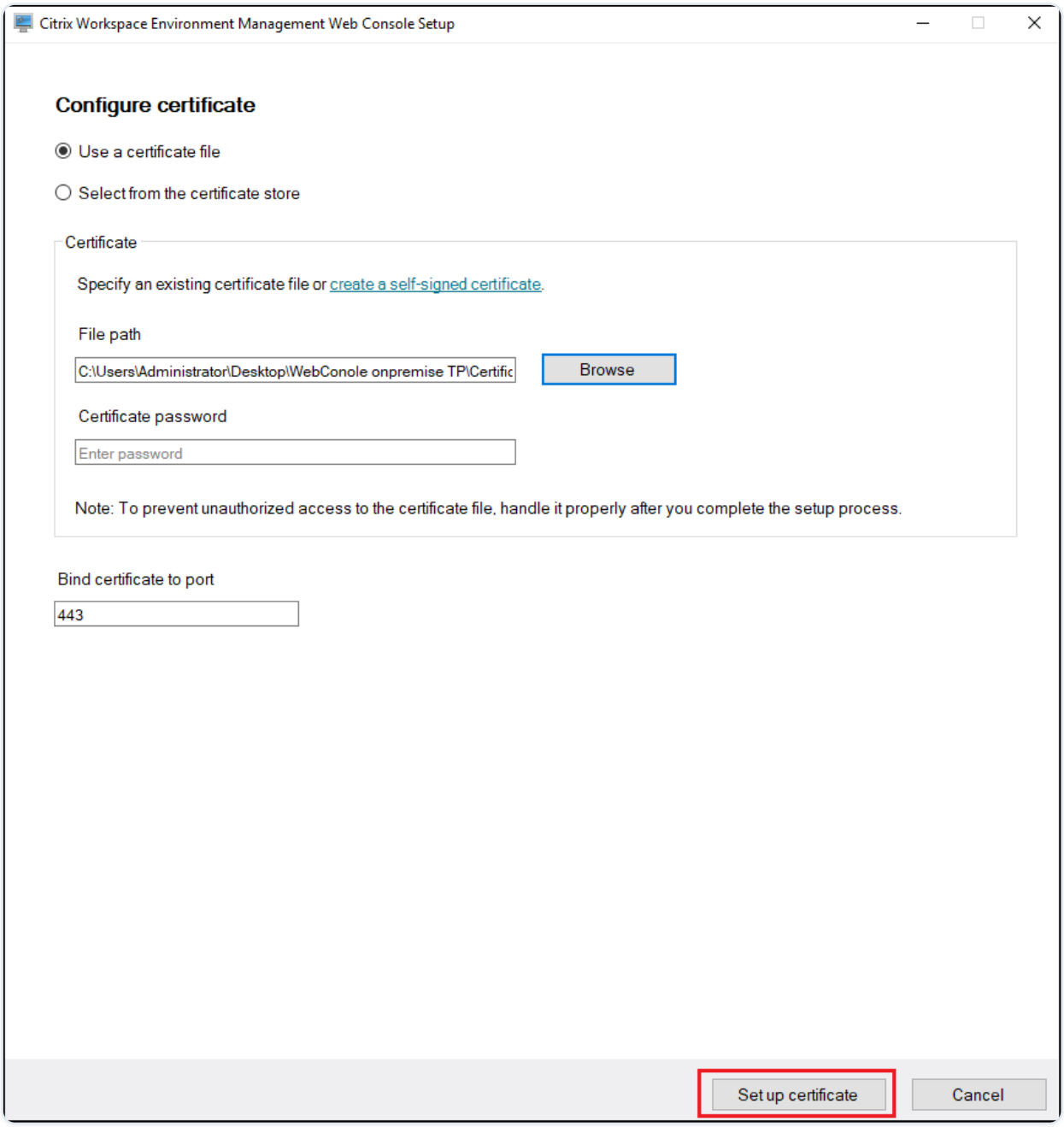
    - 証明書ファイルを使用するには、**参照**をクリックします。



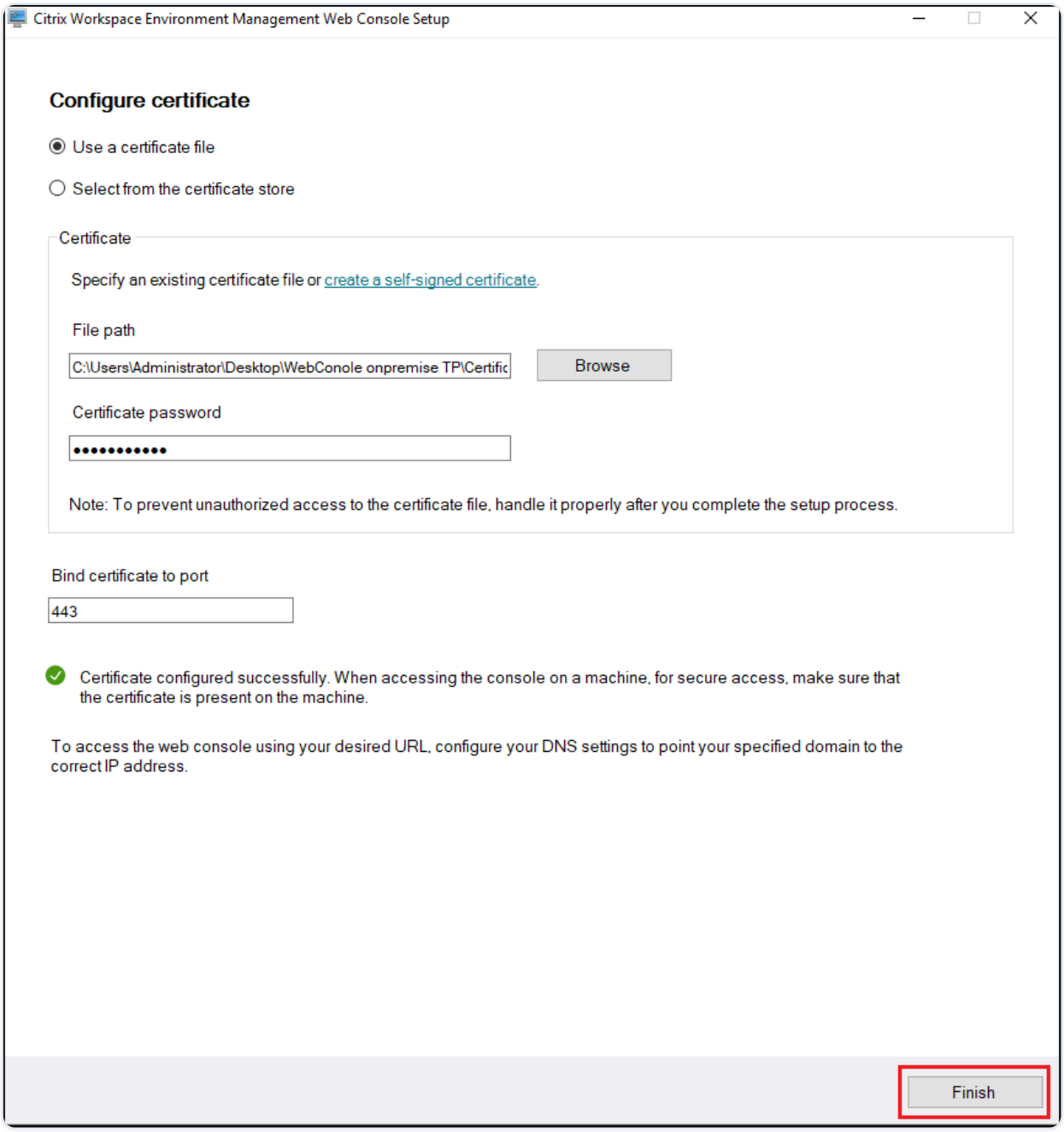
- 自己署名証明書を作成するには、**自己署名証明書を作成**をクリックします。



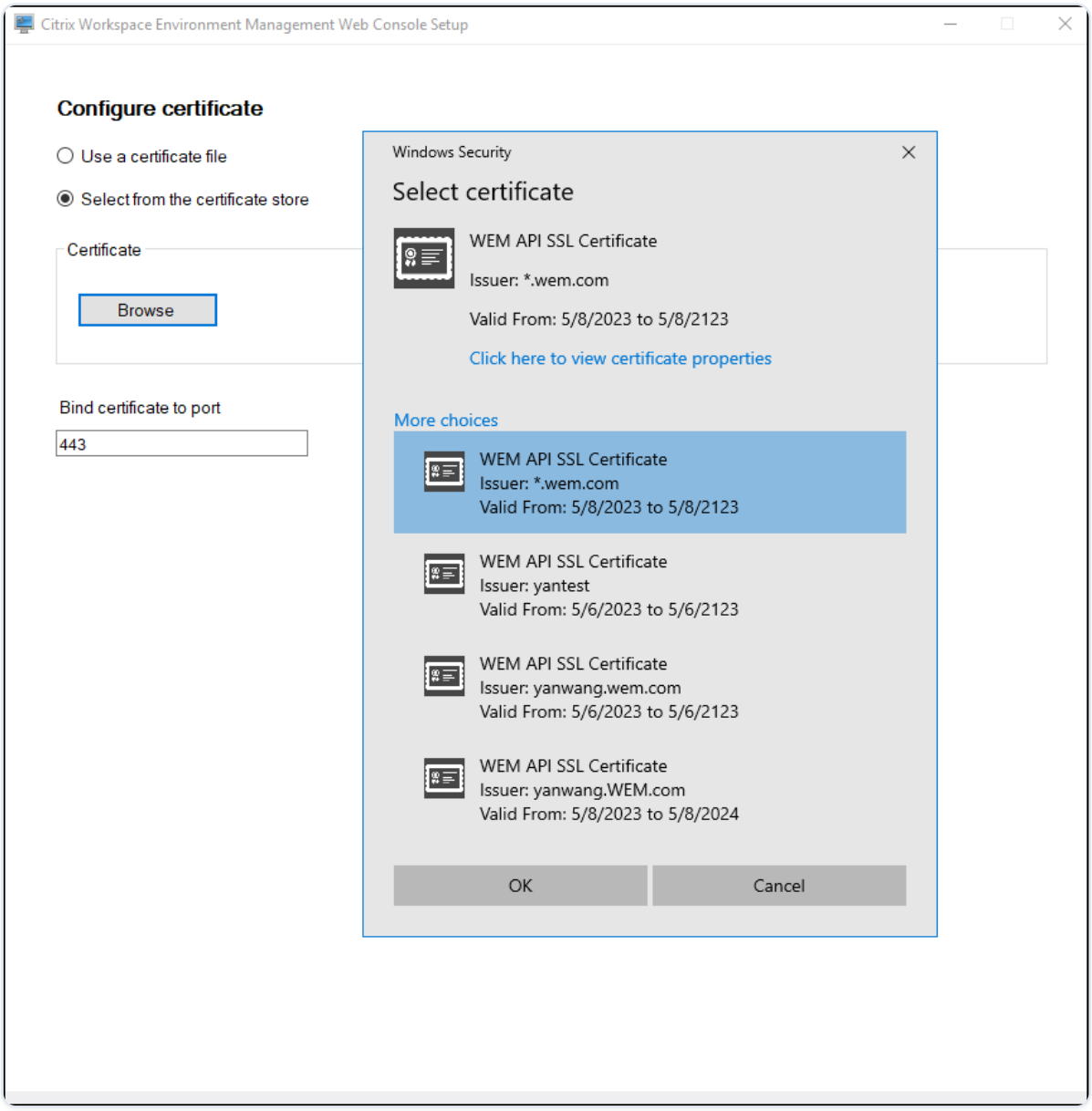
- **証明書を設定**をクリックします。



- 証明書が正常に構成されたら、**完了**をクリックします。



- 証明書ストアから証明書を使用するには、目的の証明書を選択します。



- 「**証明書をセットアップ**」をクリックします。

  「証明書をセットアップ」(/en-us/workspace-environment-management/2308/media/web-console-set-up-certificate-2-from-store.png)

- 証明書の設定が正常に完了したら、「**完了**」をクリックします。

「完了」(/en-us/workspace-environment-management/2308/media/web-console-configure-certificate-2-finish.png)

8. テンプレートベースのGPO、スクリプトタスク、バックアップと復元、およびファイルを使用するには、共有ストレージフォルダーをセットアップする必要があります。

> **注:**

共有フォルダーのアクセス許可を設定するには、次のガイドラインに従ってください。

- 少なくとも1人のユーザーが、アクセス許可の変更または所有権の取得のアクセス許可を除き、共有フォルダーへのフルアクセス権を持っていることを確認してください。
- 共有フォルダーがWebコンソールサービスをホストしているマシンからアクセス可能であることを確認してください。
- 構成されたユーザーがWebコンソールサービスによって偽装されたユーザーと同じである場合、Webコンソールで共有フォルダーを構成する際に資格情報を省略できます。それ以外の場合は、資格情報を指定する必要があります。偽装されたユーザーを使用することが推奨されるアプローチです。 セキュリティを強化し、アクセスを最小限に抑えるため、共有フォルダーへのアクセス許可を持つアカウントの数を可能な限り制限してください。

Webコンソールに移動し、右上隅にあるアカウント名をクリックし、「**ストレージフォルダー**」をクリックして、共有SMBパスを構成します。

エージェント

エージェントのインストールと構成

注:

- Workspace Environment Management™ (WEM) エージェントをインフラストラクチャサーバーにインストールしないでください。
- WEM エージェントと管理コンソールを同じマシンにインストールしないでください。
- 管理コンソールからWEMでCitrix StoreFrontストアに公開されているリソースをアプリケーションショートカットとして割り当てる場合は、管理コンソールとエージェントホストマシンにCitrix Workspace app for Windowsがインストールされていることを確認してください。詳細については、システム要件を参照してください。

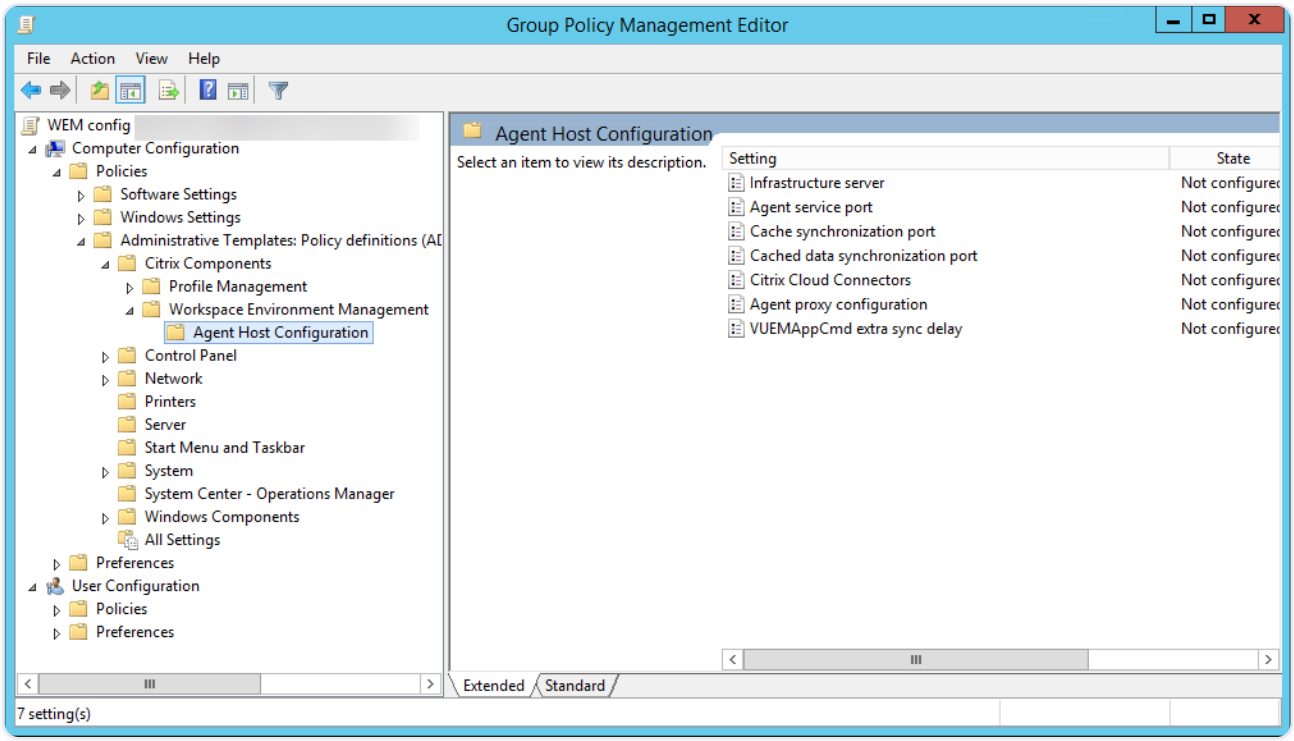
ステップ1: グループポリシーの構成 (オプション)

オプションで、**Agent Group Policies**管理用テンプレートを使用して、エージェントのグループポリシーを構成できます。WEM インストールパッケージにはこのテンプレートが含まれています。テンプレートファイルは、.admxファイルと、言語固有の.admlファイルに分かれています。グループポリシーはドメインコントローラーで構成することをお勧めします。

Agent Host Configurationポリシーを追加するには、次の手順を実行します。

1. WEM インストールパッケージに含まれている**Agent Group Policies**フォルダーをWEM ドメインコントローラーにコピーします。
2. .admxファイルを追加します。
    a. **Agent Group Policies > ADMX**フォルダーに移動します。
    b. 2つのファイル（*Citrix Workspace Environment Management Agent Host Configuration.admx*および*CitrixBase.admx*）をコピーします。
    c. `<C:\Windows>\PolicyDefinitions`フォルダーに移動し、ファイルを貼り付けます。
3. .admlファイルを追加します。
    a. **Agent Group Policies > ADMX > en-US**フォルダーに移動します。
    b. 2つのファイル（*Citrix Workspace Environment Management Agent Host Configuration.adml* および *CitrixBase.adml*）をコピーします。
    c. `<C:\Windows>\PolicyDefinitions\en-US`フォルダーに移動し、ファイルを貼り付けます。

グループポリシー管理エディターを使用して、以下の設定でGPOを構成します。



インフラストラクチャサーバー。WEMインフラストラクチャサーバーのアドレス。インフラストラクチャサービスがインストールされているマシンの名前またはIPアドレスを入力します。

エージェントサービスポート。エージェントがインフラストラクチャサーバーに接続するポート。エージェントサービスポートは、インフラストラクチャサービス構成中にエージェントサービスポートに構成したポートと同じである必要があります。指定しない場合、ポートはデフォルトで8286になります。

キャッシュデータ同期ポート。（Workspace Environment Management 1912以降に適用。Workspace Environment Management 1909以前の*キャッシュ同期ポート*を置き換えます。）エージェントキャッシュ同期プロセスがインフラストラクチャサービスに接続し、エージェントキャッシュをインフラストラクチャサーバーと同期するポート。キャッシュデータ同期ポートは、インフラストラクチャサービス構成中にキャッシュデータ同期ポート（**WEM Infrastructure Service Configuration > Network Settings**）に構成したポートと同じである必要があります。ポートはデフォルトで8288であり、`CachedDataSyncPort`コマンドライン引数に対応します。または、WEMエージェントのサイレントインストールでコマンドラインオプションを使用してポートを指定することもできます。例：

- `citrix_wem_agent_bundle.exe /quiet CachedDataSyncPort=9000`

Citrix Cloud™ Connectors。WEMのオンプレミスバージョンには適用されません。状態を**未構成**のままにします。

エージェントプロキシ構成。WEMのオンプレミスバージョンには適用されません。状態を**未構成**のままにします。

VUEMAppCmd追加同期遅延。エージェントアプリケーションランチャー（VUEMAppCmd.exe）がCitrix Virtual Apps and Desktops公開リソースを開始する前に待機する時間をミリ秒単位で指定します。これにより、必要なエージェント作業が最初に完了することが保証されます。推奨値は100〜200です。デフォルト値は0です。

ステップ2：エージェントをインストールする

> **重要：**

> .NET Frameworkはエージェントのインストール中に自動的にインストールできますが、エージェントをインストールする前に手動でインストールすることをお勧めします。そうしないと、エージェントのインストールを続行するためにマシンを再起動する必要があり、完了までに時間がかかる場合があります。

> ユーザー環境で**Citrix Workspace™ Environment Management Agent**を実行できます。コマンドラインを使用してエージェントをインストールすることもできます。デフォルトでは、エージェントはオペレーティングシステムに応じて、以下のいずれかのフォルダーにインストールされます。

- C:\Program Files (x86)\Citrix\Workspace Environment Management Agent (64ビットOSの場合)
- C:\Program Files\ Citrix\Workspace Environment Management Agent (32ビットOSの場合)

エージェントを対話形式でインストールするには、次の手順を実行します。

1. マシンで **Citrix Workspace Environment Management Agent.exe** を実行します。
2. **I agree to the license terms and conditions** を選択し、**Install** をクリックします。
3. ようこそページで、**Next** をクリックします。

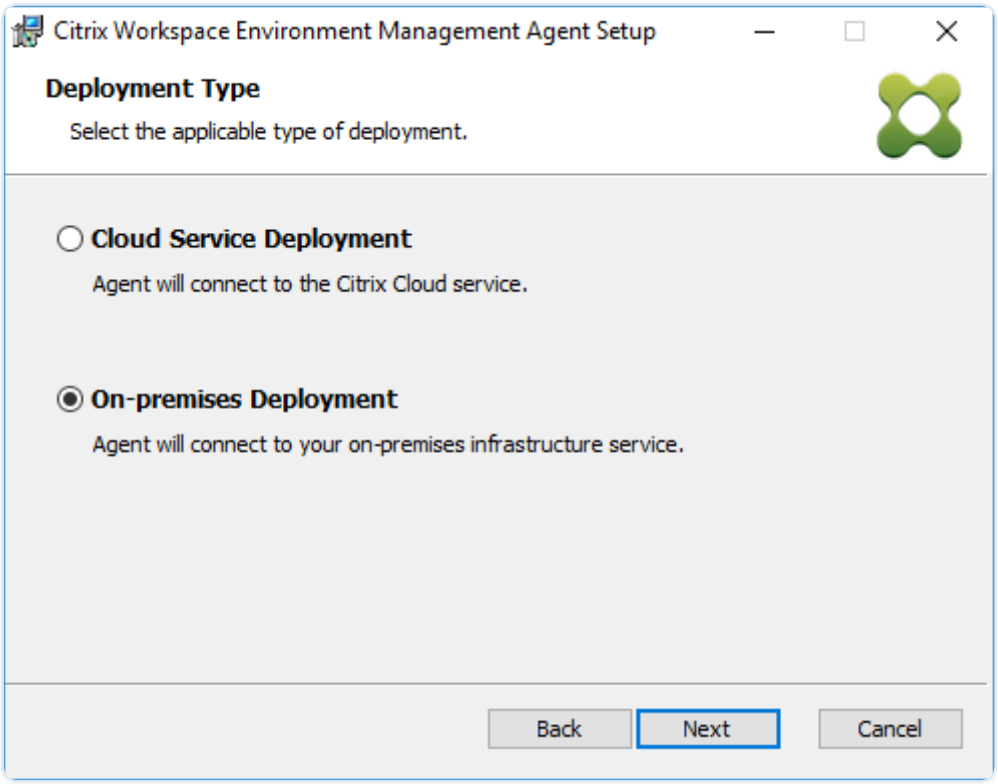
   > **注:**

   > ようこそページが表示されるまでに時間がかかる場合があります。この遅延は、必要なソフトウェアが不足しており、バックグラウンドでインストールされている場合に発生します。

4. 宛先フォルダーページで、**Next** をクリックします。

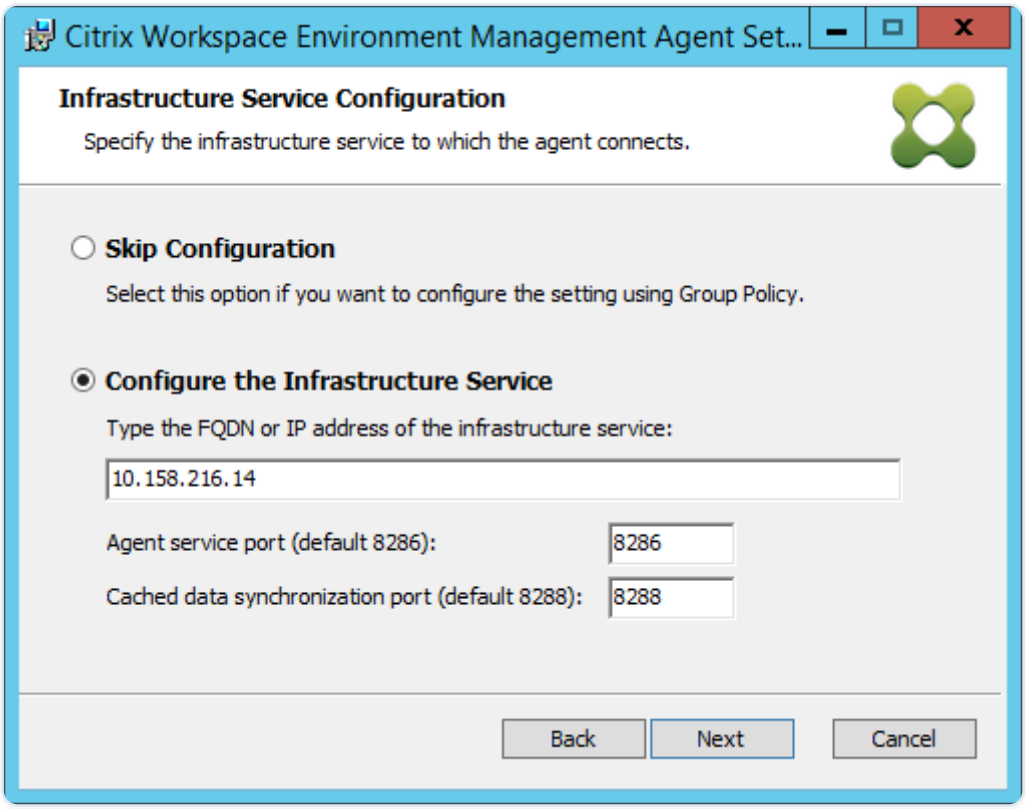
- デフォルトでは、宛先フォルダーフィールドにはデフォルトのフォルダーパスが自動的に入力されます。エージェントを別のフォルダーにインストールする場合は、**Change** をクリックしてフォルダーに移動し、**Next** をクリックします。
- WEMエージェントをすでにインストールしている場合、宛先フォルダーフィールドには既存のインストールフォルダーパスが自動的に入力されます。

5. 展開の種類ページで、該当する展開の種類を選択し、**Next** をクリックします。この場合は、**On-premises Deployment** を選択します。



6. インフラストラクチャサービス構成ページで、エージェントが接続するインフラストラクチャサービスを指定し、**Next** をクリックします。

- **構成をスキップ**。グループポリシーを使用して設定をすでに構成している場合は、このオプションを選択します。
- **インフラストラクチャサービスを構成**。インフラストラクチャサービスのFQDNまたはIPアドレスを入力して、インフラストラクチャサービスを構成できます。
- **エージェントサービスポート**。デフォルトでは、値は8286です。
- **キャッシュデータ同期ポート**。デフォルトでは、値は8288です。



7. 「詳細設定」ページで、エージェントの詳細設定を構成し、「**次へ**」をクリックします。

   - **代替キャッシュの場所 (オプション)**。エージェントキャッシュの代替場所を指定できます。「**参照**」をクリックして、該当するフォルダーに移動します。または、レジストリを介してこれを行うこともできます。そのためには、まずCitrix WEM Agent Host Serviceを停止し、次のレジストリキーを変更します。

     HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Control\Norskale\エージェントホスト

     名前: AgentCacheAlternateLocation

     種類: REG_SZ

     値: 空

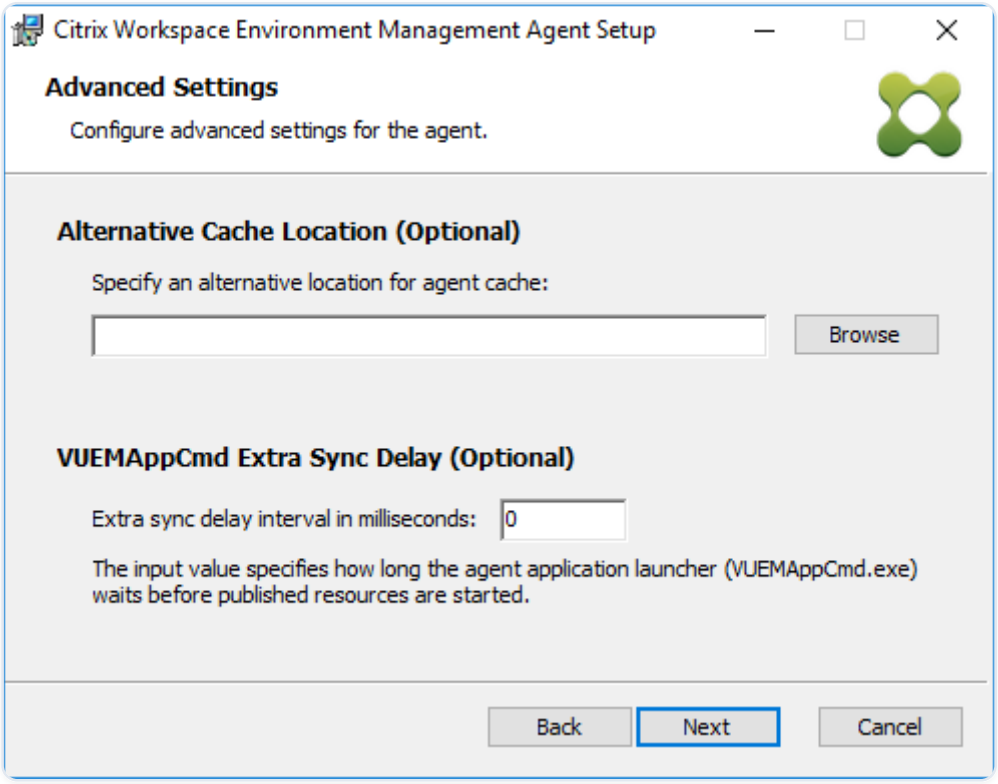
     デフォルトでは、値は空です。デフォルトのフォルダーは次のとおりです: `<WEM agent installation folder path>\Local Databases Set`。必要に応じて、別のフォルダーパスを指定します。変更を有効にするには、Citrix WEM Agent Host Serviceを再起動します。変更が有効になると、次のファイルがフォルダーに表示されます: **LocalAgentCache.db** および **LocalAgentDatabase.db**。

     > **注意:**

> レジストリを誤って編集すると、オペレーティングシステムの再インストールが必要になるような深刻な問題が発生する可能性があります。Citrixは、レジストリエディターの誤った使用によって生じる問題が解決されることを保証できません。レジストリエディターは自己責任で使用してください。編集する前に必ずレジストリをバックアップしてください。

- **VUEMAppCmd追加同期遅延 (オプション)**。公開されたリソースが開始される前に、エージェントアプリケーションランチャー (VUEMAppCmd.exe) が待機する時間を指定できます。この遅延を設定することで、必要なエージェント作業が最初に完了するようにします。デフォルト値は0です。

> **注:**
>
> 追加同期遅延間隔に入力する値は、0以上の整数である必要があります。



8. 「インストールの準備完了」ページで、「**インストール**」をクリックします。
9. 「**完了**」をクリックして、インストールウィザードを終了します。

または、WEMエージェントのサイレントインストールを選択することもできます。そのためには、次のコマンドラインを使用します。

- `"Citrix Workspace Environment Management Agent.exe" /quiet Cloud=0`

> **ヒント:**
>
> - オンプレミスのWEM展開で実行されているエージェントの場合は、`Cloud=0`と入力します。WEMサービス展開で実行されているエージェントの場合は、`Cloud=1`と入力します。
> - エージェントのインストールをトラブルシューティングするために、ログファイルを参照することをお勧めします。デフォルトでは、インストール中に発生するすべてのアクションを記録するログファイルは%TEMP%に作成されます。`/log log.txt`コマンドを使用して、ログファイルを保存する特定の場所を指定します。

> コマンドラインオプションを使用してカスタム引数を指定することもできます。これにより、インストールプロセス中にエージェントとシステム設定をカスタマイズできます。詳細については、「Good to know」を参照してください。

インストール後、エージェントは *Citrix WEM Agent Host Service* (旧 Norskale Agent Host Service) および *Citrix WEM Agent User Logon Service* として実行されます。エージェントは *LocalSystem* アカウントとして実行されます。このアカウントの変更はサポートされていません。このサービスには、**ローカルシステムとしてログオン**する権限が必要です。

ステップ 3: マシンを再起動してインストールを完了する

前提条件と推奨事項

WEM エージェントが適切に機能するように、次の前提条件と推奨事項に注意してください。

前提条件

次の要件が満たされていることを確認してください。

- Windows サービス **System Event Notification Service** が、起動時に自動的に開始するように構成されていること。
- WEM エージェントサービス **Citrix WEM Agent Host Service** および **Citrix WEM User Logon Service** が、起動時に自動的に開始するように構成されていること。

- エージェントキャッシュは、可能な限り永続的な場所に配置してください。非永続的なキャッシュの場所を使用すると、キャッシュ同期の問題、過剰なネットワークデータ使用量、パフォーマンスの問題などが発生する可能性があります。

おすすめ

エージェントの展開を成功させるには、このセクションの推奨事項に従ってください。

- ログオンスクリプトやスタートアップスクリプトなどを使用して、**Citrix WEM Agent Host Service** を手動で操作しないでください。**Citrix WEM Agent Host Service** の停止や再起動などの操作は、Netlogon サービスの動作を停止させ、他のアプリケーションに問題を引き起こす可能性があります。
- UI モードまたは CMD モードのエージェントを起動するためにログオンスクリプトを使用しないでください。そうしないと、一部の機能が動作しなくなる可能性があります。

エージェントの起動動作

- **Citrix WEM Agent Host Service** は、サービス開始後にグループポリシーを通じて構成された Cloud Connector 設定を自動的に再ロードします。
- **Citrix WEM Agent User Logon Service** は、最初のログオン時にエージェントホストサービスが起動しない場合、**Citrix WEM Agent Host Service** を自動的に起動します。この動作により、ユーザー構成が適切に処理されます。
- **Citrix WEM Agent Host Service** は起動時に以下のローカルデータベースファイル（`LocalAgentCache.db` および `LocalAgentDatabase.db`）のチェックを自動的に実行します。仮想マシンがプロビジョニングされ、ローカルデータベースファイルがベースイメージからのものである場合、データベースファイルは自動的にパージされます。
- When **Citrix WEM Agent Host Service** が起動すると、エージェントのローカルキャッシュが最近更新されたかどうかが自動的に検証されます。キャッシュが設定されたキャッシュ同期時間間隔の2倍以上更新されていない場合、キャッシュは直ちに同期されます。たとえば、デフォルトのエージェントキャッシュ同期間隔が30分であるとします。過去60分間にキャッシュが更新されていない場合、**Citrix WEM Agent Host Service** の起動直後に同期されます。
- インストール中に、WEMエージェントインストーラーはWindowsサービス **System Event Notification Service** を自動的に開始するように構成します。
- WEMエージェントのアップグレードが完了すると、WEMエージェントインストーラーはNetlogonサービスを自動的に開始します。

エージェントキャッシュユーティリティのオプション

Citrix WEM Agent Host Service は、設定の更新とキャッシュの同期を自動的に処理します。エージェントキャッシュユーティリティは、設定を直ちに更新し、キャッシュを同期する必要があるシナリオでのみ使用してください。

エージェントのインストールフォルダーで *AgentCacheUtility.exe* を実行するには、コマンドラインを使用します。この実行可能ファイルは、次のコマンドライン引数を受け入れます。

- `-help`: 許可されている引数の一覧を表示します。
- `-RefreshCache` または `-r`: キャッシュの構築または更新をトリガーします。
- `-RefreshSettings` または `-S`: エージェントホストの設定を更新します。
- `-Reinitialize` または `-I`: `-RefreshCache` オプションと組み合わせて使用すると、エージェントキャッシュを再初期化します。

コマンドラインの使用方法の詳細については、次の例を参照してください。

- エージェントホストの設定を更新します。
  - `AgentCacheUtility.exe -RefreshSettings`
- エージェントホストの設定とエージェントキャッシュを同時に更新します。
  - `AgentCacheUtility.exe -RefreshSettings -RefreshCache`
- エージェントキャッシュを再初期化します。
  - `AgentCacheUtility.exe -RefreshCache -Reinitialize`

知っておくと良いこと

エージェント実行可能ファイルは、エージェント設定およびシステム設定のセクションで説明されているように、カスタム引数を受け入れます。

エージェント設定

WEMエージェント設定には以下が含まれます。

- **AgentLocation**。エージェントのインストール場所を指定できます。有効なフォルダパスを指定してください。
- **AgentCacheLocation**。エージェントキャッシュの代替場所を指定できます。設定されている場合、エージェントのローカルキャッシュファイルは、エージェントのインストールフォルダではなく、指定された場所に保存されます。

- **AgentCacheSyncPort**。エージェントキャッシュ同期プロセスがインフラストラクチャサービスに接続して、エージェントキャッシュをインフラストラクチャサーバーと同期するポートを指定できます。
- **AgentServicePort**。エージェントがインフラストラクチャサーバーに接続するポートを指定できます。
- **InfrastructureServer**。インフラストラクチャサービスが実行されているインフラストラクチャサーバーのFQDNまたはIPアドレスを指定できます。
- **VUEMAppCmdDelay**。エージェントアプリケーションランチャー（VUEMAppCmd.exe）がCitrix Virtual Apps and Desktopsの公開リソースが開始されるまでに待機する時間を指定できます。デフォルト値は0（ミリ秒）です。追加の同期遅延間隔として入力する値は、0以上の整数である必要があります。

次の点に注意してください。

- コマンドラインを通じて設定を構成した場合、WEMエージェントインストーラーは構成された設定を使用します。
- コマンドラインを通じて設定を構成せず、以前に構成された設定がある場合、インストーラーは以前に構成された設定を使用します。
- コマンドラインを通じて設定を構成せず、以前に構成された設定がない場合、インストーラーはデフォルト設定を使用します。

システム設定

エージェントホストマシンに関連付けられているシステム設定には、以下が含まれます。

- **GpNetworkStartTimeoutPolicyValue**。インストール中に作成されるGpNetworkStartTimeoutPolicyValue レジストリキーの値を秒単位で構成できます。この引数は、ログオン時のポリシー処理中にグループポリシーがネットワーク可用性通知を待機する時間を指定します。引数は、1（最小）から600（最大）の範囲の任意の整数を受け入れます。デフォルトでは、この値は120です。
- **SyncForegroundPolicy**。エージェントのインストール中に SyncForegroundPolicy レジストリ値を構成できます。このポリシー設定は、グループポリシー処理が同期であるかどうかを決定します。許容される値：0、1。値が設定されていない場合、または値を0に設定した場合、Citrix WEM Agent User Logon Service はログオンを遅延させず、ユーザーグループポリシー設定はバックグラウンドで処理されます。値を1に設定した場合、Citrix WEM Agent User Logon Service はユーザーグループポリシー設定の処理が完了するまでログオンを遅延させます。デフォルトでは、インストール中に値は変更されません。

> **重要：**
>
> グループポリシー設定がバックグラウンドで処理される場合、すべてのポリシー設定が処理される前に Windows Shell (Windows エクスプローラー) が起動する可能性があります。そのため、ユーザーが初めてログオンしたときに一部の設定が有効にならない場合があります。ユーザーが初めてログオンしたときにすべてのポリシー設定を処理したい場合は、値を1に設定します。

- **WaitForNetwork**。インストール中に作成される **WaitForNetwork** レジストリキーの値を秒単位で構成できます。この引数は、エージェントホストがネットワークが完全に初期化され、利用可能になるまで待機する時間を指定します。引数は、0（最小）から300（最大）の範囲の任意の整数を受け入れます。デフォルトでは、この値は30です。

上記の3つのキーは、Windows ログオン画面が表示される前に WEM エージェントサービスが開始されることを保証します。これら3つのキーはすべて、インストール中に **HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\Windows NT\CurrentVersion\Winlogon** の下に作成されます。これらのキーはまた、ユーザー環境がログオン前にインフラストラクチャサーバーアドレス GPO を受信することを保証します。Active Directory またはドメインコントローラーサーバーの応答が遅いネットワーク環境では、ログオン画面が表示される前に追加の処理時間が発生する可能性があります。影響を与えるためには、**GpNetworkStartTimeoutPolicyValue** キーの値を最低30に設定することをお勧めします。

- **ServicesPipeTimeout**。ServicesPipeTimeout レジストリキーの値を構成できます。このキーは、インストール中に **HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Control** の下に作成されます。このレジストリキーは、サービスコントロールマネージャーが WEM エージェントサービスの状態を報告できるようになる前に遅延を追加します。この遅延により、ネットワークが初期化される前にエージェントサービスが起動するのを防ぎ、エージェントの障害を防止します。この引数は、ミリ秒単位の任意の値を指定できます。指定しない場合、デフォルト値の60000（60秒）が使用されます。

> **注:**
>
> コマンドラインを使用して上記の構成設定を行わない場合、WEM エージェントインストーラーはインストール中にそれらを処理しません。

例

次のコマンドライン形式を使用して設定を構成できます。

- `"Citrix Workspace Environment Management Agent.exe" <key=value>`

例:

- WEM エージェントのサイレントインストールまたはアップグレードを選択する
  - `"Citrix Workspace Environment Management Agent.exe" /quiet Cloud=0`
- ユーザーログオンのネットワーク待機時間を60秒に設定する
  - `"Citrix Workspace Environment Management Agent.exe" WaitForNetwork=60`

展開における規模とサイズに関する考慮事項

Workspace Environment Management™ (WEM) は、大規模なエンタープライズ展開向けに設計されています。WEM のサイジングとスケーラビリティを評価する際には、データベースのパフォーマンス、Active Directory のセットアップ、ファイアウォールルールなどを考慮する必要があります。

WEM のスケーラビリティは、エージェントとユーザーの数に基づいています。利用可能なインフラストラクチャサーバーが多いほど、WEM はより多くのエージェントとユーザーをサポートできます。インフラストラクチャサーバーは、さまざまなバックエンドコンポーネント (SQL Server および Active Directory) をフロントエンドコンポーネント (管理コンソールおよびエージェント) と同期します。

インフラストラクチャサーバーが稼働しているマシンが以下の仕様を使用していると仮定します。

- 4 vCPU、8 GB RAM、80 GB の利用可能なディスク容量。

展開に必要なインフラストラクチャサーバーの数を計算するには、次の式を使用できます。この式は、特定の顧客に関連する統計に基づいて開発されています。

- インフラストラクチャサーバーの数 = (エージェントの数/1,000) + (ユーザーの数/3,000)

> **注:**

- NTLM 認証を使用するシナリオでは、Workspace Environment Management 2006 以前で特定のパフォーマンスの問題が確認されています。Kerberos 認証を使用する場合は、これらの問題は確認されていません。
- Workspace Environment Management 2006 以降では、NTLM 認証と Kerberos 認証の間でパフォーマンスの違いは確認されていません。
- WEM 2212 以降、エージェントは必要な場合にのみ構成データをダウンロードします。この機能強化により、帯域幅の消費とインフラストラクチャサービスへの負荷を最大 50% 削減できます。「新機能」を参照してください。このメリットを享受するために、エージェントを 2212 以降にアップグレードすることをお勧めします。

デプロイをアップグレードする

はじめに

> 注:

> WEM 2212以降、エージェントは必要な場合にのみ構成データをダウンロードします。この機能強化により、帯域幅の消費とインフラストラクチャサービスへの負荷を最大50%削減できます。詳細については、「新機能」(/ja-jp/workspace-environment-management/2308/whats-new.html)を参照してください。このメリットを享受するには、エージェントを2212以降にアップグレードすることをお勧めします。

> 新しいマシンやサイトを最初にセットアップすることなく、Workspace Environment Management™ (WEM) の展開を新しいバージョンにアップグレードできます。これはインプレースアップグレードと呼ばれます。

Workspace Environment Management 4.7より前のバージョンからバージョン1808以降へのインプレースアップグレードはサポートされていません。それらの以前のバージョンからアップグレードするには、まずバージョン4.7にアップグレードしてから、ターゲットバージョンにアップグレードする必要があります。詳細については、次の表を参照してください。

元	宛先	インプレースアップグレードがサポートされています
4.6以前	4.7	はい
4.6以前	1808以降	いいえ（ターゲットバージョンにアップグレードする前にバージョン4.7にアップグレードしてください）
4.7	1808以降	はい

> **注:**

- WEMデータベース、インフラストラクチャサービス、および管理コンソールはすべて同じバージョンである必要があります。
- 2006より前のWEM展開を2209以降にアップグレードする予定がある場合は、次の点に注意してください。データベースのアップグレードの失敗を避けるため、まず2103にアップグレードしてから、2209以降にアップグレードしてください。

Workspace Environment Managementコンポーネントは、次の順序でアップグレードする必要があります。

1. インフラストラクチャサービス
2. データベース
3. インフラストラクチャサービスの再構成
4. 管理コンソール
5. エージェント

ステップ1：インフラストラクチャサービスをアップグレードする

Workspace Environment Management インフラストラクチャサービスをアップグレードするには、インフラストラクチャサーバーで新しい Workspace Environment Management インフラストラクチャサービスのセットアップを実行します。アップグレード手順は、それ以外はインストール手順と同じです。

インフラストラクチャサーバーのオペレーティングシステムをアップグレードする

インフラストラクチャサーバーのオペレーティングシステムをアップグレードするには、まず新しいオペレーティングシステムを搭載した別のマシンにインフラストラクチャサービスをインストールし、同じインフラストラクチャサービス設定で手動で構成してから、「古い」インフラストラクチャサーバーを切断します。

注:

Windows Server 2022 にアップグレードした後、WEM インフラストラクチャサービスが応答しなくなることがあります。回避策として、インフラストラクチャサービスを再インストールし、WEM データベースに接続するように構成してください。

ステップ2：データベースをアップグレードする

重要：

データベースのアップグレードプロセスは元に戻せません。アップグレードプロセスを開始する前に、有効なデータベースバックアップがあることを確認してください。

ヒント:

Workspace Environment Management PowerShell SDK モジュールを使用してデータベースをアップグレードすることもできます。SDK のドキュメントについては、Citrix Developer Documentation を参照してください。

WEM Database Management Utility を使用してデータベースを更新します。これは、インフラストラクチャサービスのインストールプロセス中に Workspace Environment Management インフラストラクチャサーバーにインストールされます。

注:

SQL Server に Windows 認証を使用している場合は、sysadmin 権限を持つ ID でデータベースアップグレードユーティリティを実行してください。

1. 「**スタート**」メニューから、「**Citrix®>Workspace Environment Management > WEM Database Management Utility**」を選択します。
2. 「**Upgrade Database**」をクリックします。
3. データベースアップグレードウィザードで、必要な情報を入力します。

   データベースアップグレードウィザード(/en-us/workspace-environment-management/2308/media/wem-database-upgrade.png)

- **サーバーとインスタンス名**。データベースがホストされているSQL Server\\インスタンスのアドレス。インフラストラクチャサーバーから入力どおりに到達可能である必要があります。
- **データベース名**。アップグレードするデータベースの名前。
- **インフラストラクチャサービスはWindows認証を使用します**。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。この場合、インフラストラクチャサービスはvuemUser SQLユーザーアカウントを使用してデータベースに接続します。（vuemUser SQLユーザーアカウントはインストールプロセス中に作成されます。）SQLインスタンスで混合モード認証が有効になっていることを確認してください。

  選択すると、インフラストラクチャサービスはWindowsアカウントを使用してデータベースに接続します。この場合、選択したWindowsアカウントは、SQLインスタンスにすでにログインがあってはなりません。つまり、データベースの作成に使用したWindowsアカウントと同じアカウントをインフラストラクチャサービスの実行に使用しないでください。

  gMSAを選択するには、ADユーザーを選択する場合と同じ手順に従います。gMSAがデータベースの**db-owner**ロールメンバーシップを持っていることを確認してください。
- **統合接続を使用する**。デフォルトでは、このオプションが選択されています。このオプションを使用すると、ウィザードは、ウィザードが実行されているIDのWindowsアカウントを使用してSQL Serverに接続し、データベースを作成できます。このWindowsアカウントにデータベースを作成する十分な権限がない場合は、十分な権限を持つWindowsアカウントとしてデータベース管理ユーティリティを実行するか、このオプションをクリアして、代わりに十分な権限を持つSQLアカウントを入力してください。

4. 「**Upgrade**」をクリックして、データベースアップグレードプロセスを開始します。データベースのアップグレードが正常に完了したら、ウィザードを終了します。

データベースのアップグレード中にエラーが発生した場合は、Workspace Environment Managementインフラストラクチャサービスのインストールフォルダーにある**VUEM Database Management Utility Log**ファイルを確認してください。

ステップ3：インフラストラクチャサービスを再構成する

WEM Infrastructure Service Configurationユーティリティを使用して、インフラストラクチャサービスを再構成します。「インフラストラクチャサービスを構成する」を参照してください。

ステップ4：管理コンソールをアップグレードする

Administration Console で構成されたすべての Workspace Environment Management 設定はデータベースに保存され、アップグレード中も保持されます。

管理コンソールをアップグレードするには、管理コンソールのセットアップ実行可能ファイルを実行します。その他の手順はインストール手順と同じです。

ステップ 5: エージェントのアップグレード

重要：

- エージェントをアップグレードする前に、ユーザーがログインしていないことを確認してください。これにより、アップグレードプロセスがそのマシンのファイルを変更できるようになります。
- WEM インフラストラクチャサービスのバージョンは、WEM エージェントのバージョン以上である必要があります。Citrix は、最新の機能を使用できるように、エージェントを最新バージョンにアップグレードすることを推奨します。

エージェントをアップグレードするには、ターゲットマシンで新しいエージェントのセットアップ実行可能ファイルを実行します。

ユーザーエクスペリエンス

管理コンソールの起動

1. 「**スタート**」メニューから「**Citrix \> Workspace Environment Management \> WEM Administration Console**」を選択します。デフォルトでは、管理コンソールは切断された状態で起動します。
2. 管理コンソールのリボンで「**接続**」をクリックします。
3. 「新しいインフラストラクチャサーバー接続」ウィンドウで、インフラストラクチャサーバーのアドレスを入力し、「**接続**」をクリックします。

インストールの構成

管理コンソールで：

1. 左下のペインでメニュー項目をクリックすると、そのサブセクションが上のペインに表示されます。
2. サブセクション項目をクリックすると、メインウィンドウ領域に適切なコンテンツが入力されます。
3. 必要に応じて構成を変更します。使用できる設定の詳細については、「ユーザーインターフェイスのリファレンス」を参照してください。

ユーザーインターフェイスのリファレンス

特定のタスクを実行するには、次の記事を使用します。

- リボン
- アクション
- フィルター
- 割り当て
- システム最適化
- ポリシーとプロファイル
- セキュリティ
- Active Directory オブジェクト
- Transformer 設定
- 詳細設定
- 管理
- 監視
- バックアップと復元

リボン

ホームタブ

「**ホーム**」タブには、次のコントロールが含まれています。

接続。管理コンソールを指定されたインフラストラクチャサーバーに接続します。「**新しいインフラストラクチャサーバー接続**」ダイアログで、以下を指定します。

- **インフラストラクチャサーバー名**。接続するインフラストラクチャサーバーの名前。
- **管理ポート**。インフラストラクチャサービスに接続するポート。デフォルト値の8284が事前に入力されています。

切断。管理コンソールを現在のインフラストラクチャサービスから切断します。これにより、管理者は1つのインフラストラクチャサービスから切断し、別のサービスに接続することで、単一のコンソールから複数のインフラストラクチャサービスを管理できます。

構成セット。あるWorkspace Environment Management™ (WEM) サイト（構成セット）から別のサイトに切り替えます。

作成。「構成セットの作成」ウィンドウを開きます。複数のWEMサイト（構成セット）を構成できます。

- **名前**。リボンの構成セットリストに表示されるサイト（構成セット）の名前。
- **説明**。サイト編集ウィンドウに表示されるサイト（構成セット）の説明。
- **サイトの状態**。サイト（構成セット）が有効か無効かを切り替えます。無効の場合、WEMエージェントはサイト（構成セット）に接続できません。

編集。「構成セットの編集」ウィンドウを開きます。これは「構成セットの作成」ウィンドウと同様のオプションがあります。

削除。サイト（構成セット）を削除します。「Default site」はWEMが機能するために必要であるため、削除できません。ただし、名前を変更することはできます。

更新。サイト（構成セット）リストを更新します。

> **注:**
>
> 異なる管理コンソールからサイトが作成された場合、リストは自動的に更新されません。

> **バックアップ**。**バックアップ**ウィザードを開き、現在の構成のバックアップコピーをWEM管理コンソールマシンに保存します。アクション、設定、セキュリティ設定、およびActive Directory (AD) オブジェクトをバックアップできます。

- **アクション**。選択したWEM アクションをバックアップします。各タイプのアクションは個別のXMLファイルとしてエクスポートされます。
- **設定**。選択したWEM設定をバックアップします。各タイプの設定は個別のXMLファイルとしてエクスポートされます。
- **セキュリティ設定**。セキュリティタブに表示されているすべての設定をバックアップします。各タイプのルールは個別のXMLファイルとしてエクスポートされます。構成セットに関連付けられている次の項目をバックアップできます。

- **AppLockerルール設定**
- **特権昇格設定**

- **ADオブジェクト**。WEMが管理するユーザー、コンピューター、グループ、および組織単位をバックアップします。**バックアップ**ウィザードでは、バックアップするADオブジェクトのタイプを指定できます。ADオブジェクトには2つのタイプがあります。
  - ユーザー。単一ユーザーおよびユーザーグループ
  - マシン。単一マシン、マシングループ、およびOU
- **構成セット**。選択したWEM構成セットをバックアップします。各タイプの構成セットは個別のXMLファイルとしてエクスポートされます。現在の構成セットのみをバックアップできます。構成セットに関連付けられている次の項目をバックアップできます。
  - アクション
  - AppLocker
  - 割り当て（アクションおよびアクショングループに関連）
  - フィルター
  - ユーザー
  - 設定（WEM設定）

  次のものはバックアップできません。
  - マシンに関連するADオブジェクト (単一のマシン、マシン グループ、OU)
  - 監視データ (統計とレポート)
  - 構成セットに登録されているエージェント

Restore。**Restore**ウィザードを開き、以前にバックアップされたWEMサービス構成のバージョンに戻します。プロンプトが表示されたら、バックアップコピー (.XMLファイル) が含まれている該当するフォルダーを選択します。

- **セキュリティ設定**。 セキュリティタブに存在するすべての設定を復元します。バックアップファイル内の設定は、現在の構成セットの既存の設定を*置き換えます*。**セキュリティ**タブに切り替えるか、更新すると、無効なアプリケーションセキュリティルールが検出されます。これらのルールは自動的に削除されます。削除されたルールは、必要に応じてエクスポートできるレポートに一覧表示されます。**Restore**ウィザードでは、復元するものを選択できます。
  - **AppLockerルール設定**
  - **特権昇格設定**

    - **既存の設定を上書き**。競合がある場合に、既存の特権昇格設定を上書きするかどうかを制御します。

  アプリケーションセキュリティルール割り当ての確認ダイアログで、**はい**または**いいえ**を選択して、**Restore**ウィザードでアプリケーションセキュリティルールの割り当てをどのように処理するかを示します。

    - **はい**を選択した場合、復元は、現在のサイトのユーザーおよびユーザーグループへのルール割り当てを復元しようとします。再割り当ては、バックアップされたユーザーまたはグループが現在のサイトまたはADに存在する場合にのみ成功します。一致しないルールは復元されますが、割り当てられていないままであり、CSV形式でエクスポートできるレポートダイアログに一覧表示されます。
    - **いいえ**を選択した場合、バックアップ内のすべてのルールは、サイトのユーザーおよびユーザーグループに割り当てられることなく復元されます。

- **ADオブジェクト**。バックアップされたADオブジェクトを既存のサイトに復元します。**Restore**ウィザードでは、インポートするADオブジェクトをきめ細かく制御できます。**復元するADオブジェクトを選択**ページで、復元するADオブジェクトと、既存のWEM ADオブジェクトを上書き (置き換え) するかどうかを指定できます。
- **構成セット**。バックアップされた構成セットをWEMに復元します。一度に1つの構成セットのみを復元できます。WEM管理コンソールに復元された構成セットが反映されるまでに時間がかかる場合があります。復元された構成セットを表示するには、リボンの構成セットメニューから選択します。構成セットを復元するとき、同じ名前の構成セットがすでに存在する場合、WEMは自動的にその名前を`<configuration set name>_1`に変更します。

注:

- 復元されたアクションは、既存のサイトアクションに*追加されます*。
- 復元された設定は、既存のサイト設定を*置き換えます*。
- 復元されたADオブジェクトは、復元ウィザードのADオブジェクトページで**上書きモード**を選択したかどうかに応じて、既存のサイトADオブジェクトに*追加*されるか、既存のサイトADオブジェクトを*置き換えます*。
- **上書きモード**を選択した場合、復元プロセスが開始される前に既存のADオブジェクトはすべて削除されます。

移行。**移行**ウィザードを開き、Group Policy Objects (GPO) のzipバックアップをWEMに移行します。

重要：

- **移行**ウィザードは、WEMがサポートする設定 (GPO) のみを移行します。
- 移行プロセスを開始する前に、既存の設定をバックアップすることをお勧めします。

GPOをバックアップするには、次の手順を実行することをお勧めします。

1. グループポリシー管理コンソールを開きます。
2. **グループポリシー管理**ウィンドウで、バックアップするGPOを右クリックし、**バックアップ**を選択します。
3. **グループポリシーオブジェクトのバックアップ**ウィンドウで、バックアップを保存する場所を指定します。必要に応じて、バックアップに説明を付けることができます。
4. **バックアップ**をクリックしてバックアップを開始し、**OK**をクリックします。
5. バックアップフォルダに移動し、それをzipファイルに圧縮します。

注:

WEMは、複数のGPOバックアップフォルダを含むzipファイルの移行もサポートしています。

GPOのバックアップが正常に完了したら、**移行**をクリックしてGPOをWEMに移行します。**移行するファイル**ページで、**参照**をクリックし、該当するファイルに移動します。

- **上書き**。競合がある場合に既存のWEM設定 (GPO) を上書きします。
- **変換**。GPOをWEMへのインポートに適したXMLファイルに変換します。インポートする設定を詳細に制御したい場合は、このオプションを選択します。変換が正常に完了したら、**復元**ウィザードを使用してXMLファイルを手動でインポートします。

  注:

> 出力フォルダーに名前を付けることはできますが、保存されるファイルの名前を指定することはできません。

バージョン情報タブ

バージョン情報タブには、次のコントロールが含まれています。

ライセンスサーバーの構成。Citrixライセンスサーバーのアドレスを指定できます。これがないと、管理コンソールで設定を変更できません。または、インフラストラクチャサービス構成ユーティリティの**ライセンス**タブを使用して、これらの資格情報を指定することもできます。Citrixライセンスサーバーの情報は、どちらの場合もデータベースの同じ場所に格納されます。

ヘルプの表示。WebブラウザーウィンドウでCitrix製品ドキュメントWebサイトを開きます。

オプション。**管理コンソールオプション**ダイアログを開きます。これらのオプションは、管理コンソールのこのローカルインスタンスに固有のものです。

- **管理者の自動ログオン**。有効にすると、管理コンソールは起動時に最後に接続したインフラストラクチャサービスに自動的に接続します。
- **デバッグモードを有効にする**。管理コンソールの詳細ログを有効にします。ログは、現在のユーザーの「Users」フォルダーのルートに作成されます。
- **コンソールスキン**。管理コンソールのみのさまざまなスキンから選択できます。
- **ポート番号**。管理コンソールがインフラストラクチャサービスに接続するポートをカスタマイズできます。このポートは、インフラストラクチャサービス構成で構成されているポートと一致する必要があります。

バージョン情報。管理コンソールの現在のバージョンとライセンス（ライセンスの種類、登録、数）、および法的情報を表示します。

アクション

Workspace Environment Management™ は、使いやすいアクションを提供することで、ワークスペース構成プロセスを効率化します。アクションには、アプリケーション、プリンター、ネットワークドライブ、外部タスクなどの管理が含まれます。割り当てを使用して、アクションをユーザーが利用できるようにすることができます。Workspace Environment Managementは、割り当てをコンテキスト化するためのフィルターも提供します。

- アクションには、以下の管理が含まれます。

    - アクショングループ(/ja-jp/workspace-environment-management/2308/user-interface-description/actions/action-groups.html)
    - グループポリシー設定(/ja-jp/workspace-environment-management/2308/user-interface-description/actions/group-policy-settings.html)
    - アプリケーション
    - プリンター(/ja-jp/workspace-environment-management/2308/user-interface-description/actions/printers.html)
    - ネットワークドライブ(/ja-jp/workspace-environment-management/2308/user-interface-description/actions/network-drives.html)
    - 仮想ドライブ(/ja-jp/workspace-environment-management/2308/user-interface-description/actions/virtual-drives.html)
    - レジストリエントリ(/ja-jp/workspace-environment-management/2308/user-interface-description/actions/registry-entries.html)
    - 環境変数(/ja-jp/workspace-environment-management/2308/user-interface-description/actions/environment-variables.html)
    - ポート(/ja-jp/workspace-environment-management/2308/user-interface-description/actions/ports.html)
    - Iniファイル(/ja-jp/workspace-environment-management/2308/user-interface-description/actions/ini-files.html)
    - 外部タスク(/ja-jp/workspace-environment-management/2308/user-interface-description/actions/external-tasks.html)
    - ファイルシステム操作(/ja-jp/workspace-environment-management/2308/user-interface-description/actions/file-system-operations.html)
    - ユーザーDSN(/ja-jp/workspace-environment-management/2308/user-interface-description/actions/user-dsn.html)
    - ファイル関連付け(/ja-jp/workspace-environment-management/2308/user-interface-description/actions/file-associations.html)
- フィルター
- 割り当て

アクション グループ

アクション グループ機能を使用すると、まずアクションのグループを定義し、次にアクション グループ内の定義済みアクションすべてを、単一の手順でユーザーまたはユーザー グループに割り当てることができます。この機能を使用すると、**アクション**ペインに表示される各アクションを1つずつ割り当てる必要がなくなります。その結果、複数のアクションを1つの手順で割り当てることができます。

> **ヒント:**
>
> 動的トークンを使用して、Workspace Environment Managementアクションを拡張し、より強力にすることができます。

アクション グループ リスト

アクション グループ

既存のアクション グループのリストが表示されます。**検索**を使用して、名前、表示名、または説明でリストをフィルタリングします。

アクション

> **重要：**
>
> - アクション グループには、各アクション カテゴリ（アプリケーション、プリンター、ネットワーク ドライブなど）にすでに存在するアクションのみが含まれます。たとえば、**アプリケーション リスト**タブでアプリケーションを追加していない限り、**アクション グループ リスト**タブのアクション グループには、**アプリケーション**の下に割り当て可能なアプリケーションは表示されません。
> - 割り当てられたアクション グループ内のアクションのオプションを構成した場合（**アクション グループ リスト > 名前 > 構成済み**）、構成されたオプションは、そのアクション グループが割り当てられているユーザーには影響しません。

アクションセクションには、利用可能なアクションが表示されます。次の操作を実行できます。

- **追加**。ユーザーまたはユーザー グループに割り当てるすべてのアクションを含むアクション グループを作成できます。
- **編集**。既存のアクション グループを編集できます。
- **コピー**。既存のアクション グループからアクション グループを複製できます。
- **削除**。既存のアクション グループを削除できます。

アクション グループを作成するには、以下の手順に従います。

1. **管理コンソール > アクション > アクション グループ > アクション グループ リスト**タブで、**追加**をクリックします。
2. 「**新しいアクション グループ**」ウィンドウで、必要な情報を入力し、ドロップダウンから該当するオプションを選択して、「**OK**」をクリックします。

アクション グループを編集するには、リストから該当するグループを選択し、「**編集**」をクリックします。

アクション グループを複製するには、複製するグループを選択し、「**コピー**」をクリックします。「**コピー**」をクリックすると、複製が自動的に作成されます。複製は元の名前を継承し、「-Copy」というサフィックスが付きます。名前を変更するには、「**編集**」をクリックします。

> **注:**
>
> アクション グループを複製する場合、「**割り当てプロセスでのドライブ文字の再利用を許可する**」オプションが有効になっていない限り、ネットワークおよび仮想ドライブに関連付けられているアクション (存在する場合) は複製されません。このオプションを有効にするには、「**詳細設定 > 構成 > コンソール設定**」タブに移動します。

> アクション グループを削除するには、リストから該当するグループを選択し、「**削除**」をクリックします。

> **注:**
>
> 既に割り当てられているアクション グループを削除または編集すると、行った変更は、そのグループが割り当てられているすべてのユーザーに影響します。

フィールドとコントロール

名前。アクション グループ リストに表示されるアクション グループの表示名。

説明。アクション グループに関する追加情報を指定できます。

アクション グループの状態。アクション グループを有効状態と無効状態の間で切り替えます。無効にすると、そのアクション グループをユーザーまたはユーザー グループに割り当てた場合でも、エージェントはアクション グループに含まれるアクションを処理しません。

構成

割り当てたい、または構成済みの特定のアクションを検索できます。検索機能を使用して、名前、表示名、または説明でオプションをフィルタリングします。

利用可能。これらは、作成したアクション グループに追加できるアクションです。

プラス記号をクリックして、特定のアクション カテゴリの下にあるアクションを展開します。アクションをダブルクリックするか、矢印ボタンをクリックして割り当てまたは割り当て解除を行います。

> **注:**
>
> - 既にユーザーに割り当てられているアクション グループにアクションを追加すると、そのアクションは自動的にそれらのユーザーに割り当てられます。
> - 既にユーザーに割り当てられているアクション グループからアクションを削除すると、そのアクションは自動的にそれらのユーザーから割り当て解除されます。

> **構成済み**。これらは、作成したアクション グループにすでに割り当てられているアクションです。個々のアクションを展開して構成できます。また、各特定のアクションのオプションを構成することもできます。たとえば、アプリケーションのショートカットの場所、デフォルトのプリンター、ドライブ文字などです。

割り当て

> **重要：**

アクション割り当てタブのペインで、割り当てられたアクション グループ内のアクションのオプションを構成すると、構成されたオプションは、そのアクション グループが割り当てられているユーザーに自動的に影響します。

アクション > アクション グループ > アクション グループ リストタブでアクション グループのアクションの構成を完了したら、構成済みのアクションを該当するユーザーまたはユーザー グループに割り当てることができます。これを行うには、**割り当て > アクション割り当て > アクション割り当て**タブに移動します。そのタブで、ユーザーまたはユーザー グループをダブルクリックすると、作成したアクション グループを含む**利用可能**ペインのノードが表示されます。ノードの横にあるプラス記号をクリックすると、作成したアクション グループを表示できます。アクション グループをダブルクリックするか、矢印ボタンをクリックして割り当てまたは割り当て解除を行います。アクションを割り当てると、そのアクションをコンテキスト化するために使用するルールを選択するよう求められます。

割り当ての仕組みの詳細については、「割り当て」を参照してください。

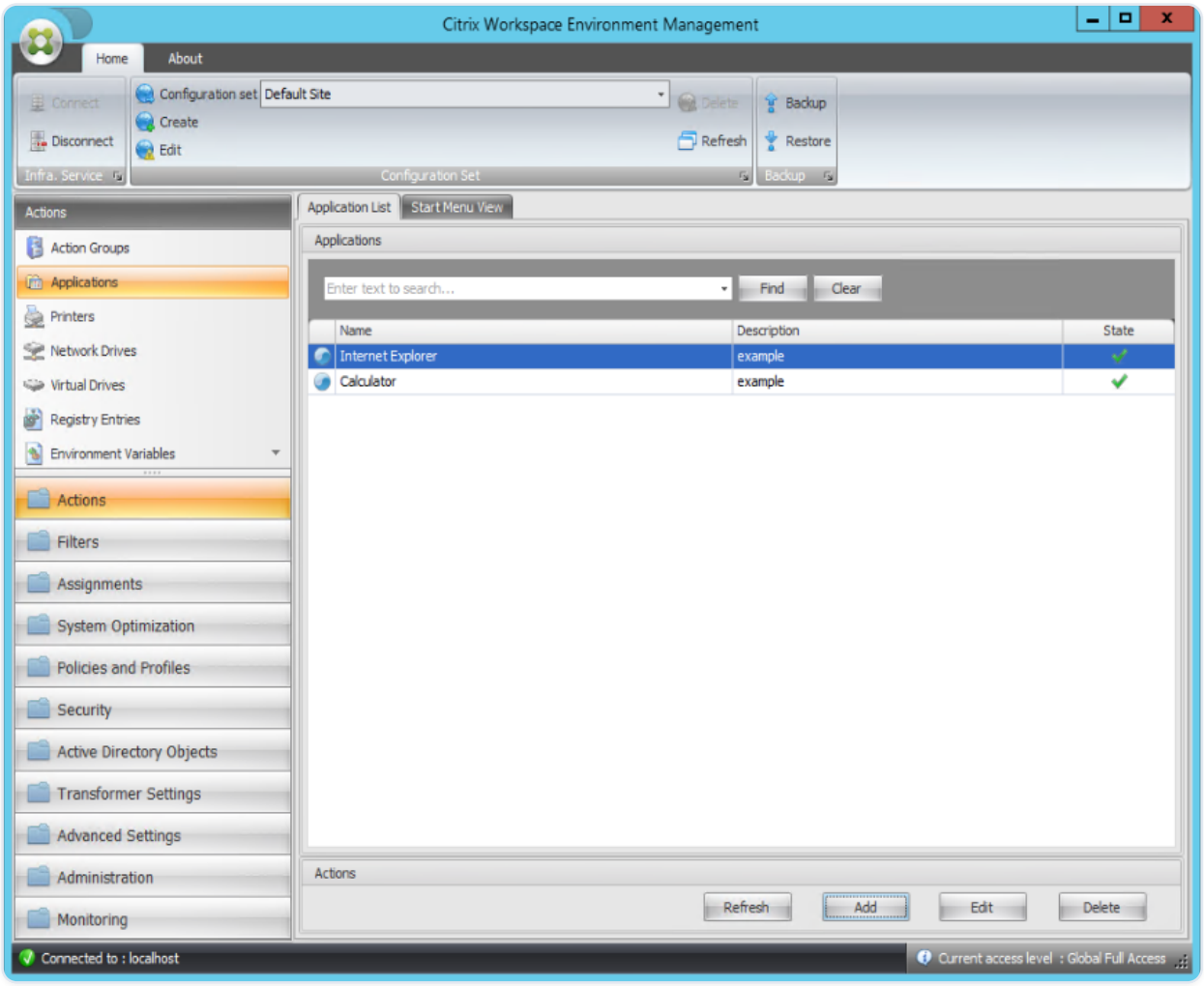
アクション グループを割り当てる際には、注意すべきいくつかのシナリオがあります。

- アクション グループを割り当てると、それに含まれるすべてのアクションが割り当てられます。
- 1つ以上のアクションが異なるアクション グループで重複する場合があります。重複するアクション グループの場合、最後に処理されたグループが、以前に処理されたグループを上書きします。
- アクション グループ内のアクションが処理された後、別のアクション グループ内のアクションと重複するアクションを割り当てることを検討してください。この場合、割り当て解除されたアクションは以前に処理されたアクションを上書きし、その結果、後で処理されたアクションは割り当て解除されます。その他のアクションは変更されません。

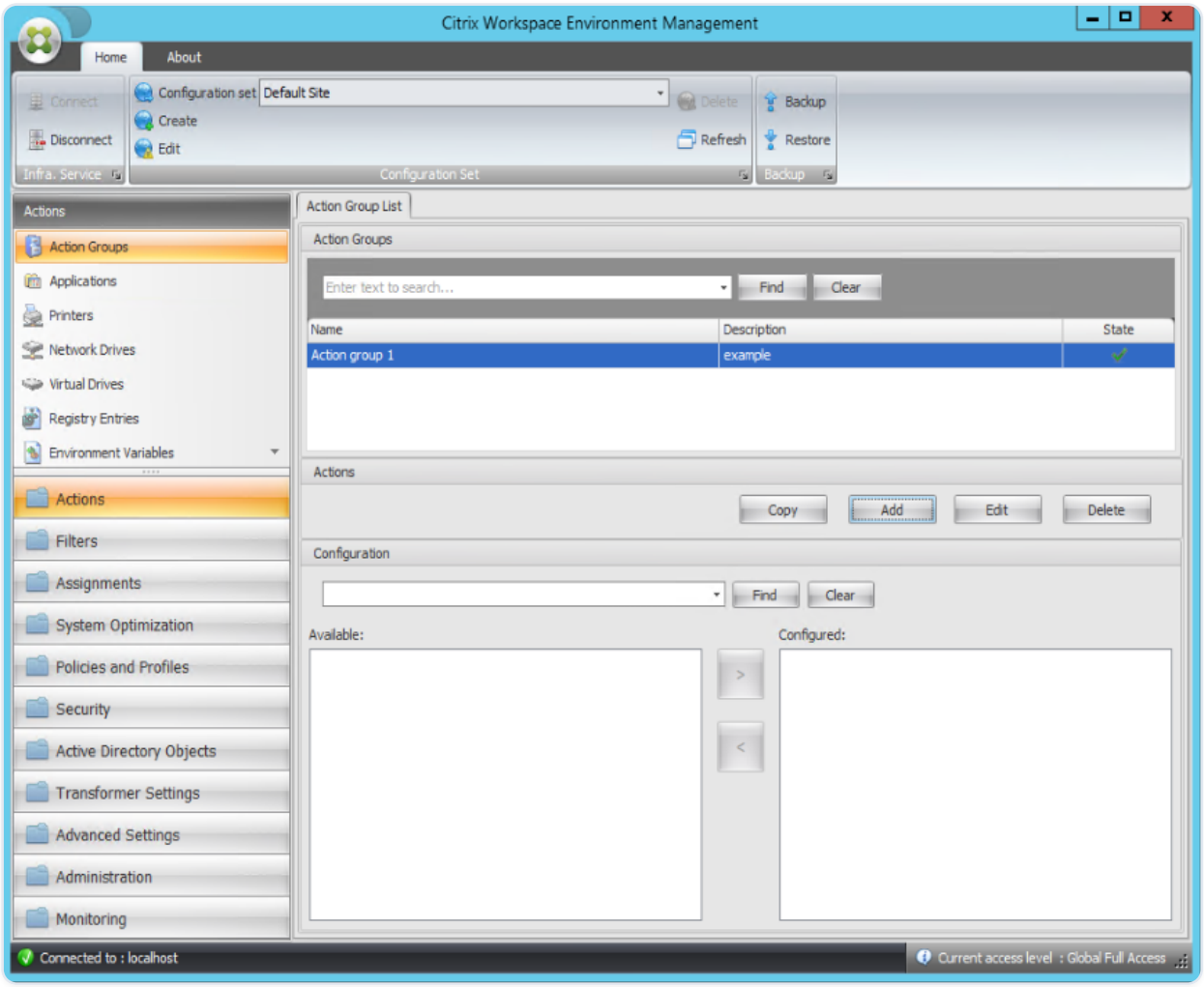
シナリオ例

たとえば、アクション グループ機能を使用して2つのアプリケーション (iexplore.exeとcalc.exe) を一度にユーザーに割り当てるには、以下の手順に従います。

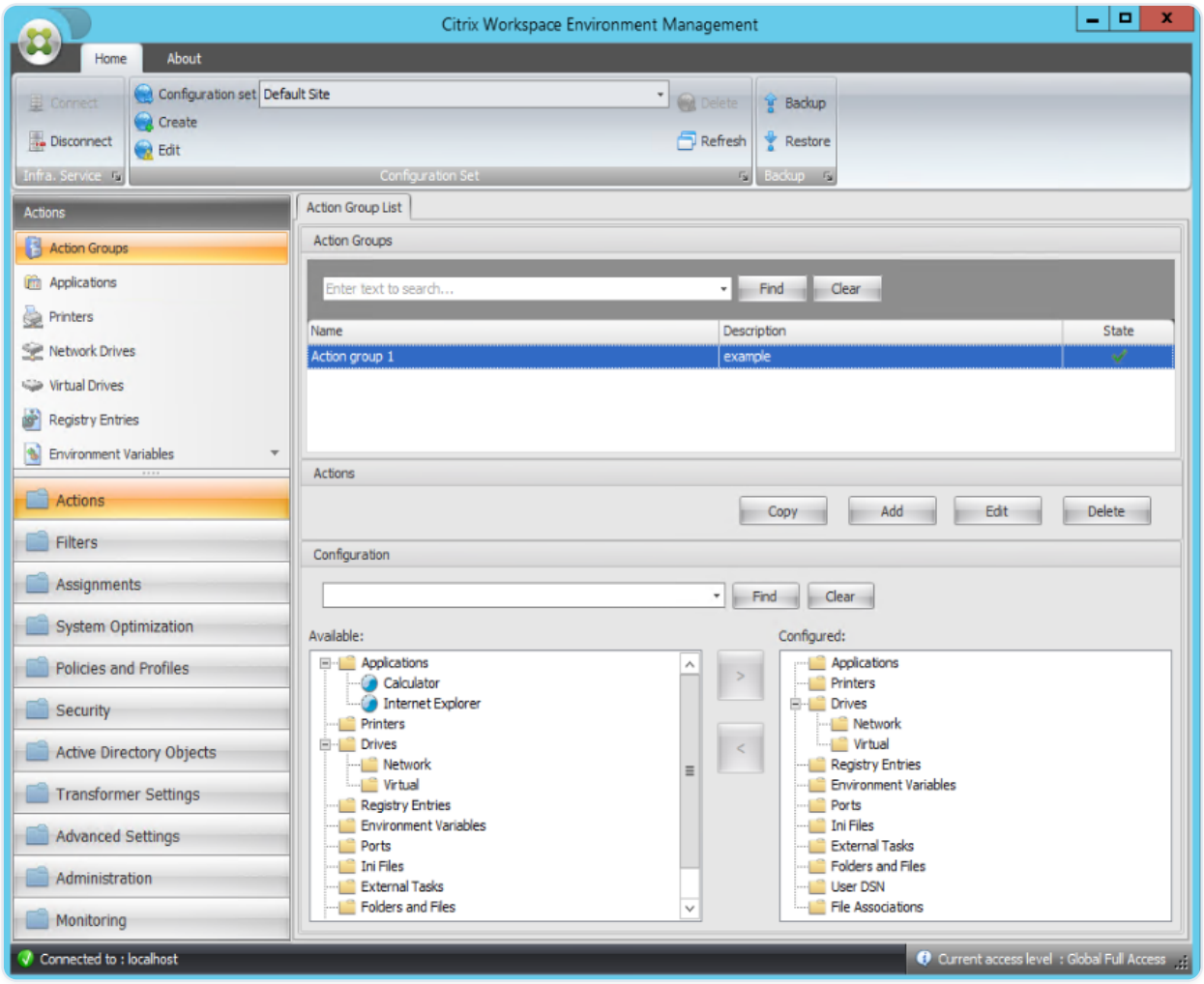
1. **管理コンソール > アクション > アプリケーション > アプリケーション リスト**タブに移動し、アプリケーション (iexplore.exeとcalc.exe) を追加します。



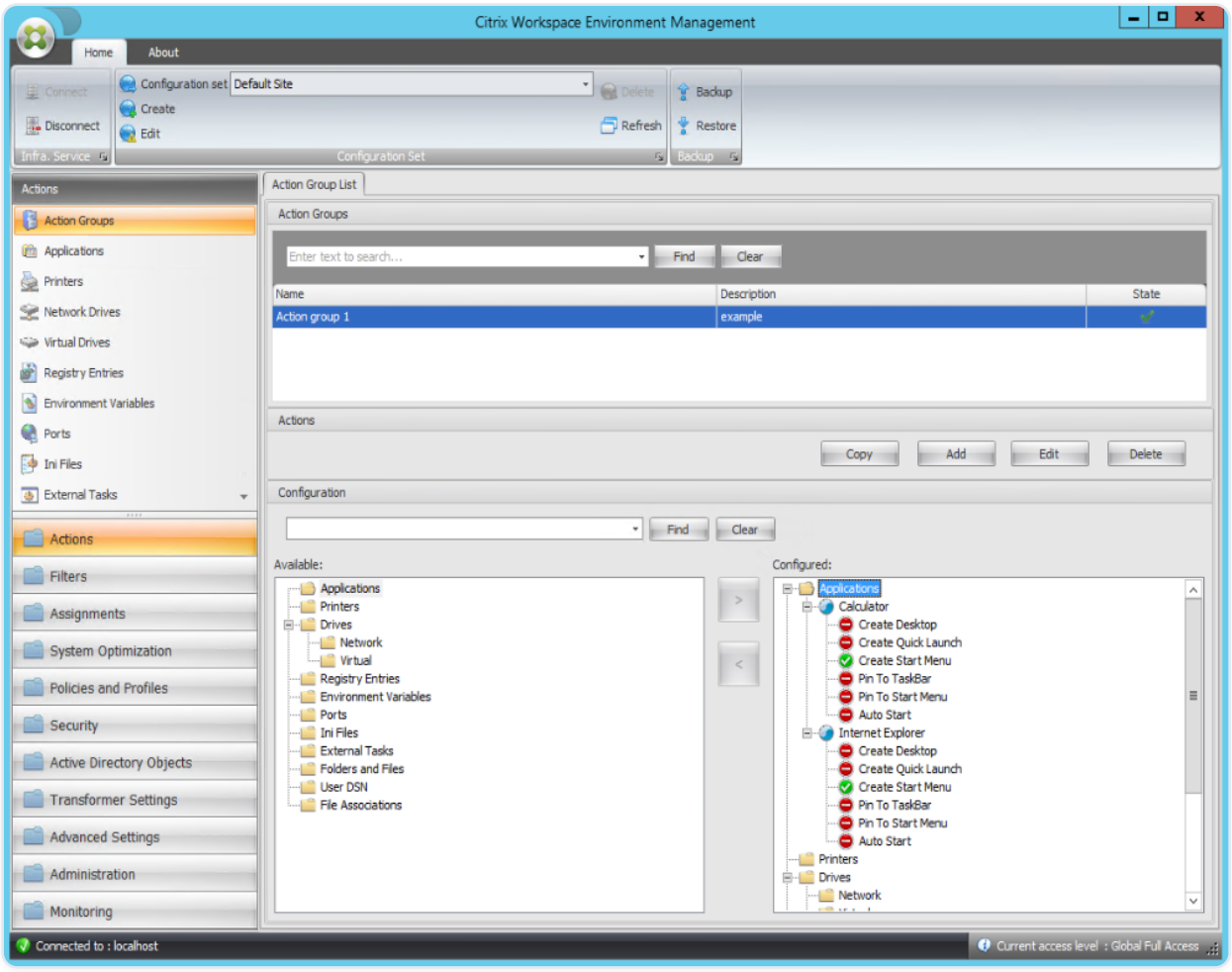
2. **管理コンソール > アクション > アクション グループ > アクション グループ リスト**タブに移動し、**追加**をクリックしてアクション グループを作成します。



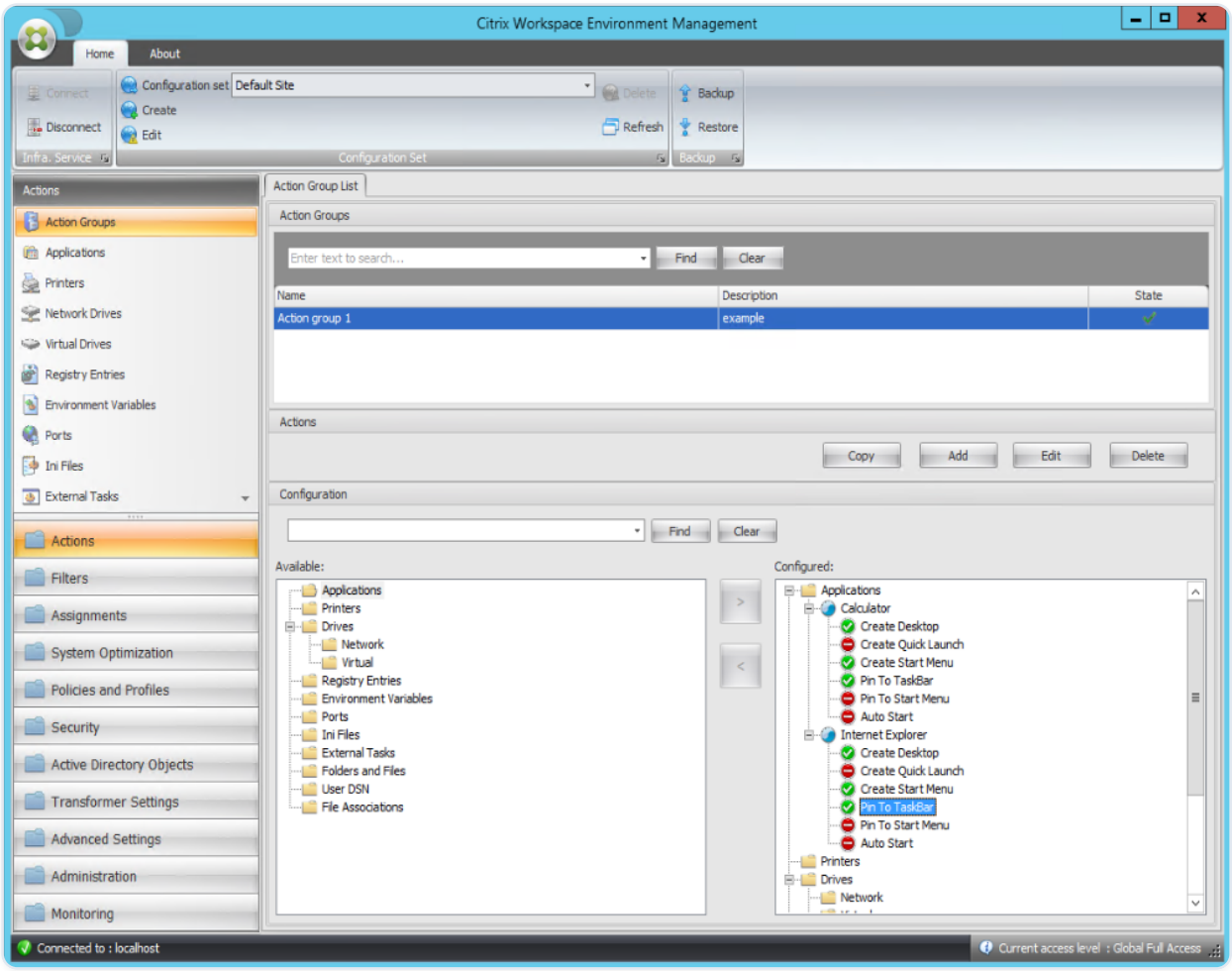
3. 「**アクション グループ リスト**」タブで、作成したアクション グループをダブルクリックして、アクション リストを「**利用可能**」ペインと「**構成済み**」ペインに表示します。



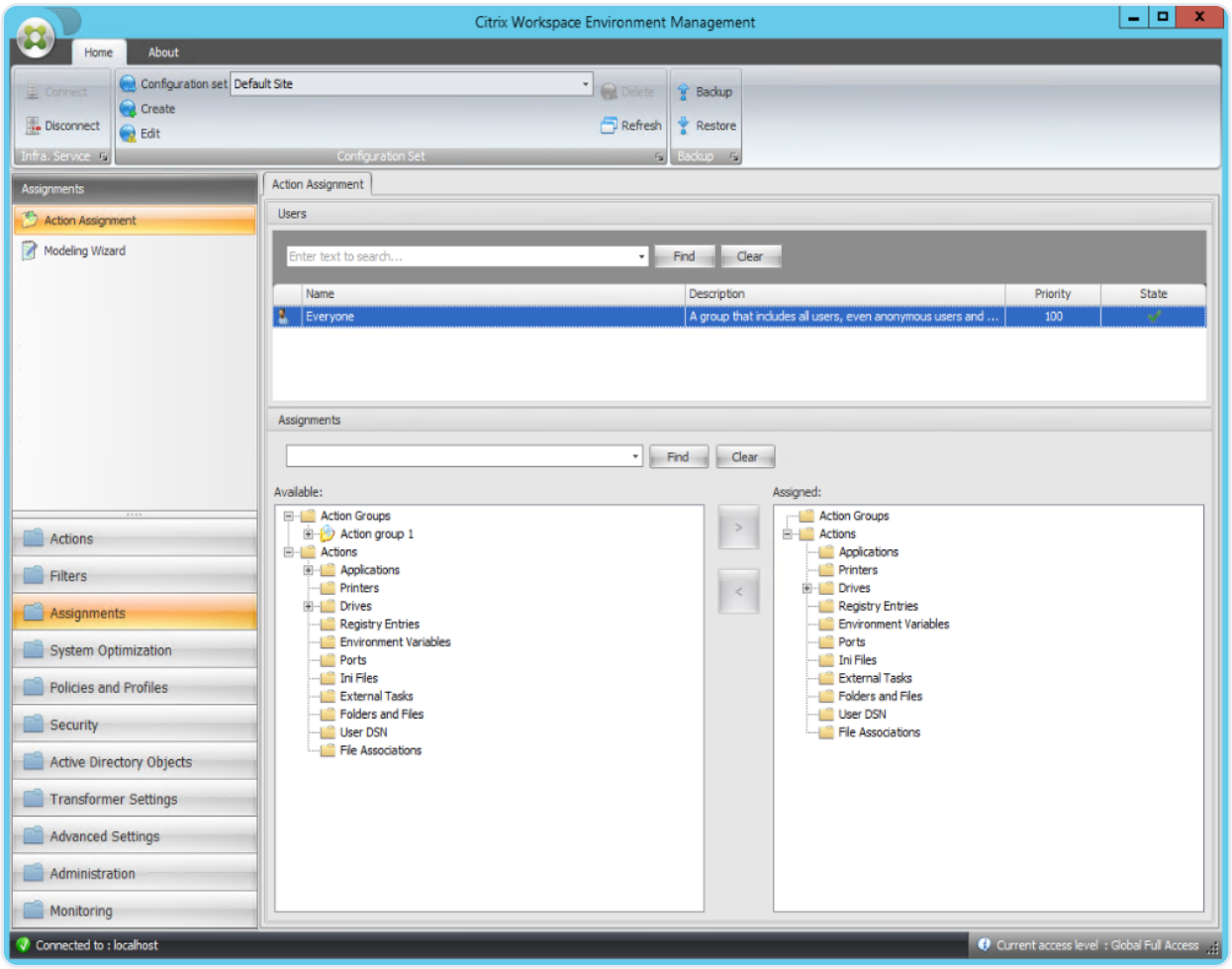
4. 「**利用可能**」ペインで、各アプリケーションをダブルクリックして「**構成済み**」ペインに移動します。アプリケーションを選択し、右矢印をクリックして移動することもできます。



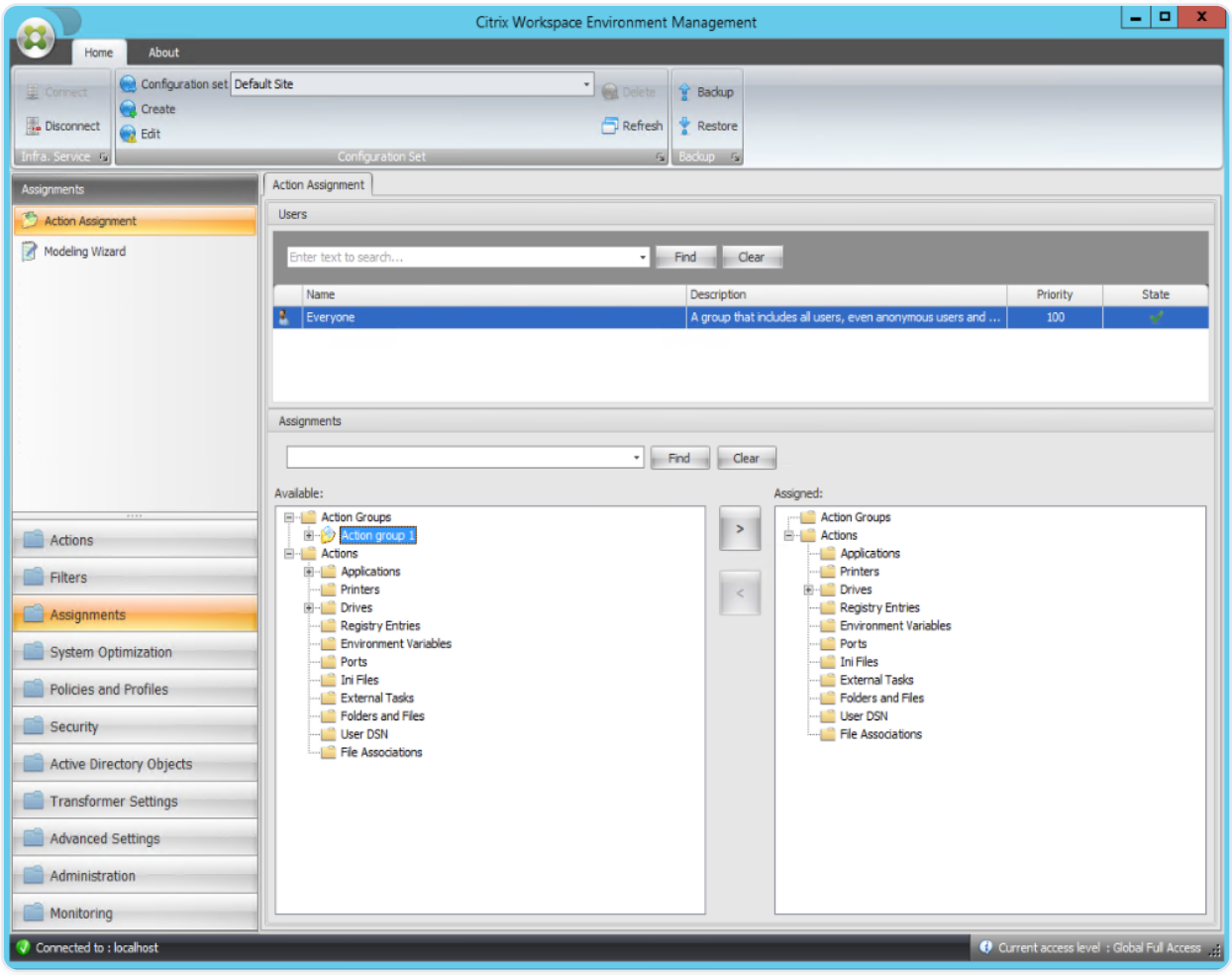
5. 「**構成済み**」ペインで、各アプリケーションのオプションを構成します。この例では、「**デスクトップの作成**」と「**タスクバーにピン留め**」を有効にします。



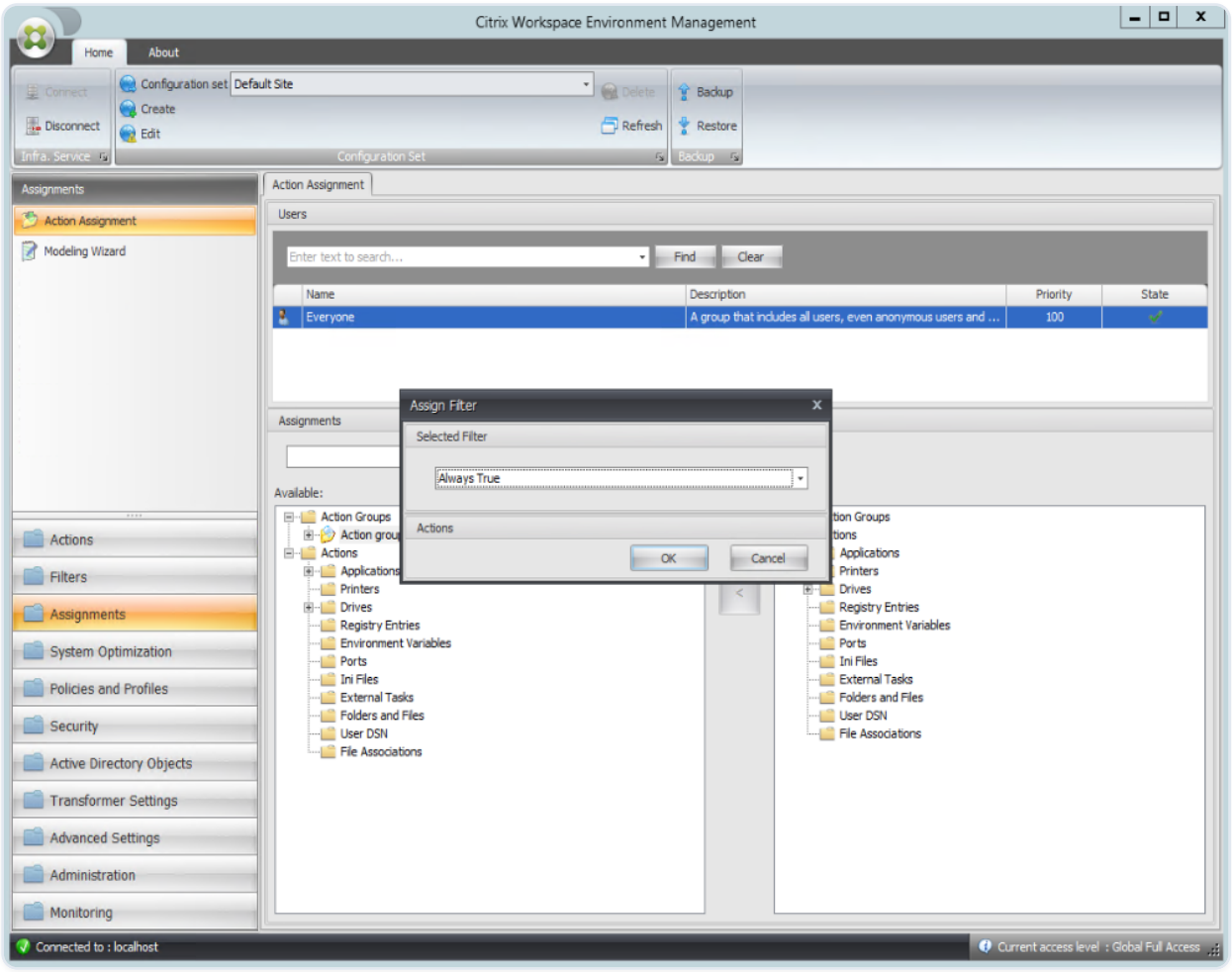
6. 「**管理コンソール \> 割り当て \> アクションの割り当て**」タブに移動し、該当するユーザーをダブルクリックして、アクション グループを「**利用可能**」ペインと「**割り当て済み**」ペインに表示します。



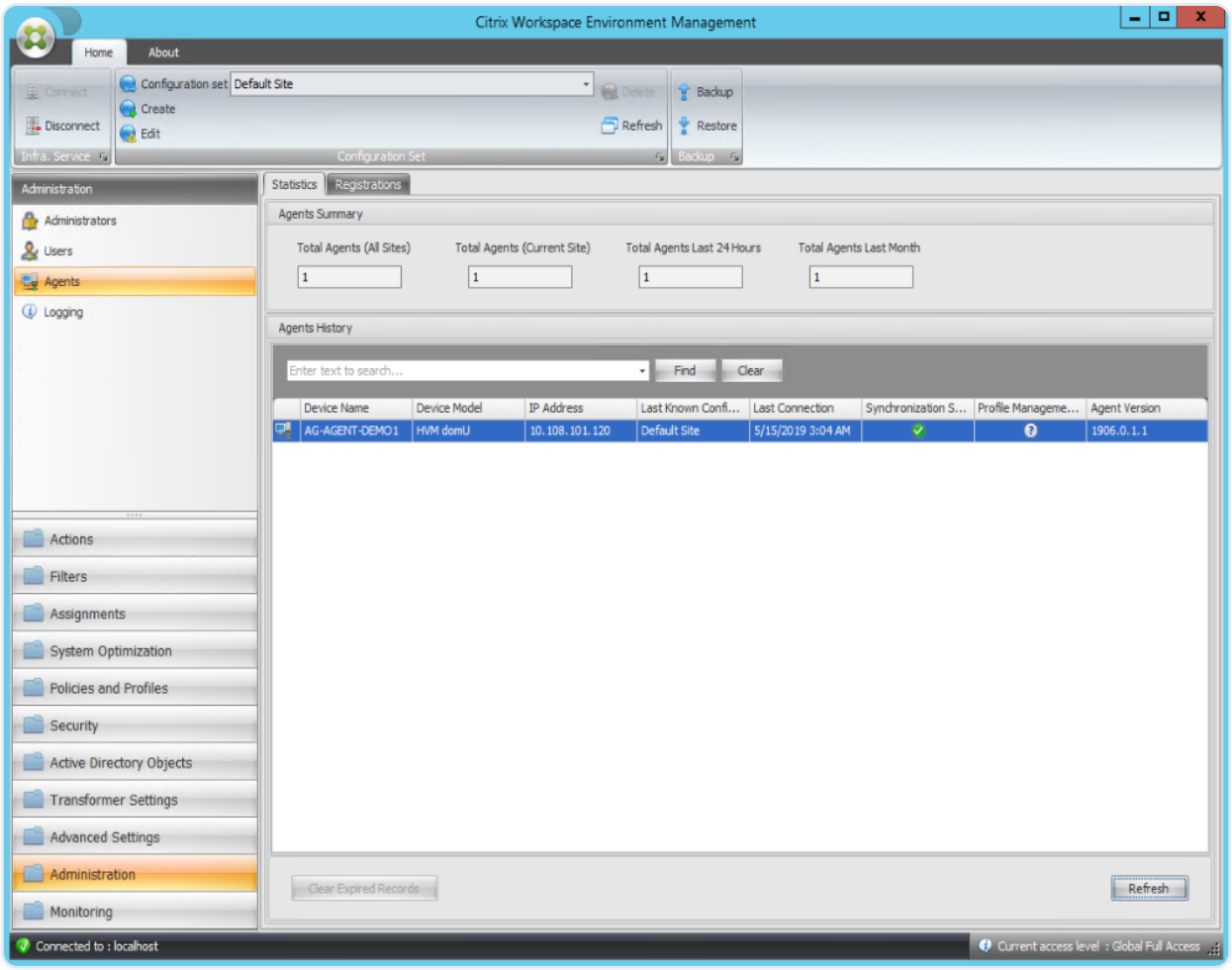
7. 「**利用可能**」ペインで、作成したアクション グループ (この例ではアクション グループ 1) をダブルクリックして「**割り当て済み**」ペインに移動します。アクション グループを選択し、右矢印をクリックして移動することもできます。



8. 「**フィルターの割り当て**」ウィンドウで、「**常に True**」を選択し、「**OK**」をクリックします。



9. 「**管理コンソール > 管理 > エージェント > 統計**」タブに移動し、「**更新**」をクリックします。



10. エージェントを右クリックし、コンテキスト メニューで「**ワークスペース エージェントの更新**」を選択します。
11. エージェントが実行されているマシン（エージェントホスト）で、構成されたアクションが有効になっていることを確認します。

この例では、2つのアプリケーションがエージェントホストに正常に割り当てられ、そのショートカットがデスクトップに追加され、タスクバーにピン留めされています。

グループポリシー設定

> **重要：**
>
> WEM は現在、`HKEY_LOCAL_MACHINE` および `HKEY_CURRENT_USER` レジストリハイブに関連付けられているグループポリシー設定の追加と編集のみをサポートしています。

> 以前のリリースでは、グループポリシー基本設定 (GPP) のみを Workspace Environment Management (WEM) に移行できました。詳細については、リボン の **移行** ウィザードの説明

> を参照してください。現在では、グループポリシー設定 (レジストリベースの設定) を WEM にインポートすることもできます。

設定をインポートした後、どの GPO を割り当てるかを決定する前に、各 GPO に関連付けられている設定の詳細なビューを確認できます。他のアクションを割り当てるのと同じように、GPO を異なる AD グループに割り当てることができます。GPO を個々のユーザーに直接割り当てた場合、設定は有効になりません。グループにはユーザーとマシンを含めることができます。関連するマシンがグループに属している場合、マシンレベルの設定が有効になります。現在のユーザーがグループに属している場合、ユーザーレベルの設定が有効になります。

> **ヒント:**
>
> マシンレベルの設定をすぐに有効にするには、Citrix WEM Agent Host Service を再起動します。ユーザーレベルの設定をすぐに有効にするには、ユーザーはログオフして再度ログオンする必要があります。

グループポリシー設定

> **注:**
>
> WEM エージェントがグループポリシー設定を適切に処理するには、Citrix WEM User Logon Service が有効になっていることを確認してください。

> **グループポリシー設定処理を有効にする**。WEM がグループポリシー設定を処理できるようにするかどうかを制御します。デフォルトでは、このオプションは無効になっています。無効になっている場合:

- グループポリシー設定を構成できません。
- WEM は、グループポリシー設定がユーザーまたはユーザーグループにすでに割り当てられている場合でも、それらを処理しません。

グループポリシーオブジェクトリスト

既存の GPO のリストが表示されます。**検索** を使用して、名前または説明でリストをフィルタリングします。

- **更新**。GPO リストを更新します。

- **インポート**。**グループポリシー設定のインポート** ウィザードを開きます。これにより、グループポリシー設定を WEM にインポートできます。
- **編集**。既存の GPO を編集できます。
- **削除**。選択したGPOを削除します。

グループポリシー設定のインポート

グループポリシー設定をインポートする前に、ドメインコントローラーでグループポリシー設定をバックアップしてください。

1. グループポリシー管理コンソールを開きます。
2. 「**グループポリシー管理**」ウィンドウで、バックアップするGPOを右クリックし、「**バックアップ**」を選択します。
3. 「**グループポリシーオブジェクトのバックアップ**」ウィンドウで、バックアップを保存する場所を指定します。必要に応じて、バックアップに説明を付けることができます。
4. 「**バックアップ**」をクリックしてバックアップを開始し、「**OK**」をクリックします。
5. バックアップフォルダーに移動し、それをzipファイルに圧縮します。

> **注:**
>
> WEMは、複数のGPOバックアップフォルダーを含むzipファイルのインポートもサポートしています。

グループポリシー設定をインポートするには、次の手順を実行します。

1. WEMサービスの「**管理**」タブのメニューで利用できる「**アップロード**」を使用し、GPOのzipファイルをCitrix Cloudのデフォルトフォルダーにアップロードします。
2. 「**管理コンソール > アクション > グループポリシー設定**」タブに移動し、「**グループポリシー設定処理を有効にする**」を選択し、「**インポート**」をクリックしてインポートウィザードを開きます。
3. インポートウィザードの「**インポートするファイル**」ページで、「**参照**」をクリックし、リストから該当するファイルを選択します。ファイル名を入力して「**検索**」をクリックして見つけることもできます。
    - **以前にインポートしたGPOを上書きする**。既存のGPOを上書きするかどうかを制御します。

4. 「**インポート開始**」をクリックしてインポートプロセスを開始します。
5. インポートが完了したら、**完了**をクリックします。インポートされたGPOは、**グループポリシー設定**タブに表示されます。

レジストリファイルからグループポリシー設定をインポートする

Windowsレジストリエディターを使用してエクスポートしたレジストリ値を、管理および割り当てのためにGPOに変換できます。レジストリエントリで利用できるレジストリファイルのインポートオプションに慣れている場合、この機能は次のとおりです。

- `HKEY_LOCAL_MACHINE`と`HKEY_CURRENT_USER`の両方の下のレジストリ値をインポートできます。
- `REG_BINARY`と`REG_MULTI_SZ`の種類のレジストリ値をインポートできます。
- .regファイルで定義したレジストリキーと値に関連付けられた削除操作の変換をサポートします。.regファイルを使用してレジストリキーと値を削除する方法については、`<https://support.microsoft.com/ja-jp/topic/how-to-add-modify-or-delete-registry-subkeys-and-values-by-using-a-reg-file-9c7f37cf-a5e9-e1cd-c4fa-2a26218a1a23>`を参照してください。

開始する前に、次の点に注意してください。

- zipファイルから設定をインポートする場合、そのファイルには1つ以上のレジストリファイルを含めることができます。解凍されたファイルのサイズが30 MBを超えないようにしてください。
- 各.regファイルはGPOに変換されます。変換された各GPOは、レジストリ設定のセットとして扱うことができます。
- 変換された各GPOの名前は、対応する.regファイルの名前に基づいて生成されます。例: .regファイルの名前が`test1.reg`の場合、変換されたGPOの名前は`test1`です。
- 変換されたGPOの説明は空です。その状態はデフォルトで有効（チェックマークアイコン）になります。

グループポリシー設定をインポートするには、次の手順を実行します。

1. 管理コンソールで、**アクション > グループポリシー設定**に移動し、**グループポリシー設定処理を有効にする**を選択し、**インポート**の横にある下矢印をクリックして、**レジストリファイルのインポート**を選択します。
2. 表示されるウィザードで、レジストリファイルのzipバックアップを参照します。

- **既存のGPOを上書きする**。競合が発生した場合に既存のGPOを上書きするかどうかを制御します。

3. 「**インポートの開始**」をクリックします。
4. インポートが完了したら、「**完了**」をクリックします。レジストリファイルから変換されたGPOは、「**グループポリシー設定**」に表示されます。

グループポリシー設定の編集

リストからGPOをダブルクリックすると、その設定が項目別に表示され、必要に応じて設定を編集できます。

GPOを複製するには、GPOを右クリックし、メニューから「**コピー**」を選択します。「**コピー**」をクリックすると、複製が自動的に作成されます。複製は元の名前を継承し、「-Copy」というサフィックスが付きます。「**編集**」を使用して名前を変更できます。

「**編集**」をクリックすると、「**グループポリシーオブジェクトの編集**」ウィンドウが表示されます。

名前。GPOリストに表示されるGPOの名前です。

説明。GPOに関する追加情報を指定できます。この情報はGPOリストに表示されます。

レジストリ操作。GPOに含まれるレジストリ操作を表示します。

> **警告：**

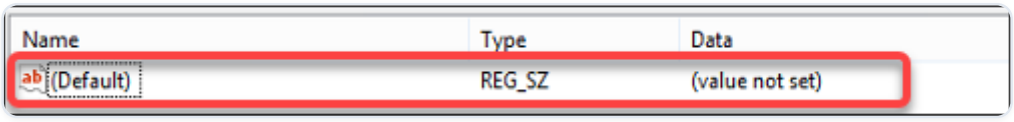
> レジストリベースの設定を誤って編集、追加、または削除すると、ユーザー環境で設定が有効にならない可能性があります。

- **追加**。レジストリキーを追加できます。
- **編集**。レジストリキーを編集できます。
- **削除**。レジストリキーを削除できます。

レジストリキーを追加するには、右側の「**追加**」をクリックします。次の設定が利用可能になります。

- **順序**。レジストリキーの展開順序を指定できます。
- **アクション**。レジストリキーのアクションの種類を指定できます。

  - **値の設定**。レジストリキーの値を設定できます。
  - **値の削除**。レジストリキーの値を削除できます。
  - **キーの作成**。ルートキーとサブパスの組み合わせで指定されたキーを作成できます。
  - **キーの削除**。レジストリキーの下のキーを削除できます。
  - **すべての値の削除**。レジストリキーの下のすべての値を削除できます。
- **ルートキー**。サポートされている値: `HKEY_LOCAL_MACHINE` および `HKEY_CURRENT_USER`。
- **サブパス**。ルートキーを含まないレジストリキーの完全なパス。たとえば、`HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Microsoft\Windows` がレジストリキーの完全なパスである場合、`Software\Microsoft\Windows` がサブパスです。
- **値**。レジストリ値の名前を指定できます。次の図で強調表示されている項目全体がレジストリ値です。



- **種類**。値のデータ型を指定できます。
  - **REG_SZ**。この型は、人間が判読できるテキスト値を表すために使用される標準文字列です。
  - **REG_EXPAND_SZ**。この型は、アプリケーションによって呼び出されたときに置き換えられる変数を含む拡張可能なデータ文字列です。たとえば、次の値の場合、文字列「%SystemRoot%」はオペレーティングシステム内のフォルダーの実際の場所に置き換えられます。
  - **REG_BINARY**。任意の形式のバイナリデータ。
  - **REG_DWORD**。32ビットの数値。この型は、ブール値によく使用されます。たとえば、「0」は無効、「1」は有効を意味します。
  - **REG_DWORD_LITTLE_ENDIAN**。リトルエンディアン形式の32ビット数値。
  - **REG_QWORD**。64ビット数値。
  - **REG_QWORD_LITTLE_ENDIAN**。リトルエンディアン形式の64ビット数値。
  - **REG_MULTI_SZ**。このタイプは、リストまたは複数の値を含む値を表すために使用されるマルチストリングです。各エントリはヌル文字で区切られます。
- **データ**。レジストリ値に対応するデータを入力できます。データ型が異なると、異なる形式で異なるデータを入力する必要がある場合があります。

変更が有効になるまでに時間がかかる場合があります。次の点に注意してください。

- `HKEY_LOCAL_MACHINE` レジストリハイブに関連付けられた変更は、**Citrix WEM Agent Host Service** の起動時、または指定された **SQL Settings Refresh Delay** のタイムアウト時に有効になります。
- `HKEY_CURRENT_USER` レジストリハイブに関連付けられた変更は、ユーザーがログオンしたときに有効になります。

グループポリシー設定をコンテキスト化する

フィルターを使用して割り当てをコンテキスト化することで、グループポリシー設定を条件付きにすることができます。フィルターは、ルールと複数の条件で構成されます。WEMエージェントは、実行時にユーザー環境でルールのすべての条件が満たされた場合にのみ、割り当てられたグループポリシー設定を適用します。それ以外の場合、エージェントはフィルターを適用する際にそれらの設定をスキップします。

グループポリシー設定を条件付きにする一般的なワークフローは次のとおりです。

1. 管理コンソールで、 **>** に移動し、条件を定義します。条件 を参照してください。

   > **重要：**
   >
   > 利用可能なフィルター条件の完全なリストについては、「フィルター条件」を参照してください。グループポリシー設定は、ユーザー設定とマシン設定で構成されます。一部のフィルター条件はユーザー設定にのみ適用されます。これらのフィルター条件をマシン設定に適用すると、WEMエージェントはフィルター条件を無視し、マシン設定を適用します。マシン設定に適用されないフィルター条件の完全なリストについては、「マシン設定に適用されないフィルター条件」を参照してください。

2. **>** に移動し、フィルタールールを定義します。手順1で定義した条件をそのルールに含めることができます。ルール を参照してください。
3. **>** に移動し、グループポリシー設定を構成します。
4. **Administration Console > Assignments > Action Assignment** に移動し、次の操作を実行します。

   a. 設定を割り当てるユーザーまたはユーザーグループをダブルクリックします。

   b. アプリケーションを選択し、右矢印 (\>) をクリックして割り当てます。

   c. **フィルターの割り当て**ウィンドウで、手順2で定義したルールを選択し、**OK** をクリックします。設定は、**利用可能**ペインから**割り当て済み**ペインに移動します。

d. **割り当て済み**ペインで、設定の優先度を構成します。優先度を指定するには、整数を入力します。値が大きいほど、優先度が高くなります。優先度の高い設定は後で処理され、競合や依存関係がある場合に有効になるようにします。

マシン設定に適用されないフィルター条件

フィルター名	マシン設定に適用可能
クライアント名の一致	いいえ
クライアントIPアドレスの一致	いいえ
レジストリ値の一致	HKCUで始まるレジストリ値を構成した場合、**レジストリ値の一致**フィルターはマシン設定に適用された場合機能しません。
ユーザーの国の一致	いいえ
ユーザーUI言語の一致	いいえ
ユーザーSBCリソースタイプ	いいえ
Active Directory パスの照合	いいえ
Active Directory 属性の照合	いいえ
クライアント名の不一致	いいえ
クライアントIPアドレスの不一致	いいえ
レジストリ値の不一致	いいえ
ユーザーの国の不一致	いいえ
ユーザーUI言語の不一致	いいえ
Active Directory パスの不一致	いいえ
Active Directory 属性の不一致	いいえ
クライアントリモートOSの照合	いいえ
クライアントリモートOSの不一致	いいえ

フィルター名	マシン設定に適用可能
Active Directory グループの照合	いいえ
Active Directory グループの不一致	いいえ
公開リソース名	いいえ

テンプレートベースの設定

このタブを使用して、グループポリシー管理用テンプレートを使用してWindowsの設定を構成します。GPOは、マシンレベルとユーザーレベルで構成できます。

構成セットの**アクション > グループポリシー設定 > テンプレートベース**で、次の操作を実行できます。

- テンプレートを使用してGPOを作成します。
- テンプレートを管理します。
- テンプレートをインポートします。
- GPOリストを更新します。
- GPOを編集します。
- GPOの割り当てを管理します。
- GPOを複製します。
- GPOを削除します。

テンプレートを使用してGPOを作成する

テンプレートを使用してGPOを作成するには、次の手順を実行します。

1. アクションバーで、**GPOの作成**をクリックします。
2. **基本情報**で：
    - GPO の名前を指定します。
    - 必要に応じて、GPO を識別するのに役立つ追加情報を指定します。
3. **コンピューターの構成**で、マシンに適用するポリシーを構成します (誰がログオンするかに関係なく)。
4. **ユーザーの構成**で、ユーザーに適用するポリシーを構成します (どのマシンにログオンするかに関係なく)。

5. **概要**で、行った変更を確認します。
6. 完了したら、**完了**をクリックします。

コンピューターの構成と**ユーザーの構成**で、設定を選択して構成します。ポリシーはツリービューとリストビューで表示できます。リストビューでは、ポリシーはアルファベット順に並べ替えられ、目的のポリシーを検索できます。

設定を構成するには、まずそれを有効にします。設定には、構成できる複数の項目がある場合があります。必要な入力の種類に応じて、設定はチェックボックス、入力ボックス (テキストまたは数値の入力)、選択、リスト、またはそれらの組み合わせにすることができます。

設定に関する情報については、Microsoft から GPO リファレンスシートをダウンロードしてください。

テンプレートの管理

テンプレートを管理するには、次の手順を実行します。

1. アクションバーで、**テンプレートの管理**をクリックします。
2. **テンプレートの管理**ウィザードで、次のようにします。

- **コンピューターの構成**を選択して、マシンに適用するポリシーを構成します (誰がログオンするかに関係なく)。
- **ユーザーの構成**を選択して、ユーザーに適用するポリシーを構成します (どのマシンにログオンするかに関係なく)。

1. 完了したら、**完了**をクリックします。

コンピューターの構成と**ユーザーの構成**で、設定を選択して構成します。ポリシーはツリービューとリストビューで表示できます。リストビューでは、ポリシーはアルファベット順に並べ替えられ、目的のポリシーを検索できます。

設定を構成するには、まずそれを有効にします。設定には、構成できる複数の項目がある場合があります。必要な入力の種類に応じて、設定はチェックボックス、入力ボックス（テキストまたは数値として入力）、選択、リスト、またはそれらの組み合わせにすることができます。

設定に関する情報については、MicrosoftからGPOリファレンスシートをダウンロードしてください。

テンプレートのインポート

> **重要：**

> ADMXファイルをテンプレートとしてWEMにインポートする際は、zipファイル内のすべての.admlファイルが同じ言語であることを確認してください。

> ADMXファイルをテンプレートとしてWEMにインポートできます。その後、それらのテンプレートを使用してGPOを作成します。テンプレートをインポートするには、次の手順を実行します。

1. アクションバーで、**テンプレートの管理**をクリックします。
2. **テンプレートの管理**ウィザードで、**インポート**をクリックします。
3. ADMXファイルを含むzipファイルを参照し、ファイルに既存のテンプレートと同じ名前のテンプレートが含まれている場合にどうするかを決定します。
   - **インポートしない**。インポートをキャンセルします。
   - **テンプレートをスキップして残りをインポートする**。
   - **既存のテンプレートを上書きする**。上書きすると、既存のテンプレートから派生した関連設定が変更される可能性があります。テンプレートで作成された既存のGPOは影響を受けません。ただし、それらのGPOを編集すると、関連設定は失われます。
4. **インポートの開始**をクリックして、インポートプロセスを開始します。
5. 完了したら、**完了**をクリックして**テンプレートの管理**ウィザードに戻ります。
6. そこでテンプレートを管理するか、**完了**をクリックして終了します。

インポートしたテンプレートファイルの管理方法については、「ファイル」を参照してください。そこで管理する際は、次の点を考慮してください。

- GPO管理用テンプレートファイルを削除すると、現在のテンプレートから関連する設定が削除されます。テンプレートで作成された既存のGPOは影響を受けません。ただし、それらのGPOを編集すると、関連する設定が失われます。

GPOを編集する

GPOを編集するには、次の手順を実行します。

1. GPOを選択し、アクションバーで**編集**をクリックします。
2. **基本情報**で、名前と説明を編集します。
3. **コンピューターの構成**で、マシンポリシーを編集します。
4. **ユーザーの構成**で、ユーザーポリシーを編集します。

5. **概要**で、行った変更を確認します。
6. 完了したら、**保存**をクリックします。

> **注:**
>
> GPOがすでにユーザーに割り当てられている場合、それを編集すると、それらのユーザーに影響が及びます。

GPOの割り当てを管理する

テンプレートを使用して作成されたGPOの割り当ては、レジストリベースのGPOと同様に管理できます。詳細については、「GPOの割り当てを管理する」を参照してください。

GPOを複製する

GPOをクローンするには、以下の手順を実行します。

1. GPOを選択し、アクションバーで**Clone**をクリックします。
2. GPOをレジストリベースのGPOとしてクローンするか、テンプレートベースのGPOとしてクローンするかを決定します。

   > **注:**
   >
   > レジストリベースとしてクローンされると、GPOはレジストリ値に変換され、**Registry-based**タブに表示されます。変換された各GPOは、レジストリ設定のセットとして扱うことができます。

3. 名前と説明を編集します。
4. GPOをクローンしたい構成セットを選択します。
5. **Clone**をクリックして、クローンプロセスを開始します。

GPOを削除する

GPOを削除するには、GPOを選択し、アクションバーで**Delete**をクリックします。

> **注:**

> GPOがすでにユーザーに割り当てられている場合、それを削除すると、それらのユーザーに影響が及びます。

スクリプトタスク設定

「**スクリプトタスク**」ページで利用可能なすべてのスクリプトタスクを一覧表示します。スクリプトタスクは構成セットレベルで実行されます。ここで、現在の構成セットに対してどのスクリプトタスクを有効にするかを構成します。スクリプトタスクを編集するには、「スクリプトタスク」に移動します。

スクリプトタスクを構成する

1. 「**スクリプトタスク設定**」ページで、スクリプトタスクを見つけ、省略記号を選択し、「**構成**」を選択します。
2. 「**スクリプトタスクの構成**」ウィザードで、次の設定を構成し、「**保存**」をクリックします。

「**一般**」で:

- **このタスクを有効にする**。現在の構成セットに対してタスクを有効にする（**はい**）か無効にする（**いいえ**）かを選択します。無効にすると、エージェントはタスクを処理しません。
- **署名を検証する**。タスクを実行する前に署名を検証するかどうかを選択します。スクリプトタスクにフルアクセスが許可されている場合、署名検証は必須です。
- **タスクのタイムアウト**。タスクのタイムアウト（分単位）を設定するかどうかを選択します。タイムアウトが発生すると、タスクは強制的に終了します。サポートされる値: 1〜60。タスクにタイムアウトを設定することをお勧めします。そうしないと、タスクが実行されたままになり、他のタスクの実行が妨げられる可能性があります。
- **フィルター**。フィルターを選択してタスクをコンテキスト化するかどうかを選択します。フィルターが選択されている場合、このタスクはフィルター内のすべての条件が満たされた場合にのみ実行されます。フィルターを選択する際は、次の点を考慮してください。
    - フィルターにスクリプトタスクに適用されない条件が含まれている場合、エージェントはタスクを実行する前にフィルターを評価する際にそれらの条件をスキップします。スクリプトタスクに適用されない条件の完全なリストについては、「マシン設定に適用されない条件」を参照してください。

「**トリガー**」で:

- タスクのトリガーを構成します。次のことができます。

- タスクに関連付けるトリガーを選択します。アクティブ化されると、これらのトリガーはユーザー環境でタスクを開始します。
- このタスクに適用されるトリガーのみを表示するかどうかを選択します。
- 新しいトリガーを作成します。トリガーの作成を参照してください。

> **注:**
>
> 既存のトリガーを編集するには、トリガーに移動します。

「**パラメーター**」で:

- **スクリプトタスクにパラメーターを渡す**。スクリプトタスクにパラメーターを渡すかどうかを選択します。有効にすると、実行時にスクリプトタスクでパラメーター変数として入力を提供できます。これにより、基になるコードを変更せずにスクリプトタスクの動作を制御できるという利点があります。次のパラメータータイプが利用可能です:
  - **整数**。例: `123`。
  - **文字列**。例: `hello world`。
  - **ブール値**。True または False。
  - **文字**。例: `c`。
  - **スイッチ**。True または False。
  - **倍精度浮動小数点数**。例: `1.023`。
  - **日付と時刻**。例: `YYYY-MM-DD HH:mm:ss`。
  - **ファイルパス**。`System.IO.FileInfo` クラスに渡すパスを入力します。環境変数がサポートされています。パスには次の文字を含めることはできません: `* ? < >`。

> **注:**
>
> - 最大20個のパラメーターを設定できます。
> - 名前フィールドは、「switch」タイプのパラメーターを除き、オプションです。
> - PowerShell は部分的なパラメーター名をサポートしています。部分的なパラメーター名を使用する場合は、その名前が一意であることを確認してください。既存のパラメーター名と区別してください。例: PowerShell では、次のパラメーター名は同じ

> です: `-t` 、 `-ti` 、および `-title` 。この場合、他のパラメーターと区別するために、パラメーター名の十分な文字を指定してください。

出力で:

- **出力ファイル。** タスクが出力するファイルを収集するかどうかを選択します。選択した場合、タスク用に生成されたレポートに出力ファイルの内容が含まれます。これにより、ユーザー環境で出力ファイルにアクセスすることなく、レポートで出力ファイルの内容を表示できます。
- **出力のハイライト表示。** 出力ファイルの内容とコンソール出力で特定のコンテンツをハイライト表示するかどうかを選択します。
  - **キーワードのハイライト表示。** レポートでハイライト表示するキーワードを指定します。複数のキーワードをコンマで区切って入力できます。キーワードを入力した後、**Enter**キーを押して続行します。指定した場合、キーワードに一致するレポートの内容は、生成されたレポートの**出力ファイルの内容**および**コンソール出力**セクションでハイライト表示されます。
  - **正規表現の一致をハイライト表示。** ハイライト表示するコンテンツを記述する正規表現を入力します。正規表現は、PCRE互換である.NET正規表現ライブラリの構文に準拠している必要があります。詳細については、Microsoftのドキュメントを参照してください: `<https://docs.microsoft.com/ja-jp/dotnet/standard/base-types/regular-expression-language-quick-reference>` 。
    - **正規表現。** ハイライト表示するコンテンツを記述する正規表現を入力します。
    - **大文字と小文字を区別しない。** コンテンツが大文字と小文字を正確に一致させる必要があるかどうかを選択します。
    - **複数行の一致を使用。** 複数行の一致を使用するかどうかを選択します。この場合、\^と\$は、出力コンテンツ全体の最初と最後ではなく、各行の最初と最後に一致します。
    - **名前付きグループのみをキャプチャ。** 名前付きグループのみをキャプチャするかどうかを選択します。キャプチャされたグループは、正規表現パターンで括弧を使用して定義されます。名前付きグループは、 `(?<name> subexpression)` 構文によって明示的に名前または番号が割り当てられます。
    - **コンテキストの手がかりとして含める行数。** ハイライトにコンテキストの手がかりとして含める、一致の前後の行数を指定します。サポートされる値: 1〜10。
    - **レポートに正規表現の一致のみを含める。** レポートにすべての出力コンテンツを含めるか、正規表現に一致するコンテンツのみを含めるかを制御します。このオプションを有効にすると、Citrix Cloudに送信されるデータ量が削減されます。このオプションが

有効な場合、指定されたキーワードに関係なく、キーワードのハイライト表示機能は表示するコンテンツがありません。

- **詳細オプション。**
  - **実行時エラーが発生した場合でも出力を収集。** タスクの実行中にエラーが発生した場合でも、出力ファイルの内容とコンソール出力を収集するかどうかを制御します。

スクリプト化されたタスクのレポートを表示する

スクリプト化されたタスク設定ページで、スクリプト化されたタスクを見つけ、省略記号を選択し、**レポートの表示**を選択します。その結果、**監視 > レポート**ページに移動し、タスクに関連するレポート（存在する場合）が表示されます。省略記号をクリックして、詳細情報を表示します。詳細については、「レポート」を参照してください。

アプリケーション

アプリケーションショートカットの作成を制御します。

> **ヒント:**
>
> - Citrix Studioを使用してアプリケーション設定を編集し、**VUEMAppCmd.exe**を指す実行可能ファイルのパスを追加できます。**VUEMAppCmd.exe**は、Citrix Virtual Apps and Desktopsで公開されたアプリケーションが起動する前に、Workspace Environment Managementエージェントが環境の処理を完了するようにします。詳細については、「Citrix Studioを使用したアプリケーション設定の編集」を参照してください。
> - 動的トークンを使用して、Workspace Environment Managementアクションを拡張し、より強力にすることができます。

アプリケーションリスト

既存のアプリケーションリソースのリスト。**検索**を使用して、テキスト文字列に基づいて名前またはIDでリストをフィルタリングできます。

アプリケーションを追加するには

1. コンテキストメニューの**追加**コマンドを使用します。
2. **新しいアプリケーション**ダイアログのタブに詳細を入力し、**OK**をクリックします。

フィールドとコントロール

一般

- **名前**。アプリケーションリストに表示されるアプリケーションショートカットの表示名。
- **説明**。このフィールドは、編集/作成ウィザードでのみ表示され、リソースに関する追加情報を指定できます。
- **アプリケーションの種類**。ショートカットが起動するアプリケーションの種類で、**インストール済みアプリケーション**、**ファイル/フォルダー**、**URL**、または**StoreFrontストア**のいずれかです。選択に応じて、次の値が必要です。
  - **コマンドライン**。クライアントマシンから見たアプリケーション実行可能ファイルへのパス。**参照**ボタンを使用すると、ローカルにインストールされている実行可能ファイルを参照できます。
  - **作業ディレクトリ**。ショートカットの作業ディレクトリ。実行可能ファイルを参照すると自動的に入力されます。
  - **パラメーター**。アプリケーションの起動パラメーター。
  - **ターゲット**。(ファイル/フォルダー) アプリケーションが開くターゲットファイルまたはフォルダーの名前。
  - **ショートカット URL**。(URL) 追加するアプリケーションショートカットの URL。
  - **ストア URL**。(StoreFront™ ストア) ショートカットから起動するリソースを含む StoreFront ストアの URL。
  - **ストアリソース**。(StoreFront ストア) ショートカットから起動する StoreFront ストア上のリソース。**参照**ボタンを使用すると、リソースを参照して選択できます。

> **ヒント:**
>
> StoreFront ストアに基づくアプリケーションを追加するには、有効な資格情報を指定する必要があります。ストアリソースを表示するために**参照**を初めてクリックすると、ダイアログが表示されます。このダイアログでは、Windows 用 Citrix Workspace™ アプリにログオンするために使用する資格情報を入力するよう求められます。その後、ストアリソースウィンドウが表示され、WEM 管理コンソールマシンで実行されている Windows 用 Citrix Workspace アプリによって取得された公開アプリケーションのリストが表示されます。

- **スタートメニュー統合**。スタートメニューでアプリケーションショートカットを作成する場所を選択します。デフォルトでは、新しいショートカットはプログラムに作成されます。

オプション

- **アイコンの選択**。アイコンファイルを参照して、アプリケーションのアイコンを選択できます。デフォルトでは、この設定はアプリケーション実行可能ファイルのアイコンを使用しますが、任意の有効なアイコンを選択できます。アイコンはデータベースにテキストとして保存されます。
    - **高解像度アイコンのみ**。選択ボックスに HD アイコンのみを表示します。
- **アプリケーションの状態**。アプリケーションショートカットが有効になっているかどうかを制御します。無効になっている場合、ユーザーに割り当てられていてもエージェントはそれを処理しません。
- **メンテナンスモード**。有効な場合、この設定はユーザーがアプリケーションショートカットを実行するのを防ぎます。ショートカットアイコンは、アイコンが利用できないことを示す警告サインを含むように変更され、ユーザーが起動しようとすると、アプリケーションが利用できないことを知らせる短いメッセージが表示されます。これにより、公開アプリケーションがメンテナンス中であるシナリオを、アプリケーションショートカットリソースを無効にしたり削除したりすることなく、プロアクティブに管理できます。
- **表示名**。ユーザーの環境に表示されるショートカットの名前。
- **ホットキー**。ユーザーがアプリケーションを起動するためのホットキーを指定できます。ホットキーは大文字と小文字を区別し、次の形式で入力します (例): Ctrl + Alt + S。
- **アクションの種類**。このリソースがどのような種類のアクションであるかを記述します。

詳細設定

- **自動自己修復を有効にする**。選択すると、ユーザーがアプリケーションショートカットを移動または削除した場合、エージェントは更新時に自動的にショートカットを再作成します。
- **アイコンの場所を強制する**。ユーザーのデスクトップ上のアプリケーションショートカットの正確な場所を指定できます。値はピクセル単位です。
- **ウィンドウのスタイル**。エンドポイントでアプリケーションが最小化、通常、または最大化されたウィンドウで開くかどうかを制御します。
- **セルフサービスに表示しない**。セッションエージェントがUIモードで実行されているときに、エンドユーザーがステータスバーアイコンからアクセスできるセルフサービスインターフェイスからアプリケーションを非表示にします。これには、コンテキストメニューの「マイアプリ

ケーション」アイコンリストと、「アプリケーションの管理」フォームでの非表示が含まれます。

- **ユーザーのお気に入りフォルダーにショートカットを作成**。エンドユーザーのお気に入りフォルダーにアプリケーションショートカットを作成します。

StoreFrontストアに基づいたアプリケーションエントリを追加するには、WEM管理コンソールマシンにインストールされているCitrix Workspace app for Windowsが公開アプリケーションのリストを取得できるように、有効な資格情報を提供する必要があります。

スタートメニュービュー

スタートメニュー内のアプリケーションショートカットリソースの場所をツリービューで表示します。

更新。アプリケーションリストを更新します。

移動。アプリケーションショートカットの移動先を選択できるウィザードを開きます。

編集。アプリケーション編集ウィザードを開きます。

削除。選択したアプリケーションショートカットリソースを削除します。

Citrix Studioを使用したアプリケーション設定の編集

Workspace Environment Management (WEM) は、発生する問題をトラブルシューティングするためのクライアント側ツールを提供します。VUEMAppCMD ツール (**VUEMAppCmd.exe**) は、Citrix Virtual Apps and Desktops の公開アプリケーションが開始される前に、WEM エージェントが環境の処理を完了するようにします。これはエージェントのインストールフォルダーにあります: `%ProgramFiles%\Citrix\Workspace Environment Management Agent\VUEMAppCmd.exe`。

> **注:**
>
> 64ビットOSの場合は、代わりに`%ProgramFiles(x86)%`を使用してください。

> Citrix Studioを使用してアプリケーション設定を編集し、**VUEMAppCmd.exe** を指す実行可能ファイルのパスを追加できます。これを行うには、次の手順を完了します。

1. Citrix Studio の **アプリケーション設定 > 場所** ページに移動します。

   Citrix Studio のアプリケーション設定(/en-us/workspace-environment-management/2308/media/citrix-studio-application-settings.png)

2. エンドユーザーのオペレーティングシステムで、ローカルアプリケーションのパスを入力します。

   - 次のように入力します: `%ProgramFiles%\Citrix\Workspace Environment Management Agent\VUEMAppCmd.exe`。

3. 開くアプリケーションを指定するためのコマンドライン引数を入力します。

   - **VUEMAppCmd.exe** を介して起動したいアプリケーションへの完全なパスを入力します。パスに空白が含まれている場合は、アプリケーションのコマンドラインを二重引用符で囲んでください。
   - たとえば、**VUEMAppCmd.exe** を介して **iexplore.exe** を起動したいとします。その場合は、次のように入力します: `"%ProgramFiles%\Internet Explorer\iexplore.exe"`。

プリンター

このタブでは、プリンターのマッピングを制御します。

> **ヒント:**
>
> 動的トークン を使用して、Workspace Environment Management のアクションを拡張し、より強力にすることができます。

ネットワークプリンターリスト

既存のプリンターリソースのリストで、一意のIDが付いています。**検索**を使用して、テキスト文字列に基づいて名前またはIDでプリンターリストをフィルタリングできます。リボンにある ネットワーク印刷サーバーのインポート を使用してプリンターをインポートできます。

プリンターを追加するには

1. **ネットワークプリンターリスト**タブで、**追加**をクリックするか、空白の領域を右クリックしてコンテキストメニューから**追加**を選択します。
2. **新しいネットワークプリンター**ウィンドウで、必要な情報を入力し、**OK**をクリックします。

フィールドとコントロール

名前。プリンターリストに表示されるプリンターの表示名です。

説明。このフィールドは、編集/作成ウィザードでのみ表示され、リソースに関する追加情報を指定できます。

ターゲットパス。ユーザー環境で解決されるプリンターへのパスです。

プリンターの状態。プリンターが有効か無効かを切り替えます。無効の場合、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

外部資格情報。プリンターに接続するための特定の資格情報を指定できます。

自己修復。エージェントが更新されたときに、プリンターがユーザー向けに自動的に再作成されるかどうかを切り替えます。

アクションの種類。このリソースがどのような種類のアクションであるかを記述します。**デバイスマッピングプリンターファイルを使用**の場合、ターゲットパスをXMLプリンターリストファイルへの絶対パスとして指定します（XMLプリンターリストの構成を参照）。エージェントが更新されると、このXMLファイルが解析され、アクションキューに追加するプリンターが検出されます。

プリンターをインポートするには

1. リボンで、**ネットワークプリントサーバーのインポート**をクリックします。
2. **ネットワークプリントサーバーからのインポート**ダイアログに詳細を入力し、**OK**をクリックします。

フィールドとコントロール

プリントサーバー名。プリンターをインポートするプリントサーバーの名前。

代替資格情報を使用。デフォルトでは、インポートは管理コンソールが現在実行されているWindowsアカウントの資格情報を使用します。このオプションを選択して、プリントサーバーへの接続に異なる資格情報を指定します。

ネットワークドライブ

ネットワークドライブのマッピングを制御します。

> **ヒント:**
>
> 動的トークン を使用して、Workspace Environment Management のアクションを拡張し、より強力にすることができます。

ネットワークドライブリスト

既存のネットワークドライブのリストです。**検索**を使用して、テキスト文字列に対して名前またはIDでリストをフィルタリングできます。

ネットワークドライブを追加するには

1. コンテキストメニューの**追加**コマンドを使用します。
2. **新しいネットワークドライブ**ダイアログのタブに詳細を入力し、**OK**をクリックします。

フィールドとコントロール

名前。ネットワークドライブリストに表示されるドライブの表示名です。

説明。このフィールドは、編集/作成ウィザードでのみ表示され、リソースに関する追加情報を指定できます。

ターゲットパス。ユーザーの環境で解決されるネットワークドライブへのパスです。

ネットワークドライブの状態。ネットワークドライブを有効または無効にするかを切り替えます。無効にすると、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

外部資格情報。ネットワークドライブに接続するための特定の資格情報を指定できます。

自動自己修復を有効にする。エージェントが更新されたときに、ネットワークドライブがユーザーのために自動的に再作成されるかどうかを切り替えます。

ホームドライブとして設定。

アクションの種類。このリソースがどのような種類のアクションであるかを説明します。デフォルトは「ネットワークドライブのマップ」です。

仮想ドライブ

仮想ドライブのマッピングを制御します。仮想ドライブは、ローカルファイルパスをドライブ文字にマッピングするWindows仮想ドライブまたはMS-DOSデバイス名です。

> **ヒント:**
>
> 動的トークン を使用して、Workspace Environment Managementアクションを拡張し、より強力にすることができます。

仮想ドライブリスト

既存の仮想ドライブのリストが表示されます。**検索**を使用して、名前またはIDでリストをフィルタリングできます。

仮想ディスクを追加して割り当てる一般的なワークフローは次のとおりです。

1. **管理コンソール > アクション > 仮想ドライブ > 仮想ドライブリスト**タブに移動し、**追加**をクリックします。または、空白の領域を右クリックし、コンテキストメニューで**追加**を選択します。**新しい仮想ドライブ**ウィンドウが表示されます。
    a. **全般**タブで、必要な情報を入力し、仮想ドライブをホームドライブとして設定するかどうかを選択します。
    b. **OK**をクリックして変更を保存し、**新しい仮想ドライブ**ウィンドウを閉じます。
2. **管理コンソール > 割り当て > アクションの割り当て**タブに移動します。
    a. 仮想ドライブを割り当てるユーザーまたはユーザーグループをダブルクリックします。
    b. 仮想ドライブを選択し、右矢印 (>) をクリックして割り当てます。
    c. **フィルターとドライブ文字の割り当て**ウィンドウで、**常にTrue**を選択し、ドライブ文字を選択して、**OK**をクリックします。仮想ドライブは、**利用可能**ペインから**割り当て済み**ペインに移動します。

割り当てが有効になるまでには、**詳細設定 > 構成 > サービスオプション**タブで**SQL設定の更新遅延**に指定した値に応じて時間がかかる場合があります。必要に応じて、割り当てをすぐに有効にするには、次の手順を実行します。

1. **管理コンソール > 管理 > エージェント > 統計**タブに移動し、**更新**をクリックします。
2. エージェントを右クリックし、コンテキストメニューで「**Refresh Workspace Agent(s)**」を選択します。

フィールドとコントロール

タブ

名前。仮想ドライブリストに表示されるドライブの表示名。

説明。仮想ドライブに関する追加情報を指定できます。この情報は、編集ウィザードまたは作成ウィザードにのみ表示されます。

ターゲットパス。ユーザーの環境で解決される仮想ドライブへのパスを入力します。

仮想ドライブの状態。仮想ドライブを有効にするか無効にするかを切り替えます。無効にすると、ユーザーに割り当てられていてもエージェントはそれを処理しません。

ホームドライブとして設定。ホームドライブとして設定するかどうかを選択できます。

タブ

アクションの種類。このリソースがどのような種類のアクションであるかを説明します。

レジストリエントリ

レジストリエントリの作成を制御します。

> **ヒント:**
>
> 動的トークン(/ja-jp/workspace-environment-management/2308/reference/dynamic-tokens.html)を使用すると、Workspace Environment Managementアクションを拡張して、より強力にすることができます。

レジストリ値リスト

既存のレジストリエントリのリスト。**検索**を使用して、テキスト文字列に対して名前またはIDでリストをフィルタリングできます。

レジストリエントリを追加するには

1. コンテキストメニューの**追加**コマンドを使用します。
2. **新しいレジストリ値**ダイアログのタブに詳細を入力し、**OK**をクリックします。

フィールドとコントロール

名前。レジストリエントリリストに表示される、レジストリエントリの表示名。

説明。このフィールドは、編集/作成ウィザードでのみ表示され、リソースに関する追加情報を指定できます。

レジストリ値の状態。レジストリエントリが有効か無効かを切り替えます。無効にすると、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

ターゲットパス。レジストリエントリが作成されるレジストリの場所。Workspace Environment Managementは現在のユーザーのレジストリエントリのみを作成できるため、値の前

に%ComputerName%\HKEY_CURRENT_USERを付ける必要はありません。これは自動的に行われます。

ターゲット名。レジストリ値の名前。レジストリに表示されます（例：NoNtSecurity）。

ターゲットタイプ。作成されるレジストリエントリのタイプ。

ターゲット値。作成されたレジストリエントリの値（例: 0 または C:\Program Files）

一度実行。デフォルトでは、Workspace Environment Management™ はエージェントが更新されるたびにレジストリエントリを作成します。このチェックボックスをオンにすると、Workspace Environment Management はレジストリエントリを更新のたびに作成するのではなく、最初の更新時に一度だけ作成するようになります。これにより、特に多くのレジストリエントリがユーザーに割り当てられている場合に、エージェントの更新プロセスが高速化されます。

アクションの種類。このリソースがどのような種類のアクションであるかを説明します。

レジストリファイルのインポート

レジストリファイルを割り当て用のレジストリエントリに変換できます。この機能には次の制限があります。

- `HKEY_CURRENT_USER` の下のレジストリ値のみをサポートします。レジストリエントリ機能では、`HKEY_CURRENT_USER` の下のレジストリ設定のみを割り当てることができます。
- `REG_BINARY` および `REG_MULTI_SZ` の種類のレジストリ値はサポートしていません。

これらの制限を回避するには、**グループポリシー設定**の**レジストリファイルのインポート**オプションを使用して、レジストリファイルをWEMにインポートすることをお勧めします。詳細については、「レジストリファイルからグループポリシー設定をインポートする」を参照してください。

レジストリファイルをインポートするには、次の手順を実行します。

1. 管理コンソールで、**アクション > レジストリエントリ**に移動します。
2. リボンで、**レジストリファイルのインポート**をクリックします。
3. **レジストリファイルからインポート**ウィンドウで、レジストリファイルを参照します。
4. **スキャン**をクリックして、レジストリファイルのスキャンを開始します。スキャンが正常に完了すると、レジストリ設定のリストが表示されます。
5. インポートするレジストリ設定を選択し、**選択したものをインポート**をクリックしてインポートプロセスを開始します。
6. **OK**をクリックして終了します。

フィールドとコントロール

レジストリファイル名。**.reg**ファイルに移動して**開く**をクリックすると、自動的に入力されます。**.reg**ファイルには、WEMにインポートするレジストリ設定が含まれています。**.reg**ファイルは、インポートするレジストリ設定のみが適用されたクリーンな環境から生成されている必要があります。

スキャン。**.reg**ファイルをスキャンし、そのファイルに含まれるレジストリ設定のリストを表示します。

レジストリ値リスト。インポートする**.reg**ファイルに含まれるすべてのレジストリ値を一覧表示します。

インポートされたアイテムを有効にする。無効にすると、新しくインポートされたレジストリキーはデフォルトで無効になります。

インポートされたアイテム名にプレフィックスを付ける。選択すると、このウィザードを通じてインポートされたすべてのレジストリアイテムの名前にプレフィックスが追加されます（例：「XP ONLY」や「finance」）。これにより、レジストリエントリの識別と整理が容易になります。

> **注:**
>
> ウィザードは、同じ名前のレジストリエントリをインポートできません。**.reg**ファイルに同じ名前のレジストリエントリが複数含まれている場合（レジストリ値リストに表示されているとおり）、これらのエントリのいずれかを選択してインポートします。他のものをインポートしたい場合は、名前を変更してください。

環境変数

環境変数の作成を制御します。

> **ヒント**
>
> 動的トークン を使用して、Workspace Environment Management のアクションを拡張し、より強力にすることができます。

環境変数リスト

既存の環境変数の一覧です。**検索**を使用して、名前またはIDでテキスト文字列に対してリストをフィルタリングできます。

環境変数を追加するには

1. コンテキストメニューの**追加**コマンドを使用します。
2. **新しい環境変数**ダイアログのタブに詳細を入力し、**OK**をクリックします。

フィールドとコントロール

名前。環境変数リストに表示される変数の表示名です。

説明。このフィールドは、編集/作成ウィザードでのみ表示され、リソースに関する追加情報を指定できます。

環境変数の状態。環境変数が有効か無効かを切り替えます。無効の場合、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

変数名。環境変数の機能名です。

変数値。環境変数の値です。

アクションの種類。このリソースがどのような種類のアクションであるかを説明します。

実行順序。

ポート

ポート機能を使用すると、クライアントのCOMポートとLPTポートのマッピングが可能になります。Citrix Studioポリシーを使用して、COMポートとLPTポートの自動接続を有効にすることもできます。詳細については、「ポートリダイレクトポリシー設定」を参照してください。

ポート機能を使用して各ポートのマッピングを手動で制御する場合は、Citrix StudioでクライアントcomポートリダイレクトまたはクライアントLPTポートリダイレクトポリシーを有効にすることを忘れないでください。デフォルトでは、COMポートリダイレクトとLPTポートリダイレクトは禁止されています。

> **ヒント:**
>
> 動的トークンを使用して、Workspace Environment Managementアクションを拡張し、より強力にすることができます。

ポートリスト

既存のポートのリストです。**検索**を使用して、名前またはIDでリストをフィルタリングできます。

ポートを追加するには

1. コンテキストメニューから**追加**を選択します。
2. **新しいポート**ダイアログのタブに詳細を入力し、**OK**をクリックします。

フィールドとコントロール

名前。ポートリストに表示されるポートの表示名です。

説明。編集/作成ウィザードにのみ表示され、リソースに関する追加情報を指定できます。

ポートの状態。ポートが有効か無効かを切り替えます。無効の場合、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

ポート名。ポートの機能名です。

ポートターゲット。ターゲットポートです。

「オプション」タブ

アクションの種類。このリソースがどのような種類のアクションであるかを説明します。

たとえば、ポート設定は次のように構成できます。

- **ポート名**: 「COM3:」を選択します。
- **ポートターゲット**: `\\Client\COM3:` と入力します。

ポート設定(/en-us/workspace-environment-management/2308/media/wem-port-settings-example.png)

INI ファイル

.ini ファイル操作の作成を制御し、**.ini** ファイルを変更できるようにします。

> **ヒント:**
>
> より強力なものにするために、動的トークン を使用して Workspace Environment Management アクションを拡張できます。

INI ファイル操作リスト

既存の INI ファイル操作のリストです。**検索**を使用して、テキスト文字列に対して名前またはIDでリストをフィルタリングできます。

.ini ファイル操作を追加するには

1. コンテキストメニューの**追加**コマンドを使用します。
2. **新しいINIファイル操作**ダイアログのタブに詳細を入力し、**OK**をクリックします。

フィールドとコントロール

名前。**INIファイル操作**リストに表示される、.ini ファイル操作の表示名です。

説明。このフィールドは、編集/作成ウィザードでのみ表示され、リソースに関する追加情報を指定できます。

.ini ファイル操作の状態。.ini ファイル操作が有効か無効かを切り替えます。無効の場合、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

ターゲットパス。これは、ユーザーの環境で解決されるときに変更される.iniファイルの場所を指定します。

ターゲットセクション。これは、この操作のターゲットとなる.iniファイルのセクションを指定します。存在しないセクションを指定した場合、そのセクションが作成されます。

ターゲット値の名前。これは、追加される値の名前を指定します。

ターゲット値。これは値そのものを指定します。

一度実行。デフォルトでは、Workspace Environment Management™ はエージェントが更新されるたびに .ini ファイル操作を実行します。このチェックボックスをオンにすると、Workspace Environment Management は更新ごとにではなく、一度だけ操作を実行するようになります。これにより、特に多くの .ini ファイル操作がユーザーに割り当てられている場合に、エージェントの更新プロセスが高速化されます。

アクションの種類。このリソースがどのような種類のアクションであるかを記述します。

外部タスク

外部タスクの実行を制御します。外部タスクには、エージェントホストがそれらを実行するための対応するプログラムを持っている限り、スクリプトやアプリケーションの実行が含まれます。一般的に使用されるスクリプトには、**.vbs** および **.cmd** スクリプトがあります。

外部タスク機能を使用すると、外部タスクを実行するタイミングを指定できます。これにより、ユーザー環境をより効果的に管理できます。

> **ヒント:**
>
> 動的トークン を使用して、Workspace Environment Management のアクションを拡張し、より強力にすることができます。

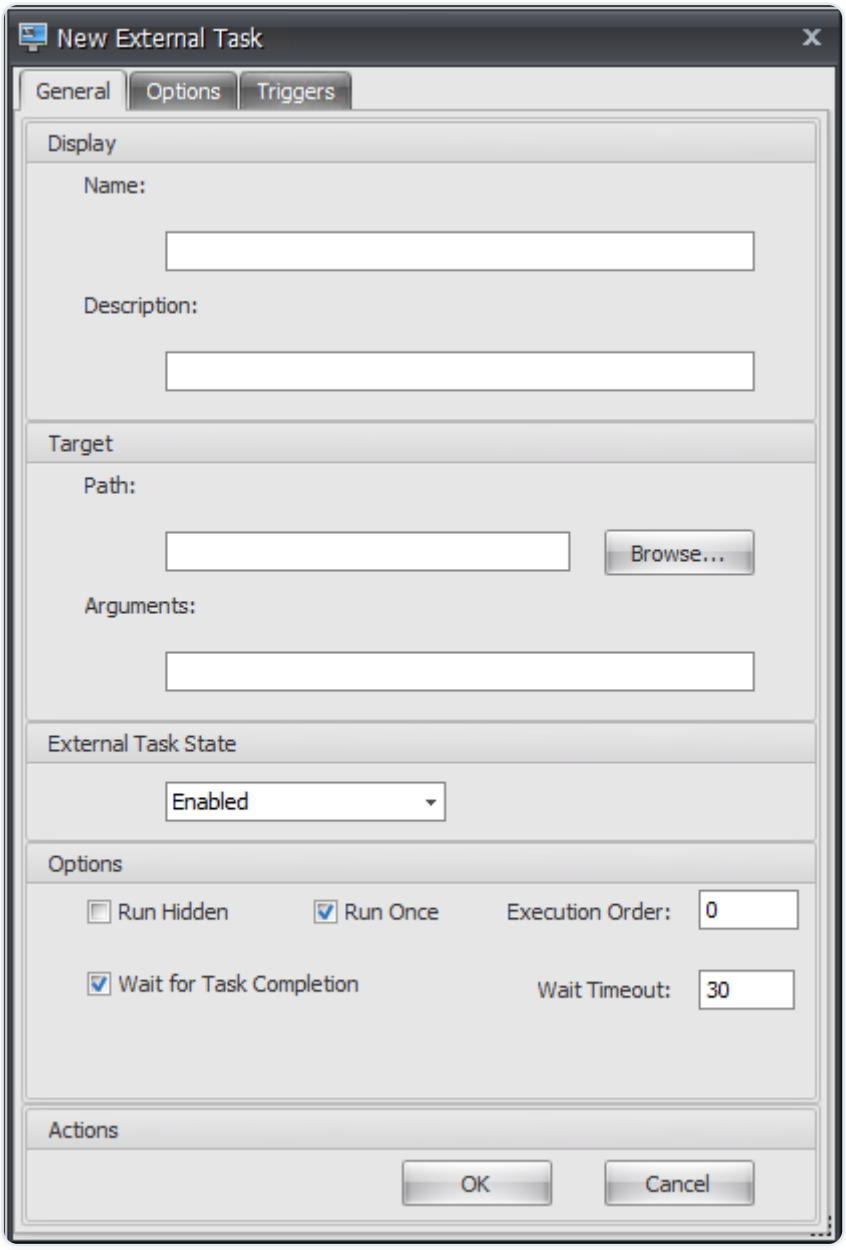
外部タスクリスト

既存の外部タスクのリストです。**検索**を使用してリストをフィルタリングできます。

外部タスクを追加するには

1. コンテキストメニューの**追加**コマンドを使用します。
2. **新しい外部タスク**ダイアログのタブに詳細を入力し、**OK**をクリックします。

フィールドとコントロール



名前。外部タスクの表示名を指定します。これは外部タスクリストに表示されます。

説明。外部タスクに関する追加情報を指定します。

パス。外部タスクへのパスを指定します。パスはユーザー環境で解決されます。以下を確認してください。

- ここで指定したパスがエージェントホストと一致していること。
- エージェントホストには、タスクを実行するための対応するプログラムがあります。

引数。起動パラメーターまたは引数を指定できます。文字列を入力できます。文字列には、ターゲットスクリプトまたはアプリケーションに渡す引数が含まれます。**パス**フィールドと**引数**フィールドの使用例については、「外部タスクの例」を参照してください。

外部タスクの状態。外部タスクを有効にするか無効にするかを制御します。無効にすると、タスクがユーザーに割り当てられていても、エージェントはタスクを処理しません。

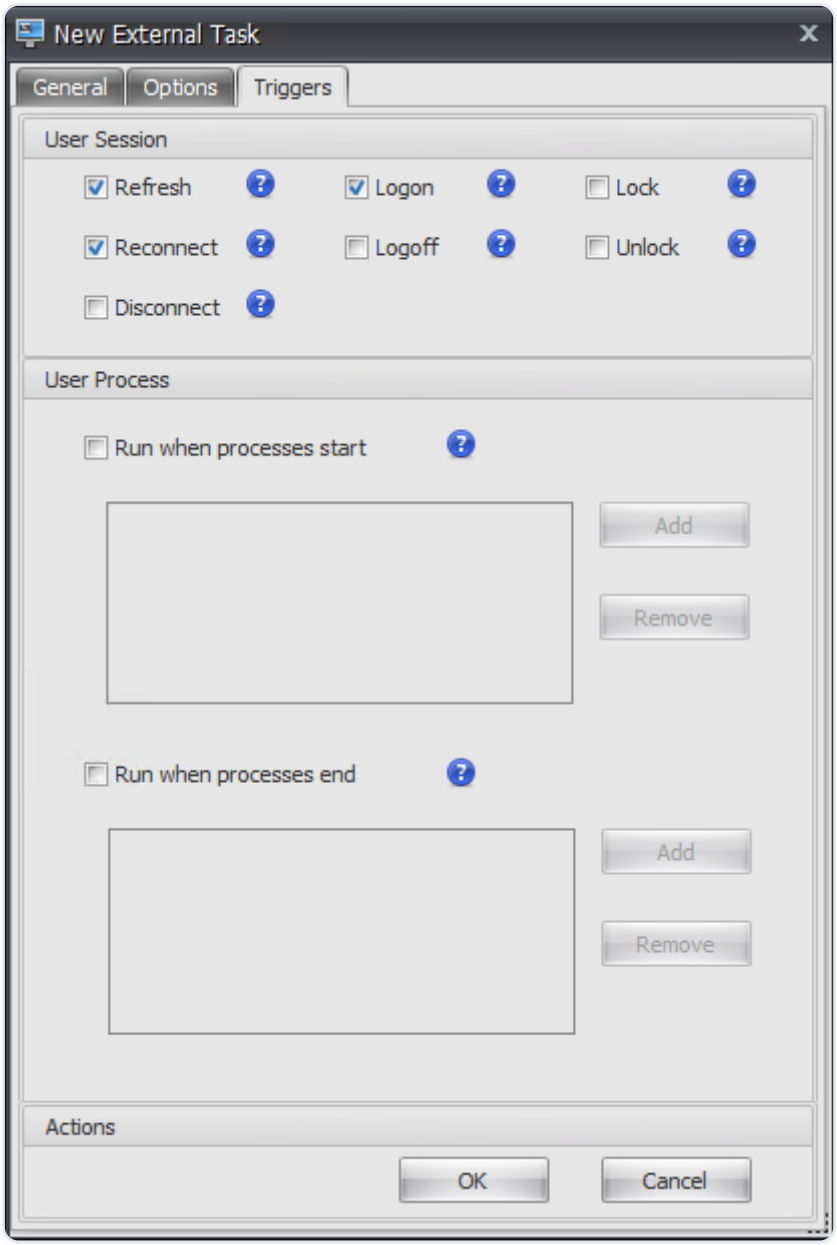
非表示で実行。選択すると、タスクはバックグラウンドで実行され、ユーザーには表示されません。

1回実行。選択すると、WEM は、**トリガー**タブでどのオプションを選択したか、およびエージェントが再起動するかどうかに関係なく、タスクを1回だけ実行します。デフォルトでは、このオプションが選択されています。

実行順序。各タスクの実行順序を指定できます。このオプションは、複数のタスクがユーザーに割り当てられており、それらのタスクの一部が他のタスクの正常な実行に依存している場合に役立ちます。デフォルトでは、値は0です。実行順序の値が0のタスクが最初に実行され、次に値が1のタスク、次に値が2のタスク、というように実行されます。

タスク完了を待機。エージェントがタスクの完了を待機する時間を指定できます。デフォルトでは、**待機タイムアウト**値は30秒です。

アクションの種類。外部タスクがどのような種類のアクションであるかを記述します。



ユーザーセッショントリガー。この機能を使用すると、次のセッションアクティビティを外部タスクのトリガーとして構成できます。

- **更新**。ユーザーがエージェントを更新したときに外部タスクを実行するかどうかを制御します。デフォルトでは、このオプションが選択されています。
- **再接続**。ユーザーがエージェントが実行されているマシンに再接続したときに外部タスクを実行するかどうかを制御します。デフォルトでは、このオプションが選択されています。WEM エージェントが物理 Windows デバイスにインストールされている場合、このオプションは適用されません。
- **ログオン**。ユーザーがログオンしたときに外部タスクを実行するかどうかを制御します。デフォルトでは、このオプションが選択されています。

- **ログオフ**。ユーザーがログオフしたときに外部タスクを実行するかどうかを制御します。このオプションは、Citrix User Logon Service が実行されていない限り機能しません。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。
- **切断**。ユーザーがエージェントが実行されているマシンから切断したときに外部タスクを実行するかどうかを制御します。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。
- **ロック**。エージェントが実行されているマシンをユーザーがロックしたときに、外部タスクを実行するかどうかを制御します。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。
- **ロック解除**。エージェントが実行されているマシンのロックをユーザーが解除したときに、外部タスクを実行するかどうかを制御します。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。

切断、ロック、ロック解除のオプションを使用する場合は、次の制約事項を考慮してください。

- これらのオプションの実装は、Windowsイベントに基づいています。一部の環境では、これらのオプションが期待どおりに機能しない場合があります。たとえば、Windows 10またはWindows 11シングルセッションVDAで実行されているデスクトップでは、切断オプションは機能しません。代わりに、ロックオプションを使用してください。（このシナリオでは、受信するアクションは「ロック」です。）
- これらのオプションはUIエージェントと組み合わせて使用することをお勧めします。理由は2つあります。
    - CMDエージェントでオプションを使用すると、対応するイベントが発生するたびにエージェントがユーザー環境で起動し、外部タスクが実行されるかどうかを確認します。
    - CMDエージェントは、同時タスクのシナリオでは最適に機能しない可能性があります。

ユーザープロセス起動トリガー。この機能を使用すると、ユーザープロセスを外部タスクのトリガーとして構成できます。この機能を使用すると、特定のプロセスが実行されている場合にのみリソースを供給し、プロセスが終了したときにそれらのリソースを取り消すように外部タスクを定義できます。プロセスを外部タスクのトリガーとして使用すると、ログオン時またはログオフ時に外部タスクを処理する場合と比較して、ユーザー環境をより正確に管理できます。

- この機能を使用する前に、次の前提条件が満たされていることを確認してください。
    - WEMエージェントがUIモードで起動および実行されていること。
    - 指定されたプロセスが、ログオンしているユーザーと同じユーザーセッションで実行されていること。

- 構成された外部タスクを最新の状態に保つには、**［Advanced Settings］>［Configuration］>［Advanced Options］タブで［Enable Automatic Refresh］**を必ず選択してください。

- **プロセス開始時に実行**。指定されたプロセスが開始したときに外部タスクを実行するかどうかを制御します。
- **プロセス終了時に実行**。指定されたプロセスが終了したときに外部タスクを実行するかどうかを制御します。

トラブルシューティング

この機能を有効にすると、ユーザーが最初にログオフしたときに、WEMエージェントによって `Citrix WEM Agent Logoff.log` という名前のログファイルが作成されます。ログファイルはユーザーのプロファイルルートフォルダーにあります。WEMエージェントは、ユーザーがログオフするたびにログファイルに情報を書き込みます。この情報は、外部タスクに関連する問題を監視およびトラブルシューティングするのに役立ちます。

外部タスクの例

スクリプトの場合（例：PowerShellスクリプト）：

- フォルダーパスもスクリプト名も空白を含まない場合：
  - 「**パス**」フィールドに、以下を入力します: `C:\Windows\System32\WindowsPowerShell\v1.0\powershell.exe`。
  - 「**引数**」フィールドに、以下を入力します: `C:\<folder path>\<script name>.ps1`。

  または、「**パス**」フィールドにスクリプトファイルへのパスを直接入力することもできます。例: `C:\<folder path>\<script name>.ps1`。「**引数**」フィールドには、必要に応じて引数を指定します。ただし、スクリプトファイルが実行されるか、別のプログラムで開かれるかは、ユーザー環境で構成されているファイルの種類に関連付けによって異なります。ファイルの種類に関連付けの詳細については、「ファイル関連付け」を参照してください。
- フォルダーパスまたはスクリプト名に空白が含まれる場合：
  - 「**パス**」フィールドに、以下を入力します: `C:\Windows\System32\WindowsPowerShell\v1.0\powershell.exe`。
  - 「**引数**」フィールドに、以下を入力します: `-file C:\<folder path>\<script name>.ps1`。

アプリケーションの場合（例：iexplore.exe）：

- 「**パス**」フィールドに、以下を入力します: `C:\Program Files\"Internet Explorer"\iexplore.exe`。
- 「**引数**」フィールドに、開くWebサイトのURLを入力します: `https://docs.citrix.com/`。

ファイルシステム操作

ユーザーの環境へのフォルダーとファイルのコピーを制御します。

> **ヒント:**
>
> 動的トークン を使用して、Workspace Environment Management のアクションを拡張し、より強力にすることができます。

ファイルシステム操作リスト

既存のファイルおよびフォルダー操作のリストです。**検索**を使用して、テキスト文字列に対して名前またはIDでリストをフィルターできます。

ファイルシステム操作を追加するには

1. コンテキストメニューの**追加**コマンドを使用します。
2. **新しいファイルシステム操作**ダイアログのタブに詳細を入力し、**OK**をクリックします。

フィールドとコントロール

名前。リストに表示されるファイルまたはフォルダー操作の表示名です。

説明。リソースに関する追加情報を指定できます。このフィールドは、編集または作成ウィザードにのみ表示されます。

ファイルシステム操作の状態。ファイルシステム操作が有効か無効かを制御します。無効になっている場合、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

ソースパス。コピーされるソースファイルまたはフォルダーへのパスです。

ターゲットパス。コピーされるソースファイルまたはフォルダーの宛先パスです。

既存の場合にターゲットを上書き。ファイルまたはフォルダー操作が、ターゲットの場所に同じ名前の既存のファイルまたはフォルダーを上書きするかどうかを制御します。このオプションが

オフで、ターゲットの場所に同じ名前のファイルまたはフォルダーが既に存在する場合、影響を受けるファイルはコピーされません。

一度実行。デフォルトでは、Workspace Environment Management™ はエージェントが更新されるたびにファイルシステム操作を実行します。このオプションを選択すると、Workspace Environment Management は更新ごとにではなく、一度だけ操作を実行します。これにより、特に多くのファイルシステム操作がユーザーに割り当てられている場合に、エージェントの更新プロセスが高速化されます。

アクションの種類。このファイルまたはフォルダーのアクションがどのような種類のアクションであるかを記述します: **コピー**、**削除**、**移動**、**名前の変更**、または**シンボリックリンク**操作。シンボリックリンクを作成するには、Windowsでシンボリックリンクの作成を許可するために、ユーザーに`SeCreateSymbolicLinkPrivilege`特権を付与する必要があります。

実行順序。操作の実行順序を決定し、特定の操作を他の操作より先に実行できるようにします。実行順序の値が0の操作が最初に実行され、次に値が1の操作、次に値が2の操作、というように続きます。

ユーザー DSN

ユーザーDSNの作成を制御します。

> **ヒント:**
>
> 動的トークン を使用して、Workspace Environment Managementアクションを拡張し、より強力にすることができます。

ユーザーDSNリスト

既存のユーザーDSNのリストです。**検索**を使用して、テキスト文字列に対して名前またはIDでリストをフィルタリングできます。

ユーザーDSNを追加するには

1. コンテキストメニューの**追加**コマンドを使用します。
2. **新しいユーザーDSN**ダイアログのタブに詳細を入力し、**OK**をクリックします。

フィールドとコントロール

名前。ユーザーDSNリストに表示される、ユーザーDSNの表示名です。

説明。このフィールドは、編集/作成ウィザードでのみ表示され、リソースに関する追加情報を指定できます。

ユーザーDSNの状態。ユーザーDSNが有効か無効かを切り替えます。無効になっている場合、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

DSN名。ユーザーDSNの機能名です。

ドライバー。DSNドライバーです。現在、SQL Server DSNのみがサポートされています。

サーバー名。ユーザーDSNが接続するSQLサーバーの名前です。

データベース名。ユーザーDSNが接続するSQLデータベースの名前です。

特定の資格情報を使用して接続。サーバー/データベースに接続するための資格情報を指定できます。

一度実行。デフォルトでは、Workspace Environment Management™ はエージェントが更新されるたびにユーザーDSNを作成します。このチェックボックスをオンにすると、Workspace Environment Management はユーザーDSNを更新のたびにではなく、一度だけ作成するようになります。これにより、特に多くのDSNがユーザーに割り当てられている場合に、エージェントの更新プロセスが高速化されます。

アクションの種類。このリソースがどのような種類のアクションであるかを説明します。

ファイル関連付け

> **重要：**

> 構成したファイルタイプの関連付けは、自動的に既定の関連付けになります。ただし、該当するファイルを開くと、「このファイルを開く方法を選んでください」というウィンドウが表示され、ファイルを開くアプリケーションを選択するよう求められる場合があります。ウィンドウを閉じるには、**OK**をクリックします。同様のウィンドウを再度表示させたくない場合は、次の手順を実行します。グループポリシーエディターを開き、「**新しいアプリケーションがインストールされた通知を表示しない**」ポリシー（**コンピューターの構成 > 管理用テンプレート > Windows コンポーネント > エクスプローラー**）を有効にします。

> ユーザー環境でのファイルタイプの関連付けの作成を制御します。

> **ヒント:**
>
> 動的トークンを使用すると、Workspace Environment Managementのアクションを拡張して、より強力にすることができます。

ファイル関連付けリスト

既存のファイル関連付けのリストです。**検索**を使用して、名前またはIDでリストをフィルタリングできます。

ファイル関連付けを追加するには

1. コンテキストメニューの**追加**コマンドを使用します。
2. **新しいファイル関連付け**ダイアログのタブに詳細を入力し、**OK**をクリックします。

名前。ファイル関連付けリストに表示される、ファイル関連付けの表示名です。

説明。このフィールドは、編集/作成ウィザードでのみ表示され、リソースに関する追加情報を指定できます。

ファイル関連付けの状態。ファイル関連付けを有効にするか無効にするかを切り替えます。無効にすると、ユーザーに割り当てられていてもエージェントによって処理されません。

ファイル拡張子。このファイルタイプ関連付けに使用される拡張子です。リストからファイル名拡張子を選択すると、**ProgID**フィールドが自動的に入力されます（管理コンソールが実行されているマシンにファイルタイプが存在する場合）。拡張子を直接入力することもできます。ただし、ブラウザの関連付けの場合、拡張子を直接入力する*必要があります*。詳細については、「ブラウザの関連付け」を参照してください。

ProgID。アプリケーション（COM）に関連付けられたプログラム識別子です。この値は、リストからファイル拡張子を選択すると自動的に入力されます。ProgIDを直接入力することもできます。インストールされているアプリケーションのProgIDを検出するには、OLE/COM Object Viewer（oleview.exe）を使用し、「Object Classes/Ole 1.0 Objects」を参照してください。ProgIDの詳細については、「プログラム識別子（ProgID）」を参照してください。

アクション。アクションタイプ（開く、編集、印刷）を選択できます。

ターゲットアプリケーション。このファイル名拡張子で使用される実行可能ファイルを指定できます。実行可能ファイルのフルパスを入力します。たとえば、UltraEdit Text Editor の場合：`C:\Program Files\IDM Computer Solutions\UltraEdit\uedit64.exe`

コマンド。実行可能ファイルに関連付けるアクションの種類を指定できます。例：

- 開くアクションの場合、`“%1”`と入力します。
- 印刷アクションの場合、`/p"%1"`と入力します。

デフォルトアクションとして設定。そのファイル名拡張子のデフォルトとして関連付けを設定するかどうかを切り替えます。

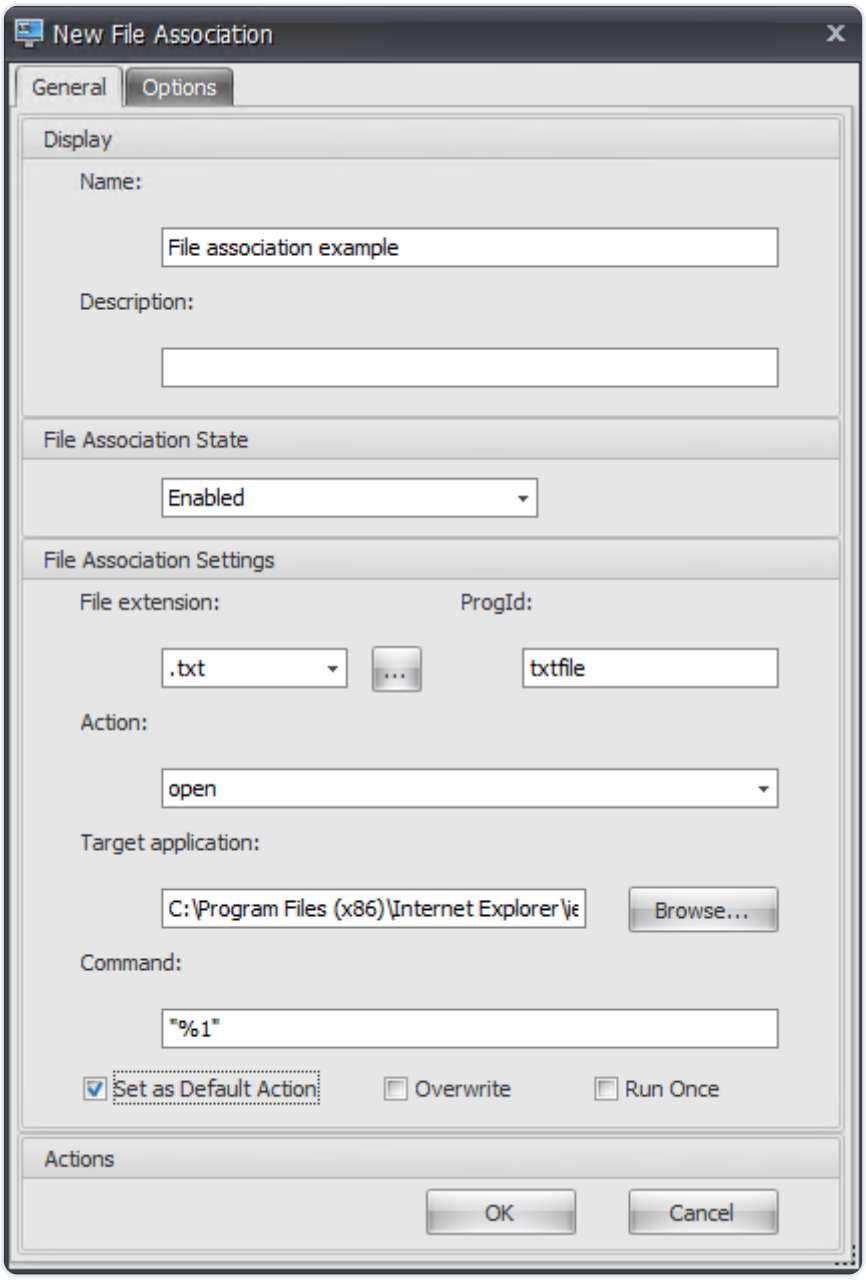
上書き。このファイル関連付けが、指定された拡張子の既存の関連付けを上書きするかどうかを切り替えます。

1回実行。デフォルトでは、Workspace Environment Management™ (WEM) はエージェントが更新されるたびにファイル関連付けを作成します。このオプションを選択すると、更新ごとにではなく、ファイル関連付けが1回だけ作成されます。これにより、特に多くのファイル関連付けがユーザーに割り当てられている場合に、エージェントの更新プロセスが高速化されます。

アクションの種類。このリソースがどのような種類のアクションであるかを説明します。

たとえば、ユーザーが選択したプログラム（ここでは iexplore.exe）でテキストファイル（.txt）を自動的に開くように、新しいファイルタイプ関連付けを追加するには、次の手順を実行します。

1. **管理コンソール \> アクション \> ファイル関連付け \> ファイル関連付けリスト**タブで、**追加**をクリックします。
2. **新しいファイル関連付け**ウィンドウで、情報を入力し、**OK**をクリックします。



- **ファイル関連付けの状態**。**有効**を選択します。
- **ファイル拡張子**。ファイル名拡張子を入力します。この例では、「.txt」と入力します。
- **アクション**。**開く**を選択します。
- **ターゲットアプリケーション**。**参照**をクリックして、該当する実行可能ファイル（.exeファイル）に移動します。この例では、C:\Program Files (x86)\Internet Explorerフォルダーにあるiexplore.exeを参照します。
- **コマンド**。「%1」と入力し、%1を二重引用符で囲んでください。
- **既定のアクションとして設定**を選択します。

3. **管理コンソール \> 割り当て \> アクションの割り当て**タブに移動します。
4. アクションを割り当てるユーザーまたはユーザーグループをダブルクリックします。

5. **管理コンソール \> 管理 \> エージェント \> 統計**タブに移動し、**更新**をクリックします。
6. エージェントを右クリックし、コンテキストメニューで**ワークスペースエージェントの更新**を選択します。
7. エージェントが実行されているマシン（ユーザー環境）に移動し、作成されたファイルの種類関連付けが機能することを確認します。

この例では、エンドユーザー環境で.txt拡張子のファイルをダブルクリックすると、そのファイルは自動的にInternet Explorerで開きます。

知っておくと良いこと

ブラウザーの関連付け

WEMは、次のブラウザーの関連付けの作成をサポートしています。

- グーグル クローム
- Firefox (ファイアフォックス)
- Opera (オペラ)
- Internet Explorer (IE) (インターネット エクスプローラー (IE))
- マイクロソフト エッジ
- Microsoft Edge Chromium (マイクロソフト エッジ クロミウム)

ブラウザの関連付けを作成する際は、次の点に注意してください。

- 「**ファイル拡張子**」フィールドに、`http` または `https` と入力します。
- 「**ProgID**」フィールドに、選択に応じて以下を入力します（大文字と小文字を区別します）。
  - Google Chrome の場合は `ChromeHTML`
  - Firefox の場合は `firefox`
  - Opera の場合は `OperaStable`
  - Internet Explorer (IE) の場合は `IE`
  - Microsoft Edge の場合は `edge`
  - Microsoft Edge Chromium の場合は `edge` または `MSEdgeHTM`

プログラム識別子 (ProgID)

「**アクション**」、「**ターゲットアプリケーション**」、「**コマンド**」の各フィールドに入力する必要はなくなりました。正しい **ProgID** を指定できる限り、これらのフィールドは空のままで構いません。一般的なアプリケーションの ProgID のリストを以下に示します。

- Acrobat Reader DC (アクロバットリーダーDC): `AcroExch.Document.DC`
- Opera ブラウザ: `OperaStable`
- Google Chrome ブラウザ: `ChromeHTML`
- Internet Explorer (インターネットエクスプローラー): `htmlfile`
- ワードパッド: `textfile`
- メモ帳: `txtfile`
- マイクロソフト Word 2016: `Word.Document.12`
- マイクロソフト PowerPoint 2016: `PowerPoint.Show.12`
- マイクロソフト Excel 2016: `Excel.Sheet.12`
- マイクロソフト Visio 2016: `Visio.Drawing.15`
- マイクロソフト Publisher 2016: `Publisher.Document.16`

ただし、次の場合はフィールド (**アクション**、**ターゲットアプリケーション**、および**コマンド**) を入力する必要があります。

- 正しい**ProgID**を提供できない。
- ターゲットアプリケーション (たとえば、UltraEdit Text Editor) がインストール中に独自のProgIDをレジストリに登録しない。

フィルター

フィルターには、ユーザーがアクションを利用できるようにする（アクションを割り当てる）ためのルールと条件が含まれています。ユーザーにアクションを割り当てる前に、ルールと条件を設定してください。

ルール

ルールは複数の条件で構成されます。ルールを使用して、アクションがユーザーに割り当てられるタイミングを定義します。

フィルター規則リスト

既存のルールの一覧です。**検索**を使用して、テキスト文字列に対して名前またはIDでリストをフィルターできます。

フィルター規則を追加するには

1. コンテキストメニューの**追加**コマンドを使用します。
2. **新しいフィルター規則**ダイアログに詳細を入力します。
3. このルールで構成したい条件を、**利用可能**リストから**構成済み**リストに移動します。
4. **OK**をクリックします。

フィールドとコントロール

名前。ルールリストに表示されるルールの表示名です。

説明。このフィールドは、編集/作成ウィザードでのみ表示され、ルールに関する追加情報を指定できます。

フィルター規則の状態。ルールが有効か無効かを切り替えます。無効の場合、エージェントは、割り当てられていてもこのルールを使用するアクションを処理しません。

利用可能な条件。これらは、ルールに追加できるフィルター条件です。注：**DateTime**フィルターは、`YYYY/MM/DD HH:mm`の形式で結果を期待します。

複数の値はセミコロン (;) で区切ることができ、範囲はハイフンで区切ることができます。同じ日付の2つの時刻間の範囲を指定する場合、日付は範囲の両端に含める必要があります。例: 1969/12/31 09:00-1969/12/31 17:00

構成済みの条件。これらは、すでにルールに追加されている条件です。

> **注:**
>
> これらの条件は**AND**ステートメントであり、**OR**ステートメントではありません。複数の条件を追加する場合、フィルターがトリガーされたと見なされるには、すべての条件がトリガーされる必要があります。

条件

条件とは、エージェントがユーザーにリソースを割り当てる状況を構成できる特定のトリガーです。

フィルター条件リスト

既存の条件のリストです。**検索**を使用して、テキスト文字列に対して名前またはIDでリストをフィルターできます。

フィルター条件を追加するには

1. コンテキストメニューの**追加**コマンドを使用します。
2. **新しいフィルター条件**ダイアログのタブに詳細を入力し、**OK**をクリックします。

フィールドとコントロール

名前。条件リストおよびルール作成/編集ウィザードに表示される条件の表示名です。

説明。このフィールドは編集/作成ウィザードでのみ表示され、条件に関する追加情報を指定できます。

フィルター条件の状態。フィルターが有効か無効かを切り替えます。無効の場合、ルール作成/編集ウィザードには表示されません。

フィルター条件の種類。使用するフィルター条件の種類です。フィルター条件を参照してください。注: 常にTrue条件を使用するルールは常にトリガーされます。

設定。これらは個々の条件の特定の設定です。フィルター条件を参照してください。

> **注:**

> IPアドレスを入力する際、個々のアドレスまたは範囲を指定できます。

> 範囲を指定する場合、両方の境界を完全に指定する必要があります。IP範囲の境界を区切るには、ダッシュ文字 (-) を使用します (例: **192.168.10.1-5**)。複数の範囲またはアドレスを区切るには、セミコロン文字 (;) を使用します。たとえば、**192.168.10.1-5;8-10;17** は有効な値であり、範囲 **.1-.5** と **.8-.10**、および個々のアドレス **.17** が含まれます。

割り当て

> **ヒント:**

> ユーザーにアクションを割り当てる前に、次の手順を記載されている順序で実行します。

- ユーザーを構成します。「Active Directory オブジェクト」のユーザーを参照してください。
- 条件を定義します。条件を参照してください。
- フィルター規則を定義します。規則を参照してください。
- アクションを構成します（ここに記載）。

割り当てを使用して、ユーザーがアクションを利用できるようにします。これにより、ユーザーのログオンスクリプトの一部を置き換えることができます。

アクションの割り当て

ユーザー

これは、構成済みのユーザーとグループのリストです（「Active Directory オブジェクト」のユーザーを参照）。ユーザーまたはグループをダブルクリックして、割り当てメニューに表示します。**検索**を使用して、名前またはIDでリストをフィルター処理します。

ヒント:

Active Directory のすべてのユーザーにアクションを割り当てるのを簡単にするには、「Everyone」デフォルトグループを使用してアクションを割り当てます。「Everyone」デフォルトグループに割り当てたアクションは、個々のユーザーの**アクションモデリングウィザード**の**結果のアクション**タブには表示されません。たとえば、「Everyone」デフォルトグループに action1 を割り当てた後、action1 が**結果のアクション**タブに表示されない場合があります。

割り当て

選択したユーザーまたはグループにアクションを割り当てることができます。**検索**を使用して、名前またはIDでリストをフィルター処理します。

利用可能。このユーザーまたはグループに割り当てることができるアクションを表示します。

アクションをダブルクリックするか、矢印ボタンをクリックして、割り当てまたは割り当て解除を行います。アクションを割り当てると、そのアクションをコンテキスト化するための規則を選択するよう求められます。

割り当て済み。このユーザーまたはグループにすでに割り当てられているアクションを表示します。個々のアクションを展開して構成できます（アプリケーションショートカットの場所、デフォルトプリンター、ドライブ文字など）。

ユーザー/グループにアクションを割り当てるには

1. **ユーザー**リストで、ユーザーまたはグループをダブルクリックします。これにより、割り当てリストが入力されます。
2. **利用可能**リストで、アクションを選択し、右矢印 (**>**) ボタンをクリックします。
3. **フィルターの割り当て**ダイアログで、**フィルター ルール**を選択し、**OK**をクリックします。
4. **割り当て済み リスト**では、**有効化**および**無効化**のコンテキストアクションを使用して、割り当ての動作を微調整できます。

> **注:**
>
> **スタートメニューにピン留め**オプションが機能するためには、アプリケーションのショートカットがスタートメニューフォルダに存在することを確認してください。不明な場合は、**スタートメニューを作成**オプションも有効にしてください。

> たとえば、メモ帳を起動するアクションを割り当てるとします。割り当て済みリストでは、「自動起動」オプションが提供され、デフォルトで「無効」に設定されています。**有効化**オプションを使用して自動起動を有効にすると、ユーザーが公開デスクトップセッションを起動したときにメモ帳（VDA上のローカルメモ帳）が自動的に起動します（デスクトップの読み込みが完了すると、ローカルメモ帳が自動的に起動します）。

モデリングウィザード

アクションモデリングウィザードは、特定のユーザーの結果アクションのみを表示します（グループには機能しません）。

フィールドとコントロール

アクションモデリングターゲットユーザー。モデル化したいユーザーのアカウント名。

結果アクション。ユーザーまたはユーザーが属するグループに割り当てられたアクション。

ユーザーグループ。ユーザーが属するグループ。

システム最適化

Workspace Environment Management™ のシステム最適化は、以下の要素で構成されています。

- CPU管理(/ja-jp/workspace-environment-management/2308/user-interface-description/system-optimization/cpu-management.html)
- メモリ管理(/ja-jp/workspace-environment-management/2308/user-interface-description/system-optimization/memory-management.html)
- I/O管理(/ja-jp/workspace-environment-management/2308/user-interface-description/system-optimization/io-management.html)
- 高速ログオフ(/ja-jp/workspace-environment-management/2308/user-interface-description/system-optimization/fast-logoff.html)
- シトリックス オプティマイザー

これらの設定は、エージェントホストのリソース使用量を削減するように設計されています。これにより、解放されたリソースが他のアプリケーションで利用可能になることを保証するのに役立ちます。そうすることで、同じサーバーでより多くのユーザーをサポートし、ユーザー密度を向上させます。

システム最適化の設定はマシンベースであり、すべてのユーザーセッションに適用されますが、プロセス最適化はユーザー中心です。これは、あるプロセスがユーザーAのセッションでCPUスパイク保護をトリガーした場合、そのイベントはユーザーAに対してのみ記録されることを意味します。ユーザーBが同じプロセスを開始した場合、プロセス最適化の動作は、ユーザーBのセッションにおけるプロセストリガーによってのみ決定されます。

CPU管理

これらの設定により、CPU使用率を最適化できます。

CPU管理設定

プロセスはすべてのコアで実行でき、必要なだけCPUを使用できます。Workspace Environment Management™ (WEM) の**CPU管理設定**では、個々のプロセスが使用できるCPU容量を制限できます。CPUスパイク保護は、CPU使用率全体を削減するようには設計されていません。CPU使用率の過剰な割合を消費するプロセスによるユーザーエクスペリエンスへの影響を軽減するように設計されています。

CPUスパイク保護が有効になっている場合、プロセスが指定されたしきい値に達すると、WEMは一定期間、そのプロセスの優先度を自動的に下げます。その後、新しいアプリケーションが起動

されると、優先度が低いプロセスよりも高い優先度を持つため、システムはスムーズに動作し続けます。

CPUスパイク保護は、各プロセスを迅速な「スナップショット」で検査します。プロセスの平均負荷が指定されたサンプル時間に対して指定された使用制限を超えると、その優先度は直ちに低下します。指定された時間が経過すると、プロセスのCPU優先度は以前の値に戻ります。プロセスは「スロットリング」されません。**CPUクランプ**とは異なり、優先度のみが低下します。

CPUスパイク保護は、個々のプロセスの少なくとも1つのインスタンスがしきい値を超えるまでトリガーされません。つまり、CPU消費量全体が指定されたしきい値を超えても、少なくとも1つのプロセスインスタンスがしきい値を超えない限り、CPUスパイク保護はトリガーされません。ただし、そのプロセスインスタンスがCPUスパイク保護をトリガーすると、「インテリジェントCPU最適化を有効にする」オプションが有効になっている場合、同じプロセスの新しいインスタンスは（CPU）最適化されます。

特定のプロセスがCPUスパイク保護をトリガーするたびに、そのイベントはエージェントのローカルデータベースに記録されます。エージェントは、各ユーザーのトリガーイベントを個別に記録します。これは、user1の特定のプロセスに対するCPU最適化が、user2の同じプロセスの動作に影響を与えないことを意味します。

たとえば、Internet ExplorerがCPUの50～60%を消費することがある場合、CPUスパイク保護を使用して、VDAのパフォーマンスを脅かすiexplore.exeインスタンスのみをターゲットにすることができます。（対照的に、CPUクランプはすべてのプロセスに適用されます。）

同じVDAにログオンしている他のユーザーに影響を与えない、環境に最適な値を決定するために、サンプル時間を試してみることをお勧めします。

CPUスパイク保護

> **注:**
>
> - 以下の設定における「CPU使用率」は、物理マシンまたは仮想マシンの「論理プロセッサ」に基づいています。CPUの各コアは、Windowsと同様に論理プロセッサと見なされます。たとえば、6コアCPUを1つ搭載した物理マシンは、12個の論理プロセッサを持つと見なされます（ハイパースレッディングテクノロジーによりコアが2倍になるため）。12コアのCPUを8個搭載した物理マシンには、96個の論理プロセッサがあります。4コアCPUを2個搭載するように構成されたVMには、8個の論理プロセッサがあります。

- 仮想マシンにも同じことが当てはまります。たとえば、12コアのCPUを8個搭載した物理マシン（論理プロセッサ96個）があり、4つのマルチセッションOS VDA VMをサポートしているとします。各VMは4コアCPUを2個搭載するように構成されています（論理プロセッサ8個）。VMでCPUスパイク保護をトリガーするプロセスがそのコアの半分を使用するように制限するには、**CPUコア使用率の制限**を4（VMの論理プロセッサの半分）に設定し、48（物理マシンの論理プロセッサの半分）には設定しません。

CPUスパイク保護を有効にする。プロセスが一定期間（**アイドル優先度時間**フィールドで指定）に指定されたCPU使用率を超えた場合、そのプロセスのCPU優先度を一定期間（**サンプル時間制限**フィールドで指定）低下させます。

- **CPUスパイクの自動防止**。このオプションを使用して、CPUに過負荷をかけるプロセスのCPU優先度を自動的に下げます。このオプションは、論理プロセッサ（CPUコア）の数に基づいて、CPUスパイク保護をトリガーするしきい値を自動的に計算します。たとえば、4コアの場合、このオプションを有効にすると、全体のCPU使用率が23%を超えた場合、全体のCPUリソースの15%以上を消費するプロセスのCPU優先度が自動的に低下します。同様に、8コアの場合、全体のCPU使用率が11%を超えた場合、CPUリソースの8%以上を消費するプロセスのCPU優先度が自動的に低下します。
- **CPUスパイク保護のカスタマイズ**。CPUスパイク保護の設定をカスタマイズできます。
  - **CPU使用率の制限**。CPUスパイク保護をトリガーするために、任意のプロセスインスタンスが到達しなければならないCPU使用率の割合。この制限は、サーバー内のすべての論理プロセッサにわたってグローバルであり、インスタンスごと、プロセスごとに決定されます。同じプロセスの複数のインスタンスは、CPUスパイク保護のトリガーを決定する際に、CPU使用率が加算されることはありません。プロセスインスタンスがこの制限に達しない場合、CPUスパイク保護はトリガーされません。たとえば、Server VDAで、複数の同時セッションにおいて、多数のiexplore.exeインスタンスがあるとします。各インスタンスは一定期間、CPU使用率が約35%に達するため、累積的にiexplore.exeは常に高いCPU使用率を消費しています。しかし、CPU使用率の制限を35%以下に設定しない限り、CPUスパイク保護はトリガーされません。
  - **サンプル時間の制限**。プロセスのCPU優先度が下げられる前に、そのプロセスがCPU使用率の制限を超過し続けなければならない時間。
  - **アイドル優先度時間**。プロセスのCPU優先度が下げられる時間。その時間が経過すると、優先度は次のいずれかに戻ります。

- プロセス優先度が「**CPU優先度**」タブで指定されておらず、「**インテリジェントCPU最適化を有効にする**」オプションが選択されていない場合、デフォルトレベル（**通常**）。
- 「**インテリジェントCPU最適化を有効にする**」オプションが選択されているかどうかにかかわらず、プロセス優先度が「**CPU優先度**」タブで指定されている場合、指定されたレベル。
- プロセスの動作に応じてランダムなレベル。このケースは、プロセス優先度が「**CPU優先度**」タブで指定されておらず、「**インテリジェントCPU最適化を有効にする**」オプションが選択されている場合に発生します。プロセスがCPUスパイク保護をトリガーする頻度が高いほど、そのCPU優先度は低くなります。

CPUコア使用率の制限を有効にする。CPUスパイク保護をトリガーするプロセスを、マシン上の指定された数の論理プロセッサに制限します。1からXまでの整数を入力します。Xはコアの総数です。Xより大きい整数を入力した場合、WEMはデフォルトで分離されたプロセスの最大消費量をXに制限します。

- **CPUコア使用率の制限**。CPUスパイク保護をトリガーするプロセスが制限される論理プロセッサの数を指定します。VMの場合、入力した値は、基盤となる物理ハードウェアではなく、VM内の論理プロセッサの数にプロセスを制限します。

インテリジェントCPU最適化を有効にする。有効にすると、エージェントはCPUスパイク保護をトリガーするプロセスのCPU優先度をインテリジェントに最適化します。CPUスパイク保護を繰り返しトリガーするプロセスには、正常に動作するプロセスよりも起動時に段階的に低いCPU優先度が割り当てられます。WEMは、以下のシステムプロセスに対してCPU最適化を実行しないことに注意してください。

- タスクマネージャー
- システムアイドルプロセス
- システム
- サービスホスト
- LSASS
- ウィンイニット
- サービス
- シーエスアールエス
- オーディオディーシー
- MsMpEng

- NisSrv
- エムエスコーアエスブイダブリュー
- ヴイエムウェアレゾリューションセット

インテリジェントI/O最適化を有効にする。有効にすると、エージェントはCPUスパイク保護をトリガーするプロセスのプロセスI/O優先度をインテリジェントに最適化します。CPUスパイク保護を繰り返しトリガーするプロセスには、正常に動作するプロセスよりも起動時に段階的に低いI/O優先度が割り当てられます。

指定されたプロセスを除外する。デフォルトでは、WEM CPU管理は、最も一般的なCitrixおよびWindowsコアサービスプロセスをすべて除外します。ただし、このオプションを使用して、実行可能ファイル名（例：notepad.exe）でCPUスパイク保護の除外リストにプロセスを**追加**または**削除**できます。通常、ウイルス対策プロセスは除外されます。

> **ヒント:**
>
> - セッションでウイルス対策スキャンがディスクI/Oを占有するのを防ぐには、ウイルス対策プロセスに対して静的なI/O優先度を低に設定することもできます。詳細については、「I/O管理」を参照してください。
> - プロセスがCPUスパイク保護をトリガーし、プロセスのCPU優先度が低下すると、WEMはプロセスのCPU優先度を低下させるたびに警告をログに記録します。イベントログのアプリケーションとサービスログのWEMエージェントサービスで、「**Initializing process limitation thread for process**」を探してください。

CPUスパイク保護オプション

CPUスパイク保護を適用する方法を選択します。

- **CPUスパイクを自動的に防止する**。このオプションを使用して、システムCPU使用率（単一CPUコアに対する割合）が90%を超え、プロセスCPU使用率（単一CPUコアに対する割合）が80%を超えた場合に、エージェントにCPUスパイク保護を実行させます。
- **CPUスパイク保護をカスタマイズする**。CPUスパイク保護の設定をカスタマイズできます。
  - **CPU使用率制限**。CPUスパイク保護をトリガーするために、任意のプロセスインスタンスが到達しなければならないCPU使用率のパーセンテージ。この制限は、サーバー上のすべての論理プロセッサでグローバルであり、インスタンスごと、プロセスごとに決定されます。単一のCPUコアを基準として制限を構成するには、**単一CPUコアに対する相対制限を設定**オプションを使用します。

注:

- 整数値と非整数値の両方がサポートされています。たとえば37.5%のような非整数値を入力することで、8コアプラットフォームで3コア以上を使用するプロセスを制限できます。
- **単一CPUコアに対する相対制限を設定**。単一のCPUコアを基準としてCPU使用率の制限を設定できます。値は100%を超えることも可能で、たとえば200%や250%などです。例: 値が200%に設定されている場合、エージェントは2つ以上のCPUコアを使用するプロセスを最適化します。整数値と非整数値の両方がサポートされています。**単一CPUコアに対する相対制限を設定**設定は、WEM Webコンソールでのみ構成できます。
- **CPUスパイク保護のカスタマイズ**が構成されている場合、グローバルCPU使用率制限または単一CPUコアに対する相対CPU使用率制限のいずれかが最初に到達したときに、CPUスパイク保護がトリガーされます。

CPUスパイク保護をトリガーするプロセスに対して、エージェントは次のことを実行できます。

- **CPUコア使用率制限を有効にする**オプションが選択されていない場合: エージェントはそれらのプロセスのCPU優先度を下げます。
- **CPUコア使用率制限を有効にする**オプションが選択されている場合: エージェントはそれらのプロセスのCPU優先度を下げ、マシン上の指定された数の論理プロセッサに制限します。

CPUスパイク保護を構成する際は、次の点に留意してください。

- 同じプロセスの複数のインスタンスは、CPUスパイク保護のトリガーを決定する際にCPU使用率が加算されません。プロセスインスタンスがこの制限に達しない場合、CPUスパイク保護はトリガーされません。たとえば、複数の同時セッションを持つマルチセッションVDAの場合、複数のchrome.exeプロセスが存在します。CPU使用率を計算する際に、それらのCPU使用率は合計されません。

CPUスパイク保護のサンプリング時間

サンプル時間制限。CPUスパイク保護が適用される前に、プロセスがCPU使用率制限を超過し続けなければならない時間。

CPUスパイク保護の優先度低下時間

アイドル優先度時間。プロセスのCPU優先度が低下する時間。その時間が経過すると、優先度は次のいずれかに戻ります。

プロセス優先度がCPU優先度タイルで指定されておらず、**インテリジェントCPU最適化を有効にする**オプションが選択されていない場合、デフォルトレベル（**通常**）。 プロセス優先度がCPU優先度タイルで指定されている場合、**インテリジェントCPU最適化を有効にする**オプションが選択されているかどうかにかかわらず、指定されたレベル。 プロセスの動作に応じて計算されたランダムなレベル。このケースは、プロセス優先度がCPU優先度タイルで指定されておらず、**インテリジェントCPU最適化を有効にする**オプションが選択されている場合に発生します。プロセスがCPUスパイク保護をトリガーする頻度が高いほど、そのCPU優先度は低くなります。

その他のオプション

CPUコア使用制限を有効にする。このオプションを使用して、CPUスパイク保護をトリガーするプロセスを、マシン上の特定の数の論理プロセッサに制限します。

CPU優先度

これらの設定は、プロセスがリソースを競合している場合に有効になります。これにより、特定のプロセスのCPU優先度レベルを最適化し、CPUプロセッサ時間を競合するプロセスがパフォーマンスのボトルネックを引き起こさないようにすることができます。プロセスが互いに競合する場合、優先度の低いプロセスは、優先度の高い他のプロセスの後に処理されます。したがって、全体的なCPU消費量の大部分を占める可能性が低くなります。

ここで設定するプロセス優先度は、プロセス内のすべてのスレッドの「ベース優先度」を確立します。スレッドの実際の、または「現在の」優先度は、より高くなる可能性があります（ただし、ベースより低くなることはありません）。複数のプロセスがコンピューターで実行されている場合、プロセッサ時間はCPU優先度レベルに基づいてそれらの間で共有されます。プロセスのCPU優先度レベルが高いほど、より多くのプロセッサ時間が割り当てられます。

> **注:**
>
> 特定のプロセスでCPU優先度レベルを低く設定しても、全体的なCPU消費量が必ずしも減少するわけではありません。他のプロセス（より高いCPU優先度を持つ）が、依然としてCPU使用率に影響を与えている可能性があります。

> **プロセス優先度を有効にする**。選択すると、プロセスのCPU優先度を手動で設定できます。

プロセスを追加するには

1. **追加**をクリックし、**プロセスCPU優先度の追加**ダイアログボックスに詳細を入力します。
2. **OK**をクリックしてダイアログボックスを閉じます。

3. **適用**をクリックして設定を適用します。ここで設定したプロセスCPU優先度は、エージェントが新しい設定を受信し、プロセスが再起動されたときに有効になります。

   プロセス名。拡張子を含まないプロセス実行可能ファイル名。たとえば、Windowsエクスプローラー (explorer.exe) の場合は「explorer」と入力します。

   CPU優先度。プロセス内のすべてのスレッドの「ベース」優先度。プロセスの優先度レベルが高いほど、より多くのプロセッサ時間が割り当てられます。リアルタイム、高、通常以上、通常、通常以下、低から選択します。

プロセスを編集するには

プロセスを選択し、**編集**をクリックします。

プロセスを削除するには

プロセスを選択し、**削除**をクリックします。

CPUアフィニティ

プロセスアフィニティを有効にする。有効にすると、プロセスが使用する「論理プロセッサ」の数を定義できます。たとえば、VDAで起動されたNotepadのすべてのインスタンスを、定義されたコア数に制限できます。

CPUクランプ

CPUクランプは、プロセスがCPUの処理能力の指定された割合を超えて使用するのを防ぎます。WEMは、設定した指定のCPU使用率に達すると、そのプロセスを「スロットル」（または「クランプ」）します。これにより、プロセスが大量のCPUを消費するのを防ぐことができます。

> **注:**
>
> - CPUクランプは、計算コストが高いブルートフォースアプローチです。問題のあるプロセスのCPU使用率を人為的に低く保つには、CPUスパイク保護を使用すると同時に、そのようなプロセスに静的なCPU優先度とCPUアフィニティを割り当てる方が良いでしょう。CPUクランプは、リソース管理が著しく苦手でありながら、優先度を下げることができないプロセスを制御するために最も適しています。
> - プロセスにCPU処理能力の割合を適用し、後で同じプロセスに異なる割合を設定した場合は、変更を有効にするために**エージェントホスト設定の更新**を選択します。

> 設定するクランプの割合は、サーバー内の個々のCPUの総電力に適用され、そのCPUに含まれる個々のコアには適用されません。（つまり、クアッドコアCPUでの10%はCPU全体の10%であり、1つのコアの10%ではありません）。

プロセスクランプを有効にする。プロセスクランプを有効にします。

追加。実行可能ファイル名（例: notepad.exe）でプロセスを追加します。

削除。強調表示されたプロセスをクランプリストから削除します。

編集。特定のプロセスに入力された値を編集します。

> **ヒント:**
>
> - WEMがプロセスをクランプしている場合、WEMクライアントが初期化するウォッチリストにそのプロセスを追加します。これを表示することで、プロセスがクランプされていることを確認できます。
> - プロセスモニターを確認し、CPU消費量がクランプの割合を超えないことを確認することで、CPUクランプが機能していることを検証することもできます。

メモリ管理

これらの設定により、Workspace Environment Management™ (WEM) を介してアプリケーションのメモリ使用量を最適化できます。

メモリ管理

これらの設定が有効になっている場合、WEM はプロセスが使用しているメモリ量と、安定性を損なうことなくプロセスが必要とする最小メモリ量を計算します。WEM はその差を余剰メモリと見なします。プロセスがアイドル状態になると、WEM はプロセスが消費する余剰メモリをページファイルに解放し、その後の起動のためにプロセスを最適化します。通常、アプリケーションはタスクバーに最小化されるとアイドル状態になります。

アプリケーションがタスクバーから復元されると、最初は最適化された状態で実行されますが、必要に応じて追加のメモリを消費し続けることができます。

同様に、WEM はユーザーがデスクトップセッション中に使用しているすべてのアプリケーションを最適化します。複数のユーザーセッションにわたって複数のプロセスがある場合、解放されたす

べてのメモリは他のプロセスで利用可能になります。この動作により、同じサーバーでより多くのユーザーをサポートすることで、ユーザー密度が向上します。

アイドル状態のプロセスのメモリ使用量を最適化する。指定された時間アイドル状態のままになっているプロセスに、アイドル状態ではなくなるまで余剰メモリを解放させます。

アイドルサンプル時間 (分)。プロセスがアイドル状態と見なされ、その後余剰メモリの解放を強制されるまでの時間を指定できます。この間、WEM はプロセスが使用しているメモリ量と、安定性を損なうことなくプロセスが必要とする最小メモリ量を計算します。デフォルト値は 120 分です。

アイドル状態の制限 (パーセント)。プロセスがアイドル状態と見なされる CPU 使用率のしきい値を指定できます。デフォルトは 1% です。5% を超える値を使用しないことをお勧めします。そうしないと、アクティブに使用されているプロセスがアイドル状態と誤解され、メモリが解放される可能性があります。

合計利用可能メモリが超過している場合は最適化しない (MB)。WEM がアイドル状態のアプリケーションのメモリ使用量を最適化するしきい値を指定できます。

メモリ使用量の最適化からプロセスを除外する。メモリ使用量の最適化からプロセスを除外できます。プロセス名を指定します (例: notepad.exe)。

WEM は、以下のシステムプロセスのアプリケーションメモリ使用量を最適化しません。

- `rdpshell`
- `wfshell`
- `rdpclip`
- `wmiprvse`
- `dllhost`
- `audiodg`
- `msdtc`
- `mscorsvw`
- `spoolsv`
- `smss`
- `winlogon`
- `svchost`
- `taskmgr`

- `System Idle Process`
- `System`
- `LSASS`
- `wininit`
- `msiexec`
- `services`
- `csrss`
- `MsMpEng`
- `NisSrv`
- `Memory Compression`

メモリ使用量制限

特定のプロセスのメモリ使用量制限を有効にする。プロセスが消費できるメモリの上限を設定することで、プロセスのメモリ使用量を制限できます。

> **警告：**
>
> 特定のプロセスにメモリ使用量制限を適用すると、システムの応答速度の低下など、意図しない影響が生じる可能性があります。

- **追加**。メモリ使用量制限を適用するプロセスを追加できます。
- **削除**。項目を削除できます。
- **編集**。項目を編集できます。
- **動的制限**。指定したプロセスに動的制限を適用できます。この設定は、指定したプロセスに割り当てられるメモリ量を動的に制限します。適用すると、利用可能なメモリに応じてメモリ使用量制限が適用されます。そのため、指定したプロセスが消費するメモリが指定された量を超える可能性があります。
- **静的制限**。指定したプロセスに静的制限を適用できます。この設定は、指定したプロセスに割り当てられるメモリ量を常に制限します。適用すると、利用可能なメモリ量に関係なく、プロセスが指定された量を超えるメモリを消費するのを制限します。結果として、指定したプロセスが消費するメモリは指定された量に制限されます。

プロセスを追加するには：

1. **管理コンソール > システム最適化 > メモリ管理 > メモリ使用量制限**タブで、**追加**をクリックします。
2. **プロセスの追加**ウィンドウで、追加するプロセスの名前（例：notepad.exe）を入力し、メモリ使用量制限を設定し、ドロップダウンメニューから制限モードを選択して、**OK**をクリックします。

項目を編集するには、項目を選択して**編集**をクリックします。

項目を削除するには、項目を選択して**削除**をクリックします。

項目に動的制限を適用するには、項目を選択して**動的制限**をクリックします。

項目に静的制限を適用するには、項目を選択して**静的制限**をクリックします。

I/O管理

これらの設定により、特定のプロセスのI/O優先度を最適化できます。これにより、ディスクおよびネットワークI/Oアクセスを競合するプロセスがパフォーマンスのボトルネックを引き起こすのを防ぎます。たとえば、I/O管理設定を使用して、ディスク帯域幅を大量に消費するアプリケーションを抑制できます。

ここで設定するプロセス優先度は、プロセス内のすべてのスレッドの「ベース優先度」を確立します。スレッドの実際の、つまり「現在の」優先度は、より高くなる可能性があります（ただし、ベースより低くなることはありません）。一般に、Windowsは、優先度の低いスレッドよりも優先度の高いスレッドにアクセスを許可します。

I/O優先度

プロセスI/O優先度を有効にする。プロセスI/O優先度の手動設定を有効にします。

I/O優先度リストにプロセスを追加するには

1. 「**追加**」をクリックし、「**プロセスI/O優先度の追加**」ダイアログで詳細を入力します。
2. 「**OK**」をクリックしてダイアログを閉じます。
3. 「**適用**」をクリックして設定を適用します。ここで設定したプロセスI/O優先度は、エージェントが新しい設定を受信し、プロセスが次に再起動されたときに有効になります。

プロセス名。拡張子を含まないプロセスの実行可能ファイル名です。たとえば、Windowsエクスプローラー（explorer.exe）の場合は「explorer」と入力します。

I/O優先度。プロセス内のすべてのスレッドの「ベース」優先度です。プロセスのI/O優先度が高いほど、そのスレッドはより早くI/Oアクセスを取得します。「高」、「標準」、「低」、「非常に低い」から選択します。

プロセスI/O優先度項目を編集するには

プロセス名を選択し、「**編集**」をクリックします。

I/O優先度リストからプロセスを削除するには

プロセス名を選択し、「**削除**」をクリックします。

高速ログオフ

高速ログオフは、リモートセッションへのHDX™接続を即座に終了させ、ユーザーにはセッションがすぐに閉じられたように見えます。しかし、セッション自体はVDAのバックグラウンドでセッションログオフフェーズを続行します。

> **注:**
>
> 高速ログオフは、Citrix Virtual Apps™およびRDSリソースのみをサポートします。

設定

高速ログオフを有効にする。この構成セットのすべてのユーザーに対して高速ログオフを有効にします。ユーザーはすぐにログオフされますが、セッションログオフタスクはバックグラウンドで続行されます。

特定のグループを除外する。高速ログオフから特定のユーザーグループを除外できます。

Citrix オプティマイザー

Citrix Optimizerは、ユーザー環境を最適化してパフォーマンスを向上させます。ユーザー環境のクイックスキャンを実行し、テンプレートベースの最適化推奨事項を適用します。ユーザー環境を最適化するには、次の2つの方法があります。

- 組み込みテンプレートを使用して最適化を実行します。そのためには、オペレーティングシステムに適用可能なテンプレートを選択します。
- または、必要な特定の最適化を含む独自のカスタマイズされたテンプレートを作成し、そのテンプレートをWorkspace Environment Management™ (WEM)に追加します。

カスタマイズ可能なテンプレートを取得するには、次のいずれかの方法を使用します。

- スタンドアロンのCitrix Optimizerが提供するテンプレートビルダー機能を使用します。スタンドアロンのCitrix Optimizerは`<https://support.citrix.com/article/CTX224676>`からダウンロードできます。テンプレートビルダー機能を使用すると、WEMにアップロードする独自のカスタムテンプレートを作成できます。
- エージェントホスト（WEMエージェントがインストールされているマシン）で、`<C:\Program Files (x86)>\Citrix\Workspace Environment Management Agent\Citrix Optimizer\Templates`フォルダーに移動し、デフォルトのテンプレートファイルを選択して、任意のフォルダーにコピーします。テンプレートファイルをカスタマイズして、特定の要件を反映させ、その後、カスタムテンプレートをWEMにアップロードします。

設定

Citrix Optimizerを有効にする。Citrix Optimizerを有効または無効にするかどうかを制御します。

毎週実行。選択した場合、WEMは毎週最適化を実行します。**毎週実行**が選択されていない場合、WEMは次のように動作します。

- テンプレートをWEMに初めて追加すると、WEMは対応する最適化を実行します。その後テンプレートに変更を加えない限り、WEMは最適化を1回だけ実行します。変更には、OSに別のテンプレートを適用することや、**利用可能**ペインと**構成済み**ペインの間で最適化エントリを移動させることが含まれます。
- テンプレートに変更を加えるたびに、WEMは最適化を1回実行します。

> **注:**
>
> 非永続VDI環境の場合、WEMは同じ動作に従います。つまり、環境へのすべての変更は、マシンが再起動すると失われます。Citrix Optimizerの場合、WEMはマシンが再起動するたびに最適化を実行します。

> **使用するテンプレートを自動的に選択**。どのテンプレートを使用すべきかわからない場合は、このオプションを使用して、WEMに各OSに最適なものを選択させます。

- **プレフィックスで始まるテンプレートの自動選択を有効にする**。異なる名前形式のカスタムテンプレートが利用可能な場合は、このオプションを使用します。コンマ区切りのプレフィックスリストを入力します。カスタムテンプレートは次の名前形式に従います。
  - `prefix_<os version>_<os build>`
  - `prefix_Server_<os version>_<os build>`

Citrix Optimizerタブには、システム最適化を実行するために使用できるテンプレートのリストが表示されます。**アクション**セクションには、利用可能なアクションが表示されます。

- **追加**。カスタムテンプレートを追加できます。
- 「**削除**」。既存のカスタムテンプレートを削除できます。組み込みテンプレートは削除できません。
- 「**編集**」。既存のテンプレートを編集できます。
- 「**プレビュー**」。選択したテンプレートに含まれる最適化エントリを項目別に表示できます。

カスタムテンプレートを追加するには：

1. **管理コンソール > システム最適化 > Citrix Optimizer > Citrix Optimizer**タブで、**追加**をクリックします。
2. **新しいカスタムテンプレート**ウィンドウで、**参照**をクリックして該当するテンプレートを選択し、リストから該当するOSを選択し、テンプレートに含まれるグループを設定してから、**OK**をクリックします。

> **重要：**
>
> - Citrix Optimizerはカスタムテンプレートのエクスポートをサポートしていません。カスタムテンプレートを追加した後、ローカルコピーを保持してください。

> テンプレートを編集するには、該当するテンプレートを選択し、**編集**をクリックします。

テンプレートを削除するには、該当するテンプレートを選択し、**削除**をクリックします。

テンプレートの詳細を表示するには、該当するテンプレートを選択し、**プレビュー**をクリックします。

フィールドとコントロール

「**テンプレート名**」。選択したテンプレートの表示名です。

「**適用可能なOS**」。オペレーティングシステムのリストです。テンプレートを適用するオペレーティングシステムを1つ以上選択します。リストにないWindows 10 OSに適用可能なカスタムテンプレートを追加できます。それらのOSはビルド番号を入力して追加します。OSはセミコロン (;) で区切ってください。例：2001;2004。

重要：

- 同じOSには1つのテンプレートのみを適用できます。
- 現在、Windows 11を対象とするカスタムテンプレートはサポートされていません。

グループ。**利用可能**ペインには、グループ化された最適化エントリのリストが表示されます。エントリはカテゴリ別にグループ化されています。グループをダブルクリックするか、矢印ボタンをクリックしてグループを移動します。

状態。テンプレートを有効状態と無効状態の間で切り替えます。無効になっている場合、エージェントはテンプレートを処理せず、WEMはテンプレートに関連付けられた最適化を実行しません。

Citrix Optimizerの設定の変更が有効になるまでには、**詳細設定 > 構成 > サービスオプション**タブで**SQL設定の更新遅延**オプションに指定した値に応じて、時間がかかります。

変更をすぐに有効にするには、**管理 > エージェント > 統計**タブのコンテキストメニューに移動し、**Citrix Optimizerの処理**を選択します。

ヒント:

- 新しい変更がすぐに有効にならない場合があります。**Citrix Optimizerの処理**を選択する前に、**エージェントホスト設定の更新**を選択することをお勧めします。

マルチセッションの最適化

マルチセッションOSマシンは、1台のマシンから複数のセッションを実行して、ユーザーにアプリケーションとデスクトップを提供します。切断されたセッションはアクティブなままで、そのアプリケーションは実行され続けます。切断されたセッションは、同じマシンで実行されている接続されたデスクトップやアプリケーションに必要なリソースを消費する可能性があります。これらの設定により、切断されたセッションを持つマルチセッションOSマシンを最適化し、接続されたセッションでのユーザーエクスペリエンスを向上させることができます。

設定

マルチセッションの最適化を有効にする。有効にすると、切断されたセッションが存在するマルチセッションOSマシンが最適化されます。デフォルトでは、このオプションは無効になっています。このオプションは、切断されたセッションが消費できるリソースの数を制限することで、接続

されたセッションのユーザーエクスペリエンスを向上させます。セッションが1分間切断されたままになると、WEMエージェントは、そのセッションに関連付けられているプロセスまたはアプリケーションのCPUおよびI/Oの優先度を下げます。その後、エージェントはセッションが消費できるメモリリソースの量に制限を課します。ユーザーがセッションに再接続すると、WEMは優先度を復元し、制限を解除します。

指定されたグループを除外。マルチセッションの最適化から除外するグループを指定できます。少なくとも1つのグループを指定してください。

指定されたプロセスを除外。マルチセッションの最適化から除外するプロセスを指定できます。除外するプロセスの名前を入力します。少なくとも1つのプロセスを指定してください。

ポリシーとプロファイル

これらの設定により、ユーザーGPOを置き換え、ユーザープロファイルを構成できます。

- 環境設定
- マイクロソフト USV 設定
- シトリックス プロファイル管理 設定

環境設定

これらのオプションは、ユーザーの環境設定を変更します。一部のオプションはログオン時に処理され、その他のオプションはエージェントの更新機能を使用してセッション中に更新できます。

スタートメニュー

これらのオプションは、ユーザーのスタートメニューを変更します。

環境設定を処理する。このチェックボックスは、エージェントが環境設定を処理するかどうかを切り替えます。オフにすると、環境設定は処理されません。

管理者を除外する。有効にすると、エージェントが起動されていても、管理者に対して環境設定は処理されません。

ユーザーインターフェイス: スタートメニュー。これらの設定は、エージェントによって無効にされるスタートメニュー機能を制御します。

> **重要：**

> Windows 7以外のオペレーティングシステムでは、**ユーザーインターフェイス: スタートメニュー** の下のオプションは、**システムクロックを非表示にする** と **コンピュータの電源を切るを非表示にする** を除いて、機能しない場合があります。

> **ユーザーインターフェイス: 外観**。これらの設定により、ユーザーのWindowsテーマとデスクトップをカスタマイズできます。リソースへのパスは、ユーザーの環境からアクセスされるとおりに入力する必要があります。

デスクトップ

ユーザーインターフェイス: デスクトップ。これらの設定は、エージェントによって無効にされるデスクトップ要素を制御します。

ユーザーインターフェイス: Edge UI。これらの設定により、Windows 8.x Edgeユーザーインターフェイスの側面を無効にできます。

Windows エクスプローラー

これらの設定は、エージェントによって無効にされるWindowsエクスプローラーの機能を制御します。

ユーザーインターフェイス: エクスプローラー。これらのオプションにより、**regedit** または **cmd** へのアクセスを無効にし、Windowsエクスプローラーの特定の要素を非表示にできます。

エクスプローラーから指定されたドライブを非表示にする。有効にすると、リストされたドライブはユーザーのマイコンピュータメニューから非表示になります。直接参照すれば、引き続きアクセスできます。

エクスプローラーからの指定ドライブの制限。有効にすると、リストされたドライブはブロックされます。ユーザーもそのアプリケーションもそれらにアクセスできません。

コントロールパネル

コントロールパネルを非表示にする。このオプションは、ユーザー環境を保護するためにデフォルトで有効になっています。無効にすると、ユーザーはWindowsコントロールパネルにアクセスできます。

指定されたコントロールパネルアプレットのみを表示する。有効にすると、ここにリストされているアプレットを除くすべてのコントロールパネルアプレットがユーザーから非表示になります。追加のアプレットは、その正規名を使用して追加されます。

指定されたコントロールパネルアプレットを非表示にする。有効にすると、リストされているコントロールパネルアプレットのみが非表示になります。追加のアプレットは、その正規名を使用して追加されます。

正規名とともに、一般的なコントロールパネルアプレットを参照してください。

既知のフォルダー管理

指定された既知のフォルダーを無効にする。プロファイル作成時に、指定されたユーザープロファイルの既知のフォルダーが作成されるのを防ぎます。

SBC/HVDチューニング

SBC/HVD (Session-Based Computing/Hosted Virtual Desktop) チューニングを使用すると、Citrix Virtual Apps and Desktops で実行されているセッションのパフォーマンスを最適化できます。パフォーマンスを向上させるように設計されていますが、一部のオプションはユーザーエクスペリエンスをわずかに低下させる可能性があります。

ユーザー環境: 高度なチューニング。これらのオプションを使用すると、SBC/HVD環境でのパフォーマンスを最適化できます。

フルウィンドウのドラッグを無効にする。最大化されたウィンドウのドラッグを無効にします。

スムーズスクロールを無効にする。ページの閲覧中のスムーズスクロール効果を無効にします。

カーソル点滅を無効にする。カーソルの点滅効果を無効にします。

MinAnimateを無効にする。ウィンドウの最小化または最大化時のアニメーション効果を無効にします。

AutoEndTasks を有効にする。タスクがタイムアウトした後に自動的に終了します。

WaitToKillApp タイムアウト。アプリケーションを終了するためのタイムアウト値 (ミリ秒単位)。デフォルト値は 20,000 ミリ秒です。

カーソル点滅速度を設定。カーソルの点滅速度を変更します。

メニュー表示遅延を設定。ログオン後にメニューが表示されるまでの遅延 (ミリ秒単位) を指定します。

インタラクティブ遅延を設定。サブメニューが表示されるまでの遅延 (ミリ秒単位) を指定します。

Microsoft USV 設定

これらの設定により、Microsoft User State Virtualization (USV) を最適化できます。

移動プロファイル構成

これらの設定により、Workspace Environment Management と Microsoft 移動プロファイルの統合を構成できます。

ユーザー状態仮想化構成の処理。エージェントが USV 設定を処理するかどうかを制御します。無効にすると、USV 設定は処理されません。

管理者を除外。有効にすると、構成した USV 設定は管理者に適用されません。このオプションを使用する場合は、次の点を考慮してください。

- **移動プロファイル構成**タブと**移動プロファイル詳細構成**タブの設定はマシンレベルであり、このオプションが有効になっているかどうかにかかわらず適用されます。
- **フォルダーリダイレクト**タブの設定はユーザーレベルです。このオプションは、設定を管理者に適用するかどうかを制御します。

Windows 移動プロファイルパスの設定。Windows プロファイルへのパスを指定できます。

RDS 移動プロファイルパスの設定。RDS 移動プロファイルへのパスを指定できます。

RDS ホームドライブパスの設定。RDS ホームドライブへのパスと、ユーザー環境で表示されるドライブ文字を指定できます。

移動プロファイル詳細構成

以下は、移動プロファイルの高度な最適化オプションです。

フォルダー除外を有効にする。有効にすると、リストされたフォルダーはユーザーの移動プロファイルに含まれません。これにより、ユーザーが移動プロファイルの一部として必要としない大量のデータを含むことがわかっている特定のフォルダーを除外できます。このリストには、デフォルトの Windows 7 除外が事前に入力されており、代わりにデフォルトの Windows XP 除外を事前に入力することもできます。

移動プロファイルのキャッシュされたコピーを削除。有効にすると、エージェントは移動プロファイルのキャッシュされたコピーを削除します。

管理者セキュリティグループを移動ユーザープロファイルに追加する。有効にすると、管理者グループが移動ユーザープロファイルの所有者として追加されます。

移動プロファイルフォルダーのユーザー所有権を確認しない。有効にすると、エージェントは操作を実行する前に、ユーザーが移動プロファイルフォルダーを所有しているかどうかを確認しません。

低速ネットワーク接続を検出しない。有効にすると、接続速度の検出はスキップされます。

リモートユーザープロファイルを待機する。有効にすると、エージェントはリモートユーザープロファイルが完全にダウンロードされるまで待機してから、その設定を処理します。

プロファイルのクリーンアップ。既存のプロファイルを削除できる**プロファイルクリーナー**ウィザードを開きます。

既存のプロファイルを削除するには、**参照**をクリックしてユーザープロファイルが保存されているフォルダーに移動し、**プロファイルフォルダーをスキャン**をクリックしてから、プロファイルクリーナーウィンドウでクリーンアップするプロファイルフォルダーを選択します。その後、**プロファイルをクリーンアップ**をクリックしてクリーンアップを開始します。

プロファイルをクリーンアップ。このボタンは、フォルダー除外設定に従って選択されたプロファイルをクリーンアップします。

プロファイルフォルダーをスキャン。指定された再帰設定で指定されたフォルダーをスキャンしてユーザープロファイルを検索し、見つかったすべてのプロファイルを表示します。

プロファイルのルートフォルダー。ユーザープロファイルのルートフォルダーです。必要に応じて、このフォルダーを参照することもできます。

検索の再帰性。ユーザープロファイル検索が実行する再帰レベルの数を制御します。

フォルダーリダイレクト

フォルダーリダイレクト構成を処理する。このチェックボックスは、エージェントがフォルダーリダイレクトを処理するかどうかを切り替えます。オフにすると、フォルダーリダイレクトは処理されません。ユーザーのフォルダーをリダイレクトするかどうか、およびどこにリダイレクトするかを制御するオプションを選択します。

ローカルリダイレクトフォルダーを削除する。有効にすると、エージェントはリダイレクト用に選択されたフォルダーのローカルコピーを削除します。

Citrix プロファイル管理の設定

> **注:**

> 一部のオプションは、特定のバージョンの Profile Management でのみ機能します。詳細については、Profile Management のドキュメントを参照してください。

> Workspace Environment Management™ (WEM) は、Citrix Profile Management の現在のバージョンの機能と操作をサポートしています。WEM 管理コンソールでは、**Citrix Profile Management Settings** (ポリシーとプロファイル内) が、Citrix Profile Management の現在のバージョンのすべての設定の構成をサポートしています。

WEM を使用して Citrix Profile Management 機能を構成する以外に、Active Directory GPO、Citrix Studio ポリシー、または VDA 上の .ini ファイルを使用することもできます。同じ方法を一貫して使用することをお勧めします。

主な Citrix Profile Management の設定

基本設定を適用して、Profile Management の使用を開始します。基本設定には、処理されたグループ、除外されたグループ、ユーザー ストアなどが含まれます。

Profile Management の構成を有効にする。有効にすると、設定を構成して適用できます。このオプションを有効にすると、ユーザー環境に Profile Management 関連のレジストリが作成されます。このオプションは、コンソールで構成した Profile Management 設定を WEM がエージェントに展開するかどうかを制御します。無効にすると、Profile Management 設定はエージェントに展開されません。

Profile Management を有効にする。エージェントマシンで Profile Management サービスを有効にするかどうかを制御します。無効にすると、Profile Management サービスは機能しません。

エージェントにすでに展開されている設定が処理されなくなるように、Profile Management を完全に無効にしたい場合があります。そのためには、次の手順を実行します。

1. **Enable Profile Management** チェックボックスをオフにし、変更が自動的に適用されるのを待つか、すぐに適用するために手動で変更を適用します。

   > **注:**
   >
   > 変更が有効になるまでには、Advanced Settings で**SQL Settings Refresh Delay**に指定した値に応じて時間がかかります。変更をすぐに有効にするには、エージェントホストの設定を更新し、関連するすべてのエージェントのProfile Management設定をリセットします。管理を参照してください。

2. 変更が有効になったら、**Enable Profile Management Configuration** チェックボックスをオフにします。

処理するグループを設定する。Profile Management によって処理されるグループを指定できます。指定されたグループのみが Profile Management 設定を処理されます。空のままにすると、すべてのグループが処理されます。

除外するグループを設定する。Profile Management から除外するグループを指定できます。

ローカル管理者のログオンを処理する。有効にすると、ローカル管理者のログオンは、Profile Management の非管理者ログオンと同じように扱われます。

ユーザー ストアへのパスを設定する。ユーザー ストア フォルダーへのパスを指定できます。

ユーザー ストアを移行する。ユーザー設定（レジストリの変更と同期されたファイル）が保存されていたフォルダーへのパスを指定できます。以前使用していたユーザー ストアのパスを入力します。このオプションは、**ユーザー ストアへのパスを設定する**オプションと組み合わせて使用します。

アクティブなライトバックを有効にする。有効にすると、ユーザーのセッション中にプロファイルがユーザー ストアにライトバックされ、データ損失を防ぎます。

- **アクティブなライトバック レジストリを有効にする**。有効にすると、ユーザーのセッション中にレジストリ エントリがユーザー ストアにライトバックされ、データ損失を防ぎます。
- **セッションロックおよび切断時のアクティブなライトバックを有効にする**。有効にすると、プロファイルファイルとフォルダーは、セッションがロックまたは切断された場合にのみライトバックされます。このオプションと**アクティブなライトバック レジストリを有効にする**オプションの両方が有効になっている場合、レジストリ エントリは、セッションがロックまたは切断された場合にのみライトバックされます。

オフラインプロファイルサポートを有効にする。有効にすると、接続されていないときに使用するためにプロファイルがローカルにキャッシュされます。

プロファイルコンテナ設定

これらのオプションは、Profile Managementのプロファイルコンテナ設定を制御します。

プロファイルコンテナを有効にする。有効にすると、Profile Managementはリストされたフォルダーをネットワークに保存されているプロファイルディスクにマッピングし、フォルダーのコピーをローカルプロファイルに保存する必要がなくなります。プロファイルコンテナに含めるフォルダーを少なくとも1つ指定します。

プロファイルコンテナのフォルダー除外を有効にする。有効にすると、Profile Managementはリストされたフォルダーをプロファイルコンテナから除外します。プロファイルコンテナから除外するフォルダーを少なくとも1つ指定します。

プロファイルコンテナのフォルダー包含を有効にする。有効にすると、Profile Managementは、親フォルダーが除外されている場合でも、リストされたフォルダーをプロファイルコンテナ内に保持します。このリストのフォルダーは、除外されたフォルダーのサブフォルダーである必要があります。これは、このオプションを**プロファイルコンテナのフォルダー除外を有効にする**オプションと組み合わせて使用する必要があることを意味します。プロファイルコンテナに含めるフォルダーを少なくとも1つ指定します。

プロファイルコンテナのローカルキャッシュを有効にする。有効にすると、各ローカルプロファイルは、そのプロファイルコンテナのローカルキャッシュとして機能します。プロファイルストリーミングが使用されている場合、ローカルにキャッシュされたファイルはオンデマンドで作成されます。それ以外の場合は、ユーザーログオン時に作成されます。この設定を使用するには、ユーザープロファイル全体をプロファイルコンテナに配置します。この設定は、Citrix Profile Managementプロファイルコンテナにのみ適用されます。

VHDディスクの圧縮を有効にする。有効にすると、特定の条件が満たされたときに、ユーザーログオフ時にVHDディスクが自動的に圧縮されます。このポリシーにより、プロファイルコンテナ、OneDriveコンテナ、およびミラーフォルダーコンテナによって消費されるストレージスペースを節約できます。必要に応じて、詳細設定の**VHDディスク圧縮のデフラグを無効にする**、**VHDディスク圧縮をトリガーする空き領域の比率を設定する**、および**VHDディスク圧縮をトリガーするログオフ回数を設定する**オプションを使用して、デフォルトのVHD圧縮設定と動作を調整できます。

プロファイルの処理

これらの設定は、Profile Managementのプロファイル処理を制御します。

ログオフ時にローカルキャッシュプロファイルを削除する。有効にすると、ユーザーがログオフしたときにローカルキャッシュプロファイルが削除されます。

キャッシュプロファイルの削除までの遅延を設定する。ログオフ時にキャッシュプロファイルが削除されるまでの遅延（秒単位）を指定できます。

既存プロファイルの移行を有効にする。有効にすると、既存のWindowsプロファイルはログオン時にProfile Managementに移行されます。

既存のアプリケーションプロファイルの自動移行。有効にすると、既存のアプリケーションプロファイルが自動的に移行されます。ユーザーがログオンし、ユーザーストアにユーザープロファイルがない場合、Profile Managementが移行を実行します。

ローカルプロファイルの競合処理を有効にする。Profile ManagementとWindowsプロファイルが競合する場合に、Citrix Workspace™ Environment Managementがどのように処理するかを設定します。

テンプレートプロファイルを有効にする。有効にすると、指定された場所にあるテンプレートプロファイルが使用されます。

テンプレートプロファイルがローカルプロファイルを上書きする。有効にすると、テンプレートプロファイルがローカルプロファイルを上書きします。

テンプレートプロファイルがローミングプロファイルを上書きする。有効にすると、テンプレートプロファイルがローミングプロファイルを上書きします。

すべてのログオンでCitrix必須プロファイルとして使用されるテンプレートプロファイル。有効にすると、テンプレートプロファイルが他のすべてのプロファイルを上書きします。

高度な設定

これらのオプションは、高度なProfile Management設定を制御します。

ロックされたファイルへのアクセス時の再試行回数を設定する。エージェントがロックされたファイルへのアクセスを再試行する回数を設定します。

MFTキャッシュファイルのディレクトリを設定する。MFTキャッシュファイルのディレクトリを指定できます。このオプションは*非推奨*であり、将来的に*削除*されます。

アプリケーションプロファイラーを有効にする。有効にすると、アプリケーションベースのプロファイル処理が定義されます。定義ファイルで定義された設定のみが同期されます。定義ファイルの作成の詳細については、「定義ファイルの作成」を参照してください。

ログオフ時にインターネットCookieファイルを処理する。有効にすると、古いCookieはログオフ時に削除されます。

リダイレクトされたフォルダーを削除。有効にすると、リダイレクトされたフォルダーのローカルコピーが削除されます。

自動構成を無効にする。有効にすると、動的構成が無効になります。

問題が発生した場合にユーザーをログオフする。有効にすると、問題が発生した場合に、ユーザーは一時プロファイルに切り替わるのではなく、ログオフされます。

カスタマーエクスペリエンス向上プログラム。有効にすると、Profile Managementはカスタマーエクスペリエンス向上プログラム（CEIP）を使用して、匿名統計と使用状況情報を収集することで、Citrix製品の品質とパフォーマンスの向上に役立てます。CEIPの詳細については、「Citrixカスタマーエクスペリエンス向上プログラム（CEIP）について」を参照してください。

プロファイルコンテナのマルチセッションライトバックを有効にする。有効にすると、Profile Managementは、FSLogix Profile ContainerとCitrix Profile Managementプロファイルコンテナの両方で、マルチセッションシナリオでの変更を保存します。同じユーザーが異なるマシンで複数のセッションを起動した場合、各セッションで行われた変更は同期され、ユーザーのプロファイルコンテナディスクに保存されます。

ログオン時にユーザーグループポリシーの非同期処理を有効にする。有効にすると、Profile Managementは、Windowsが次回のユーザーログオンの処理モード（同期または非同期処理モード）を決定するために使用するレジストリ値をユーザーとともにローミングします。レジストリ値が存在しない場合は、同期モードが適用されます。このオプションを有効にすると、ユーザーがログオンするたびに実際の処理モードが適用されます。無効にすると、ユーザーが次の条件を満たす場合、非同期モードは期待どおりに適用されません。

- 異なるマシンにログオンする。
- ログオフ時にローカルにキャッシュされたプロファイルを削除するオプションが有効になっている同じマシンにログオンする。

VHDディスク圧縮のデフラグを無効にする。VHDディスク圧縮を有効にするが有効な場合に適用されます。VHDディスク圧縮のファイルデフラグを無効にするかどうかを指定できます。

VHDディスク圧縮をトリガーする空き領域比率を設定する。VHDディスク圧縮を有効にするが有効な場合に適用されます。VHDディスク圧縮をトリガーする空き領域比率を指定できます。ユーザーログオフ時に空き領域比率が指定された値を超えると、ディスク圧縮がトリガーされます。

```
Free space ratio = (current VHD file size – required minimum VHD file
size*) ÷ current VHD file size



* Obtained using the `GetSupportedSize` method of the `MSFT_Partition`
class from the Microsoft Windows operating system.
```

VHDディスク圧縮をトリガーするログオフ回数を設定する。VHDディスク圧縮を有効にするが有効な場合に適用されます。VHDディスク圧縮をトリガーするユーザーログオフ回数を指定できます。前回の圧縮以降のログオフ回数が指定された値に達すると、ディスク圧縮が再度トリガーされます。

ユーザーストアをレプリケートする。有効にすると、Profile Managementは、ユーザーストアへのパスの設定オプションで指定されたパスに加えて、ログオフごとにユーザーストアを複数のパスにレプリケートします。セッション中に変更されたユーザーストアのファイルとフォルダーを同期するには、アクティブなライトバックを有効にします。このオプションを有効にすると、システムI/Oが増加し、ログオフ時間が長くなる可能性があります。

VHDXファイルのストレージパスをカスタマイズする。VHDXファイルを保存する別のパスを指定できます。デフォルトでは、VHDXファイルはユーザーストアに保存されます。VHDXファイルを使用するポリシーには、プロファイルコンテナ、Outlookの検索インデックスローミング、フォルダーミラーリングの高速化などがあります。有効にすると、異なるポリシーのVHDXファイルは、ストレージパスの下の異なるフォルダーに保存されます。

Microsoft Outlookユーザーの検索インデックスローミングを有効にする。有効にすると、ユーザー固有のMicrosoft Outlookオフラインフォルダーファイル（*.ost）とMicrosoft検索データベースがユーザープロファイルとともにローミングされます。これにより、Microsoft Outlookでメールを検索する際のユーザーエクスペリエンスが向上します。

- **Outlook検索インデックスデータベース – バックアップと復元**。有効にすると、Profile Managementは、検索インデックスデータベースの最後に確認された正常なコピーのバックアップを自動的に保存します。破損が発生した場合、Profile Managementはそのコピーに戻します。その結果、検索インデックスデータベースが破損した場合でも、手動でデータベースを再インデックス化する必要がなくなります。
- **Outlook検索データローミングの同時セッションサポートを有効にする**。同時セッションでネイティブのOutlook検索エクスペリエンスを提供します。有効にすると、各同時セッションは個別のOutlook OSTファイルを使用します。
    - **Outlook OST ファイルを保存するための VHDX ディスクの最大数**。Outlook OST ファイルを保存するための VHDX ディスクの最大数を指定できます。指定しない場合、Outlook OST ファイルの保存には VHDX ディスクを 2 つしか使用できません（ディスクごとに 1 ファイル）。さらにセッションが開始されると、それらの Outlook OST ファイルはローカルユーザープロファイルに保存されます。サポートされる値：1〜10。

OneDrive コンテナを有効にする。有効にすると、Profile Management は OneDrive フォルダーを VHDX ディスクに保存することで、ユーザーとともに OneDrive フォルダーをローミングします。ディスクはログオン時にアタッチされ、ログオフ時にデタッチされます。

ログ設定

これらのオプションは、Profile Management のログ記録を制御します。

ログ記録を有効にする。Profile Management の操作のログ記録を有効/無効にします。

ログ設定を構成する。ログに含めるイベントの種類を指定できます。

ログファイルの最大サイズを設定する。ログファイルの最大サイズをバイト単位で指定できます。

ログファイルへのパスを設定する。ログファイルが作成される場所を指定できます。

レジストリ

これらのオプションは、Profile Management のレジストリ設定を制御します。

NTUSER.DAT のバックアップ。選択すると、Profile Management は NTUSER.DAT ファイルの既知の正常な最新のバックアップを保持します。Profile Management が破損を検出した場合、既知の正常な最新のバックアップコピーを使用してプロファイルを回復します。

デフォルトの除外リストを有効にする。HKCU ハイブ内のレジストリキーのデフォルトリストで、ユーザープロファイルに同期されません。選択すると、このリストで選択されているレジストリ設定は、Profile Management プロファイルから強制的に除外されます。

レジストリの除外を有効にする。このリストのレジストリ設定は、Profile Management プロファイルから強制的に除外されます。

レジストリの包含を有効にする。このリストのレジストリ設定は、Profile Management プロファイルに強制的に含まれます。

ファイルシステム

これらのオプションは、Profile Management のファイルシステム除外を制御します。

ログオン除外チェックを有効にする。有効にすると、ユーザーがログオンしたときに、ユーザーストア内のプロファイルに除外されたファイルまたはフォルダーが含まれている場合に、Profile Management が実行する動作を構成します。(無効になっている場合、既定の動作は**除外されたファイルまたはフォルダーを同期する**です)。リストから次のいずれかの動作を選択できます。

除外されたファイルまたはフォルダーを同期する (既定)。ユーザーがログオンすると、Profile Management はこれらの除外されたファイルまたはフォルダーをユーザー ストアからローカル プロファイルに同期します。

除外されたファイルまたはフォルダーを無視する。ユーザーがログオンすると、Profile Management はユーザー ストア内の除外されたファイルまたはフォルダーを無視します。

除外されたファイルまたはフォルダーを削除する。ユーザーがログオンすると、Profile Management はユーザー ストア内の除外されたファイルまたはフォルダーを削除します。

既定の除外リストを有効にする - ディレクトリ。同期中に無視されるディレクトリの既定のリスト。これを選択すると、このリストで選択されたフォルダーは Profile Management の同期から除外されます。

ファイル除外を有効にする。有効にすると、リストされたファイルはユーザーの Profile Management プロファイルに含まれません。これにより、ユーザーが Profile Management プロファイルの一部として持つ必要のない大量のデータを含むことがわかっている特定のフォルダーを除外できます。このリストには、既定の Windows 7 除外が事前に入力されており、代わりに既定の Windows XP 除外を事前に入力することもできます。

フォルダー除外を有効にする。有効にすると、リストされたフォルダーはユーザーの Profile Management プロファイルに含まれません。これにより、ユーザーが Profile Management プロファイルの一部として持つ必要のない大量のデータを含むことがわかっている特定のフォルダーを除外できます。このリストには、既定の Windows 7 除外が事前に入力されており、代わりに既定の Windows XP 除外を事前に入力することもできます。

プロファイルのクリーンアップ。既存のプロファイルを削除できる**プロファイル クリーナー**ウィザードを開きます。

既存のプロファイルを削除するには、**参照**をクリックしてユーザープロファイルが保存されているフォルダーに移動し、**プロファイルフォルダーをスキャン**をクリックし、**プロファイルクリーナー**ウィンドウでクリーンアップするプロファイルフォルダーを選択します。その後、**プロファイルをクリーンアップ**をクリックしてクリーンアップを開始します。

プロファイルをクリーンアップ。フォルダー除外設定に従って、選択したプロファイルをクリーンアップします。

プロファイルフォルダーをスキャン。指定された再帰設定で指定されたフォルダーをスキャンしてユーザープロファイルを見つけ、見つかったすべてのプロファイルを表示します。

プロファイルルートフォルダー。ユーザープロファイルのルートフォルダーです。必要に応じて、このフォルダーを参照することもできます。

検索の再帰性。ユーザープロファイル検索が実行する再帰のレベル数を制御します。

同期

これらのオプションは、プロファイル管理の同期設定を制御します。

ディレクトリ同期を有効にする。有効にすると、リストされたフォルダーがユーザー ストアに同期されます。

ファイル同期を有効にする。有効にすると、リストされたファイルがユーザー ストアに同期され、ユーザーは常に最新バージョンのファイルを取得できます。複数のセッションでファイルが変更された場合、最新のファイルがユーザー ストアに保持されます。

フォルダーミラーリングを有効にする。有効にすると、ログオフ時にリストされたフォルダーがユーザー ストアにミラーリングされ、ユーザー ストアに保存されているミラーリングされたフォルダー内のファイルとサブフォルダーがローカルバージョンと同じであることが保証されます。フォルダーミラーリングの仕組みの詳細については、以下を参照してください。

- ミラーリングされたフォルダー内のファイルは、変更されているかどうかにかかわらず、セッションログオフ時に常にユーザー ストアに保存されているファイルを上書きします。
- ミラーリングされたフォルダーのローカルバージョンと比較して、ユーザー ストアに余分なファイルまたはサブフォルダーが存在する場合、それらの余分なファイルとサブフォルダーはセッションログオフ時にユーザー ストアから削除されます。

ラージファイル処理を有効にする。有効にすると、大きなファイルはユーザー ストアにリダイレクトされ、ネットワーク経由でそれらのファイルを同期する必要がなくなります。

> **注:**
>
> 一部のアプリケーションでは、同時ファイルアクセスが許可されていません。Citrix では、ラージファイル処理ポリシーを定義する際に、アプリケーションの動作を考慮することをお勧めします。

ストリーミングユーザープロファイル

これらのオプションは、ストリーミングユーザープロファイルの設定を制御します。

プロファイルストリーミングを有効にする。無効にすると、このセクションの設定は処理されません。

フォルダーのプロファイルストリーミングを有効にする。有効にすると、フォルダーはアクセスされたときにのみフェッチされます。この設定により、ユーザーログオン時にすべてのフォルダーを走査する必要がなくなり、帯域幅が節約され、ファイルの同期時間が短縮されます。

保留領域のプロファイルストリーミングを有効にする。有効にすると、保留領域のファイルは、要求されたときにのみローカルプロファイルにフェッチされます。これにより、同時セッションシナリオでの最適なログオンエクスペリエンスが保証されます。保留領域は、プロファイルストリーミングが有効になっている間、プロファイルの整合性を確保するために使用されます。同時セッションで変更されたプロファイルファイルとフォルダーを一時的に保存します。デフォルトでは、このオプションは無効になっています。保留領域内のすべてのファイルとフォルダーは、ログオン中にローカルプロファイルにフェッチされます。

常にキャッシュする。有効にすると、指定されたサイズ (MB単位) 以上のファイルは常にキャッシュされます。

保留領域ロックファイルのタイムアウトを設定する: サーバーが応答しなくなったときにユーザーストアがロックされたままの場合、指定された時間後に保留領域からユーザー ストアに書き戻されるようにファイルを解放します。

ストリーミングユーザープロファイルグループを設定します。このリストは、ストリーミングプロファイルが使用されるユーザーグループを決定します。

プロファイルストリーミング除外リスト - ディレクトリを有効にする。選択すると、Profile Management はこのリスト内のフォルダーをストリーミングせず、ユーザーがログオンしたときにすべてのフォルダーがユーザー ストアからローカルコンピューターに即座にフェッチされます。

ファイルの重複排除

これらのオプションは、Profile Management のファイルの重複排除設定を制御します。

複数のユーザープロファイル間で同一のファイルが存在する場合があります。これらのファイルをユーザー ストアから分離し、一元的な場所に保存することで、重複を回避し、ストレージスペースを節約できます。ユーザー ストアをホストするサーバー上の共有ストアに含めるファイルを指定できます。ファイル名はユーザープロファイルに対する相対パスで指定します。

ファイルの包含を有効にする。有効にすると、Profile Management は共有ストアを自動的に生成します。その後、指定されたファイルをユーザー ストア内の各ユーザープロファイルではなく、共有ストアに一元的に保存します。これにより、ファイルの重複を回避してユーザー ストアへの負荷を軽減し、ストレージコストを削減できます。

ファイルの除外を有効にする。有効にすると、Profile Management は指定されたファイルを共有ストアから除外します。このオプションは、**ファイルの包含を有効にする**オプションと組み合わせて使用する必要があります。共有ストアから除外するファイルを少なくとも1つ指定してください。

クロスプラットフォーム設定

これらのオプションは、クロスプラットフォーム設定を制御します。

クロスプラットフォーム設定を有効にする。無効になっている場合、このセクションの設定はどれも処理されません。

クロスプラットフォーム設定グループを設定する。クロスプラットフォームプロファイルが使用されるユーザーグループを指定できます。

クロスプラットフォーム定義へのパスを設定する。クロスプラットフォーム定義ファイルへのパスを指定できます。

クロスプラットフォーム設定ストアへのパスを設定する。クロスプラットフォーム設定ストアへのパスを指定できます。

クロスプラットフォーム設定を作成するためのソースを有効にする。クロスプラットフォーム設定のソースプラットフォームを有効にします。

アプリケーションアクセス制御

この機能は、ファイル、フォルダー、およびレジストリへのユーザーアクセスを制御します。一般的な使用例としては、マシンにインストールされているアプリへのユーザーアクセスを制御するルールを適用することです。これは、関連するユーザーにアプリを表示するかどうかを決定します。

アプリのアクセス制御を有効にする。有効にすると、Profile Management は、指定したルールに基づいて、アイテム（ファイル、フォルダー、レジストリなど）へのユーザーアクセスを制御します。

アプリケーションルールを作成する方法は2つあります。

- GUIベースのツール - WEMツールハブ > アプリアクセス制御用ルールジェネレーター
- PowerShell tool – Profile Management インストールパッケージで利用可能

セキュリティ

これらの設定により、Workspace Environment Management 内でのユーザーアクティビティを制御できます。

アプリケーションセキュリティ

> **重要：**
>
> ユーザーが実行できるアプリケーションを制御するには、Windows AppLockerインターフェイスまたはWorkspace Environment Managementを使用します。これらのアプローチはいつでも切り替えることができますが、両方を同時に使用することはお勧めしません。

> これらの設定により、ルールを定義することで、ユーザーが実行を許可されているアプリケーションを制御できます。この機能はWindows AppLockerに似ています。

Workspace Environment Managementを使用してWindows AppLockerルールを管理する場合、エージェントはアプリケーションセキュリティタブのルールをエージェントホスト上のWindows AppLockerルールに処理（変換）します。エージェントによるルール処理を停止しても、ルールは構成セットに保持され、AppLockerはエージェントによって最後に処理された一連の指示を使用して実行を継続します。

アプリケーションセキュリティ

このタブには、現在のWorkspace Environment Management構成セット内のアプリケーションセキュリティルールが一覧表示されます。**検索**を使用して、テキスト文字列に基づいてリストをフィルタリングできます。

セキュリティタブでトップレベル項目「アプリケーションセキュリティ」を選択すると、ルール処理を有効または無効にするための次のオプションが利用可能になります。

- **アプリケーションセキュリティルールを処理する**。選択すると、**アプリケーションセキュリティ**タブのコントロールが有効になり、エージェントは現在の構成セットのルールを処理し、それらをエージェントホスト上のAppLockerルールに変換します。選択されていない場合、**アプリケーションセキュリティ**タブのコントロールは無効になり、エージェントはルールをAppLockerルールに処理しません。（この場合、AppLockerルールは更新されません。）

  > **注:**
  >
  > このオプションは、Workspace Environment Management管理コンソールがWindows 7 SP1またはWindows Server 2008 R2 SP1（またはそれ以前のバージョン）にインストールされている場合は利用できません。

- **DLLルールを処理する**。選択すると、エージェントは現在の構成セットのDLLルールをエージェントホスト上のAppLocker DLLルールに処理します。このオプションは、**アプリケーションセキュリティルールを処理する**を選択した場合にのみ利用できます。

  > **重要：**
  >
  > DLLルールを使用する場合、許可されているすべてのアプリで使用される各DLLに対して、「許可」権限を持つDLLルールを作成する必要があります。
  >
  > **注意:**
  >
  > DLLルールを使用すると、ユーザーはパフォーマンスの低下を経験する可能性があります。これは、AppLockerがアプリが実行を許可される前に、アプリがロードする各DLLをチェックするためです。

- **上書き**および**マージ**設定により、エージェントがアプリケーションセキュリティルールをどのように処理するかを決定できます。
  - **上書き**。既存のルールを上書きできます。選択すると、最後に処理されたルールが以前に処理されたルールを上書きします。このモードは、シングルセッションマシンにのみ適用することをお勧めします。
  - **マージ**。既存のルールとルールをマージできます。競合が発生した場合、最後に処理されたルールが以前に処理されたルールを上書きします。マージ中にルール適用設定を変更する必要がある場合は、マージモードでは値が異なる場合に古い値が保持されるため、上書きモードを使用してください。

ルールコレクション

ルールはAppLockerルールコレクションに属します。各コレクション名には、含まれるルールの数が示されます（例：(12)）。コレクション名をクリックすると、ルールリストが次のいずれかのコレクションにフィルタリングされます。

- **実行可能ルール**。アプリケーションに関連付けられている.exeおよび.com拡張子のファイルを含むルール。
- **Windowsルール**。クライアントコンピューターおよびサーバーへのファイルのインストールを制御するインストーラーファイル形式（.msi、.msp、.mst）を含むルール。
- **スクリプトルール**。次の形式のファイルを含むルール：.ps1、.bat、.cmd、.vbs、.js。

- **パッケージ化されたルール**。ユニバーサルWindowsアプリとも呼ばれるパッケージ化されたアプリを含むルール。パッケージ化されたアプリでは、アプリパッケージ内のすべてのファイルが同じIDを共有します。したがって、1つのルールでアプリ全体を制御できます。Workspace Environment Managementは、パッケージ化されたアプリのパブリッシングルールのみをサポートしています。
- **DLLルール**。次の形式のファイルを含むルール：.dll、.ocx。

ルールリストをコレクションにフィルタリングすると、**ルール適用**オプションが利用可能になり、AppLockerがエージェントホスト上のそのコレクション内のすべてのルールをどのように適用するかを制御できます。次のルール適用値が可能です。

オフ（デフォルト）。ルールが作成され、「オフ」に設定されます。これは、ルールが適用されないことを意味します。

オン。ルールが作成され、「適用」に設定されます。これは、ルールがエージェントホストでアクティブであることを意味します。

監査。ルールが作成され、「監査」に設定されます。これは、ルールがエージェントホストで非アクティブな状態にあることを意味します。ユーザーがAppLockerルールに違反するアプリを実行すると、アプリの実行が許可され、アプリに関する情報がAppLockerイベントログに追加されます。

AppLockerルールをインポートするには

AppLockerからエクスポートされたルールをWorkspace Environment Managementにインポートできます。インポートされたWindows AppLocker設定は、**セキュリティ**タブの既存のルールに追加されます。無効なアプリケーションセキュリティルールは自動的に削除され、レポートダイアログに一覧表示されます。

1. リボンで、**AppLockerルールをインポート**をクリックします。
2. AppLockerルールを含むAppLockerからエクスポートされたXMLファイルを参照します。
3. **インポート** をクリックします。

ルールはアプリケーションセキュリティルールリストに追加されます。

ルールを追加するには

1. サイドバーでルールコレクション名を選択します。たとえば、実行可能ルールを追加するには、「Executable Rules」コレクションを選択します。
2. をクリックします。
3. セクションで、次の詳細を入力します。

- **名前**。ルールリストに表示されるルールの表示名。
- **説明**。リソースに関する追加情報（オプション）。

4. セクションで、オプションをクリックします。

   - **パス**。ルールはファイルパスまたはフォルダーパスに一致します。
   - **発行元**。ルールは選択した発行元に一致します。
   - **ハッシュ**。ルールは特定のハッシュコードに一致します。

5. セクションで、このルールがアプリケーションの実行を**許可**するか**拒否**するかをクリックします。
6. このルールをユーザーまたはユーザーグループに割り当てるには、 ペインで、このルールを割り当てるユーザーまたはグループを選択します。「Assigned」列には、割り当てられたユーザーまたはグループの「チェック」アイコンが表示されます。

   > **ヒント:**
   >
   > - 通常のWindows選択修飾キーを使用して複数選択を行うか、 を使用してすべての行を選択できます。
   > - ユーザーは、Workspace Environment Managementユーザーリストにすでに存在している必要があります。
   > - ルールは作成後に割り当てることができます。

7. **次へ**をクリックします。
8. 選択したルールタイプに応じて、ルールが一致する条件を指定します。

   - **パス**。ルールに一致させたいファイルパスまたはフォルダーパスを指定します。フォルダーを選択すると、ルールはそのフォルダー内およびその下のすべてのファイルに一致します。
   - **発行元**。ルールの参照として使用する署名付き参照ファイルを指定し、発行元情報スライダーを使用してプロパティの一致レベルを調整します。
   - **ハッシュ**。ハッシュを作成したいファイルまたはフォルダーを指定します。ルールはファイルのハッシュコードに一致します。

9. **次へ**をクリックします。

10. 必要な例外を追加します（オプション）。「例外の追加」で例外タイプを選択し、**追加**をクリックします。（必要に応じて例外を**編集**および**削除**できます。）
11. ルールを保存するには、**作成**をクリックします。

ユーザーにルールを割り当てるには

リストから1つ以上のルールを選択し、ツールバーまたはコンテキストメニューで**編集**をクリックします。エディターで、ルールを割り当てたいユーザーおよびユーザーグループを含む行を選択し、**OK**をクリックします。また、**すべて選択**を使用してすべての選択を解除することで、選択したルールを全員から割り当て解除することもできます。

注: 複数のルールを選択して**編集**をクリックすると、それらのルールに対するルール割り当ての変更は、選択したすべてのユーザーおよびユーザーグループに適用されます。つまり、既存のルール割り当ては、それらのルール間でマージされます。

デフォルトのルールを追加するには

デフォルトルールの追加をクリックします。AppLockerのデフォルトルールセットがリストに追加されます。

ルールを編集するには

リストから1つ以上のルールを選択し、ツールバーまたはコンテキストメニューで**編集**をクリックします。エディターが表示され、選択した項目に適用される設定を調整できます。

ルールを削除するには

リストから1つ以上のルールを選択し、ツールバーまたはコンテキストメニューで**削除**をクリックします。

アプリケーションセキュリティルールをバックアップするには

現在の構成セット内のすべてのアプリケーションセキュリティルールをバックアップできます。ルールはすべて単一のXMLファイルとしてエクスポートされます。**復元**を使用して、任意の構成セットにルールを復元できます。 リボンで、**バックアップ**をクリックし、**セキュリティ設定**を選択します。

アプリケーションセキュリティルールを復元するには

Workspace Environment Managementのバックアップコマンドによって作成されたXMLファイルから、アプリケーションセキュリティルールを復元できます。復元プロセスでは、現在の構成セットのルールがバックアップ内のルールに置き換えられます。**セキュリティ**タブに切り替えるか更新

すると、無効なアプリケーションセキュリティルールが検出されます。無効なルールは自動的に削除され、エクスポート可能なレポートダイアログに一覧表示されます。

復元プロセス中に、現在の構成セット内のユーザーおよびユーザーグループへのルール割り当てを復元するかどうかを選択できます。再割り当ては、バックアップされたユーザー/グループが現在の構成セット/Active Directoryに存在する場合にのみ成功します。一致しないルールは復元されますが、割り当てられていないままになります。復元後、それらはCSV形式でエクスポートできるレポートダイアログに一覧表示されます。

1\. リボンで、**復元**をクリックして復元ウィザードを開始します。

2\. セキュリティ設定を選択し、**次へ**を2回クリックします。

3\. **フォルダーから復元**で、バックアップファイルを含むフォルダーを参照します。

4\. **AppLockerルール設定**を選択し、**次へ**をクリックします。

5\. ルール割り当てを復元するかどうかを確認します。

はい。ルールを復元し、現在の構成セット内の同じユーザーおよびユーザーグループに再割り当てします。

いいえ。ルールを復元し、割り当てられていないままにします。

6\. 復元を開始するには、**設定の復元**をクリックします。

プロセス管理

これらの設定により、特定のプロセスを許可リストまたはブロックリストに追加できます。

プロセス管理

プロセス管理を有効にする。許可リストまたはブロックリストのプロセスが有効になるかどうかを切り替えます。無効にすると、**プロセスブラックリスト**タブと**プロセスホワイトリスト**タブの設定は考慮されません。

> **注:**
>
> このオプションは、セッションエージェントがユーザーのセッションで実行されている場合にのみ機能します。これを行うには、**メイン構成**エージェント設定を使用して、ユーザー/セッションの種類に応じて起動するように**エージェントの起動**オプション（**ログオン時/再接**

> **続時/管理者向け**）を設定し、**エージェントの種類**を「UI」に設定します。これらのオプションについては、詳細設定で説明されています。

プロセスブロックリスト

これらの設定により、特定のプロセスをブロックリストに追加できます。

プロセスブラックリストを有効にする。ブロックリスト上のプロセスの処理を有効にします。実行可能ファイル名（例: cmd.exe）を使用してプロセスを追加する必要があります。

ローカル管理者を除外する。ローカル管理者アカウントを除外します。

指定されたグループを除外する。特定のユーザーグループを除外できます。

プロセス許可リスト

これらの設定により、特定のプロセスを許可リストに追加できます。プロセスブロックリストとプロセス許可リストは相互に排他的です。

プロセスホワイトリストを有効にする。許可リスト上のプロセスの処理を有効にします。実行可能ファイル名（例: cmd.exe）を使用してプロセスを追加する必要があります。**注** 有効にすると、**プロセスホワイトリストを有効にする**は、許可リストにないすべてのプロセスを自動的にブロックリストに追加します。

ローカル管理者を除外する。ローカル管理者アカウントを除外します（すべてのプロセスを実行できます）。

指定されたグループを除外する。特定のユーザーグループを除外できます（すべてのプロセスを実行できます）。

特権の昇格

> **注:**

> この機能はCitrix仮想アプリには適用されません。

> 特権昇格機能を使用すると、非管理者ユーザーの特権を、一部の実行可能ファイルに必要な管理者レベルに昇格させることができます。その結果、ユーザーは管理者グループのメンバーであるかのように、それらの実行可能ファイルを開始できます。

特権昇格

セキュリティで**特権昇格**ペインを選択すると、次のオプションが表示されます。

- **特権昇格設定の処理**。特権昇格機能を有効にするかどうかを制御します。選択すると、エージェントが特権昇格設定を処理できるようになり、**特権昇格**タブの他のオプションが利用可能になります。
- **Windows Server OSに適用しない**。特権昇格設定をWindows Serverオペレーティングシステムに適用するかどうかを制御します。選択した場合、ユーザーに割り当てられたルールはWindows Serverマシンでは機能しません。デフォルトでは、このオプションが選択されています。
- **RunAsInvokerを強制する**。すべての実行可能ファイルを現在のWindowsアカウントで実行するように強制するかどうかを制御します。選択した場合、ユーザーは実行可能ファイルを管理者として実行するように求められません。

このタブには、構成したルールの完全なリストも表示されます。**実行可能ファイルルール**または**Windowsインストーラールール**をクリックして、ルールリストを特定のルールタイプにフィルタリングします。**検索**を使用してリストをフィルタリングできます。**割り当て済み**列には、割り当てられたユーザーまたはユーザーグループのチェックマークアイコンが表示されます。

サポートされているルール

特権昇格は、実行可能ファイルルールとWindowsインストーラールールの2種類のルールを使用して適用できます。

- **実行可能ファイルルール**。アプリケーションに関連付けられた.exeおよび.com拡張子を持つファイルを含むルール。
- **Windowsインストーラールール**。アプリケーションに関連付けられた.msiおよび.msp拡張子を持つインストーラーファイルを含むルール。Windowsインストーラールールを追加する際は、次のシナリオを考慮してください。
  - 特権昇格はMicrosoftのmsiexec.exeにのみ適用されます。`.msi` および `.msp` Windowsインストーラーファイルを展開するために使用するツールがmsiexec.exeであることを確認してください。
  - あるプロセスが指定されたWindowsインストーラールールに一致し、その親プロセスが指定された実行可能ファイルルールに一致するとします。指定された実行可能ファイルルールで**子プロセスに適用**設定が有効になっていない限り、そのプロセスは昇格された特権を取得できません。

実行可能ファイルルールまたは**Windowsインストーラールール**タブをクリックすると、**アクション**セクションに次の利用可能なアクションが表示されます。

- **編集**。既存の実行可能ファイルルールを編集できます。
- **削除**。既存の実行可能ルールを削除できます。
- **ルールの追加**。実行可能ルールを追加できます。

ルールを追加するには

1. **実行可能ルール**または**Windowsインストーラールール**に移動し、**ルールの追加**をクリックします。**ルールの追加**ウィンドウが表示されます。
2. **表示**セクションで、以下を入力します。
    - **名前**。ルールの表示名を入力します。この名前はルールリストに表示されます。
    - **説明**。ルールに関する追加情報を入力します。
3. **タイプ**セクションで、オプションを選択します。
    - **パス**。ルールはファイルパスと一致します。
    - **発行元**。ルールは選択された発行元と一致します。
    - **ハッシュ**。ルールは特定のハッシュコードと一致します。
4. **設定**セクションで、必要に応じて以下を構成します。
    - **子プロセスに適用**。選択した場合、実行可能ファイルが開始するすべての子プロセスにルールが適用されます。より詳細なレベルで特権昇格を管理するには、次のオプションを使用します。
        - **同じフォルダ内の実行可能ファイルにのみ適用**。選択した場合、同じフォルダを共有する実行可能ファイルにのみルールが適用されます。
        - **署名された実行可能ファイルにのみ適用**。選択した場合、署名された実行可能ファイルにのみルールが適用されます。
        - **同じ発行元の実行可能ファイルにのみ適用**。選択すると、同じ発行元情報を共有する実行可能ファイルにのみルールが適用されます。この設定は、ユニバーサル Windows プラットフォーム (UWP) アプリでは機能しません。

> **注:**

> Windows インストールルールを追加すると、**子プロセスに適用**設定がデフォルトで有効になり、編集することはできません。

- **開始時刻**。エージェントがルールを適用し始める時刻を指定できます。時刻形式はHH:MMです。時刻はエージェントのタイムゾーンに基づいています。
- **終了時刻**。エージェントがルールの適用を停止する時刻を指定できます。時刻形式はHH:MMです。指定された時刻以降、エージェントはルールを適用しなくなります。時刻はエージェントのタイムゾーンに基づいています。
- **パラメータの追加**。指定されたパラメータに一致する実行可能ファイルに特権昇格を制限できます。パラメータは一致基準として機能します。指定するパラメータが正しいことを確認してください。この機能の使用例については、「パラメータで実行される実行可能ファイル」を参照してください。このフィールドが空であるか、空白のみが含まれている場合、エージェントは、パラメータの有無にかかわらず、関連する実行可能ファイルに特権昇格を適用します。
- **正規表現を有効にする**。正規表現を使用して基準をさらに拡張するかどうかを制御できます。

5. **割り当て**セクションで、ルールを割り当てるユーザーまたはユーザーグループを選択します。すべてのユーザーおよびユーザーグループにルールを割り当てたい場合は、**すべて選択**を選択します。

> **ヒント:**
>
> - 通常のWindows選択修飾キーを使用して、複数の選択を行うことができます。
> - ユーザーまたはユーザーグループは、**管理 > ユーザー**タブに表示されるリストにすでに存在している必要があります。
> - ルールは後で (作成後に) 割り当てることもできます。

6. **次へ**をクリックします。
7. 次のいずれかを実行します。前のページで選択したルールタイプに応じて、異なるアクションが必要です。

> **重要：**

> WEMは、実行可能ファイルから発行元、パス、ハッシュなどの情報を取得するための**AppInfoViewer**というツールを提供します。このツールは、管理コンソールで構成するアプリケーションに関連情報を提供したい場合に役立ちます。たとえば、アプリケーションセキュリティ機能を使用する際に、アプリケーションから関連情報を抽出するためにこのツールを使用できます。このツールはエージェントのインストールフォルダにあります。

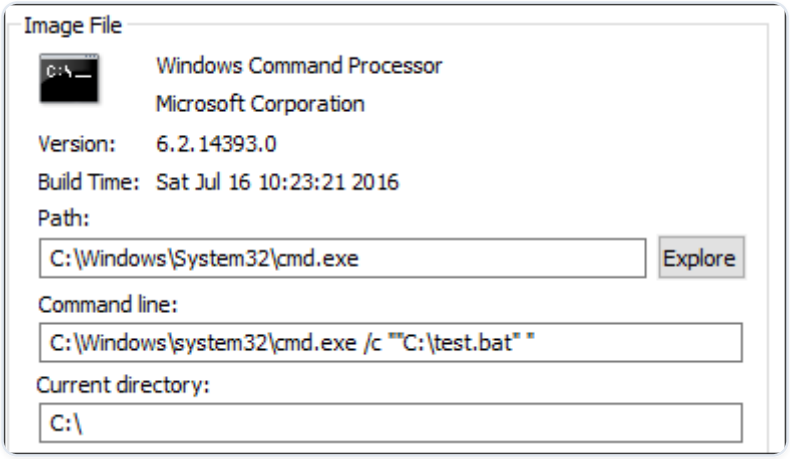
- **パス**。ルールを適用するファイルまたはフォルダーへのパスを入力します。WEMエージェントは、実行可能ファイルのパスに従って、 実行可能ファイルにルールを適用します。
- **発行元**。次のフィールドに入力します: **発行元**、**製品名**、**ファイル名**、**ファイルバージョン**。どのフィールドも空にすることはできませんが、代わりにアスタリスク (*) を入力できます。WEMエージェントは、発行元情報に従ってルールを適用します。適用された場合、ユーザーは同じ発行元情報を共有する実行可能ファイルを実行できます。
- **ハッシュ**。ハッシュを追加するには、**追加**をクリックします。**ハッシュの追加**ウィンドウで、ファイル名とハッシュ値を入力します。**AppInfoViewer**ツールを使用して、選択したファイルまたはフォルダからハッシュを作成できます。WEMエージェントは、指定されたとおりに同一の実行可能ファイルにルールを適用します。その結果、ユーザーは指定されたものと同一の実行可能ファイルを実行できます。

8. 「**作成**」をクリックしてルールを保存し、ウィンドウを閉じます。

パラメーターで実行される実行可能ファイル

指定されたパラメーターに一致する実行可能ファイルに特権昇格を制限できます。パラメーターは一致基準として機能します。実行可能ファイルで利用可能なパラメーターを確認するには、Process ExplorerやProcess Monitorなどのツールを使用します。それらのツールに表示されるパラメーターを適用します。

実行可能ファイルのパスに従って、実行可能ファイル（例: cmd.exe）にルールを適用するとします。特権昇格を`test.bat`にのみ適用したいとします。Process Explorerを使用してパラメーターを取得できます。



「**パラメーターの追加**」フィールドに、次のように入力できます。

- `/c ""C:\test.bat""`

次に、「**パス**」フィールドに次のように入力します。

- `C:\Windows\System32\cmd.exe`

この場合、指定されたユーザーの特権は、`test.bat`に対してのみ管理者レベルに昇格されます。

ユーザーにルールを割り当てるには

リストから1つ以上のルールを選択し、「**アクション**」セクションで「**編集**」をクリックします。「**ルールの編集**」ウィンドウで、ルールを割り当てるユーザーまたはユーザーグループを選択し、「**OK**」をクリックします。

ルールを削除するには

リストから1つ以上のルールを選択し、「**アクション**」セクションで「**削除**」をクリックします。

特権昇格ルールをバックアップするには

現在の構成セット内のすべての特権昇格ルールをバックアップできます。すべてのルールは単一のXMLファイルとしてエクスポートされます。「**復元**」を使用して、任意の構成セットにルールを復元できます。

バックアップを完了するには、リボンで利用可能な「**バックアップ**」ウィザードを使用します。「**バックアップ**」ウィザードの使用方法の詳細については、リボンを参照してください。

特権昇格ルールを復元するには

Workspace Environment Management バックアップウィザードを介してエクスポートされたXMLファイルから、特権昇格ルールを復元できます。復元プロセスでは、現在の構成セットのルールがバックアップ内のルールに置き換えられます。**セキュリティ > 特権昇格**ペインに切り替えるか更新すると、無効な特権昇格ルールが検出されます。無効なルールは自動的に削除され、エクス

ポート可能なレポートに一覧表示されます。**復元**ウィザードの使用について詳しくは、「リボン」を参照してください。

自己昇格

自己昇格を使用すると、特定のユーザーに対して、事前に正確な実行可能ファイルを提供することなく、特権昇格を自動化できます。これらのユーザーは、ファイルを右クリックし、コンテキストメニューで**管理者権限で実行**を選択するだけで、該当する任意のファイルに対して自己昇格を要求できます。その後、昇格の理由を提供するよう求めるプロンプトが表示されます。WEMエージェントは理由を検証しません。昇格の理由は、監査目的でデータベースに保存されます。条件が満たされると、昇格が適用され、ファイルは管理者権限で正常に実行されます。

この機能により、ニーズに最適なソリューションを柔軟に選択できます。ユーザーが自己昇格を許可するファイルの許可リストを作成したり、ユーザーが自己昇格できないようにするファイルのブロックリストを作成したりできます。

自己昇格は、次の形式のファイルに適用されます: `.exe`、`.msi`、`.bat`、`.cmd`、`.ps1`、および`.vbs`。

> **注:**
>
> デフォルトでは、特定のアプリケーションが一部のファイルの実行に使用されます。たとえば、cmd.exe は .cmd ファイルの実行に使用され、powershell.exe は .ps1 ファイルの実行に使用されます。これらのシナリオでは、デフォルトの動作を変更することはできません。

> **セキュリティ > 自己昇格**を選択すると、次のオプションが表示されます。

- **自己昇格を有効にする**。自己昇格機能を有効にするかどうかを制御します。このオプションを選択すると、次のことが可能になります。
  - エージェントが自己昇格設定を処理できるようにします。
  - **自己昇格**タブの他のオプションを使用できるようにします。
  - ユーザーがファイルを右クリックしたときに、コンテキストメニューで**管理者権限で実行**オプションを使用できるようにします。これにより、ユーザーは**自己昇格**タブで指定した条件に一致するファイルに対して自己昇格を要求できます。
- **権限**。ユーザーが自己昇格を許可するファイルの許可リストを作成したり、ユーザーが自己昇格できないようにするファイルのブロックリストを作成したりできます。

  - **許可**。ユーザーが自己昇格を許可するファイルの許可リストを作成します。
  - **拒否**。ユーザーが自己昇格できないようにするファイルのブロックリストを作成します。

- 次の操作を実行できます。
  - **編集**。既存の条件を編集できます。
  - **削除**。既存の条件を削除できます。
  - **追加**。条件を追加できます。パス、選択した発行元、または特定のハッシュコードに基づいて条件を作成できます。

- **設定**。エージェントが自己昇格を適用する方法を制御する追加設定を構成できます。
  - **子プロセスに適用**。選択すると、ファイルが開始するすべての子プロセスに自己昇格条件が適用されます。
  - **開始時刻**。エージェントが自己昇格の条件の適用を開始する時刻を指定できます。時刻の形式はHH:MMです。時刻はエージェントのタイムゾーンに基づいています。
  - **終了時刻**。エージェントが自己昇格の条件の適用を停止する時刻を指定できます。時刻の形式はHH:MMです。指定された時刻以降、エージェントは条件を適用しなくなります。時刻はエージェントのタイムゾーンに基づいています。

- **割り当て**。自己昇格条件を該当するユーザーまたはユーザーグループに割り当てることができます。すべてのユーザーおよびユーザーグループに条件を割り当てるには、**すべて選択**をクリックするか、**全員**を選択します。**すべて選択**チェックボックスは、選択をクリアしてユーザーおよびユーザーグループを再選択する場合に便利です。

特権昇格アクティビティの監査

WEMは、特権昇格に関連するアクティビティの監査をサポートしています。詳しくは、「ユーザーアクティビティの監査」を参照してください。

プロセス階層制御

プロセス階層制御機能は、親子シナリオで特定のプロセスが親プロセスから開始できるかどうかを制御します。親プロセスを定義し、その子プロセスに対して許可リストまたはブロックリストを指定することで、ルールを作成します。この機能を使用する前に、このセクション全体を確認してください。

> **注:**

> - この機能はCitrix Virtual Appsにのみ適用されます。

> ルールの仕組みを理解するには、次の点に注意してください。

- プロセスは1つのルールのみに従います。同じプロセスに対して複数のルールを定義した場合、最も優先度の高いルールのみが適用されます。
- 定義したルールは、元の親子階層に限定されるだけでなく、その階層の各レベルにも適用されます。親プロセスに適用されるルールは、ルールの優先度に関係なく、その子プロセスに適用されるルールよりも優先されます。たとえば、次の2つのルールを定義します。
  - ルール1：WordはCMDを開くことができません。
  - ルール2：メモ帳はCMDを開くことができます。

  この2つのルールがある場合、まずWordを開き、次にWordからメモ帳を開くという方法で、ルールの優先度に関係なく、メモ帳からCMDを開くことはできません。

この機能は、特定のプロセスベースの親子関係に依存して動作します。シナリオにおける親子関係を視覚化するには、Process Explorerツールのプロセスツリー機能を使用します。Process Explorerの詳細については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/sysinternals/downloads/procmon>`を参照してください。

潜在的な問題を回避するために、Citrix Studioで**VUEMAppCmd.exe**を指す実行可能ファイルのパスを追加することをお勧めします。**VUEMAppCmd.exe**は、公開アプリケーションが開始する前にWEMエージェントが設定の処理を完了するようにします。Citrix Studioで、次の手順を実行します。

1. **アプリケーション**で、アプリケーションを選択し、アクションペインで**プロパティ**をクリックしてから、**場所**ページに移動します。
2. エンドユーザーのオペレーティングシステム上のローカルアプリケーションのパスを入力します。
   - **実行可能ファイルへのパス**フィールドに、次のように入力します: <%ProgramFiles%>\Citrix\Workspace Environment Management Agent\VUEMAppCmd.exe。
3. 開くアプリケーションを指定するコマンドライン引数を入力します。

- **コマンドライン引数**フィールドに、**VUEMAppCmd.exe**を介して起動するアプリケーションへのフルパスを入力します。パスに空白が含まれている場合は、アプリケーションのコマンドラインを二重引用符で囲んでください。
- たとえば、**VUEMAppCmd.exe**を介してiexplore.exeを起動したいとします。その場合は、次のように入力します: `%ProgramFiles(x86)%\"Internet Explorer"\iexplore.exe`。

考慮事項

この機能が動作するには、各エージェントマシンで**AppInfoViewer**ツールを使用して機能を有効にする必要があります。（このツールはエージェントのインストールフォルダーにあります。）このツールを使用して機能を有効または無効にするたびに、マシンの再起動が必要です。機能が有効になっている場合、エージェントのアップグレードまたはアンインストール後にエージェントマシンを再起動する必要があります。

プロセス階層制御機能が有効になっていることを確認するには、エージェントマシンで**レジストリエディター**を開きます。次のレジストリエントリが存在する場合、この機能は有効になっています。

- 32ビットOS
  - `HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Citrix\CtxHook\AppInit_Dlls\WEM Hook`
- 64ビットOS
  - `HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Citrix\CtxHook\AppInit_Dlls\WEM Hook`
  - `HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\WOW6432Node\Citrix\CtxHook\AppInit_Dlls\WEM Hook`

前提条件

この機能を使用するには、次の前提条件が満たされていることを確認してください。

- Citrix Virtual Appsの展開。
- エージェントがWindows 10またはWindows Serverで実行されていること。
- インプレースアップグレードまたは新規インストール後にエージェントホストが再起動されていること。

プロセス階層制御

セキュリティで**プロセス階層制御**を選択すると、次のオプションが表示されます。

- **プロセス階層制御を有効にする**。プロセス階層制御機能を有効にするかどうかを制御します。選択すると、**プロセス階層制御**タブの他のオプションが利用可能になり、そこで構成された設定が有効になります。この機能は、Citrix Virtual Appsの展開*でのみ*使用できます。
- **コンテキストメニューから「プログラムから開く」を非表示にする**。Windowsの右クリックコンテキストメニューから**プログラムから開く**オプションを表示するか非表示にするかを制御します。有効にすると、メニューオプションはインターフェイスから非表示になります。無効にすると、オプションは表示され、ユーザーはそれを使用してプロセスを開始できます。プロセス階層制御機能は、**プログラムから開く**オプションを介して開始されたプロセスには適用されません。現在のアプリケーション階層とは無関係なシステムサービスを介してアプリケーションがプロセスを開始するのを防ぐために、この設定を有効にすることをお勧めします。

プロセス階層制御タブには、構成したルールの完全なリストも表示されます。**検索**を使用してリストをフィルタリングできます。**割り当て済み**列には、割り当てられたユーザーまたはユーザーグループのチェックマークアイコンが表示されます。

アクションセクションには、次のアクションが表示されます。

- **編集**。ルールを編集できます。
- **削除**。ルールを削除できます。
- **ルールの追加**。ルールを追加できます。

ルールを追加するには

1. **プロセス階層制御**に移動し、**ルールを追加**をクリックします。**ルールを追加**ウィンドウが表示されます。
2. **表示**セクションで、次のように入力します。
    - **名前**。ルールの表示名を入力します。この名前はルールリストに表示されます。
    - **説明**。ルールに関する追加情報を入力します。
3. **タイプ**セクションで、オプションを選択します。
    - **パス**。ルールはファイルパスと一致します。
    - **発行元**。ルールは選択した発行元と一致します。
    - **ハッシュ**。ルールは特定のハッシュコードと一致します。
4. **モード**セクションで、次のいずれかのオプションを選択します。

- **子プロセスをブロックリストに追加**。選択した場合、親プロセスに対してルールを設定した後、該当する子プロセスのブロックリストを定義できます。ブロックリストは、指定したプロセスのみの実行を禁止し、他のプロセスは実行を許可します。
- **子プロセスを許可リストに追加**。選択した場合、親プロセスに対してルールを設定した後、該当する子プロセスの許可リストを定義できます。許可リストは、指定したプロセスのみの実行を許可し、他のプロセスは実行を禁止します。

> **注:**
>
> プロセスは1つのルールのみに従います。同じプロセスに対して複数のルールを定義した場合、ルールは優先順位に従って適用されます。

5. **優先度**セクションで、ルールの優先度を設定します。優先度を設定する際は、次の点を考慮してください。優先度は、設定したルールが処理される順序を決定します。値が大きいほど優先度が高くなります。整数を入力します。競合がある場合、優先度の高いルールが優先されます。
6. **割り当て**セクションで、ルールを割り当てるユーザーまたはユーザーグループを選択します。すべてのユーザーおよびユーザーグループにルールを割り当てる場合は、**すべて選択**を選択します。

> **注:**
>
> - 複数の項目を選択するには、通常のWindows選択キーを使用できます。
> - ユーザーまたはユーザーグループは、**管理 > ユーザー**タブに表示されるリストにすでに存在している必要があります。
> - 後で（ルール作成後に）ルールを割り当てることを選択できます。

7. **次へ**をクリックします。
8. 親プロセスにルールを設定するには、次のいずれかを実行します。前のページで選択したルールタイプによって、必要なアクションが異なります。

- **パス**。ルールに一致させたいファイルパスまたはフォルダーパスを指定します。フォルダーパスを指定した場合、ルールはそのフォルダー内のすべてのファイルとサブフォルダーに適用されます。WEMエージェントは、実行可能ファイルのパスに従って、実行可能

ファイルにルールを適用します。パスの一致を示すためにアスタリスク（*）のみを入力することはお勧めしません。そうすると、意図しないパフォーマンスの問題が発生する可能性があります。

- **発行元**。ルールの参照として使用する署名付き参照ファイルを指定します。発行元情報スライダーを使用して、プロパティの一致レベルを調整します。スライダーを上下に動かして、ルールの特異性を低くしたり高くしたりします。スライダーを「任意の発行元」の位置に移動すると、ルールはすべての署名付きファイルに適用されます。WEMエージェントは、発行元情報に従って親プロセスにルールを適用します。適用された場合、ユーザーは同じ発行元情報を共有する実行可能ファイルを実行できます。必要に応じて、**カスタム値を使用**を選択して情報をカスタマイズできます。
- **ハッシュ**。ハッシュを作成したいファイルまたはフォルダーを指定します。ルールはファイルのハッシュコードに一致します。WEMエージェントは、指定された同一の実行可能ファイルにルールを適用します。その結果、ユーザーは指定されたものと同一の実行可能ファイルを実行できます。

9. **次へ**をクリックして、子プロセスの設定を構成します。
10. 該当する子プロセスの許可リストまたはブロックリストを定義するには、次のいずれかを実行します。

    a. メニューからルールタイプを選択し、**追加**をクリックします。**子プロセス**ウィンドウが表示されます。

    b. **子プロセス**ウィンドウで、必要に応じて設定を構成します。**子プロセス**ウィンドウのユーザーインターフェイスは、選択したルールタイプによって異なります。子プロセスの場合、次のルールタイプが利用可能です: **パス**、**発行元**、および**ハッシュ**。

    c. **OK**をクリックして、**ルールの追加**ウィンドウに戻ります。さらに子プロセスを追加するか、**作成**をクリックしてルールを保存し、ウィンドウを終了できます。

ユーザーにルールを割り当てるには

リストから1つのルールを選択し、**アクション**セクションで**編集**をクリックします。**ルールの編集**ウィンドウで、ルールを割り当てたいユーザーまたはユーザーグループを選択し、**OK**をクリックします。

ルールを削除するには

リストで1つ以上のルールを選択し、**アクション**セクションで**削除**をクリックします。

ルールをバックアップするには

現在の構成セットにあるすべてのプロセス階層制御ルールをバックアップできます。すべてのルールは単一のXMLファイルとしてエクスポートされます。**復元**を使用して、任意の構成セットにルールを復元できます。

バックアップを完了するには、リボンで使用できる**バックアップ**ウィザードを使用します。**バックアップ**ウィザードの使用方法について詳しくは、「リボン」を参照してください。

ルールを復元するには

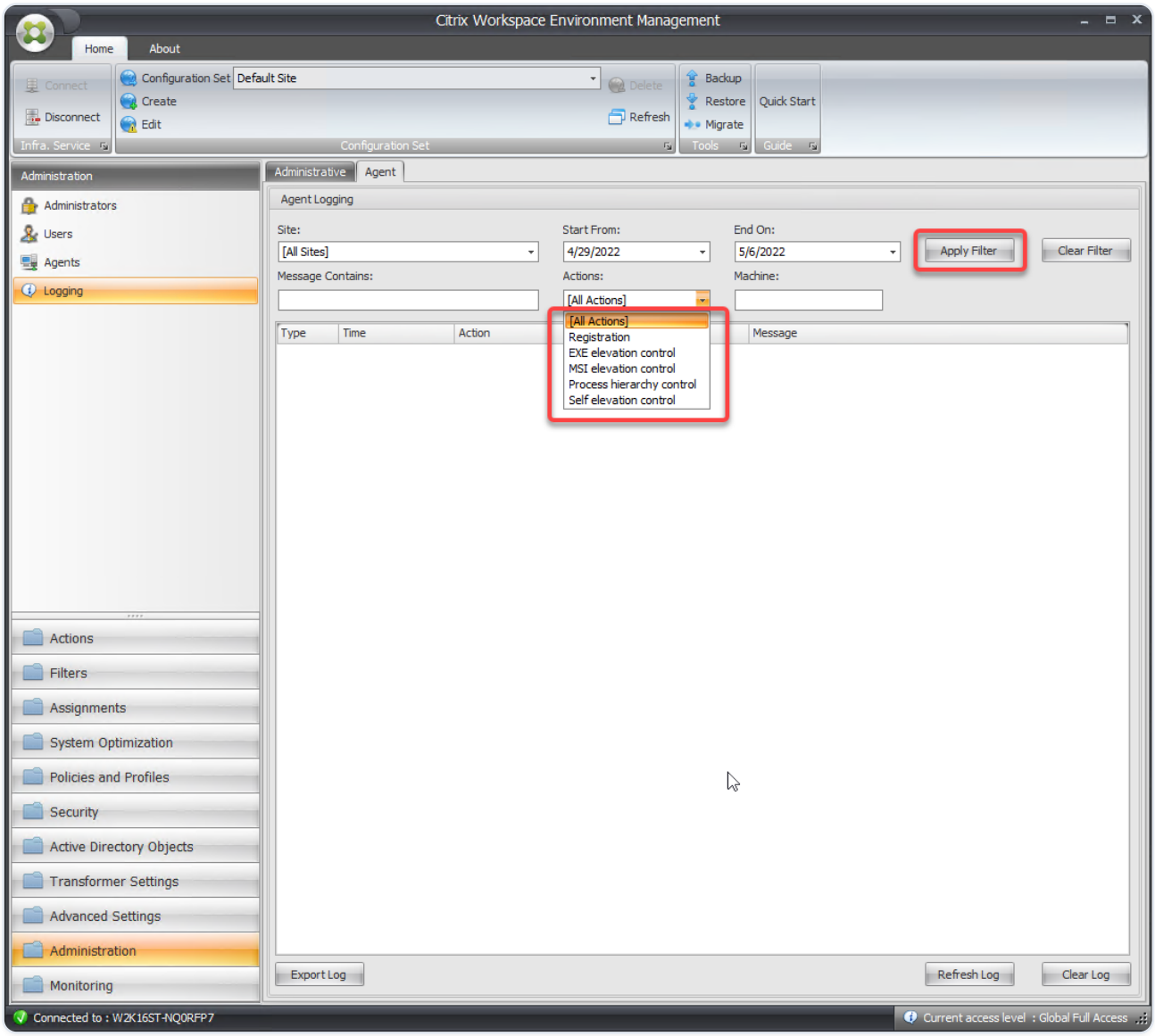
Workspace Environment Managementのバックアップウィザードを介してエクスポートされたXMLファイルから、プロセス階層制御ルールを復元できます。復元プロセスでは、現在の構成セットのルールがバックアップ内のルールに置き換えられます。**セキュリティ > プロセス階層制御**ペインに切り替えるか更新すると、無効なルールは削除され、エクスポート可能なレポートに一覧表示されます。**復元**ウィザードの使用方法について詳しくは、「リボン」を参照してください。

プロセス階層制御アクティビティの監査

WEMは、プロセス階層制御に関連するアクティビティの監査をサポートしています。詳しくは、「ユーザーアクティビティの監査」を参照してください。

ユーザーアクティビティの監査

WEMは、特権昇格およびプロセス階層制御に関連するアクティビティの監査をサポートしています。監査を表示するには、**管理 > ログ > エージェント**タブに移動します。このタブで、ログ設定を構成し、**アクション**フィールドで**ElevationControl**、**Self-elevation**、または**ProcessHierarchyControl**を選択し、**フィルターの適用**をクリックしてログを特定のアクティビティに絞り込みます。特権昇格またはプロセス階層制御の履歴全体を表示できます。



Active Directory オブジェクト

これらのページを使用して、Workspace Environment Management™ (WEM) で管理するユーザー、コンピューター、グループ、および組織単位を指定します。

> **注:**
>
> エージェントが管理できるように、ユーザー、コンピューター、グループ、およびOUをWEMに追加します。

ユーザー

既存のユーザーとグループのリストです。**検索**を使用して、テキスト文字列に対して名前またはIDでリストをフィルタリングできます。

ユーザーを追加するには

1. コンテキストメニューから**追加**を選択します。
2. Windowsのユーザーの選択ダイアログでユーザー名またはグループ名を入力し、**OK**をクリックします。

名前。ユーザーまたはグループの名前。

説明。**アイテムの編集**ダイアログにのみ表示されます。ユーザーまたはグループに関する追加情報を指定できます。

アイテムの優先度。異なるグループとユーザーアカウント間の優先度を構成できます。優先度は、割り当てたアクションが処理される順序を決定します。優先度を指定するには整数を入力します。値が大きいほど優先度が高くなります。競合がある場合（たとえば、同じドライブ文字で異なるネットワークドライブをマッピングする場合）、優先度の高いグループまたはユーザーアカウントが優先されます。

> **重要：**
>
> グループポリシー設定を割り当てる場合、ここで構成した優先度は機能しません。それらの優先度を設定するには、**管理コンソール > 割り当て**を使用します。詳細については、「グループポリシー設定のコンテキスト化」を参照してください。

> **アイテムの状態**。ユーザーまたはグループを有効にするか無効にするかを選択できます。無効になっている場合、アクションを割り当てることはできません。

複数のユーザーを追加するには

1. コンテキストメニューから**追加**を選択します。
2. テキストボックスに複数のユーザー名またはグループ名を追加し、セミコロンで区切ってから、**OK**をクリックします。

マシン

現在のサイト（構成セット）に追加されたコンピューターのリストです。ここにリストされているコンピューターのみがWorkspace Environment Managementによって管理されます。これらのコンピューター上のエージェントがインフラストラクチャサーバーに登録すると、インフラストラクチャサーバーは構成セットに必要なマシン依存の設定をそれらに送信します。**検索**を使用して、テキスト文字列に対して名前またはIDでリストをフィルターできます。

> **ヒント:**
>
> これらのマシン上のエージェントがインフラストラクチャサーバーに正しく登録されているかどうかを確認するには、管理セクションの「エージェント」を参照してください。

コンピューターまたはコンピューターグループを現在の構成セットに追加するには

1. **オブジェクトの追加**コンテキストメニューコマンドまたはボタンを使用します。
2. Select Computers or Groupsダイアログで、コンピューターまたはコンピューターグループを選択し、**OK**をクリックします。

組織単位内のコンピューターを構成セットに追加するには

1. **OUの追加**コンテキストメニューコマンドまたはボタンを使用します。
2. Organizational Unitsダイアログで、組織単位を選択し、**OK**をクリックします。

コンピューター、コンピューターグループ、またはOUの詳細を編集するには

1. リスト内の項目を選択します。
2. **編集**コンテキストメニューコマンドまたはボタンを使用します。
3. Edit itemダイアログで、以下の詳細（読み取り専用ではないもの）を編集し、**OK**をクリックします。

名前*。コンピューター、コンピューターグループ、またはOUの名前。

識別名*。選択したコンピューターまたはコンピューターグループの識別名（DN）。このフィールドを使用すると、同じ名前を持つ異なるOUを区別できます。

説明。コンピューター、コンピューターグループ、またはOUに関する追加情報。

種類*。選択された種類（コンピューター、グループ、または組織単位）

アイテムの状態。コンピューター、コンピューターグループ、またはOUの状態（有効または無効）。無効になっている場合、コンピューター、コンピューターグループ、またはOUにはアクションを割り当てることができません。

アイテムの優先度。これにより、異なるグループとユーザーアカウント間で優先度を構成できます。優先度は、割り当てたアクションが処理される順序を決定します。値が大きいほど、優先度が高くなります。整数を入力します。競合がある場合（たとえば、同じドライブ文字で異なるネット

ワークドライブをマッピングする場合）、優先度の高いグループまたはユーザーアカウントが優先されます。

* Active Directoryから報告された読み取り専用の詳細。

詳細設定

Active Directory検索のタイムアウト

Active Directoryの動作を構成します。

- **Active Directory検索のタイムアウト**。Active Directory検索が終了するまでのタイムアウトをミリ秒単位で指定します。デフォルト値は1000です。検索が完了する前にタイムアウトが発生するのを避けるため、500以上の値を使用することをお勧めします。

バインドされていないエージェントのサイト設定

バインドされていないエージェントに設定を適用するかどうかを制御します。バインドされていないエージェントとは、どの構成セットにもバインドされていないエージェントのことです。

次の設定は、WEM展開全体に適用されます。これは、どの構成セット（サイト）にも関連付けられていません。この設定を有効にした後、「バインドされていないエージェント」構成セットに移動し、そこで設定を構成して、バインドされていないエージェントの動作を制御できます。

- **バインドされていないエージェントに設定を適用する**。「バインドされていないエージェント」構成セットの設定を、**Active Directoryオブジェクト**にまだ追加していないエージェントに適用できます。

Transformer の設定

これらのオプションを使用すると、Transformer 機能を構成できます。Transformer を使用すると、エージェントは、構成されたリモートデスクトップインターフェイスにユーザーをリダイレクトする Web またはアプリケーションランチャーとして接続できます。Transformer を使用して、任意の Windows PC を完全に元に戻せる「キオスク」モードで高性能シンクライアントに変換できます。

一般

一般設定

これらの設定は、Transformer の外観と基本設定を制御します。

Transformer を有効にする。有効にすると、このサイトに接続されているエージェントホストは自動的に *キオスクモード* になります。キオスクモードでは、エージェントホストは、構成されたリモートデスクトップインターフェイスにユーザーをリダイレクトする Web またはアプリケーションランチャーになります。ユーザー環境はロックダウンされ、ユーザーはエージェントとのみ対話できます。このオプションを無効にすると、**一般**ページまたは**詳細設定**ページのいずれの設定も処理されません。

Web インターフェイス URL。この URL は、ユーザーの仮想デスクトップの Web フロントエンドとして使用されます。これは、Citrix Virtual Apps または Citrix Virtual Desktops™ 環境へのアクセス URL です。

カスタムタイトル。有効にすると、Workspace Environment Management™ エージェントキオスクウィンドウにカスタムタイトルバーが設定されます。

ウィンドウモードを有効にする。有効にすると、Workspace Environment Management エージェントキオスクはウィンドウモードで起動します。ユーザーは引き続き Windows 環境からロックアウトされます。

言語選択を許可する。有効にすると、ユーザーは Transformer インターフェイスの言語を選択できます。

ナビゲーションボタンを表示する。有効にすると、「進む」、「戻る」、「ホーム」の Web ナビゲーションボタンがエージェントキオスクウィンドウに表示されます。「ホーム」は、ユーザーを上記で定義された Web インターフェイス URL に戻します。

時計を表示する。有効にすると、Transformer UI に時計が表示されます。

12時間表示の時計を表示する。有効にすると、12時間表示の時計（午前/午後）が表示されます。デフォルトでは、Transformer の時計は24時間表示です。

アプリケーションパネルを有効にする。有効にすると、Workspace Environment Management で割り当てられたユーザーのアプリケーションを含むパネルが表示されます。

アプリケーションパネルを自動的に非表示にする。有効にすると、アプリケーションパネルは使用されていないときに自動的に非表示になります。

ロック解除パスワードを変更する。**Ctrl+Alt+U** を押してユーザー環境のロックを解除するために使用できるパスワードを指定できます。これは、管理者が制限なしにユーザー環境のトラブルシューティングを行うことを可能にし、エージェントをサポートするように設計されています。

サイト設定

サイトリストを有効にする。有効にすると、URL のリストがキオスクインターフェイスに追加されます。

ツール設定

ツールリストを有効にする。有効にすると、ツールリストがキオスクインターフェイスに追加されます。

詳細設定

プロセスランチャー

これらのオプションを使用すると、Workspace Environment Management Agent のキオスクモードを、Web インターフェイスを表示するのではなく、プロセスランチャーとして機能させることができます。

プロセスランチャーを有効にする。有効にすると、Workspace Environment Management エージェントがプロセスランチャーモードになります。プロセスランチャーモードでは、Workspace Environment Management エージェントは**プロセスコマンドライン**で指定されたプロセスを起動します。プロセスが終了した場合、再起動されます。

プロセスコマンドライン。特定のプロセスのコマンドラインを入力できます（例: RDP 接続を起動するための mstsc.exe へのパス）。

プロセス引数。上記のコマンドラインに引数を指定できます（例: mstsc.exe の場合、接続するマシンの IP アドレス）。

VMware View の最終ユーザー名をクリア。有効にすると、VMware デスクトップセッションを起動したときに、ログオン画面で以前のユーザーのユーザー名がクリアされます。

VMware View モードを有効にする。有効にすると、プロセスランチャーは、VMware View モードでユーザーのマシンで実行されている仮想アプリケーションまたはデスクトップを監視し、それらがすべて閉じられたときに**セッション終了オプション**を実行できるようになります。

Microsoft RDS モードを有効にする。有効にすると、プロセスランチャーは、Microsoft Remote Desktop Services (RDS) モードでユーザーのマシンで実行されている仮想アプリケーションまたはデスクトップを監視し、それらがすべて閉じられたときに**セッション終了オプション**を実行できるようになります。

Citrix モードを有効にする。有効にすると、プロセスランチャーは、Citrix モードでユーザーのマシンで実行されている仮想アプリケーションまたはデスクトップを監視し、それらがすべて閉じられたときに**セッション終了オプション**を実行できるようになります。

詳細設定と管理設定

ブラウザレンダリングを修正。有効にすると、キオスクウィンドウが、エージェントホストマシンに現在インストールされている Internet Explorer (IE) のバージョンと互換性のあるブラウザモードで実行されるように強制します。デフォルトでは、これによりキオスクウィンドウは IE7 互換モードで実行されます。

ログオフ画面のリダイレクト。有効にすると、ユーザーがログオフページにアクセスするたびに、自動的にログオンページにリダイレクトされます。

スクリプトエラーを抑制。有効にすると、発生するスクリプトエラーを抑制します。

SSLサイトを修正。有効にすると、SSL警告を完全に非表示にします。

Citrixセッション中のキオスクを非表示。有効にすると、ユーザーがCitrixセッションに接続している間、Citrix Workspace™ Environment Management Agentキオスクを非表示にします。

常に管理者メニューを表示。有効にすると、キオスク管理者メニューが常に表示されます。これにより、すべてのユーザーがキオスク管理者メニューにアクセスできるようになります。

タスクバーとスタートボタンを非表示。有効にすると、ユーザーのタスクバーとスタートメニューを非表示にします。無効にすると、ユーザーは引き続きデスクトップにアクセスできます。

Alt-Tabをロック。有効にすると、Alt-Tabコマンドを無視し、ユーザーがエージェントから切り替えるのを防ぎます。

Zオーダーを修正。有効にすると、キオスクインターフェイスに「非表示」ボタンが追加され、ユーザーがキオスクをバックグラウンドに移動できるようになります。

Citrix Desktop Viewerをロック。有効にすると、デスクトップビューアがロックダウンモードに切り替わります。これは、Citrix Workspace app for Windows Desktop Lockがインストールされている場合に発生するロックダウンと同等です。これにより、ローカルアプリケーションとの統合が向上します。このオプションは、以下のすべての条件が満たされている場合にのみ機能します。

- エージェントホストにログオンしているユーザーが管理者グループのメンバーではないこと。
- **General Settings**タブの**Enable Transformer**オプションが有効になっていること。
- **Logon/Logoff & Power Settings**タブの**Enable Autologon Mode**オプションが有効になっていること。

表示設定を非表示。有効にすると、Transformer UIの**Settings**の下にある**Display**が非表示になります。

キーボード設定を非表示。有効にすると、Transformer UIの**Settings**の下にある**Keyboard**が非表示になります。

マウス設定を非表示。有効にすると、Transformer UIの**Settings**の下にある**Mouse**が非表示になります。

音量設定を非表示。有効にすると、Transformer UI の「**設定**」の下にある「**音量**」が非表示になります。

クライアント詳細を非表示。有効にすると、Transformer UI の感嘆符アイコンの下にある「**クライアント詳細**」が非表示になります。「**クライアント詳細**」から、バージョン番号などの情報を確認できます。

プログレスバーを無効にする。有効にすると、埋め込み Web ブラウザのプログレスバーが非表示になります。

Windows バージョンを非表示。有効にすると、Transformer UI の感嘆符アイコンの下にある「**Windows バージョン**」が非表示になります。

ホームボタンを非表示。有効にすると、Transformer UI のメニューにあるホームアイコンが非表示になります。

プリンター設定を非表示。有効にすると、Transformer UI のメニューにあるプリンターアイコンが非表示になります。ユーザーは Transformer UI でプリンターを管理できません。

Receiver をプレ起動。有効にすると、Citrix Workspace アプリを起動し、キオスクモードウィンドウを表示する前にロードが完了するまで待機します。

ロック解除を無効にする。有効にすると、エージェントは **Ctrl+Alt+U** のロック解除ショートカットではロック解除できません。

ログオフオプションを非表示。有効にすると、Transformer UI のシャットダウンアイコンの下にある「**ログオフ**」が非表示になります。

再起動オプションを非表示。有効にすると、Transformer UI のシャットダウンアイコンの下にある「**再起動**」が非表示になります。

シャットダウンオプションを非表示。有効にすると、Transformer UI のシャットダウンアイコンの下にある「**シャットダウン**」が非表示になります。

前回の言語を無視。Transformer UI は複数の言語をサポートしています。「**一般ペイン**」で「**言語選択を許可**」オプションが有効になっている場合、ユーザーは Transformer UI の言語を選択できます。このオプションが有効になるまで、エージェントは選択された言語を記憶します。

ログオン/ログオフと電源設定

自動ログオンモードを有効にする。有効にすると、ユーザーは Windows ログオン画面をバイパスして、エージェントによってデスクトップ環境に自動的にログオンします。

セッション起動時に Web ポータルからログオフ。有効にすると、ユーザーのデスクトップセッションが起動したときに、 ページで指定された Web フロントエンドからログオフされます。

セッション終了オプション。ユーザーがセッションを終了したときに、エージェントが実行中の環境に対してどのようなアクションを実行するかを指定できます。

指定時刻にシャットダウン。有効にすると、エージェントは指定された現地時刻に、実行中の環境を自動的にシャットダウンします。

アイドル時にシャットダウン。有効にすると、エージェントは指定された時間アイドル状態（ユーザー入力なし）が続いた後、実行中の環境を自動的にシャットダウンします。

バッテリーステータスを確認しない。Transformerのユースケースでは、エージェントはバッテリーの状態を確認し、バッテリー残量が少なくなるとユーザーに警告します。有効にすると、エージェントはこのチェックを実行しません。

詳細設定

これらの設定は、エージェントがアクションを処理する方法とタイミングを変更します。

構成

これらのオプションは、基本的なエージェントの動作を制御します。

メイン構成

エージェントアクション。これらの設定は、エージェントがアクションタブで構成されたアクションを処理するかどうかを決定します。これらの設定は、ログオン時および更新時（自動または手動更新（ユーザーまたは管理者によってトリガーされる））に適用されます。

アプリケーションの処理。選択すると、エージェントはアプリケーションアクションを処理します。

プリンターの処理。選択すると、エージェントはプリンターアクションを処理します。

ネットワークドライブの処理。選択すると、エージェントはネットワークドライブアクションを処理します。

仮想ドライブの処理。選択すると、エージェントは仮想ドライブアクションを処理します。（仮想ドライブとは、ローカルファイルパスをドライブ文字にマッピングするWindows仮想ドライブまたはMS-DOSデバイス名です。）

レジストリ値の処理。選択すると、エージェントはレジストリエントリアクションを処理します。

環境変数の処理。選択すると、エージェントは環境変数アクションを処理します。

ポートの処理。選択すると、エージェントはポートアクションを処理します。

Iniファイル操作の処理。選択すると、エージェントは.iniファイルアクションを処理します。

外部タスクの処理。選択すると、エージェントは外部タスクアクションを処理します。

ファイルシステム操作の処理。選択すると、エージェントはファイルシステム操作アクションを処理します。

ファイル関連付けの処理。選択すると、エージェントはファイル関連付けアクションを処理します。

ユーザーDSNの処理。選択すると、エージェントはユーザーDSNアクションを処理します。

エージェントサービスアクション。これらの設定は、エージェントサービスがエンドポイントでどのように動作するかを制御します。

ログオン時にエージェントを起動。エージェントがログオン時に実行されるかどうかを制御します。

再接続時にエージェントを起動。ユーザーがエージェントが実行されているマシンに再接続したときに、エージェントが実行されるかどうかを制御します。

管理者向けにエージェントを起動。ユーザーが管理者である場合にエージェントが実行されるかどうかを制御します。

エージェントの種類。ユーザーがエージェントと対話する際に、ユーザーインターフェイス (UI) またはコマンドラインプロンプト (CMD) のどちらが表示されるかを制御します。

（仮想）デスクトップ互換性を有効にする。エージェントが実行されているデスクトップとの互換性を確保します。この設定は、ユーザーがセッションにログオンしたときにエージェントを起

動するために必要です。物理デスクトップまたはVDIデスクトップのユーザーがいる場合は、このオプションを選択します。

公開アプリケーションでCMDエージェントのみを実行。有効にすると、公開アプリケーションではエージェントがUIモードではなくCMDモードで起動します。CMDモードでは、エージェントのスプラッシュ画面の代わりにコマンドプロンプトが表示されます。

クリーンアップアクション

Options present on this tab control whether the agent deletes the shortcuts or other items (network drives and printers) when the agent refreshes. If you assign actions to a user or user group, you might find that you can also control the creation of the shortcuts or items. You can do so by configuring the options for the actions in the **Assigned** pane of the **Assignments > Action Assignment > Action Assignment** tab. Workspace Environment Management™ processes these options according to a specific priority:

1. **クリーンアップアクション**タブに表示されるオプション
2. **割り当て済み**ペインで割り当てられたアクションに対して構成されたオプション

たとえば、**割り当て済み**ペインで割り当てられたアプリケーションに対して**デスクトップの作成**オプションを有効にしており、アプリケーションのショートカットがすでにデスクトップに作成されているとします。**クリーンアップアクション**タブで**デスクトップショートカットの削除**オプションを有効にしても、エージェントが更新されたときにショートカットはデスクトップに残ります。

起動時のショートカット削除。エージェントは、更新時に選択された種類のすべてのショートカットを削除します。

起動時にネットワークドライブを削除。有効にすると、エージェントは更新するたびにすべてのネットワークドライブを削除します。

起動時にネットワークプリンターを削除。有効にすると、エージェントは更新するたびにすべてのネットワークプリンターを削除します。

自動作成されたプリンターを保持。有効にすると、エージェントは自動作成されたプリンターを削除しません。

特定のプリンターを保持。有効にすると、エージェントはこのリスト内のプリンターを削除しません。

エージェントオプション

これらのオプションは、エージェントの設定を制御します。

エージェントログを有効にする。エージェントログファイルを有効にします。

ログファイル。ログファイルの場所。デフォルトでは、これはログインユーザーのプロファイルルートです。

デバッグモード。これにより、エージェントの詳細ログが有効になります。

オフラインモードを有効にする。無効にすると、エージェントはインフラストラクチャサービスへの接続に失敗した場合でもキャッシュにフォールバックしません。

オンライン時でもキャッシュを使用。有効にすると、エージェントは常にキャッシュから設定とアクションを読み取ります（キャッシュはエージェントサービスがサイクルするたびに構築されます）。

キャッシュを使用してアクション処理を高速化。有効にすると、エージェントはインフラストラクチャサービスからではなく、エージェントのローカルキャッシュから関連設定を取得してアクションを処理します。これにより、アクションの処理が高速化されます。デフォルトでは、このオプションは有効になっています。以前の動作に戻したい場合は、このオプションを無効にしてください。

> **重要：**
>
> - エージェントのローカルキャッシュは、定期的にインフラストラクチャサービスと同期されます。したがって、アクション設定の変更が有効になるまでには、**Agent Cache Refresh Delay** オプション（**Advanced Settings > Configuration > Service Options** タブ）で指定した値に応じて時間がかかります。
> - 遅延を減らすには、より低い値を指定します。変更をすぐに有効にするには、**Administration > Agents > Statistics** タブに移動し、該当するエージェントを右クリックして、コンテキストメニューから **Refresh Cache** を選択します。

> **環境設定を更新**。有効にすると、エージェントの更新時にユーザー環境設定の更新がトリガーされます。環境設定の詳細については、「環境設定」を参照してください。

システム設定の更新。有効にすると、エージェントの更新時に、エージェントはWindowsシステム設定（例：Windowsエクスプローラー、コントロールパネル）の更新をトリガーします。

環境設定の変更時に更新。有効にすると、環境設定が変更されたときに、エージェントはエンドポイントでWindowsの更新をトリガーします。

デスクトップの更新。有効にすると、エージェントの更新時に、エージェントはデスクトップ設定の更新をトリガーします。デスクトップ設定の詳細については、「デスクトップ」を参照してください。

外観の更新。有効にすると、エージェントの更新時に、エージェントはWindowsテーマとデスクトップの壁紙の更新をトリガーします。

非同期プリンター処理。有効にすると、エージェントは他のアクションの処理完了を待たずに、プリンターを非同期で処理します。

非同期ネットワークドライブ処理。有効にすると、エージェントは他のアクションの処理完了を待たずに、ネットワークドライブを非同期で処理します。

初回環境クリーンアップ。有効にすると、エージェントは初回ログオン時にユーザー環境をクリーンアップします。具体的には、次の項目を削除します。

- ユーザーネットワークプリンター。
    - **クリーンアップアクション**タブで**自動作成されたプリンターを保持**が有効になっている場合、エージェントは自動作成されたプリンターを削除しません。
    - **クリーンアップアクション**タブで**特定のプリンターを保持**が有効になっている場合、エージェントはリストで指定されたプリンターを削除しません。
- ホームドライブであるネットワークドライブを除くすべてのネットワークドライブ。
- すべての非システムデスクトップ、スタートメニュー、クイック起動、およびスタートボタンのコンテキストメニューのショートカット。
- すべてのタスクバーとスタートメニューにピン留めされたショートカット。

初回デスクトップUIクリーンアップ。有効にすると、エージェントは初回ログオン時にセッションデスクトップをクリーンアップします。具体的には、次の項目を削除します。

- すべての非システムデスクトップ、スタートメニュー、クイック起動、およびスタートボタンのコンテキストメニューのショートカット。
- タスクバーとスタートメニューにピン留めされたすべてのショートカット。

アプリケーションの存在を確認する。有効にすると、エージェントは、ユーザーがサインインするマシンにアプリケーションが存在することを確認しない限り、ショートカットを作成しません。

アプリ変数を展開する。有効にすると、変数はデフォルトで展開されます（エージェントが変数を検出した場合の通常の動作については、環境変数を参照してください）。

クロスドメインユーザーグループ検索を有効にする。有効にすると、エージェントはすべてのActive Directoryドメインでユーザーグループを照会します。**注**: これは非常に時間のかかるプロセスであり、必要な場合にのみ選択してください。

ブローカーサービスタイムアウト。インフラストラクチャサービスへの接続に失敗した場合に、エージェントが独自のキャッシュに切り替えるまでのタイムアウト値。デフォルト値は15000ミリ秒です。

ディレクトリサービスタイムアウト。エージェントホストマシン上のディレクトリサービスに対するタイムアウト値。この値を超えると、エージェントはユーザーグループ関連付けの独自の内部キャッシュを使用します。デフォルト値は15000ミリ秒です。

ネットワークリソースタイムアウト。ネットワークリソース（ネットワークドライブまたはネットワーク上にあるファイル/フォルダリソース）の解決に対するタイムアウト値。この値を超えると、エージェントはアクションが失敗したと見なします。デフォルト値は500ミリ秒です。

エージェントの最大並列度。エージェントが使用できるスレッドの最大数。デフォルト値は0（プロセッサによって物理的に許可される最大数のスレッド）、1はシングルスレッド、2はデュアルスレッドなどです。通常、この値を変更する必要はありません。

通知を有効にする。有効にすると、インフラストラクチャサービスへの接続が失われたり復元されたりしたときに、エージェントはエージェントホストに通知メッセージを表示します。Citrix®は、品質の低いネットワーク接続ではこのオプションを有効にしないことを推奨します。そうしないと、接続状態変更通知がエンドポイント（エージェントホスト）に頻繁に表示される可能性があります。

詳細オプション

エージェントアクションの実行を強制する。これらの設定が有効になっている場合、変更が行われていなくても、エージェントホストは常にそれらのアクションを更新します。

未割り当てアクションを元に戻す。これらの設定が有効になっている場合、エージェントホストは次回の更新時に未割り当てのアクションをすべて削除します。

自動更新。有効にすると、エージェントホストは自動的に更新されます。デフォルトでは、更新遅延は30分です。

再接続アクション

再接続時のアクション処理。これらの設定は、エージェントホストがユーザー環境への再接続時に処理するアクションを制御します。

高度な処理

フィルター処理の強制。有効にすると、これらのオプションにより、Agent Host は更新ごとにフィルターを再処理します。

サービスオプション

これらの設定は、Agent Host サービスを構成します。

エージェントキャッシュ更新遅延。この設定は、Citrix WEM Agent Host Service がキャッシュを更新するまで待機する時間を制御します。更新により、キャッシュは WEM サービスデータベースと同期されます。デフォルトは 30 分です。

SQL 設定更新遅延。この設定は、Citrix WEM Agent Host Service が SQL 接続設定を更新するまで待機する時間を制御します。デフォルトは 15 分です。

エージェント追加起動遅延。この設定は、Citrix WEM Agent Host Service がエージェントホスト実行可能ファイルを起動するまで待機する時間を制御します。

> **ヒント:**

> エージェントホストにまず必要な作業を完了させたいシナリオでは、エージェントアプリケーションランチャー (VUEMAppCmd.exe) が待機する時間を指定できます。VUEMAppCmd.exe は、Citrix Virtual Apps and Desktops の公開アプリケーションが開始される前に、エージェントホストが環境の処理を完了することを保証します。待機時間を指定するには、Agent Host Configuration グループポリシーで利用可能な VUEMAppCmd extra sync delay 設定を構成します。詳細については、「WEM エージェントのインストールと構成」を参照してください。

> **デバッグモードを有効にする**。これにより、このサイトに接続するすべての Agent Host の詳細ログが有効になります。

ie4uinit チェックをバイパスする。デフォルトでは、Citrix WEM Agent Host Service は、Agent Host 実行可能ファイルを起動する前に ie4uinit が実行されるのを待機します。この設定により、Agent Host サービスは ie4uinit を待機しないように強制されます。

エージェント起動除外。有効にすると、指定されたユーザーグループに属するユーザーに対しては、Citrix WEM Agent Host は起動されません。

コンソール設定

禁止ドライブ。このリストに追加されたドライブ文字は、ドライブリソースを割り当てる際のドライブ文字選択から除外されます。

割り当てプロセスでのドライブ文字の再利用を許可する。有効にすると、割り当てで使用されたドライブ文字は、他の割り当てでも引き続き使用できます。

StoreFront™

このタブを使用して、StoreFront ストアを Workspace Environment Management に追加します。その後、**アクション > アプリケーション > アプリケーションリスト**タブに移動して、それらのストアで利用可能なアプリケーションを追加できます。これにより、公開アプリケーションをアプリケーションショートカットとしてエンドポイントに割り当てることができます。詳細については、「アプリケーション」を参照してください。Transformer (キオスク) モードでは、割り当てられた StoreFront アプリケーションアクションが**アプリケーション**タブに表示されます。StoreFront ストアの詳細については、「StoreFront のドキュメント」を参照してください。

ストアを追加するには

1. **追加**をクリックします。
2. **ストアの追加**ダイアログに詳細を入力し、**OK**をクリックします。ストアは構成セットに保存されます。

ストアのURL。Workspace Environment Management を使用してリソースにアクセスするストアの URL。URL は http://hostname の形式で指定する必要があります。ここで、hostname はストアの完全修飾ドメイン名であり、port はプロトコルのデフォルトポートが利用できない場合にストアとの通信に使用されるポートです。

> **重要：**
>
> - 使用するストアの URL は、外部ネットワークから直接アクセスできる必要があり、Citrix ADC などのソリューションの背後にあってはなりません。
> - この機能は、多要素認証を使用する StoreFront では動作しません。

> **説明**。ストアを説明するオプションのテキスト。

ストアを編集するには

リストからストアを選択し、**編集**をクリックしてストアの URL または説明を変更します。

ストアを削除するには

リストからストアを選択し、**削除**をクリックして構成セットからストアを削除します。

変更を適用するには

適用をクリックして、ストア設定をエージェントにすぐに適用します。

エージェントの切り替え

このタブにあるオプションを使用すると、オンプレミスエージェントからサービスエージェントに切り替えることができます。

> **重要：**
>
> エージェントの切り替えは、構成セットレベルで機能します。実行する切り替え操作は、構成セット内のエージェントのみに影響します。

サービスエージェントに切り替える。有効にすると、エージェントはオンプレミスエージェントからサービスエージェントに切り替わります。その後、エージェントが接続するCitrix Cloud™ Connectorを指定できます。これは、既存のオンプレミス展開をWEMサービスに移行する場合に役立ちます。

> **警告：**
>
> このオプションは、オンプレミス展開をWEMサービスに移行する場合にのみ有効にしてください。この移行は、WEM管理コンソールから元に戻すことはできません。

Citrix Cloud Connectorを構成する。Cloud ConnectorのFQDNまたはIPアドレスを入力して、Citrix Cloud Connectorを構成できます。**追加**をクリックして、一度に1つのCloud Connectorを追加します。高いサービス可用性を確保するために、Citrixでは各リソースの場所に少なくとも2つのCloud Connectorをインストールすることをお勧めします。したがって、少なくとも2つのCitrix Cloud Connectorを構成する必要があります。

Citrix Cloud Connector™の構成をスキップする。グループポリシーを使用してCitrix Cloud Connectorを構成する場合は、このオプションを選択します。

> **重要：**

> **詳細設定 > 構成 > サービスオプション**タブで構成した**SQL設定の更新遅延**設定によっては、エージェント切り替え設定が有効になるまでに時間がかかる場合があります。

> オンプレミスエージェントからサービスエージェントに切り替えた後、エージェントがWEMサービスに接続できない場合があり、ロールバックが必要になることがあります。これを行うには、AgentConfigurationUtility.exeコマンドラインを使用します。例：

- `<WEM agent installation folder path>AgentConfigurationUtility.exe switch -o --server <server name> --agentport <port number> --syncport <port number>`
- `<WEM agent installation folder path>AgentConfigurationUtility.exe switch -o --server <server name>`
- `<WEM agent installation folder path>AgentConfigurationUtility.exe switch --usegpo -o`

Wake on LAN (ウェイク・オン・ラン)

このタブを使用して、エージェントホストをリモートで起動します。WEMは、ターゲットエージェントと同じサブネットにあるエージェントを自動的に選択し、それらのエージェントをWake on LANメッセンジャーとして使用します。この機能には、Wake on LANに対応したハードウェアが必要です。この機能を使用するには、ターゲットマシンがハードウェア要件を満たし、関連するBIOS設定が構成されていることを確認してください。

エージェントのWake on LANを有効にする。Windowsオペレーティングシステムで、エージェントホストのWake on LANを有効にする設定を構成するかどうかを制御します。選択した場合、エージェントは次のシステム設定を構成します。

- ネットワークアダプターの**Energy Efficient Ethernet**を無効にする
- ネットワークアダプターの**Wake on Magic Packet**を有効にする
- ネットワークアダプターの**このデバイスでコンピューターのスタンバイを解除する**を有効にする
- ネットワークアダプターの**Magic Packetでのみコンピューターのスタンバイを解除する**を有効にする
- **高速スタートアップを有効にする**を無効にする

このオプションを有効にした後、**管理 > エージェント > 統計**タブに移動し、リストから1つ以上のエージェントを選択して、**エージェントを起動**をクリックして選択したエージェントを起動します。

UIエージェントのパーソナライズ

これらのオプションを使用すると、UIモードのエージェントの外観をパーソナライズできます。これらのオプションは、UIエージェントがユーザー環境でどのように表示されるかを決定します。

> **注:**
>
> これらのオプションは、UIモードのエージェントにのみ適用されます。CMDモードのエージェントには適用されません。

UIエージェントオプション

これらの設定により、ユーザー環境におけるセッションエージェント（UIモードのみ）の外観をカスタマイズできます。

カスタム背景画像パス。指定した場合、エージェントの起動時または更新時にCitrix Workspace Environment Managementのロゴの代わりにカスタムスプラッシュスクリーンが表示されます。画像はユーザー環境からアクセスできる必要があります。400*200 pxの.bmpファイルを使用することをお勧めします。

読み込み円の色。カスタム背景に合わせて読み込み円の色を変更できます。

テキストラベルの色。カスタム背景に合わせて読み込みテキストの色を変更できます。

UIエージェントスキン。UIエージェントから開くダイアログに使用する事前構成済みのスキンを選択できます。たとえば、**アプリケーションの管理**ダイアログや**プリンターの管理**ダイアログなどです。**注**: この設定はスプラッシュスクリーンを変更しません。

エージェントスプラッシュスクリーンを非表示。有効にすると、エージェントの読み込み時または更新時にスプラッシュスクリーンが非表示になります。この設定は、エージェントが最初に更新されるときには適用されません。

公開アプリケーションでエージェントアイコンを非表示。有効にすると、公開アプリケーションにエージェントアイコンが表示されません。

公開アプリケーションでエージェントスプラッシュスクリーンを非表示。有効にすると、エージェントが実行されている公開アプリケーションのスプラッシュスクリーンが非表示になります。

管理者のみがエージェントを閉じることができる。有効にすると、管理者のみがエージェントを終了できます。その結果、非管理者ユーザーのエンドポイントでは、エージェントメニューの**終了**オプションが無効になります。

ユーザーにプリンターの管理を許可。有効にすると、エンドポイントのユーザーはエージェントメニューの**プリンターの管理**オプションを利用できます。ユーザーはこのオプションをクリックして**プリンターの管理**ダイアログを開き、デフォルトプリンターの設定や印刷設定の変更を行うことができます。デフォルトでは、このオプションは有効になっています。

ユーザーにアプリケーションの管理を許可。有効にすると、エンドポイントのユーザーはエージェントメニューの**アプリケーションの管理**オプションを利用できます。ユーザーはこのオプションをクリックして**アプリケーションの管理**ダイアログを開き、以下のオプションを設定できます。デフォルトでは、このオプションは有効になっています。

- **デスクトップ**。アプリケーションのショートカットをデスクトップに追加します。
- **スタートメニュー**。スタートメニューフォルダーにアプリケーションのショートカットを作成します。
- **クイック起動**。アプリケーションをクイック起動ツールバーに追加します。
- **タスクバー (P)**。タスクバーにアプリケーションのショートカットを作成します。
- **スタートメニュー (P)**。アプリケーションをスタートメニューにピン留めします。

> **注:**
>
> 自己修復モードで作成されたショートカットは、このメニューを使用して削除できません。 クイック起動オプションは、Windows XP および Windows Vista でのみ使用できます。

管理者がエージェントを終了できないようにする。有効にすると、管理者はエージェントを終了できません。

アプリケーションショートカットを有効にする。有効にすると、エージェントメニューに オプションを表示するかどうかを制御します。ユーザーは メニューからアプリケーションを実行できます。デフォルトでは、このオプションは有効になっています。

管理更新フィードバックを無効にする。有効にすると、管理者が管理コンソールを通じてエージェントの更新を強制した場合でも、このオプションはユーザー環境に通知を表示しません。

ユーザーによるアクションのリセットを許可する。エージェントメニューに オプションを表示するかどうかを制御します。デフォルトでは、このオプションは無効になっています。 オプションを使用すると、現在のユーザーは環境でリセットするアクションを指定できます。ユーザーが を選択すると、 ダイアログが表示されます。このダイアログで、ユーザーはリセットする内容を詳

細に制御できます。ユーザーは該当するアクションを選択し、 をクリックできます。これにより、対応するアクション関連のレジストリエントリが消去されます。

> **注:**
>
> - エージェントメニューには、常に次の2つのオプションが表示されます: と 。 オプションは、WEMエージェント設定の即時更新をトリガーします。その結果、管理コンソールで構成された設定がすぐに有効になります。 オプションは、使用中のエージェントのバージョン詳細を表示するダイアログを開きます。

ヘルプデスクオプション

これらのオプションは、エンドポイントのユーザーが利用できるヘルプデスク機能を制御します。

ヘルプリンクアクション。エンドポイントのユーザーが オプションを利用できるかどうか、およびユーザーがそれをクリックしたときに何が起こるかを制御します。ユーザーがヘルプを要求できるウェブサイトのリンクを入力します。

カスタムリンクアクション。エージェントメニューに オプションを表示するかどうか、およびユーザーがそれをクリックしたときに何が起こるかを制御します。ユーザーがサポート関連情報にアクセスできるウェブサイトのリンクを入力します。

画面キャプチャを有効にする。エージェントメニューに オプションを表示するかどうかを制御します。ユーザーはこのオプションを使用して画面キャプチャツールを開くことができます。このツールには次のオプションがあります。

- **新規キャプチャ**。ユーザー環境のエラーのスクリーンショットを撮ります。
- **保存**。スクリーンショットを保存します。
- **サポートに送信**。スクリーンショットをサポートスタッフに送信します。

サポートに送信オプションを有効にする。スクリーンキャプチャツールに**サポートに送信**オプションを表示するかどうかを制御します。有効にすると、ユーザーは指定された形式で、指定されたサポートメールアドレスにスクリーンショットとログファイルを直接送信できます。この設定には、動作する構成済みのメールクライアントが必要です。

カスタム件名。有効にすると、スクリーンキャプチャツールがサポートメールを送信するために使用するメール件名テンプレートを指定できます。

メールテンプレート。スクリーンキャプチャツールがサポートメールを送信するために使用するメールコンテンツテンプレートを指定できます。このフィールドは空にできません。

> **注:**
>
> メールテンプレートで使用できるハッシュタグのリストについては、動的トークンを参照してください。 **##UserScreenCaptureComment##ハッシュタグ**がメールテンプレートに含まれている場合にのみ、ユーザーはコメントを入力するオプションが表示されます。

SMTPを使用してメールを送信。有効にすると、MAPIの代わりにSMTPを使用してサポートメールを送信します。

SMTPのテスト。上記で入力されたSMTP設定をテストし、それらが正しいことを確認します。

省電力

指定時刻にシャットダウン。有効にすると、エージェントは実行中のマシンを指定された時刻に自動的にシャットダウンします。時刻はエージェントのタイムゾーンに基づきます。

アイドル時にシャットダウン。有効にすると、マシンが指定された時間アイドル状態（ユーザー入力なし）になった後、エージェントは実行中のマシンを自動的にシャットダウンします。

管理

管理ペインは、次の要素で構成されています。

- **管理者**。Workspace Environment Management™ の管理者（ユーザーまたはグループ）を定義し、管理コンソールを通じて構成セットにアクセスする権限を付与できます。
- **ユーザー**。ユーザー統計を表示できます。
- **エージェント**。エージェントの統計を表示し、キャッシュの更新、設定のリセット、統計のアップロードなどの管理タスクを実行できます。
- **ログ**。Workspace Environment Management での管理アクティビティを表示できます。ログを使用して、次のことができます。
  - 構成変更後に問題を診断し、トラブルシューティングする。
  - 変更管理を支援し、構成を追跡する。
  - 管理アクティビティを報告する。

管理者

これらのオプションを使用すると、Workspace Environment Management の管理者（ユーザーまたはグループ）を定義し、管理コンソールを通じて構成セットにアクセスする権限を付与できます。

構成済み管理者リスト

構成済み管理者のリストには、その権限レベル（**フルアクセス**、**読み取り専用**、または**詳細なアクセス**。詳細は下記を参照）が表示されます。**検索**を使用して、名前またはIDでテキスト文字列に対してリストをフィルタリングできます。

管理者を追加するには

1. コンテキストメニューの**追加**コマンドを使用します。
2. 「ユーザーまたはグループの選択」ダイアログに詳細を入力し、**OK**をクリックします。

名前。現在編集中のユーザーまたはグループの名前。

説明。ユーザーまたはグループに関する追加情報。

グローバル管理者。選択したユーザー/グループをグローバル管理者として指定するには、選択します。選択したユーザー/グループをサイト管理者として指定するには、クリアします。グローバル管理者の権限は、すべてのサイト（構成セット）に適用されます。サイト管理者の権限は、サイトごとに構成されます。

権限。これにより、選択したユーザー/グループに対して次のいずれかのアクセスレベルを指定できます。**注**: 管理者は、アクセス権のある設定のみを表示できます。

フルアクセス管理者は、指定されたサイト（構成セット）のあらゆる側面を完全に制御できます。フルアクセス権を持つグローバル管理者のみが、Workspace Environment Management管理者の追加/削除を行うことができます。グローバルフルアクセス管理者とグローバル読み取り専用管理者のみが、**管理**タブを表示できます。

読み取り専用管理者は、コンソール全体を表示できますが、設定を一切変更することはできません。グローバルフルアクセス管理者とグローバル読み取り専用管理者のみが、**管理**タブを表示できます。

詳細アクセスは、管理者が次の1つ以上の権限セットを持っていることを示します。

アクション作成者は、アクションを作成および管理できます。

アクションマネージャーは、アクションを作成、管理、および割り当てることができます。アクションを編集または削除することはできません。

フィルターマネージャーは、条件とルールを作成および管理できます。割り当てられたアプリケーションで使用されているルールは、フィルターマネージャーによって編集または削除することはできません。

割り当てマネージャーは、ユーザーまたはグループにリソースを割り当てることができます。

システムユーティリティマネージャーは、システムユーティリティの設定（CPU、RAM、プロセス管理）を管理できます。

ポリシーおよびプロファイルマネージャーは、ポリシーおよびプロファイルの設定を管理できます。

構成済みユーザーマネージャーは、構成済みユーザーリストからユーザーまたはグループを追加、編集、および削除できます。割り当てられたアクションを持つユーザーまたはグループは、構成済みユーザーマネージャーによって編集または削除することはできません。

トランスフォーマーマネージャーは、トランスフォーマーの設定を管理できます。

詳細設定マネージャーは、詳細設定（アクション処理の有効化または無効化、クリーンアップアクションなど）を管理できます。

セキュリティ管理者は、セキュリティタブのすべてのコントロールにアクセスできます。

状態。これは、選択したユーザー/グループが有効か無効かを制御します。無効にすると、そのユーザー/グループはWorkspace Environment Management管理者とは見なされず、管理コンソールを使用できません。

タイプ。このフィールドは読み取り専用で、選択したエンティティがユーザーかグループかを示します。

グローバル管理者がクリアされている場合、次のコントロールが有効になります。

サイト名。このインフラストラクチャサービスが接続されているデータベースに属するすべてのWorkspace Environment Managementサイト（構成セット）。

有効。指定されたWorkspace Environment Managementサイト（構成セット）に対してこの管理者を有効にするには、これを選択します。無効にすると、そのユーザー/グループはそのサイトの管理者とは見なされず、アクセスできません。

権限。このインフラストラクチャサービスに接続されている各Workspace Environment Managementサイト（構成セット）について、選択したユーザー/グループの権限レベルを選択します。

ユーザー

このページには、Workspace Environment Management展開に関する統計が表示されます。

統計

このページには、エージェントホストがデータベースに接続したユーザーの概要が表示されます。

ユーザー概要。現在のサイト（構成セット）とすべてのサイト（構成セット）の両方で、Workspace Environment Managementライセンスを予約した合計ユーザー数が表示されます。また、過去24時間および過去1か月の新規ユーザー数も表示されます。

ユーザー履歴。これには、現在のサイト（構成セット）に関連付けられているすべてのユーザーの接続情報が表示されます。これには、最終接続時刻、最後に接続したマシンの名前、セッションエージェントタイプ（UIまたはCMD）、およびバージョンが含まれます。**検索**を使用して、テキスト文字列に基づいて名前またはIDでリストをフィルタリングできます。

エージェント

このページには、Workspace Environment Management展開のエージェントに関する統計が表示されます。

統計

このページには、Workspace Environment Management データベースに記録されている Workspace Environment Management エージェントの概要が表示されます。

エージェントの概要。現在の構成セットとすべての構成セットの両方について、Workspace Environment Management ライセンスを予約しているエージェントの総数が表示されます。また、過去 24 時間および過去 1 か月間に追加されたエージェントも報告されます。

エージェントの履歴。構成セットに登録されているすべてのエージェントの接続情報が表示されます。これには、最終接続時刻、最後に接続したデバイスの名前、およびエージェントのバージョンが含まれます。**検索**を使用して、名前または ID でリストをフィルタリングできます。

同期状態列では、次のアイコンがエージェントキャッシュと Workspace Environment Management データベースとの最終同期の結果を示します。

- 成功 (チェックマークアイコン)。最終同期が成功し、同期結果が管理コンソールに報告されたことを示します。
- 不明 (疑問符アイコン)。同期が進行中であるか、同期がまだ開始されていないか、または同期結果が管理コンソールに報告されていないことを示します。
- 失敗 (X アイコン)。最終同期が失敗したことを示します。

Profile Management の正常性ステータス列では、展開における Profile Management の正常性ステータスを表示できます。

Profile Management の正常性ステータスは、Profile Management が最適に構成されているかどうかを判断するために、エージェントホストで自動ステータスチェックを実行します。これらのチェックの結果を表示して、各エージェントホストの出力ファイル (`%systemroot%\temp\UpmConfigCheckOutput.xml`) から特定の問題を特定できます。この機能は、毎日、または WEM エージェントホストサービスが起動するたびにステータスチェックを実行します。ステータスチェックを手動で実行するには、管理コンソールで選択したエージェントを右クリックし、コンテキストメニューで **Profile Management 構成チェックの更新**を選択します。各ステータスチェックはステータスを返します。最新のステータスを表示するには、**更新**をクリックします。**Profile Management の正常性ステータス**列のアイコンは、Profile Management の正常性ステータスに関する一般的な情報を提供します。

- 良好 (チェックマークアイコン)。Profile Management が良好な状態であることを示します。
- 警告 (三角形の感嘆符アイコン)。Profile Management が最適ではない状態であることを通知します。最適ではない設定は、展開における Profile Management のユーザーエクスペリエンスに影響を与える可能性があります。このステータスは、必ずしもユーザー側でのアクションを必要とするものではありません。
- エラー (X アイコン)。Profile Management が誤って構成されており、Profile Management が正常に機能しない原因となっていることを示します。
- 利用不可 (疑問符アイコン)。Profile Management が見つからないか、有効になっていない場合に表示されます。

ステータスチェックがお客様の経験を反映していない場合、または発生している問題を検出しない場合は、Citrix Technical Support にお問い合わせください。

最近接続済み列では、次のアイコンは、エージェントが特定の期間内に統計情報を Workspace Environment Management データベースにアップロードしたことを示します。エージェントはオンラインです。列フィールドが空白の場合は、エージェントがオフラインであることを示します。

- オンライン (チェックマークアイコン)

期限切れレコードのクリア。Workspace Environment Management データベースから期限切れのレコードを削除できます。ユーザーの最終ログオン時刻が24時間以上前の場合、対応するレコードは期限切れになります。

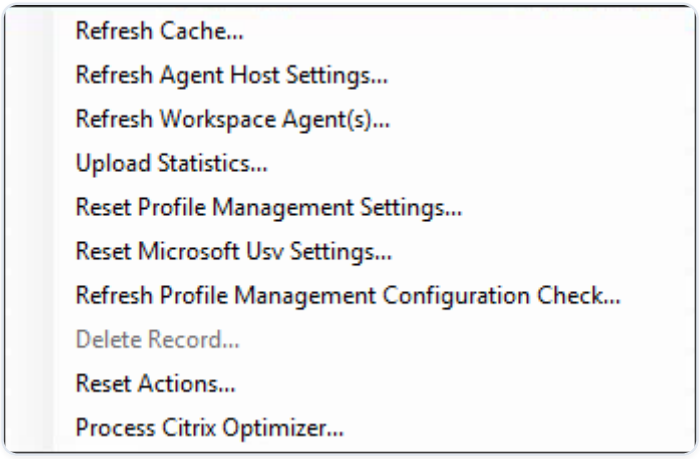
エージェントの起動。選択したエージェントを起動できます。

エージェントを更新するには

エージェントを更新すると、インフラストラクチャサーバーと通信します。インフラストラクチャサーバーは、Workspace Environment Management データベースでエージェントホストのIDを検証します。

1. エージェントのリストを更新するには、**更新**をクリックします。
2. コンテキストメニューで、**Workspace Agent(s) の更新**を選択します。

コンテキストメニューのオプション



キャッシュの更新。エージェントのローカルキャッシュ（WEM構成データベースのエージェント側レプリカ）の更新をトリガーします。キャッシュを更新すると、エージェントのローカルキャッシュがインフラストラクチャサービスと同期されます。

エージェントホスト設定の更新。エージェントサービス設定を適用します。これらの設定には、詳細設定、最適化設定、トランスフォーマー設定、およびその他のユーザーに割り当てられていない設定が含まれます。

Workspace Agent の更新。ユーザーに割り当てられたアクションをWEMエージェントに適用します。これらのアクションには、ネットワークドライブ、プリンター、アプリケーションなどが含まれます。

> **重要：**
>
> - **Workspace Agent の更新**オプションは、自動的に起動される（エンドユーザーやスクリプトによって起動されない）UIモードのエージェントでのみ機能します。このオプションは、CMDモードのエージェントでは機能しません。
> - すべての設定を更新できるわけではありません。一部の設定（たとえば、環境設定やグループポリシー設定）は、起動時またはログオン時にのみ適用されます。

> **統計のアップロード**。統計をインフラストラクチャサービスにアップロードします。

プロファイル管理設定のリセット。レジストリキャッシュをクリアし、関連する構成設定を更新します。プロファイル管理設定がエージェントに適用されていない場合は、**プロファイル管理設定のリセット**をクリックします。このオプションが利用可能になるには、**更新**をクリックする必要がある場合があります。

> **注:**
>
> WEM管理コンソールから**プロファイル管理設定のリセット**を構成した後も設定がエージェントに適用されない場合は、回避策についてCTX219086を参照してください。

> **Microsoft USV設定のリセット**。レジストリキャッシュをクリアし、関連する構成設定を更新します。Microsoft USV設定がエージェントに適用されていない場合は、**Microsoft USV設定のリセット**をクリックし、次に**更新**をクリックします。

プロファイル管理構成チェックの更新。エージェントホストでステータスチェックを実行し、プロファイル管理が最適に構成されているかどうかを判断します。

レコードの削除。データベースからエージェントレコードを削除できます。エージェントがまだアクティブな場合、このオプションはグレー表示されます。

アクションのリセット。該当するマシン上のすべてのアクション関連レジストリエントリをパージすることで、割り当てたすべてのアクションをリセットできます。

Citrix Optimizerの処理。Citrix Optimizer設定の変更がすぐに有効になるように、設定をエージェントに適用します。

登録

このページには、データベースに記録されているWorkspace Environment Managementエージェントの登録ステータスが表示されます。

> **重要：**
>
> エージェントは1つの構成セットにのみ登録する必要があります。

> 次の情報が報告されます。

マシン名。エージェントが実行されているコンピューターの名前。

状態。エージェントホストコンピューター上のエージェントの登録ステータス。アイコンと、登録の成功または失敗に関する詳細情報を示す以下の説明で示されます。

エージェントはどのサイトにもバインドされていません。エージェントがどのサイト（構成セット）にもバインドされていないため、インフラストラクチャサーバーはこのエージェントのサイト（構成セット）を解決できません。

エージェントは1つのサイトにバインドされています。インフラストラクチャサーバーは、そのサイト（構成セット）のエージェントに必要なマシン依存設定を送信しています。

エージェントが複数のサイトにバインドされています。エージェントが複数のサイト（構成セット）にバインドされているため、インフラストラクチャサーバーはこのエージェントのサイト（構成セット）を解決できません。

登録エラーを解決するには

次のいずれかを実行します。

- Active Directory階層（コンピューター、コンピューターグループ、OU間の関係）を編集する

または

- コンピューターが1つのサイト（構成セット）のみにバインドされるように、Workspace Environment Management階層（管理コンソールのActive Directoryオブジェクトセクション）を編集する。

これらの変更を行った後、インフラストラクチャサーバーでエージェントを更新します。

ログ

管理

このタブには、データベース内のWorkspace Environment Management設定に加えられたすべての変更のリストが表示されます。デフォルトでは、ログは手動で更新されるまで空です。

フィルタリングオプション。これらのオプションを使用すると、サイト（構成セット）および日付範囲でログをフィルタリングできます。

ログのエクスポート。ログをXLS形式でエクスポートします。

ログの更新。ログを更新します。

ログのクリア。すべての構成セットのログをクリアします。***これは元に戻せません***。ログをクリアすると、新しいログにその操作が行われたことを示すイベントが1つ追加されます。このオプションは、グローバルフルアクセス管理者のみが利用できます。

エージェント

このタブには、Workspace Environment Managementエージェントに加えられたすべての変更が一覧表示されます。**更新**をクリックするまで、ログは空です。

フィルタリングオプション。これらのオプションを使用すると、サイト（構成セット）および日付範囲でログをフィルタリングできます。

ログのエクスポート。ログをXLS形式でエクスポートします。

ログの更新。ログを更新します。

ログのクリア。すべての構成セットのログをクリアします。***これは元に戻せません***。ログをクリアすると、新しいログにその操作が行われたことを示すイベントが1つ追加されます。このオプションは、グローバルフルアクセス管理者のみが利用できます。

監視

これらのページには、ユーザーログインとマシンの起動に関する詳細なレポートが含まれています。すべてのレポートをさまざまな形式で**エクスポート**できます。

日次レポート

日次ログインレポート。このサイトに接続されているすべてのユーザーのログイン時間の毎日の概要です。カテゴリをダブルクリックすると、各デバイスの各ユーザーの個別のログオン時間を示す詳細ビューが表示されます。

日次起動レポート。このサイトに接続されているすべてのデバイスの起動時間の毎日の概要です。カテゴリをダブルクリックすると、各デバイスの個別の起動時間を示す詳細ビューが表示されます。

ユーザー傾向

ログイン傾向レポート。このレポートは、選択した期間における各日の全体的なログイン傾向を表示します。各日の各カテゴリをダブルクリックすると、詳細ビューが表示されます。

起動傾向レポート。このレポートは、選択した期間における各日の全体的な起動傾向を表示します。各日の各カテゴリをダブルクリックすると、詳細ビューが表示されます。

デバイスの種類。このレポートは、このサイトに接続している、リストされている各オペレーティングシステムのデバイスの数を日別に表示します。各デバイスの種類をダブルクリックすると、詳細ビューが表示されます。

ユーザーおよびデバイスレポート

ユーザーレポート。このレポートでは、選択した期間における単一ユーザーのログイン傾向を表示できます。各データポイントをダブルクリックすると、詳細ビューが表示されます。

デバイスレポート。このレポートでは、選択した期間における単一デバイスの起動傾向を表示できます。各データポイントをダブルクリックすると、詳細ビューが表示されます。

プロファイルコンテナのインサイト

この機能は、Profile ManagementおよびFSLogixのプロファイルコンテナを監視します。プロファイルコンテナの基本的な使用状況データ、プロファイルコンテナを使用しているセッションのステータス、検出された問題などに関するインサイトを提供します。

この機能を使用して、プロファイルコンテナのスペース使用状況を常に把握し、プロファイルコンテナの動作を妨げる問題を特定してください。

概要

2つのドーナツグラフが含まれます。

- **使用済みスペース**。左側のグラフは、指定された期間におけるプロファイルコンテナのスペース使用量を示します。
- **セッションステータス**。右側のグラフは、指定された期間に確立されたセッションのプロファイルコンテナのアタッチ結果を示します。

期間（例：過去6日間）を指定した後、**更新**をクリックしてグラフの更新をトリガーします。

使用済みスペースが次より多い場合、高 (GB)。プロファイルコンテナのスペース使用量を「高」と見なすしきい値を入力できます。正の整数を入力してください。

使用済みスペースが次より少ない場合、低 (GB)。プロファイルコンテナのスペース使用量を「低」と見なすしきい値を入力できます。正の整数を入力してください。

> **注:**
>
> - 高しきい値は、低しきい値よりも大きくする必要があります。

- 高しきい値と低しきい値を指定した後、**更新**をクリックして**使用済みスペース**グラフの更新をトリガーします。
- 高しきい値と低しきい値を指定した後、その間のスペース使用量はデフォルトで**中**になります。

プロファイルコンテナのステータス

指定された期間におけるプロファイルコンテナのステータスレコードのリストを表示します。期間（例：過去6日間）を指定した後、**更新**ボタンをクリックしてレコードをフィルタリングします。

選択したレコードが関連するコンテナのデータ収集をトリガーできます。これにより、ユーザーのコンテナステータスが最新の状態になります。これを行うには、ステータスレコードを右クリックし、**更新**を選択します。更新操作により、一連のタスクが実行されます。まず、関連するエージェントホストにタスクがすぐに送信されます。エージェントはタスクを受信し、コンテナがエージェントホストで使用中の場合はステータス関連データを収集します。次に、収集されたデータで最新のアタッチレコードが更新されます。ステータスが更新されるまで時間がかかる場合があります。最新のレコードを表示するには、**更新**ボタンをクリックします。

ステータス列には、ステータスとエラーコードに関する情報が表示されます。エラーコードの詳細については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/fslogix/fslogix-error-codes-reference>` のMicrosoftドキュメントを参照してください。

構成

レポートオプション

これらのオプションを使用すると、レポート期間と稼働日を制御できます。また、**起動時間**と**ログイン時間**（秒単位）の最小値を指定して、それ以下の値がレポートされないようにすることもできます。

バックアップと復元

「**バックアップと復元**」ページには、既存のバックアップのリストが表示されます。バックアップには、自動バックアップと手動バックアップ（構成セットと設定）の2種類があります。「**コンテンツタイプ**」列で、自動バックアップと手動バックアップを区別できます。

各バックアップに対して、次の操作を実行できます。

- 「**復元**」。バックアップから構成を復元できます。バックアップから構成を復元すると、選択した構成セットに関連するすべての設定がバックアップからの設定に置き換えられます。

> **注:**
>
> - プロファイル管理設定を構成セットに復元するには、その構成セットの「**プロファイル > プロファイル管理設定**」ページにあるクイックセットアップ機能を使用することもできます。
> - バックアップからプロファイル管理設定を復元すると、関連サービスで使用するために選択されたSMB共有も復元されます。

- 「**ダウンロード**」。バックアップのコピーをローカルマシンに保存できます。バックアップはブラウザのデフォルトのダウンロード場所に保存されます。バックアップファイルはJSON形式です。
- 「**削除**」。既存のバックアップを削除できます。

次の操作も実行できます。

- 「**アップロード**」ボタンの横にある更新アイコンをクリックして、現在のページを更新します。
- 構成ファイルをアップロードする
- 自動バックアップを管理する
- 構成セットをバックアップする
- プロファイル管理設定をバックアップする

構成ファイルをアップロードする

以前のバックアップに戻すために使用するJSONファイルをアップロードできます。JSONファイルには、構成セットまたはプロファイル管理設定を含めることができます。ファイルをアップロードするには、次の手順を実行します。

1. **アップロード**をクリックします。**バックアップファイルのアップロード**ウィザードが表示されます。
2. **参照**をクリックし、アップロードするファイルを参照して選択し、**開く**をクリックします。**バックアップファイルのアップロード**ウィザードに戻ります。
3. ファイルの名前を指定します。

4. **アップロード**をクリックして、アップロードを開始します。

> **注:**
>
> - JSONファイルのみをアップロードできます。
> - サイズが5 MB未満のファイルのみをアップロードできます。

自動バックアップの管理

構成セットのバックアップを自動的に保存できます。この機能は、最も古い既存のファイルを上書きし始める前に、各構成セットに対して最大5つのバックアップファイルを保存することをサポートしています。構成セットに関連する次の項目はバックアップできません。

- マシンに関連するディレクトリオブジェクト（単一のマシン、マシングループ、OU）
- 監視データ（統計とレポート）
- プロセス管理
- 構成セットに登録されているエージェント

自動バックアップを構成するには、次の手順を実行します。

1. **自動バックアップの管理**をクリックします。**自動バックアップの管理**ウィザードが表示されます。
2. 自動的にバックアップしたい構成セットを見つけます。
3. その構成セットに対して、次の3つのオプションのいずれかを選択します。
   - **未構成**。選択した場合、WEMは自動的にバックアップしません。
   - **毎日**。選択した場合、WEMは毎日バックアップを実行します。
   - **毎週**。選択した場合、WEMは毎週月曜日にバックアップを実行します。
4. 必要に応じて、他の構成セットに対して手順2と3を繰り返します。
5. **保存**をクリックして変更を保存し、ウィザードを終了します。

構成セットをバックアップする

> **重要：**

> 手動バックアップの数はアカウントごとに10個に制限されています。制限に達した場合は、既存のバックアップを削除して再試行してください。

> 構成セットのバックアップコピーを保存し、そのバックアップを復元目的で使用できます。構成セットに関連する次の項目をバックアップできます。

- アクション
- アプリケーションセキュリティ、特権昇格、およびプロセス階層制御
- 割り当て（アクションおよびアクショングループに関連）
- フィルター
- スクリプトタスク設定
- ユーザー
- WEM設定

構成セットに関連する以下の項目はバックアップできません。

- マシンに関連するディレクトリオブジェクト（単一マシン、マシングループ、OU）
- 監視データ（統計とレポート）
- プロセス管理
- 構成セットに登録されているエージェント

構成セットをバックアップするには、次の手順を実行します。

1. **バックアップ**をクリックします。**バックアップ**ウィザードが表示されます。
2. ターゲットの構成セットを選択します。
3. バックアップする構成セットをリストから選択します。
4. バックアップの名前を指定します。
5. オプションで、**バックアップのコピーをローカルマシンに保存**を選択して、バックアップをローカルに保存します。

   > **注:**
   >
   > バックアップは、ブラウザのデフォルトのダウンロード場所に保存されます。

6. **バックアップ**をクリックしてバックアップを開始します。

プロファイル管理設定のバックアップ

> **重要：**
>
> 手動バックアップの数はアカウントごとに10個に制限されています。制限に達した場合は、既存のバックアップを削除してから再試行してください。

Profile Management設定をバックアップするには、次の手順を実行します。

1. **バックアップ**をクリックします。**バックアップ**ウィザードが表示されます。
2. ターゲットの構成セットを選択します。
3. **バックアップする内容**リストから**設定**を選択します。
4. **Profile Management設定**を選択します。
5. バックアップの名前を指定します。
6. 必要に応じて、バックアップをローカルに保存するには、**バックアップのコピーをローカルマシンに保存**を選択します。

   > **注:**
   >
   > バックアップは、ブラウザーのデフォルトのダウンロード場所に保存されます。

7. **バックアップ**をクリックして、バックアップを開始します。

参照

特定のタスクを実行するには、次の記事を使用してください。

- エージェントイベントログ
- CMD および UI モードのエージェント
- 一般的なコントロールパネルアプレット
- 動的トークン
- 環境設定レジストリ値
- フィルター条件
- FIPS サポート
- Citrix ADC を使用した負荷分散
- ログパーサー
- ポート情報
- ログファイルの表示
- WEM 整合性条件リストマネージャー
- XML プリンターリスト構成

エージェントイベントログ

この記事では、WEMイベントログとその対応する固有のイベントIDのリストを提供します。

WEM構成セット

イベントID	レベル	メッセージ
1001	情報	エージェントが構成セットに正常に登録されました: 名前: `configuration set name` (ID: `configuration set ID`)。

イベントID	レベル	メッセージ
1002	警告	エージェントがどの構成セットにも登録されていません

WEMエージェントのインフラストラクチャサービスへの接続

イベントID	レベル	メッセージ
2001	情報	インフラストラクチャサービスに接続中: アドレス: `service address`
2002	エラー	無効なインフラストラクチャサービスアドレス
2003	エラー	WEMサービスに接続できません
2020	情報	WEMサービスに接続中: アドレス: `service address`
2021	情報	WEM用に構成されたCloud Connectorを取得中: `Cloud Connector list`
2022	情報	Citrix DaaS™からCloud Connectorを検出中: `Cloud Connector list`
2023	エラー	すべてのCloud Connectorに到達できません
2024	情報	Cloud Connector 稼働中: `Cloud Connector address`
2025	警告	Cloud Connector に到達できません: `Cloud Connector address`
2026	エラー	Cloud Connector を介して WEM サービスに接続できません

エージェント構成の更新イベント

イベント ID	レベル	メッセージ
3001	情報	エージェント構成設定の更新を開始中
3002	エラー	エージェント構成設定の更新が例外により失敗しました: `exception code`
3003	情報	エージェント構成設定が正常に更新されました

ディレクトリサービスイベント

イベントID	レベル	メッセージ
4001	警告	ユーザーのトークングループリストを取得できません
4002	警告	ユーザーのディレクトリサービスグループを取得できません
4003	警告	ユーザーが所属するすべてのグループを取得できません
4004	警告	ユーザーが所属するすべてのOUを取得できません
4005	警告	ローカルコンピューターのグループリストを取得できません
4006	警告	ローカルコンピューターのOUリストを取得できません

マシンポリシーイベント

イベントID	レベル	メッセージ
5001	情報	コンピューターグループポリシーの処理を開始しています
5002	情報	前提条件が満たされていないため、マシンポリシーの処理をスキップしています
5003	情報	マシンポリシーの処理をスキップしています: グループポリシー設定の処理が有効になっていません
5004	警告	コンピューターが属するグループまたはOUを取得できません。グループポリシーの処理は終了しました
5005	情報	コンピューターグループポリシーが正常に適用されました
5006	警告	コンピューターグループポリシーを適用できません。失敗したGPOのリスト: `GPO list`

ユーザーポリシーイベント

イベントID	レベル	メッセージ
5501	情報	`user name` のユーザーグループポリシーの処理を開始しています
5502	情報	前提条件が満たされていないため、ユーザーポリシーの処理をスキップしています
5503	情報	ユーザーポリシーの処理をスキップしています: グループ

イベントID	レベル	メッセージ
		ポリシー設定の処理が有効になっていません
5504	情報	マップされたアカウントが見つからなかったため、ローカルユーザー `user identity name` のポリシー処理をスキップしました
5505	警告	ユーザーが属するグループまたはOUを取得できません。グループポリシー処理が終了しました
5506	情報	ユーザーグループポリシーが正常に適用されました
5507	警告	ユーザーグループポリシーを適用できませんでした。失敗したGPOのリスト: `GPO list`

キャッシュ同期イベント

イベントID	レベル	メッセージ
6001	情報	自動エージェントキャッシュ同期を開始しています
6002	情報	オンデマンドエージェントキャッシュ同期を開始しています
6003	警告	ネットワークが利用できません。エージェントキャッシュの同期はスキップされました
6004	警告	エージェントキャッシュの同期はスキップされました: 無効なクラウドサービス設定

イベントID	レベル	メッセージ
6005	警告	エージェントキャッシュの同期はスキップされました: 無効なインフラストラクチャサービスアドレス
6006	エラー	エージェントキャッシュの同期が予期しないエラーで失敗しました
6007	情報	エージェントキャッシュの同期が正常に完了しました

最適化イベント

CPU最適化

イベントID 7003から7008までのメッセージが書き込まれるようにするには、以下のレジストリを追加します。

HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Control\Norskale\Agent Host

名前: EnableExtraLoggingForOptimization

種類: REG_DWORD

値: 1

> **注意:**

> レジストリを誤って編集すると、オペレーティングシステムの再インストールが必要になるなど、重大な問題が発生する可能性があります。Citrix®は、レジストリエディターの誤った使用によって生じた問題が解決されることを保証できません。レジストリエディターの使用は、お客様ご自身の責任において行ってください。編集する前に必ずレジストリをバックアップしてください。

イベントID	レベル	メッセージ
7001	情報	プロセス `process name` (ID: `process ID`) (ユーザー `user name` が作成) のCPUスパイク保護を初期化しています。各コアの平均CPU使用率の合計が `percentage value` で検出され、システム全体のCPU使用率は `percentage value` です。
7002	情報	プロセス `process name` (ID: `process ID`) (ユーザー `user name` が作成) のCPUスパイク保護を初期化しています。平均CPU使用率が `percentage value` で検出され、各コアの平均CPU使用率の合計は `percentage value` です。
7003	情報	ユーザー `user name` によって作成されたプロセス `process name` (ID: `process ID`) の優先度を `priority value` に変更しました。
7004	警告	ユーザー `user name` によって作成されたプロセス `process name` (ID: `process ID`) の優先度を `priority value` に変更できません。エラーコード: `error code` 。

イベントID	レベル	メッセージ
7005	情報	ユーザー `user name` によって作成されたプロセス `process name` (ID: `process ID`) のアフィニティ (`affinity value`) が正常に処理されました。
7006	警告	ユーザー `user name` によって作成されたプロセス `process name` (ID: `process ID`) のアフィニティ (`affinity value`) を構成できません。
7007	情報	ユーザー `user name` によって作成されたプロセス `process name` (ID: `process ID`) のI/O優先度を `priority value` に変更しました。
7008	警告	ユーザー `user name` によって作成されたプロセス `process name` (ID: `process ID`) のI/O優先度を `priority value` に変更できません。

メモリ最適化

イベントID	レベル	メッセージ
8001	情報	ユーザー `user name` によって作成されたプロセス `process name` (ID: `process ID`) のメモリ最適化を初期化しています。

イベントID	レベル	メッセージ
8002	情報	ユーザー `user name` によって作成されたプロセス `process name` (ID: `process ID`) のメモリ最適化に成功しました。
8003	警告	ユーザー `user name` によって作成されたプロセス `process name` (ID: `process ID`) のメモリを最適化できません。

CMDモードとUIモードのエージェント

Workspace Environment Management™エージェントは、CMDモードとUIモードで実行できます。

エージェントをログオン時に実行するように構成すると、CMDモードまたはUIモードのどちらで起動するかを制御できます。そのためには、**管理コンソール > 詳細設定 > 構成 > メイン構成**タブで利用できる**エージェントの種類**設定を使用します。詳細については、「詳細設定」を参照してください。

エージェントをログオン時に自動的に実行するように構成しない場合、管理者またはエンドユーザーは、エージェントマシンでエージェントをCMDモードまたはUIモードで起動できます。そのためには、エージェントのインストールフォルダーに移動し、次の2つの.exeファイルを特定します。

- **VUEMCmdAgent.exe**。エージェントをCMDモードで実行できます。
- **VUEMUIAgent.exe**。エージェントをUIモードで実行できます。

CMDモードとUIモードの違い

CMDモードについては、次の考慮事項に注意してください。

- ログオン時に自動的に実行される場合、CMDモードではコマンドプロンプトが表示されます。CMDモードは起動後に自動的に終了します。
- 起動時に、CMDモードはユーザーに割り当てられたアクションをエージェントに適用します。これらのアクションには、ネットワークドライブ、プリンター、アプリケーションなどが含まれます。

- 現在、CMDモードはコマンドライン操作をサポートしていません。

UIモードについては、次の考慮事項に注意してください。

- ログオン時に自動的に実行される場合、UIモードではエージェントのスプラッシュ画面が表示されます。
- UIモードでは、次のオプションが表示されます。
  - **マイアプリケーション**。割り当てられているアプリケーションを表示できます。
  - **画面キャプチャ**。画面キャプチャツールを開くことができます。このオプションを使用するには、**管理コンソール > 詳細設定 > UIエージェントのパーソナライズ > ヘルプデスクオプション**タブで**画面キャプチャを有効にする**を有効にする必要があります。詳細については、「ヘルプデスクオプション」を参照してください(/ja-jp/workspace-environment-management/2308/user-interface-description/advanced-settings.html#helpdesk-options)。
  - **アクションのリセット**。**アクションのリセット**ツールを開き、環境内でリセットするアクションを指定できます。

  このオプションを使用するには、**管理コンソール > 詳細設定 > UIエージェントのパーソナライズ > UIエージェントオプション**タブで**ユーザーによるアクションのリセットを許可する**を有効にする必要があります。詳細については、「UIエージェントオプション」を参照してください(/ja-jp/workspace-environment-management/2308/user-interface-description/advanced-settings.html#ui-agent-options)。

  - **アプリケーションの管理**。**アプリケーションの管理**ツールを開き、アプリケーションを管理できます。

  このオプションを使用するには、**管理コンソール > 詳細設定 > UIエージェントのパーソナライズ > UIエージェントオプション**タブで**ユーザーによるアプリケーションの管理を許可する**を有効にする必要があります。詳細については、「UIエージェントオプション」を参照してください(/ja-jp/workspace-environment-management/2308/user-interface-description/advanced-settings.html#ui-agent-options)。

  - **プリンターの管理**。**プリンターの管理**ツールを開き、デフォルトのプリンターを構成したり、印刷設定を変更したりできます。

  このオプションを使用するには、**管理コンソール > 詳細設定 > UIエージェントのパーソナライズ > UIエージェントオプション**タブで**ユーザーによるプリンターの管理を許可する**を有効にする必要があります。詳細については、「UIエージェントオプション」を参照してください(/ja-jp/workspace-environment-management/2308/user-interface-description/advanced-settings.html#ui-agent-options)。

- **更新**。エージェントを更新し、ユーザーに割り当てられたアクションをエージェントに適用します。これらのアクションには、ネットワークドライブ、プリンター、アプリケーションなどが含まれます。
- **ヘルプ**。ヘルプを求めることができるWebサイトを開きます。

このオプションを使用するには、**管理コンソール > 詳細設定 > UIエージェントのパーソナライズ > ヘルプデスクオプション**タブで**ヘルプリンクアクション**を指定する必要があります。詳細については、「ヘルプデスクオプション」を参照してください(/ja-jp/workspace-environment-management/2308/user-interface-description/advanced-settings.html#helpdesk-options)。

- **バージョン情報**。エージェントのバージョンに関する情報を表示します。
- **終了**。エージェントを閉じます。

アクションをリセットし、アプリケーションとプリンターを管理するには、UIモードでエージェントを使用する必要なく、次のツール（エージェントのインストールフォルダーで利用可能）を直接使用できます。

- **ResetActionsUtil.exe**。**アクションのリセット**ツールを開きます。
- **AppsMgmtUtil.exe**。**アプリケーションの管理**ツールを開きます。
- **PrnsMgmtUtil.exe**。「**プリンターの管理**」ツールを開くことができます。

CMDモードとUIモード間の主な違い：

- CMDエージェントは設定を適用してから終了します。WEMエージェントサービス（Citrix WEM Agent Host ServiceまたはCitrix WEM User Logon Service）を構成して、特定の時点（ログオンや再接続など）でCMDエージェントを起動できます。必要に応じて、管理者はCMDエージェントを手動で呼び出すことができます。
- UIエージェントは実行を継続します。Citrix WEM Agent Host ServiceはUIエージェントを起動または停止します。UIエージェントはエンドユーザーにセルフサービスオプションを提供します。管理者がUIエージェントを手動で起動しないことをお勧めします。

> **注:**
>
> セッション内でCMDエージェントとUIエージェントを同時に実行することはできません。

一般的なコントロールパネルのアプレット

以下のコントロールパネルのアプレットはWindowsで一般的です。

アプレット名	正規名
アクションセンター	Microsoft.ActionCenter
管理ツール	Microsoft.AdministrativeTools
自動再生	Microsoft.AutoPlay
生体認証デバイス	Microsoft.BiometricDevices
BitLocker ドライブ暗号化	Microsoft.BitLockerDriveEncryption
色の管理	Microsoft.ColorManagement
資格情報マネージャー	Microsoft.CredentialManager
日付と時刻	Microsoft.DateAndTime
既定のプログラム	Microsoft.DefaultPrograms
デバイス マネージャー	Microsoft.DeviceManager
デバイスとプリンター	Microsoft.DevicesAndPrinters
表示	Microsoft.Display
コンピューターの簡単操作センター	Microsoft.EaseOfAccessCenter
ファミリー セーフティ	Microsoft.ParentalControls
ファイル履歴	Microsoft.FileHistory
フォルダーオプション	Microsoft.FolderOptions
フォント	Microsoft.Fonts
ホームグループ	Microsoft.HomeGroup
インデックスのオプション	Microsoft.IndexingOptions

赤外線	Microsoft.Infrared
インターネットオプション	Microsoft.InternetOptions
iSCSI イニシエーター	Microsoft.iSCSIInitiator
iSNS サーバー	Microsoft.iSNSServer
キーボード	Microsoft.Keyboard
言語	Microsoft.Language
位置情報の設定	Microsoft.LocationSettings
マウス	Microsoft.Mouse
MPIO設定	Microsoft.MPIOConfiguration
ネットワークと共有センター	Microsoft.NetworkAndSharingCenter
通知領域のアイコン	Microsoft.NotificationAreaIcons
ペンとタッチ	Microsoft.PenAndTouch
個人設定	Microsoft.Personalization
電話とモデム	Microsoft.PhoneAndModem
電源オプション	Microsoft.PowerOptions
プログラムと機能	Microsoft.ProgramsAndFeatures
回復	Microsoft.Recovery
リージョン	Microsoft.RegionAndLanguage
RemoteApp とデスクトップ接続	Microsoft.RemoteAppAndDesktopConnections
サウンド	Microsoft.Sound
音声認識	Microsoft.SpeechRecognition
記憶域スペース	Microsoft.StorageSpaces

同期センター	Microsoft.SyncCenter
システム	Microsoft.System
タブレットPC設定	Microsoft.TabletPCSettings
タスクバーとナビゲーション	Microsoft.Taskbar
トラブルシューティング	Microsoft.Troubleshooting
TSAppInstall	Microsoft.TSAppInstall
ユーザーアカウント	Microsoft.UserAccounts
Windows エニータイム アップグレード	Microsoft.WindowsAnytimeUpgrade
Windows ディフェンダー	Microsoft.WindowsDefender
Windows ファイアウォール	Microsoft.WindowsFirewall
Windows モビリティ センター	Microsoft.MobilityCenter
ウィンドウズ トゥ ゴー	Microsoft.PortableWorkspaceCreator
ウィンドウズ アップデート	Microsoft.WindowsUpdate
ワークフォルダー	Microsoft.WorkFolders

動的トークン

Workspace Environment Management の任意のアクション(/ja-jp/workspace-environment-management/2308/user-interface-description/actions/applications.html)で動的トークンを使用して、機能を強化できます。

動的トークンは、次のフィールドで使用できます。

- グループポリシー設定
  - **アクション**が**削除**に設定されている場合: **値**
  - **アクション**が**値の設定**に設定され、**タイプ**が**REG_SZ: 値、データ**に設定されている場合

- **アクション**が**値の設定**に設定され、**タイプ**が**REG_EXPAND_SZ: 値、データ**に設定されている場合
- **アクション**が**値の設定**に設定され、**タイプ**が**REG_MULTI_SZ: 値、データ**に設定されている場合

> **注:**
>
> グループポリシー設定には、マシン設定とユーザー設定の2種類があります。マシン設定では、一部の動的トークンはサポートされていません。(#dynamic-token-support-for-group-policy-settings)を参照してください。

グループポリシー設定の動的トークンサポート

(/ja-jp/workspace-environment-management/service/manage/configuration-sets/actions.html#group-policy-settings)で動的トークンを使用すると、さまざまな環境でより適応性の高いポリシー構成が可能になり、手動構成が削減され、ポリシー管理が簡素化されます。

グループポリシー設定には、次の2種類があります。

- **マシン設定**。これらの設定は、誰がログオンするかに関係なく、マシンにのみ適用されます。
- **ユーザー設定**。これらの設定は、どのマシンにログオンするかに関係なく、ユーザーにのみ適用されます。

すべての動的トークンがグループポリシー設定でサポートされています。ただし、以下のものはマシン設定ではサポートされていません。

- ハッシュタグ
  - ##FullUserName##
  - ##UserInitials##
  - ##ClientName##
  - ##ClientIPAddress##
  - ##UserLDAPPath##
  - ##ClientRemoteOS##
- AD属性
  -
- HKCU配下のレジストリ

アプリケーション

- アプリケーションの種類が**インストールアプリケーション**の場合: **コマンドライン**、**作業ディレクトリ**、および**パラメータ**
- アプリケーションの種類が**ファイル/フォルダ**の場合: **ターゲット**
- アプリケーションの種類が**URL**の場合: **ショートカットURL**
- **アイコンファイル**

プリンター

- **ターゲットパス**

ネットワークドライブ

- **「ターゲットパス」**および**「表示名」**

仮想ドライブ

- **「ターゲットパス」**

レジストリ

- **「ターゲットパス」**、**「ターゲット名」**、および**「ターゲット値」**

> **注:**
>
> **「ターゲット値」**フィールドは環境変数の展開をサポートしていません。環境変数を使用すると、期待どおりに機能しません。

環境変数

- **「変数値」**

ポート

- **「ポートターゲット」**

Iniファイル

- **「ターゲットパス」**、**「ターゲットセクション」**、**「ターゲット値名」**、および**「ターゲット値」**

> **注:**
>
> 「**ターゲットセクション**」、「**ターゲット値名**」、および「**ターゲット値**」フィールドは環境変数の展開をサポートしていません。環境変数を使用すると、期待どおりに機能しません。

外部タスク

- 「**パス**」および「**引数**」

ファイルシステム操作

- **ソースパスとターゲットパス**

特定のフィルター条件

- 例: 条件タイプが**Active Directory 属性の一致*の場合: テスト済みActive Directory属性と一致結果****

> **注:**
>
> フィルター条件でサポートされているフィールドの完全なリストについては、「フィルター条件のサポートマトリックス」を参照してください。

文字列操作

スクリプト内で文字列を操作してドライブをマップしたり、アプリケーションを起動したりする必要がある場合があります。Workspace Environment Management™エージェントは、次の文字列操作を受け入れます。

モーダル	説明	例
#Left(文字列,長さ)#	左側から指定された数の文字を返します。	`#Left(abcdef,2)#` は `ab` を返します
#Right(文字列,長さ)#	右側から指定された数の文字を返します。	`#Right(abcdef,2)#` は `ef` を返します

モーダル	説明	例
#切り詰める(文字列,長さ)#	文字列の長さが指定された長さ以下の場合、文字列全体を返します。文字列の長さが指定された長さより大きい場合、指定された数の文字を左から返します。	`#Truncate(abcdef,3)#` は `abc` を返します
&トリム(文字列)&	文字列の先頭と末尾のすべての空白文字を削除します。	`&Trim( a b c )&` は `a b c` を返します
&スペースを削除(string)&	文字列のすべての空白文字を削除します。	`&RemoveSpaces( a b c )&` は `abc` を返します
&展開(string)&	文字列に\%で囲まれた環境変数が含まれている場合、その変数を展開します。	`&Expand(%userprofile%\destop)&` は `C:\Users\Jill\desktop` を返します
\$Split(string, splitter],index)\$	文字列を[]で囲まれた区切り文字に基づいて部分文字列に分割し、インデックス付きの部分文字列を返します。	`$Split(abc-def-hij,[-],2)$` は `hij` を返します
#Mid(文字列,開始インデックス)#	文字列内の指定されたインデックスから開始し、それ以降のすべての文字を返します。	`#Mid(abcdef,2)#` は `cdef` を返します
!Mid(文字列,開始インデックス,長さ)!	文字列内の指定されたインデックスから開始し、指定された数の文字を返します。	`!Mid(abcdef,1,2)!` は `bc` を返します
!部分文字列(文字列,開始インデックス,長さ)!	文字列内の指定されたインデックスから開始し、指定された数の文字を返します。	`!Substring(abcdef,1,2)!` は `bc` を返します
#剰余(文字列,長さ)#	文字列を長さで除算し、剰余を返します。文字列は整数に変換できる必要があります。	`#Mod(7,3)#` は `1` を返します

注:

- 文字列操作は、ハッシュタグとActive Directory属性でもサポートされています。たとえば、現在のドメインユーザーの名前属性が `Administrator` の場合、`#Left([ADAttribute:NAME],2)#` は `Ad` を返し、`$Split(##ClientIPAddress##,[\.],2)$` は `157` を返します。
- `!Mid(string,startindex,length)!` と `!Substring(string,startindex,length)!` の操作は常に最後に実行されます。

ハッシュタグ

ハッシュタグは、Workspace Environment Managementアイテムの処理で広く使用されている置換機能です。次の例は、ハッシュタグの使用方法を示しています。

.ini ファイルに書き込むには、**.ini** ファイルのパスで **%UserName%** を使用できます。Workspace Environment Management はそれを処理し、最終ディレクトリを展開します。ただし、Workspace Environment Management が **.ini** 自体に書き込む値を評価するのはより複雑です。**%UserName%** をリテラルで書き込むか、展開された値を書き込むかを選択できます。

柔軟性を高めるために、ハッシュタグとして **##UserName##** が存在します。これにより、値に **%UserName%** を使用するとリテラルで書き込まれ、**##UserName##** を使用すると展開された値が書き込まれます。

例については、次の表を参照してください。

モーダル	説明	例
##UserName##	展開された環境変数「%username%」を返します	ジル
##UserProfile##	展開された環境変数「%userprofile%」を返します	C:\Users\Jill
##FullUserName##	Active Directory のユーザーのフルネームを返します	ジル・チョウ
##UserInitials##	Active Directory のユーザー名のイニシャルを返します	JC

モーダル	説明	例
##UserAppData##	特殊フォルダーの実際のパスを返します - RoamingAppData	C:\Users\Jill\AppData\Roaming
##UserPersonal##	特殊フォルダーの実際のパスを返します - Documents	C:\Users\Jill\Documents
##UserDocuments##	特殊フォルダーの実際のパスを返します - Documents	C:\Users\Jill\Documents
##UserDesktop##	特殊フォルダーの実際のパスを返します - Desktop	C:\Users\Jill\Desktop
##UserFavorites##	特殊フォルダーの実際のパスを返します - Favorites	C:\Users\Jill\Favorites
##UserTemplates##	特殊フォルダーの実際のパスを返します - Templates	C:\Users\Jill\AppData\Roaming\Microsoft\Windows\Templates
##UserStartMenu##	特殊フォルダーの実際のパスを返します - StartMenu	C:\Users\Jill\AppData\Roaming\Microsoft\Windows\スタートメニュー
##UserStartMenuPrograms##	特殊フォルダーの実際のパスを返します - Programs	C:\Users\Jill\AppData\Roaming\Microsoft\Windows\Start Menu\Programs
##UserLocalAppData##	特殊フォルダーの実際のパスを返します - LocalAppData	C:\Users\Jill\AppData\Local
##UserMusic##	特殊フォルダーの実際のパスを返します - Music	C:\Users\Jill\Music
##UserPictures##	特殊フォルダー - Pictures の実際のパスを返します。	C:\Users\Jill\Pictures
##UserVideos##	特殊フォルダー - Videos の実際のパスを返します。	C:\Users\Jill\Videos

モーダル	説明	例
##UserDownloads##	特殊フォルダー - Downloads の実際のパスを返します。	C:\Users\Jill\Downloads
##UserLinks##	特殊フォルダー - Links の実際のパスを返します。	C:\Users\Jill\Links
##UserContacts##	特殊フォルダー - Contacts の実際のパスを返します。	C:\Users\Jill\Contacts
##UserSearches##	特殊フォルダーの実際のパスを返します - SavedSearches	C:\Users\Jill\Searches
##commonprograms##	特殊フォルダーの実際のパスを返します - CommonPrograms	C:\ProgramData\Microsoft\Windows\Start Menu\Programs
##ComputerName##	マシンの名前を返します	WIN10EN-LR3B66L
##ClientName##	クライアントマシンの名前を返します	W2K16ST-5IS28JP
##ClientIPAddress##	クライアントマシンのIPアドレスを返します	10.150.153.138
##IpAddress##	マシンのIPアドレスを返します	10.150.153.213
##ADSite##	マシンが属するActive Directoryサイトを返します	NKG
##DefaultRegValue##	-	常にstring.Empty
##UserLDAPPath##	現在のユーザーの識別名を返します	CN=Jill Chou,OU=ユーザーアカウント,OU=APAC,DC=citrite,DC=net
##VUEMAgentFolder##	エージェントフォルダーを返します	C:\プログラム ファイル (x86)\シトリックス\ワークス

モーダル	説明	例
		ペース エンバイロメント マネジメント エージェント
##RDSSessionID##	リモートデスクトップセッションIDを返します	2
##RDSSessionName##	リモートデスクトップセッション名を返します	RDP-Tcp#72
##ClientRemoteOS##	仮想デスクトップへの接続に使用されるマシンのオペレーティングシステムを返します	ウィンドウズ
##ClientOSInfos##	マシンのOS情報を返します	Windows 10 Enterprise 64 ビット

ハッシュタグ **##UserScreenCaptureComment##** は、製品の特定の箇所で使用するために実装されています。このタグは、**詳細設定** > **UIエージェントのパーソナライズ** > **ヘルプデスクオプション** の下のメールテンプレートに含めることができます。含めると、エージェントのスクリーンキャプチャユーティリティで、スクリーンキャプチャの下にコメントフィールドが表示されます。コメントは、メールテンプレートでタグを配置した場所にサポートメールに含まれます。

アクティブディレクトリ属性

Active Directory属性を操作するために、WEMは****の値を関連するActive Directory属性に置き換えます。 は、任意のActive Directory属性の動的トークンです。指定された属性の値をチェックする関連フィルターがあります。

ユーザー組織単位 (OU) 構造の場合、WEMは****の値を関連するActive Directory OU名に置き換えます。Active Directoryパスは、Active Directory内の完全なユーザーパス (LDAP) であり、 はそのサブセットです。

たとえば、ユーザーが属するOUのネットワークドライブを構築したいとします。ネットワークドライブパスで動的トークン を使用して、ユーザーのOUを動的に解決できます。動的トークンを使用する方法は2つあります。

- ネットワークドライブのパスで動的トークンを直接使用します。たとえば、次のパスを使用できます: `\\Server\Share\[UserParentOU:0]\`。
- OUという環境変数を設定し、その値をに設定します。その後、ドライブを`\\Server\Share\%OU%\`としてマップできます。

注:

- OU構造で到達したいレベルに対応する数値で数字の「0」を置き換えることができます。
- パスに変数を追加できます。これを行うには、OUレイアウトと一致する正確なフォルダー構造があることを確認してください。

フィルタリング目的でActive Directory属性を使用することもできます。**管理 > フィルタ > 条件 > フィルタ条件リスト**タブで、**追加**をクリックすると、新しいフィルタ条件ウィンドウを開くことができます。新しいフィルタ条件ウィンドウには、Active Directory属性に関連付けられた次の4つのフィルタ条件タイプが表示されます。

- Active Directory属性の一致
- Active Directoryグループの一致
- Active Directoryパスの一致
- Active Directoryサイトの一致

Active Directory属性の一致の場合、動的トークンはです。 Active Directoryグループの一致には動的トークンはありません。この条件タイプはグループメンバーシップの確認に使用されるためです。 Active Directoryパスの一致の場合、完全なLDAPパスの動的トークンは##UserLDAPPath##です。 Active Directoryサイトの一致の場合、動的トークンは##ADSite##です。

例については、次の表を参照してください。

モーダル	説明	例
[ADAttribute:attrName]	ドメインユーザーの指定された属性を返します	`[ADAttribute:name]` は `Administrator` を返します
[PrinterAttribute:printername|attrName]	指定されたドメインプリンターの指定された属性を返します	[PrinterAttribute:printer1|name] は printer1 を返します
[UserParentOU: level]	現在のユーザーの親OUの指定されたレベルを返します	`CN=Jill Chou,OU=User Accounts,OU=APAC,DC=citrite,DC=net` の

モーダル	説明	例
		`[UserParentOU:1]` は `APAC` を返します

レジストリ

レジストリを操作するために、WEM は `[RegistryValue:<Registry path>]` の値を関連するレジストリ値に置き換えます。たとえば、次の値を指定できます。

-

XML ファイル

XML ファイルを操作するために、WEM は `[GetXmlValue:<XML path>|<tag name>]` の値を XML ファイル内の特定のタグ値に置き換えます。XML パスは、実際のパスまたはパスに解決される環境変数にすることができます。環境変数は % で囲む必要があります。たとえば、次の値を指定できます。

- \[GetXmlValue:C:\citrix\test.xml\|summary\] または
- \[GetXmlValue:%xmlpath%\|summary\]

INI ファイル

.ini ファイルを操作するために、WEM は `[GetIniValue:<INI path>|<section name in the .ini file>|<key name in the .ini.file>]` をキー値に置き換えます。INI パスは、実際のパスまたはパスに解決される環境変数にすることができます。環境変数は % で囲む必要があります。たとえば、次の値を指定できます。

- \[GetIniValue:C:\citrix\test.ini\|PLD_POOL_LIC_NODE_0_0\|LicExpTime\] または
- \[GetIniValue:%inipath%\|PLD_POOL_LIC_NODE_0_0\|LicExpTime\]

詳細情報

フィルター条件のサポートマトリックス

次の表は、テストされた値または一致する結果が動的トークンをサポートするすべての条件タイプを示しています。

条件タイプ	テスト値	一致結果
コンピューター名の一致	-	はい

条件タイプ	テスト値	一致結果
クライアント名の一致	-	はい
環境変数の一致	いいえ	はい
レジストリ値の一致	はい	はい
WMIクエリ結果の一致	-	はい
XenApp®ファーム名の一致	-	はい
XenAppゾーン名の一致	-	はい
XenDesktop®ファーム名の一致	-	はい
XenDesktopデスクトップグループ名の一致	-	はい
Active Directory属性の一致	はい	はい
名前または値がリストにある	はい	はい
コンピューター名が一致しない	-	はい
クライアント名が一致しない	-	はい
環境変数が一致しない	いいえ	はい
レジストリ値が一致しない	はい	はい
WMIクエリ結果が一致しない	-	はい
XenAppファーム名が一致しない	-	はい
XenAppゾーン名が一致しない	-	はい
XenDesktopファーム名が一致しない	-	はい

条件タイプ	テスト値	一致結果
XenDesktopデスクトップグループ名が一致しない	-	はい
Active Directory属性が一致しない	はい	はい
名前または値がリストにない	はい	はい
動的値の一致	はい	はい
動的値が一致しない	はい	はい
ファイルバージョンの一致	はい	はい
ファイルバージョンが一致しない	はい	はい
公開リソース名	-	はい
名前がリストにある	はい	はい
名前がリストにない	はい	はい
ファイル/フォルダーが存在する	-	はい
ファイル/フォルダーが存在しない	-	はい

環境設定のレジストリ値

この記事では、Workspace Environment Management の環境設定に関連付けられているレジストリ値について説明します。

環境設定のスタートメニュー(/en-us/workspace-environment-management/2308/media/wem-admin-console-environmental-settings-01.png)

共通プログラムを非表示にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	NoCommonGroups
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

スタートメニューからファイル名を指定して実行を削除	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	NoRun
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

管理ツールを非表示にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Explorer\Advanced`
値の名前	Start_AdminToolsRoot
値の型	DWORD
有効な値	0

管理ツールを非表示にする	
無効な値	1
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

ヘルプを非表示	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	NoSMHelp
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

検索を非表示	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	NoFind
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

WINDOWS UPDATE を非表示にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`

WINDOWS UPDATE を非表示にする	
値の名前	NoWindowsUpdate
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

タスクバーをロック	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	LockTaskbar
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	ログオン時のサービス

システムクロックを非表示にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	HideClock
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

デバイスとプリンターを非表示にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Explorer\Advanced`
値の名前	Start_ShowPrinters
値の型	DWORD
有効な値	0
無効な値	1
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

コンピューターの電源を切るを非表示にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	NoClose
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

強制ログオフボタン	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	ForceStartMenuLogoff
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0

強制ログオフボタン	
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

通知領域のクリーンアップをオフにする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	NoAutoTrayNotify
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	ログオン時のサービス

パーソナライズされたメニューをオフにする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	インテリメニューズ
値の型	DWORD
有効な値	0
無効な値	1
処理	ログオン時のサービス

最近使用したプログラムの一覧をクリアする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	ClearRecentProgForNewUserInStartMenu

最近使用したプログラムの一覧をクリアする	
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	ログオン時のサービス

特定のテーマファイルを設定	
親キー	`HKCU\Software\Policies\Microsoft\Windows\Personalization`
値の名前	ThemeFile
値の型	REG_SZ
有効な値	コンソールで指定されたパス
無効な値	値が存在しない
処理	ログオン時のサービス

背景色の設定	
親キー	`HKCU\Control Panel\Colors`
値の名前	背景
値の型	REG_SZ
有効な値	設定された色 (R G B)
無効な値	値が存在しないか、以前に設定された値の場合は 0 0 0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

特定のビジュアルスタイルを設定	
親キー	`HKCU\Software\Policies\Microsoft\Windows\Personalization`
値の名前	SetVisualStyle
値の型	REG_SZ
有効な値	コンソールで指定されたパス
無効な値	値が存在しない
処理	ログオン時のサービス

壁紙を設定	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\System`
値の名前	壁紙
値の型	REG_SZ
有効な値	コンソールで指定されたパス
無効な値	値が存在しない
処理	ログオン時のサービス
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\System`
値の名前	WallpaperStyle
値の型	REG_SZ
有効な値	スタイル値に依存
無効な値	値が存在しない
処理	ログオン時のサービス

壁紙を設定	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\System`
値の名前	TileWallpaper
値の型	REG_SZ
有効な値	スタイル値に依存
無効な値	値は存在しません
処理	ログオン時のサービス

環境設定デスクトップ(/en-us/workspace-environment-management/2308/media/wem-admin-console-environmental-settings-02.png)

マイコンピューターアイコンを非表示にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\NonEnum`
値の名前	{20D04FE0-3AEA-1069-A2D8-08002B30309D}
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	ログオン時のサービス

ごみ箱アイコンを非表示にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\NonEnum`
値の名前	{645FF040-5081-101B-9F08-00AA002F954E}
値の型	DWORD

ごみ箱アイコンを非表示にする	
有効な値	1
無効な値	0
処理	ログオン時のサービス

マイドキュメントアイコンを非表示にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\NonEnum`
値の名前	{450D8FBA-AD25-11D0-98A8-0800361B1103}
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	ログオン時のサービス

スタートの代わりにデスクトップに移動	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Explorer\StartPage`
値の名前	OpenAtLogon
値の型	DWORD
有効な値	0
無効な値	1
処理	ログオン時のサービス

システムプロパティを無効にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	NoPropertiesMyComputer
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

ごみ箱のプロパティを無効にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	NoPropertiesRecycleBin
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

マイ ドキュメントのプロパティを無効にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	NoPropertiesMyDocuments
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0

マイ ドキュメントのプロパティを無効にする	
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

ネットワークアイコンを非表示にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\NonEnum`
値の名前	{F02C1A0D-BE21-4350-88B0-7367FC96EF3C}
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	ログオン時のサービス

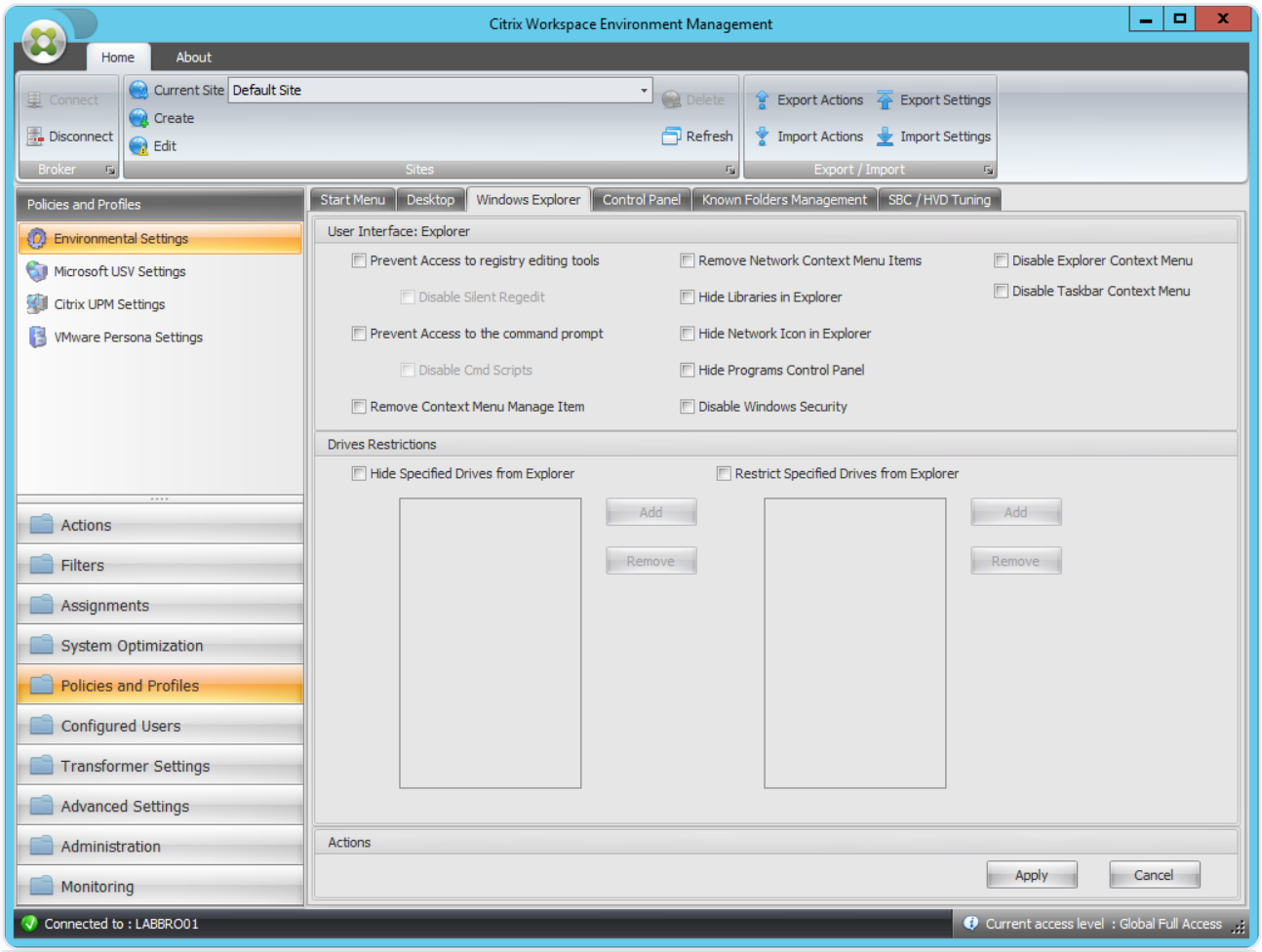
ネットワーク接続を非表示にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	NoNetworkConnections
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

タスクマネージャーを無効にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\System`
値の名前	DisableTaskMgr

タスクマネージャーを無効にする	
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

スイッチャーを無効にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\ImmersiveShell\EdgeUI`
値の名前	DisableTLcorner
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	ログオン時のサービス

チャームヒントを無効にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\ImmersiveShell\EdgeUI`
値の名前	DisableCharmsHint
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	ログオン時のサービス



レジストリ編集ツールへのアクセスを防止	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\System`
値の名前	DisableRegistryTools
値の型	DWORD
有効な値	サイレント Regedit を無効にする？2：1
無効な値	0
処理	エージェントが呼び出すサービス

コマンドプロンプトへのアクセスを禁止する	
親キー	`HKCU\Software\Policies\System`
値の名前	DisableCMD

コマンドプロンプトへのアクセスを禁止する	
値の型	DWORD
有効な値	サイレントCmdスクリプトを無効にするか？ 2 : 1
無効な値	0
処理	エージェントが呼び出すサービス

コンテキストメニューの管理項目を削除する	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	NoManageMyComputerVerb
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

ネットワークコンテキストメニュー項目を削除	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	NoNetworkConnections
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

エクスプローラーでライブラリを非表示にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\NonEnum`
値の名前	{031E4825-7B94-4dc3-B131-E946B44C8DD5}
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	ログオン時のサービス

エクスプローラーでネットワークアイコンを非表示にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\NonEnum`
値の名前	{F02C1A0D-BE21-4350-88B0-7367FC96EF3C}
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	ログオン時のサービス

プログラムのコントロールパネルを非表示にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Programs`
値の名前	NoProgramsCPL
値の型	DWORD
有効な値	1

プログラムのコントロールパネルを非表示にする	
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

WINDOWSセキュリティを無効にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	NoNtSecurity
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

エクスプローラーのコンテキストメニューを無効にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	NoViewContextMenu
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

タスクバーのコンテキストメニューを無効にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`

タスクバーのコンテキストメニューを無効にする	
値の名前	NoTrayContextMenu
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

指定されたドライブをエクスプローラーから非表示にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	NoDrives
値の型	DWORD
有効な値	値は選択されたドライブ文字によって異なります
無効な値	Null (値は削除する必要があります)
処理	ログオン時のサービス

指定されたドライブをエクスプローラーから制限する	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	NoViewOnDrive
値の型	DWORD
有効な値	値は選択されたドライブ文字によって異なります

指定されたドライブをエクスプローラーから制限する	
無効な値	Null (値は削除する必要があります)
処理	ログオン時のサービス

環境設定コントロールパネル(/en-us/workspace-environment-management/2308/media/wem-admin-console-environmental-settings-04.png)

コントロールパネルを非表示にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	NoControlPanel
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

指定されたコントロールパネルアプレットのみを表示	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	RestrictCpl
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

許可されている各アプレットについて	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer\RestrictCpl`
値の名前	アプレットインデックス (1から始まり、自動的にインクリメントされます)
値の型	REG_SZ
有効な値	AppletName
無効な値	Null / 削除済み
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

指定されたコントロールパネルアプレットを非表示にする	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer`
値の名前	DisallowCpl
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

許可されていない各アプレットについて	
親キー	`HKCU\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Policies\Explorer\DisallowCpl`
値の名前	アプレットインデックス (1から始まり、自動的にインクリメントされます)

許可されていない各アプレットについて	
値の型	REG_SZ
有効な値	アプレット名
無効な値	Null / 削除済み
処理	エージェントによって呼び出されるサービス

環境設定の既知のフォルダー管理(/en-us/workspace-environment-management/2308/media/wem-admin-console-environmental-settings-05.png)

指定された既知のフォルダーを無効にする	
親キー	`HKCU\Software\Policies\Microsoft\Windows\Explorer`
値の名前	DisableKnownFolders
値の型	DWORD
有効な値	値は選択されたドライブ文字によって異なります
無効な値	Null (値は削除する必要があります)
処理中	ログオン時のサービス

無効なフォルダーごとに	
親キー	`HKCU\Software\Policies\Microsoft\Windows\Explorer\ DisableKnownFolders`
値の名前	無効なフォルダー名
値の型	REG_SZ
有効な値	無効なフォルダー名
無効な値	Null / 削除済み

無効なフォルダーごとに	
処理中	ログオン時のサービス

環境設定 SBC/HVD チューニング(/en-us/workspace-environment-management/2308/media/wem-admin-console-environmental-settings-06.png)

ドラッグフルウィンドウを無効にする	
親キー	`HKCU\Control Panel\Desktop`
値の名前	DragFullWindows
値の型	REG_SZ
有効な値	0
無効な値	1
処理	ログオン時のサービス

カーソル点滅を無効にする	
親キー	`HKCU\Control Panel\Desktop`
値の名前	カーソル点滅の無効化
値の型	DWORD
有効な値	1
無効な値	0
処理	ログオン時のサービス

AUTOENDTASKS の有効化	
親キー	`HKCU\Control Panel\Desktop`
値の名前	AutoEndTasks
値の型	DWORD

AUTOENDTASKS の有効化	
有効な値	1
無効な値	0
処理	ログオン時のサービス

WAITTOKILLAPP タイムアウト	
親キー	`HKCU\Control Panel\Desktop`
値の名前	WaitToKillAppTimeout
値の型	DWORD
有効な値	構成された値
無効な値	20000 (10進数)
処理	ログオン時のサービス

カーソル点滅速度の設定	
親キー	`HKCU\Control Panel\Desktop`
値の名前	CursorBlinkRate
値の型	DWORD
有効な値	構成された値
無効な値	500 (10進数)
処理	ログオン時のサービス

メニュー表示遅延の設定	
親キー	`HKCU\Control Panel\Desktop`
値の名前	MenuShowDelay

メニュー表示遅延の設定	
値の型	DWORD
有効な値	構成された値
無効な値	400 (10進数)
処理	ログオン時のサービス

対話型遅延の設定	
親キー	`HKCU\Control Panel\Desktop`
値の名前	InteractiveDelay
値の型	DWORD
有効な値	設定値
無効な値	Null / 削除済み
処理	ログオン時のサービス

SMOOTHSCROLLを無効にする	
親キー	`HKCU\Control Panel\Desktop`
値の名前	SmoothScroll
値の型	DWORD
有効な値	0
無効な値	1
処理	ログオン時のサービス

MINANIMATE を無効にする	
親キー	`HKCU\Control Panel\Desktop`

MINANIMATE を無効にする	
値の名前	MinAnimate
値の型	DWORD
有効な値	0
無効な値	1
処理	ログオン時のサービス

フィルター条件

Workspace Environment Management には、エージェントがユーザーにリソースを割り当てる状況を設定するために使用する、次のフィルター条件が含まれています。これらの条件を管理コンソールで使用する方法の詳細については、「フィルター」を参照してください。

次のフィルター条件を使用する場合は、次の2つのシナリオに注意してください。

- エージェントがシングルセッションまたはマルチセッションOSにインストールされている場合:
  - 「クライアント」は、エージェントホストに接続するクライアントデバイスを指します。
  - 「コンピューター」と「クライアントリモート」は、エージェントホストを指します。
- エージェントが物理エンドポイントにインストールされている場合、条件名に「クライアント」を含む条件は適用されません。

条件名	常にTRUE
予期される値のタイプ	該当なし
予期される結果のタイプ	該当なし
予期される構文	該当なし
戻り値	真。

条件名	コンピューター名の一致
予期される値の型	該当なし
予期される結果の型	文字列。
予期される構文	単一の名前テスト: Computername 複数のテスト (OR): Computername1;Computername2 ワイルドカード (複数にも適用可能): ComputerName*
戻り値	現在のコンピューター名がテストされた値と一致する場合にTrueを返し、それ以外の場合はFalseを返します。

条件名	クライアント名の一致
予期される値の型	該当なし
予期される値の型	文字列。
予期される構文	単一の名前テスト: Clientname 複数のテスト (OR): Clientname1;Clientname2 ワイルドカード (複数にも適用可能): ClientName*
戻り値	現在のクライアント名がテスト値と一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalseを返します。

条件名	IPアドレスの一致
予期される値のタイプ	該当なし
予期される結果のタイプ	IPアドレス。
予期される構文	単一の名前テスト: IpAddress 複数のテスト (OR): IpAddress1;IpAddress2 ワイルドカード (複数にも対応): IpAddress* 範囲 (複数にも対応): IpAddress1-IpAddress2

条件名	IPアドレスの一致
戻り値	現在のコンピューターのIPアドレスがテスト値と一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalseを返します。

条件名	クライアントIPアドレスの一致
予期される値のタイプ	該当なし
予期される結果のタイプ	IPアドレス。
予期される構文	単一の名前テスト: ClientIpAddress 複数のテスト (OR): ClientIpAddress1;ClientIpAddress2 ワイルドカード (複数にも対応): ClientIpAddress* 範囲 (複数にも対応): IpAddress1-IpAddress2
戻り値	現在のクライアントIPアドレスがテスト値と一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	ACTIVE DIRECTORYサイトの一致
予期される値のタイプ	該当なし
予期される結果のタイプ	テストするActive Directoryサイトの正確な名前。
予期される構文	Active Directoryサイト名。
戻り値	指定されたサイトが現在のサイトと一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	スケジューリング
期待される値の型	該当なし
期待される結果の型	曜日 (例: 月曜日)。

条件名	スケジューリング
期待される構文	単一の名前テスト: DayOfWeek 複数のテスト (OR): DayOfWeek1; DayOfWeek2
戻り値	今日がテスト値と一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	環境変数の一致
期待される値の型	文字列。テスト対象変数の名前。
期待される結果の型	文字列。テスト対象変数の期待される値。
期待される構文	単一の名前テスト: value Not null test: ?
戻り値	環境変数が存在し、値が一致する場合は真、そうでない場合は偽。

条件名	レジストリ値の一致
予期される値の型	文字列。テストするレジストリ値の完全なパスと名前。例: レジストリキー **HKCU\Software\Citrix\TestValueName**
予期される結果の型	文字列。テストされたレジストリエントリの予期される値。
予期される構文	単一の名前テスト: value Not null test: ?
戻り値	レジストリ値が存在し、値が一致する場合は真、そうでない場合は偽。

条件名	WMIクエリ結果の一致
予期される値の型	該当なし
予期される結果の型	文字列。
予期される構文	有効なWMIクエリ。詳細については、`<https://docs.microsoft.com/ja-jp/`

条件名	WMIクエリ結果の一致
	`windows/win32/wmisdk/querying-with-wql>`を参照してください。
戻り値	クエリが成功し、結果がある場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	ユーザー国の一致
予期される値の型	該当なし
予期される結果の型	文字列。
予期される構文	2文字のISO言語名。
戻り値	ユーザーのISO言語名が指定された値と一致する場合にTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	ユーザーUI言語の一致
予期される値のタイプ	該当なし
予期される結果のタイプ	文字列。2文字のISO言語名。例: FR。
予期される構文	2文字のISO言語名。例: FR。
戻り値	ユーザーのUI ISO言語名が指定された値と一致する場合にTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	ユーザーSBCリソースタイプ
予期される値のタイプ	該当なし
予期される結果のタイプ	リストから選択。
予期される構文	該当なし
戻り値	ユーザーコンテキスト（公開デスクトップまたはアプリケーション）が選択された値と一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	OSプラットフォームの種類
予期される値の型	該当なし
予期される結果の型	ドロップボックスから選択します。
予期される構文	該当なし
戻り値	マシンのプラットフォームの種類（x64またはx86）が選択された値と一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	接続状態
予期される値の型	該当なし
予期される結果の型	ドロップボックスから選択します。
予期される構文	該当なし
戻り値	接続状態 (オンラインまたはオフライン) が選択された値と一致する場合は True、それ以外の場合は False。

条件名	CITRIX VIRTUAL APPS™ バージョンの一致
予期される値の型	該当なし
予期される結果の型	文字列。Citrix Virtual Apps バージョン。例: 6.5
予期される構文	該当なし
戻り値	バージョンが選択された値と一致する場合は True、それ以外の場合は False。

条件名	CITRIX VIRTUAL APPS ファーム名の一致
予期される値の型	該当なし

条件名	CITRIX VIRTUAL APPS ファーム名の一致
期待される結果タイプ	文字列。Citrix Virtual Appsファーム名 (バージョン6.5まで)。例: Farm。
期待される構文	該当なし
戻り値	名前が選択された値と一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	CITRIX VIRTUAL APPSゾーン名の一致
期待される値のタイプ	該当なし
期待される結果タイプ	文字列。Citrix Virtual Appsゾーン名 (バージョン6.5まで)。例: Zone。
期待される構文	該当なし
戻り値	名前が選択された値と一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	CITRIX VIRTUAL DESKTOPS™ ファーム名の一致
期待される値の型	該当なし
期待される結果の型	文字列。Citrix Virtual Desktops ファーム名 (バージョン 5 まで)。例: Farm。
期待される構文	該当なし
戻り値	名前が選択された値と一致する場合は True、それ以外の場合は False。

条件名	CITRIX VIRTUAL DESKTOPS デスクトップグループ名の一致
期待される値の型	該当なし
期待される結果の型	文字列。Citrix Virtual Desktops デスクトップグループ。例: Group。

条件名	CITRIX VIRTUAL DESKTOPS デスクトップグループ名の一致
期待される構文	該当なし
戻り値	名前が選択された値と一致する場合は True、それ以外の場合は False。

条件名	CITRIX PROVISIONING™ イメージモード
予期される値のタイプ	該当なし
予期される結果のタイプ	ドロップボックスから選択します。
予期される構文	該当なし
戻り値	現在のCitrix Provisioningイメージモードが選択された値と一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	クライアントOS
予期される値のタイプ	該当なし
予期される結果のタイプ	ドロップボックスから選択します。
予期される構文	該当なし
戻り値	現在のクライアントオペレーティングシステムが選択された値と一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	ACTIVE DIRECTORY パスの照合
予期される値のタイプ	該当なし
予期される結果のタイプ	文字列。テスト対象のActive Directory パスの名前。

条件名	ACTIVE DIRECTORY パスの照合
予期される構文	単一名テスト: 厳密なLDAPパス照合 ワイルドカードテスト: OU=Users* 複数のエントリ: エントリをセミコロン (;) で区切る
戻り値	属性が存在し、値が一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	ACTIVE DIRECTORY 属性の照合
予期される値のタイプ	文字列。テスト対象のActive Directory 属性の名前。
予期される結果のタイプ	文字列。テスト対象のActive Directory 属性の予期される値。
予期される構文	単一値テスト: 値 複数値エントリ: エントリをセミコロン (;) で区切る Null ではないことのテスト: ?
戻り値	属性が存在し、値が一致する場合は True、それ以外の場合は False。

条件名	名前または値がリストにある
予期される値の型	文字列。Integrity List manager ユーティリティによって生成された XML リストの完全なファイルパス。
予期される結果の型	文字列。リスト内で検索する名前/値の予期される値。
予期される構文	文字列
戻り値	指定されたリストの名前/値ペアに入力値が見つかった場合は True、それ以外の場合は False。

条件名	COMPUTERNAME が一致しない
否定条件の動作	**ComputerName Match** を実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件 **ComputerName Match** を参照してください。

条件名	CLIENTNAME が一致しない
否定条件の動作	ClientName Match を実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件 **ClientName Match** を参照してください。

条件名	IP アドレスが一致しない
否定条件の動作	IP Address Match を実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件 **IP Address Match** を参照してください。

条件名	クライアント IP アドレスが一致しない
否定条件の動作	Client IP Address Match を実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件 **Client IP Address Match** を参照してください。

条件名	ACTIVE DIRECTORYサイトが一致しない
否定条件の動作	Active Directoryサイトの一致を実行し、逆の結果を返します（falseの場合はtrue、trueの場合はfalse）。詳細については、条件「**Active Directoryサイトの一致**」を参照してください。

条件名	環境変数が一致しない
否定条件の動作	環境変数の一致を実行し、逆の結果を返します（falseの場合はtrue、trueの場合はfalse）。詳細については、条件「**環境変数の一致**」を参照してください。

条件名	レジストリ値が一致しない
否定条件の動作	レジストリ値の一致を実行し、逆の結果を返します（falseの場合はtrue、trueの場合はfalse）。詳細については、条件「**レジストリ値の一致**」を参照してください。

条件名	WMIクエリ結果が一致しない
否定条件の動作	WMIクエリ結果の一致を実行し、逆の結果を返します（falseの場合はtrue、trueの場合はfalse）。詳細については、条件「**WMIクエリ結果の一致**」を参照してください。

条件名	ユーザー国一致なし
否定条件の動作	ユーザー国一致を実行し、逆の結果を返します（false の場合は true、true の場合は false）。詳細については、条件 **ユーザー国一致** を参照してください。

条件名	ユーザーUI言語一致なし
否定条件の動作	ユーザーUI言語一致を実行し、逆の結果を返します（false の場合は true、true の場合は false）。詳細については、条件 **ユーザーUI言語一致** を参照してください。

条件名	CITRIX VIRTUAL APPSバージョン一致なし
否定条件の動作	Citrix Virtual Appsバージョン一致を実行し、逆の結果を返します（false の場合は true、true の場合は false）。詳細については、条件

条件名	CITRIX VIRTUAL APPSバージョン一致なし
	Citrix Virtual Appsバージョン一致 を参照してください。

条件名	CITRIX VIRTUAL APPSファーム名一致なし
否定条件の動作	Citrix Virtual Apps Farm Name Match を実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件 **Citrix Virtual Apps Farm Name Match** を参照してください。

条件名	CITRIX VIRTUAL APPS ZONE 名が一致しない
否定条件の動作	Citrix Virtual Apps Zone Name Match を実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件 **Citrix Virtual Apps Zone Name Match** を参照してください。

条件名	CITRIX VIRTUAL DESKTOPS FARM 名が一致しない
否定条件の動作	Citrix Virtual Desktops Farm Name Match を実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件 **Citrix Virtual Desktops Farm Name Match** を参照してください。

条件名	CITRIX VIRTUAL DESKTOPS デスクトップグループ名が一致しない
否定条件の動作	Citrix Virtual Desktops Desktop Group Name Match を実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件 **Citrix Virtual Desktops Desktop Group Name Match** を参照してください。

条件名	ACTIVE DIRECTORY パスが一致しない
否定条件の動作	Active Directory パスの一致を実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件 **Active Directory パスの一致** を参照してください。

条件名	ACTIVE DIRECTORY 属性の不一致
否定条件の動作	アクティブ属性パスの一致を実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件 **アクティブ属性パスの一致** を参照してください。

条件名	名前または値がリストにない
否定条件の動作	名前または値がリストにあるを実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件 **名前または値がリストにある** を参照してください。

条件名	クライアントリモート OS の一致
予期される値のタイプ	該当なし
予期される結果のタイプ	ドロップボックスから選択します。
期待される構文	該当なし
戻り値	現在のリモートクライアントのオペレーティングシステムが選択された値と一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	クライアントリモートOS不一致
否定条件の動作	クライアントリモートOS一致を実行し、逆の結果を返します（falseの場合はtrue、trueの場合はfalse）。詳細については、条件**クライアントリモートOS一致**を参照してください。

条件名	動的値一致
期待される値の型	文字列。環境変数または動的トークンを使用する任意の動的式。
期待される結果の型	文字列。テストされた式の期待値。
期待される構文	単一の名前テスト: 値 Nullでないテスト: ?
戻り値	動的式の評価結果が存在し、値が一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	動的な値の不一致
否定条件の動作	動的な値の一致を実行し、逆の結果を返します（falseの場合はtrue、trueの場合はfalse）。詳細については、条件**動的な値の一致**を参照してください。

条件名	トランスフォーマーモードの状態
予期される値の型	該当なし
予期される結果の型	ドロップボックスから選択します。
予期される構文	該当なし
戻り値	現在のトランスフォーマーの状態が選択された値と一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	クライアントOS不一致
否定条件の動作	クライアントOS一致を実行し、逆の結果を返します（false の場合は true、true の場合は false）。詳細については、条件 **クライアントOS一致** を参照してください。

条件名	ACTIVE DIRECTORYグループ一致
予期される値のタイプ	該当なし
予期される結果のタイプ	文字列。
予期される構文	単一名テスト: グループNetBIOS名 (DOMAIN\Groupname) 複数テスト (OR): Groupname1;Groupname2
戻り値	現在のユーザーグループのいずれかがテスト値と一致する場合は true、それ以外の場合は false。

条件名	ACTIVE DIRECTORYグループ不一致
否定条件の動作	Active Directory グループの一致を実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件 **Active Directory グループの一致** を参照してください。

条件名	ファイルバージョンの一致
予期される値の型	文字列。テストするファイルの完全パスと名前。
	例: **C:\Test\TestFile.dll**
予期される結果の型	文字列。テスト対象ファイルの予期されるファイルバージョン値。
予期される構文	単一の名前テスト: 値 Null ではないテスト: ?
戻り値	レジストリ値が存在し、値が一致する場合は True、それ以外の場合は False。

条件名	ファイルバージョン不一致
否定条件の動作	「ファイルバージョンの一致」を実行し、逆の結果を返します（false の場合は true、true の場合は false）。詳細については、条件

条件名	ファイルバージョン不一致
	「**ファイルバージョンの一致**」を参照してください。

条件名	ネットワーク接続状態
予期される値のタイプ	該当なし
予期される結果のタイプ	ドロップボックスから選択します。
予期される構文	該当なし
戻り値	現在のネットワーク接続状態が選択された値と一致する場合は True、それ以外の場合は False。

重要：

フィルター条件タイプとして「公開リソース名」を使用する前に、次の点に注意してください。公開リソースが公開アプリケーションである場合は、「**一致する結果**」フィールドにアプリケーションのブラウザ名を入力します。公開リソースが公開デスクトップである場合は、「**一致する結果**」フィールドにデスクトップの公開名を入力します。

条件名	公開リソース名
予期される値のタイプ	該当なし
予期される結果のタイプ	文字列。公開リソースの名前（Citrix Virtual Apps/Citrix Virtual Desktops/RDS）。
期待される構文	単一の名前テスト: 公開リソース名 複数のテスト (OR): Name1;Name2 ワイルドカードテスト: Name*
戻り値	現在の公開リソース名がテスト値と一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	名前がリストにある
期待される値の型	文字列。Integrity List managerユーティリティによって生成されたXMLリストの完全なファイルパス。
期待される結果の型	文字列。リスト内で検索する名前の期待値。
期待される構文	文字列
戻り値	指定されたリストの名前/値ペアに名前の一致がある場合はTrue、それ以外の場合はFalse。

条件名	名前がリストにない
否定条件の動作	「名前がリストにある」を実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件「**名前がリストにある**」を参照してください。

条件名	ファイル/フォルダーが存在する
予期される値の型	該当なし
予期される結果の型	文字列。
予期される構文	テストするファイルシステムエントリ (ファイルまたはフォルダー) の完全パス。
戻り値	指定されたファイルシステムエントリが存在する場合は true、それ以外の場合は false。

条件名	ファイル/フォルダーが存在しない
否定条件の動作	「ファイル/フォルダーが存在する」を実行し、逆の結果を返します (false の場合は true、true の場合は false)。詳細については、条件「**ファイル/フォルダーが存在する**」を参照してください。

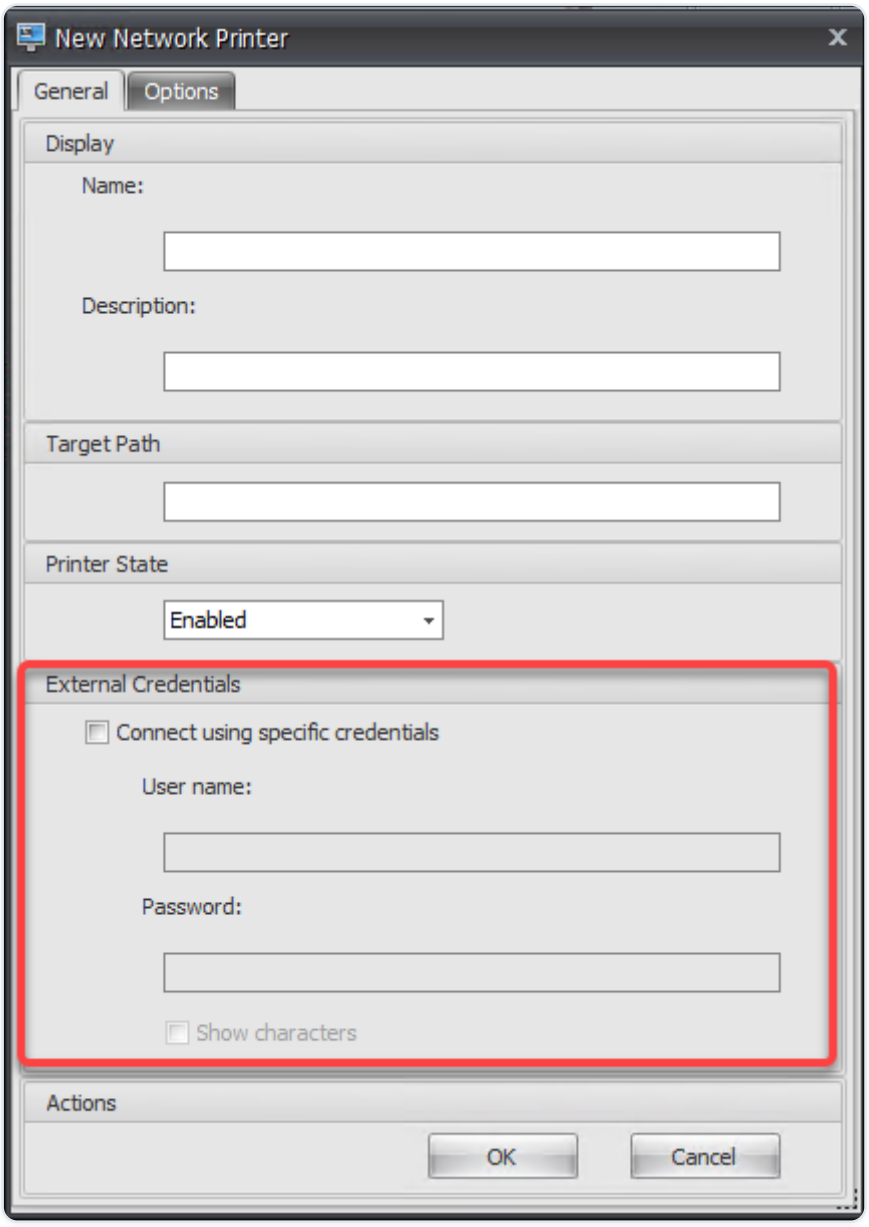
条件名	DATETIME マッチ
予期される値の型	該当なし
予期される結果の型	文字列としてのDateTime。テストする日付/時刻。
予期される構文	単一の日付: 06/01/2016 日付範囲: 06/01/2016-08/01/2016 複数のエントリ: entry1;entry2 範囲と単一の日付は混在可能
戻り値	実行日時が指定されたエントリのいずれかに一致する場合はTrue、それ以外の場合はFalseを返します。

条件名	DATETIME 不一致
否定条件の動作	DateTime マッチを実行し、逆の結果を返します (falseの場合はtrue、trueの場合はfalse)。詳細については、条件 **DateTime マッチ** を参照してください。

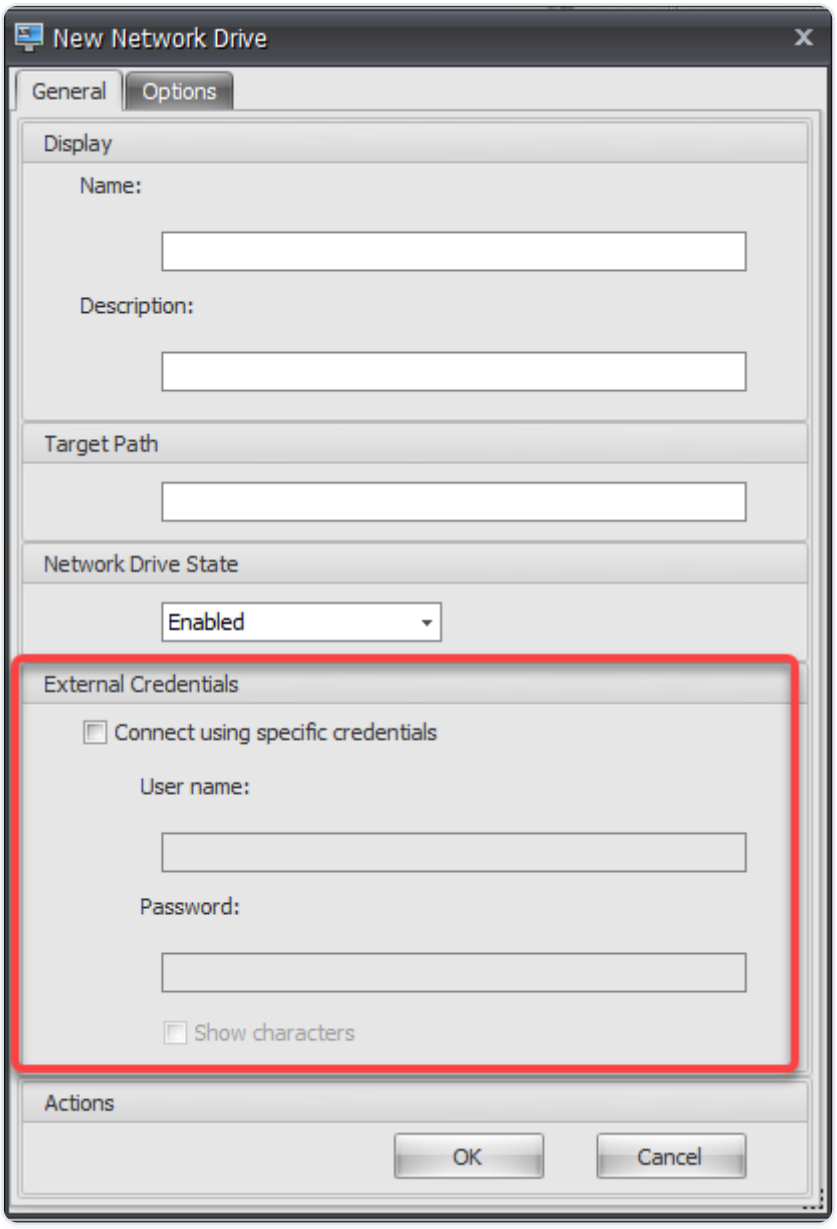
FIPS サポート

FIPS 環境で Workspace Environment Management™ (WEM) を実行できます。WEM の以下の構成は FIPS に関連しています。

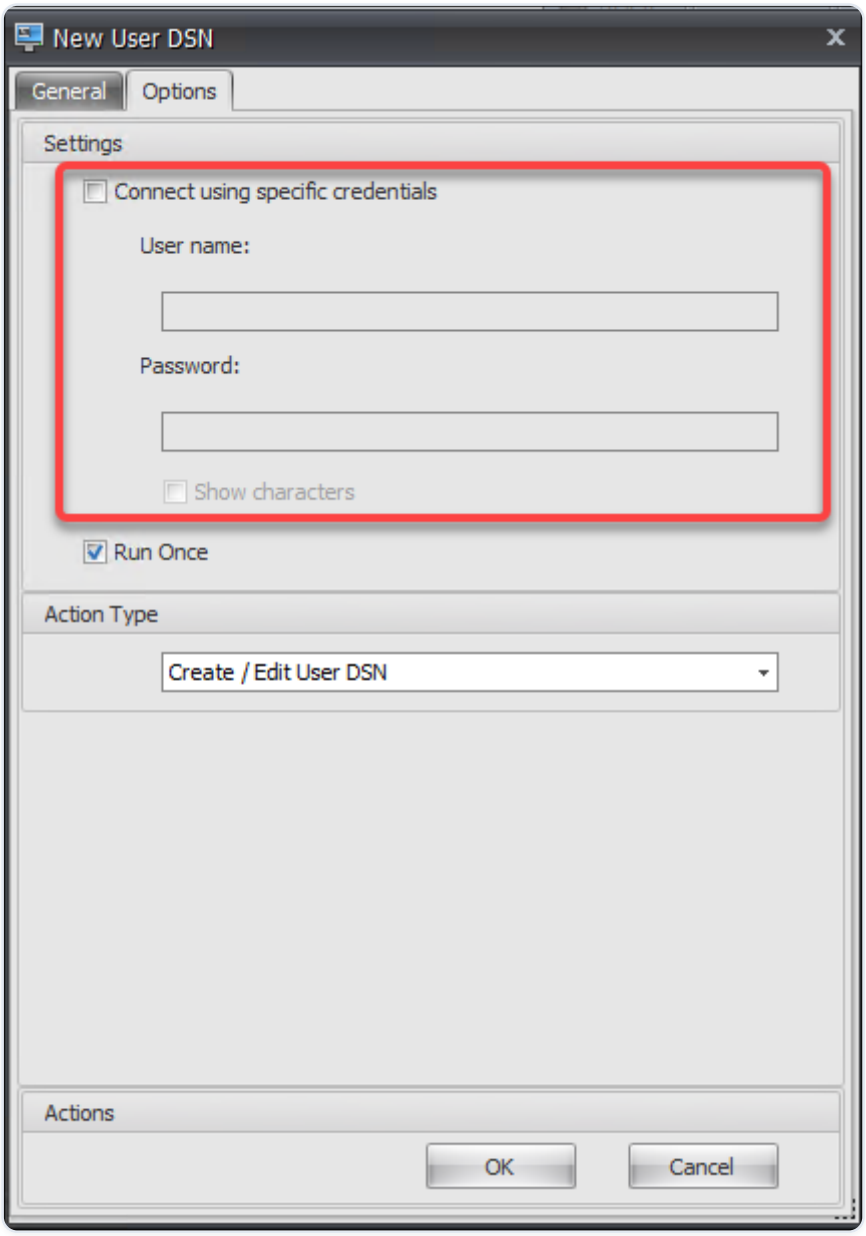
- **管理コンソール > アクション > プリンター** のプリンター資格情報:



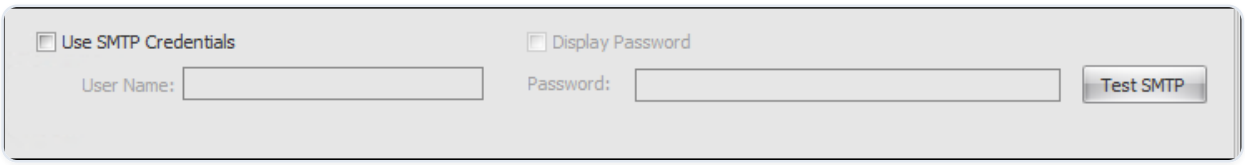
- **管理コンソール > アクション > ネットワークドライブ** のネットワークドライブ資格情報:



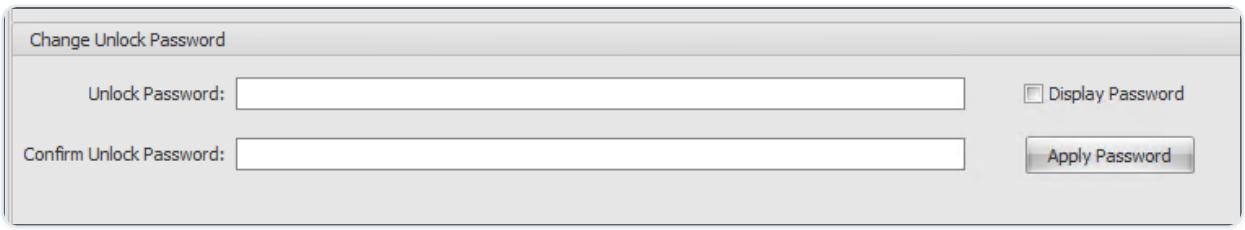
- **管理コンソール > アクション > ユーザー DSN** のユーザー DSN 資格情報:



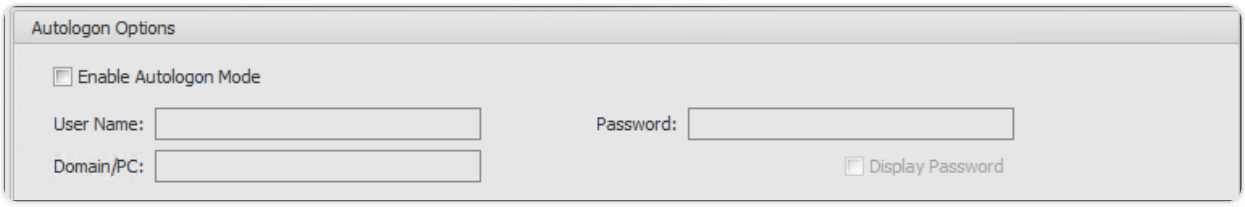
- **管理コンソール > 詳細設定 > UI エージェントのパーソナライズ > ヘルプデスクオプション** の SMTP 資格情報:



- **管理コンソール > トランスフォーマー設定 > 全般 > 全般設定** のロック解除パスワード設定:



- **管理コンソール > トランスフォーマー設定 > 詳細設定 > ログオン/ログオフと電源設定** の自動ログオン資格情報:



FIPS 環境で WEM を実行する場合は、次の考慮事項に注意してください。

- WEM 2003以前の環境からエクスポートされた場合、以下の項目をWEM環境に復元することはできません。
  - アクション（プリンター、ネットワークドライブ、ユーザーDSN）およびそれらのアクションを含むアクショングループ
  - 設定（エージェント構成設定およびトランスフォーマー設定）
  - 構成セット

アップグレードに関する考慮事項

WEMをFIPSモードで実行する場合は、WEMインフラストラクチャサービスと管理コンソールをアップグレードする前に、以下の考慮事項に注意してください。

- 環境で*WEM 2006以降*が実行されている場合は、まず2109にアップグレードしてからFIPSモードに切り替えるか、*その逆*も可能です。
- 環境で*WEM 2003以前*が実行されている場合は、まず2109にアップグレードしてからFIPSモードに切り替える必要があります。

エージェントに関する考慮事項

FIPS環境でWEMエージェントを実行するには、エージェントのバージョンが*2006以降*であることを確認してください。

Citrix ADC を使用した負荷分散

この記事では、2つ以上のインフラストラクチャサーバーを含むWorkspace Environment Management™ (WEM) サーバーグループを、すべてのアクティブな負荷分散構成で展開する方法について説明します。また、WEM 管理コンソールと WEM エージェントからの受信要求を負荷分散するために Citrix ADC アプライアンスを構成する方法の詳細も説明します。

Citrix ADC を使用して、これらのWEMポートでリッスンできます。

- 管理ポート (デフォルトでは 8284)
- エージェントサービスポート (デフォルトでは 8286)
- キャッシュデータ同期ポート (デフォルトでは 8288)

2つのインフラストラクチャサーバー (インフラストラクチャサーバー 1 とインフラストラクチャサーバー 2) を含むWEMサーバーグループを展開するとします。次の手順を実行します。

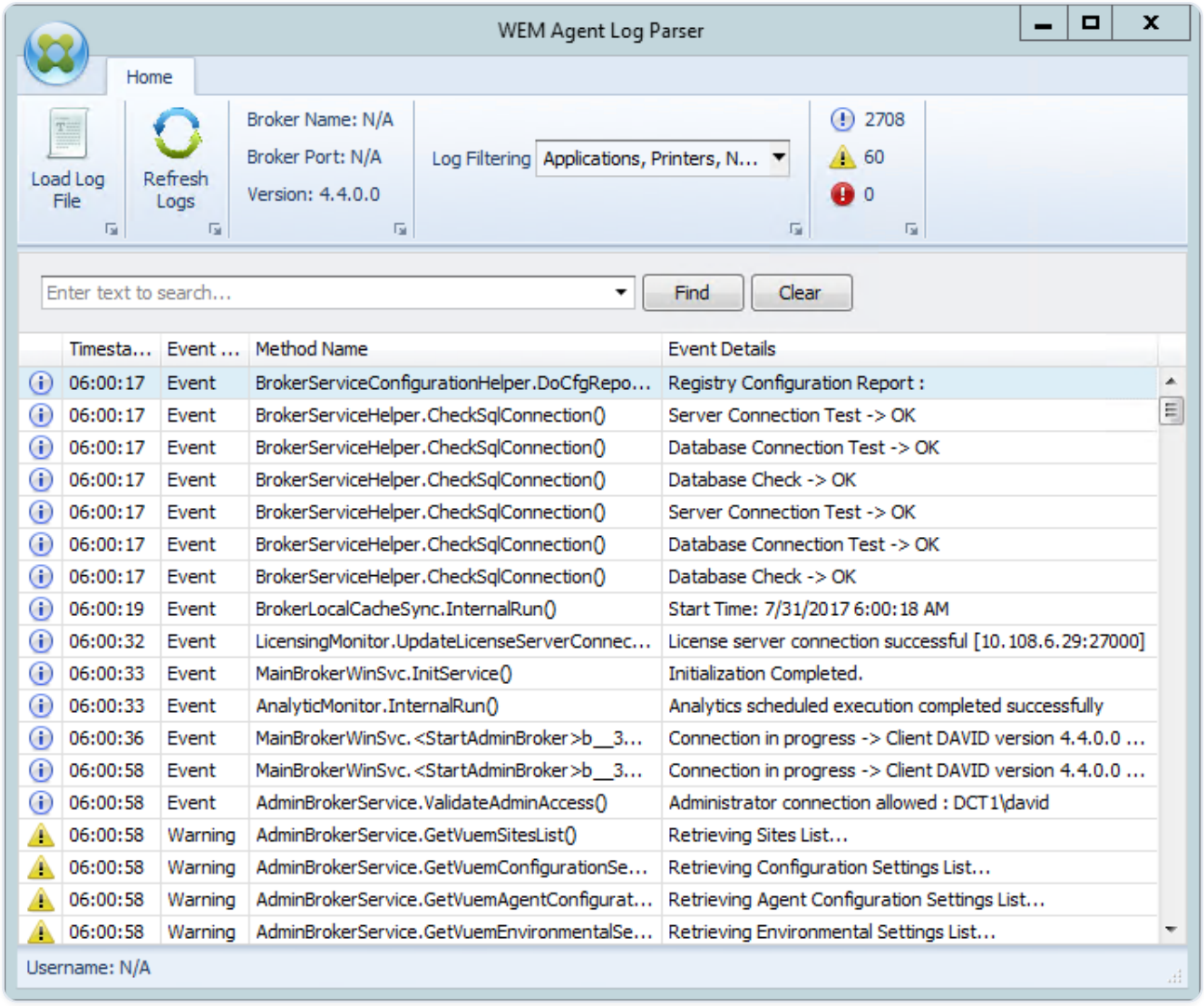
1. Citrix ADC 管理 GUI にログオンし、**Configuration** をクリックします。
2. **Traffic Management > Load Balancing > Servers > Add** に移動し、**Add** をクリックしてインフラストラクチャサーバー 1 を追加します。インフラストラクチャサーバー 2 を追加するために繰り返します。
3. **Traffic Management > Load Balancing > Service Groups** に移動し、**Add** をクリックして *管理コンソールサービス* 用のサービスグループを作成します。
   - **プロトコル**。**TCP** を選択します。
   - **キャッシュタイプ**。**SERVER** を選択します。
4. 負荷分散サービスグループページで、**No Service Group Member** をクリックします。
5. サービスグループメンバーの作成ページで、**Server Based** を選択し、右矢印をクリックして、インフラストラクチャサーバー 1 を選択します。インフラストラクチャサーバー 2 については、手順 3 から 5 を繰り返します。
   - **ポート**。たとえば、管理コンソールには 8284 と入力します。
6. 「*エージェントサービス*」と「*キャッシュ同期サービス*」のサービスグループを作成するには、手順3〜5に従います。
   - **ポート**。「エージェントサービス」ポートには「8286」と入力します。「キャッシュデータ同期」ポートには「8288」と入力します。
7. **Traffic Management > Load Balancing > Virtual Servers** に移動し、**Add** をクリックして「*管理コンソールサービス*」の仮想サーバーを追加します。
   - **プロトコル**。**TCP** を選択します。
   - **IPアドレスの種類**。**IP Address** を選択します。
   - **IPアドレス**。仮想IPを入力します。詳細については、「Citrix ADCが所有するIPアドレスの構成」を参照してください。
   - **ポート**。たとえば、管理コンソールには「8284」と入力します。
8. **ロードバランシング仮想サーバーサービスグループバインディングなし** をクリックします。

9. ページで、右矢印をクリックし、対応するサービスグループを選択して、**Bind** をクリックします。
10. エージェントサービスポートとキャッシュデータ同期ポートでリッスンする仮想サーバーを作成するには、手順7～9に従います。

    - **ポート**。「エージェントサービス」ポートには「8286」と入力します。「キャッシュデータ同期」ポートには「8288」と入力します。

ログパーサー

Workspace Environment Management には、エージェントインストールディレクトリにログパーサーアプリケーションが含まれています。デフォルトの場所は - `c:\Program Files (x86)\Citrix\Workspace Environment Management Agent\Agent Log Parser.exe` です。



WEM Agent Log Parser を使用すると、任意の Workspace Environment Management™ エージェントログファイルを開き、検索およびフィルタリング可能にすることができます。パーサーは、イベント、警告、および例外の合計数 (リボンの右上) を要約します。また、ログファイルに関する

詳細 (最初に接続したインフラストラクチャサービスの名称とポート、エージェントのバージョンとユーザー名) も含まれています。

ポート情報

Workspace Environment Management™ は、以下のポートを使用します。

ソース	宛先	種類	ポート	詳細
インフラストラクチャサービス	エージェントホスト	TCP	49752	「エージェントポート」。インフラストラクチャサービスから指示を受信するエージェントホスト上のリスニングポート。
管理コンソール	インフラストラクチャサービス	TCP	8284	「管理ポート」。管理コンソールがインフラストラクチャサービスに接続するポート。
エージェント	インフラストラクチャサービス	TCP	8286	「エージェントサービスポート」。エージェントがインフラストラクチャサーバーに接続するポート。
エージェントキャッシュ同期プロセス	インフラストラクチャサービス	TCP	8288	「キャッシュデータ同期ポート」。Workspace Environment Management 1912以降に適用され、Workspace Environment

ソース	宛先	種類	ポート	詳細
				Management 1909以前の*キャッシュ同期ポート*を置き換えます。エージェントキャッシュ同期プロセスがインフラストラクチャサービスに接続し、エージェントキャッシュをインフラストラクチャサーバーと同期するためのポートです。
インフラストラクチャサービス	Citrix ライセンスサーバー	TCP	27000	「Citrixライセンスサーバーポート」。Citrixライセンスサーバーがリッスンし、インフラストラクチャサービスがライセンスを検証するために接続するポートです。
インフラストラクチャサービス	Citrix ライセンスサーバー	TCP	7279	Citrixライセンスサーバー内の専用Citrixコンポーネント（デーモン）がライセンスを検証するために使用するポート。
監視サービス	インフラストラクチャサービス	TCP	8287	「WEM監視ポート」。監視

ソース	宛先	種類	ポート	詳細
				サービスによって使用される、インフラストラクチャサーバー上のリッスンポートです。

ログファイルを表示

Workspace Environment Management™ (WEM) に関連するログを収集して表示できます。これらのログは、自分で問題をトラブルシューティングしたり、Citrix テクニカルサポートに問い合わせる際に提供したりするために使用します。次のものに関連するログを収集できます。

- WEM エージェント
- WEM インフラストラクチャサービス
- WEM 管理コンソール
- WEM データベース

エージェント関連のログ

WEM エージェントに関連するログを収集できます。WEM エージェントがインストールされているマシンで収集できるログには、次のものがあります。

- **WEM エージェントログ**
  - **Citrix WEM Agent Init.log**。CMD または UI モードでエージェントの問題をトラブルシューティングできる初期化ログです。このログは、ログオン時または更新時に作成されます。エージェントが起動に失敗した場合は、このログファイルでエラーの詳細を確認してください。エラーは *例外* として表示されます。デフォルトでは、このログファイルはユーザーのプロファイルフォルダー (%userprofile%) に作成されます。
  - **Citrix WEM Agent.log**。CMD または UI モードでエージェントの問題をトラブルシューティングできる主要なログです。このログには、エージェントが処理した命令が一覧表示されます。アクションが現在のユーザーに割り当てられなかった場合は、このログファイルでエラーの詳細を確認してください。エラーは *例外* として表示されます。デフォルトでは、このログファイルはユーザーのプロファイルフォルダー (%userprofile%) に作成されます。デフォルトを変更するには、**管理コンソール > 詳細設定 > 構成 > エージェントオプション** に移動し、**エージェントログの有効化** 設定を構成します。詳細を表示するには、

エージェントオプション タブで **デバッグモード** を有効にします。または、次のレジストリキーを構成してログを有効にすることもできます。

Computer\HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Control\Norskale\Agent Host

名前: AgentDebugModeLocalOverride

種類: DWORD

値: 0

ログファイルを有効にするには値を 1 に設定し、無効にするには 0 に設定します。変更を有効にするには、Citrix WEM Agent Host Service を再起動します。デフォルトでは、ログは無効になっています。

> **注意:**
>
> レジストリを誤って編集すると、オペレーティングシステムの再インストールが必要になるような深刻な問題が発生する可能性があります。Citrixは、レジストリエディターの誤った使用によって生じる問題が解決されることを保証できません。レジストリエディターは自己責任で使用してください。編集する前に必ずレジストリをバックアップしてください。

- **Citrix WEM Agent Host Service Debug.log**。Citrix WEM Agent Host Service の問題のトラブルシューティングに役立つログです。デフォルトでは、このログファイルは `%PROGRAMFILES(X86)%\Citrix\Workspace Environment Management Agent` にあります。ログを有効にするには、**管理コンソール > 詳細設定 > 構成 > サービスオプション**タブで、関連する構成セットの**デバッグモード**を必ず有効にしてください。または、次のレジストリキーを構成してログを有効にすることもできます。

  Computer\HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Control\Norskale\Agent Host

  名前: AgentServiceDebugModeLocalOverride

  種類: DWORD

  値: 0

ログファイルを有効にするには値を 1 に設定し、無効にするには 0 に設定します。変更を有効にするには、Citrix WEM Agent Host Service を再起動してください。デフォルトでは、ログは無効になっています。

> **注意:**
>
> レジストリを誤って編集すると、オペレーティングシステムの再インストールが必要になるような深刻な問題が発生する可能性があります。Citrixは、レジストリエディターの誤った使用によって生じる問題が解決されることを保証できません。レジストリエディターは自己責任で使用してください。編集する前に必ずレジストリをバックアップしてください。

- **Windows イベントログ**。Windows イベントログに書き込まれる情報です。**イベントビューアー > アプリケーションとサービスログ > WEM Agent Service** ペインでログを表示します。
- **Windows Communication Foundation (WCF) トレース**。WEM エージェントと WEM インフラストラクチャサービス間の通信に関連する問題が発生した場合に役立つログです。ログを有効にするには、WCF トレースを有効にする必要があります。詳細については、「Windows Communication Foundation トレース」を参照してください。

インフラストラクチャサービスに関連するログ

WEM インフラストラクチャサービスに関連するログを収集できます。WEM インフラストラクチャサービスがインストールされているマシンで収集できるログには、次のものがあります。

- **Windows イベントログ**。Windows イベントログに書き込まれる情報です。**イベントビューアー > アプリケーションとサービスログ > Norskale Broker Service** ペインでログを表示します。
- **Citrix WEM Infrastructure Service Debug.log**。Citrix WEM インフラストラクチャサービス (Norskale Broker Service.exe) の問題のトラブルシューティングに役立つログです。デフォルトでは、このログファイルは `%PROGRAMFILES(X86)%\ Norskale\Norskale Infrastructure Services` にあります。このログファイルを有効にするには、次の手順に従ってデバッグモードを有効にします。

  a. スタートメニューから**WEM Infrastructure Service Configuration Utility**を開きます。
  b. **詳細設定**タブで、**デバッグモードを有効にする**を選択します。
  c. **構成の保存**をクリックし、**はい**をクリックしてサービスを開始し、変更を適用します。
  d. **WEM Infrastructure Service Configuration Utility**ウィンドウを閉じます。

- **WCFトレース**。WEMインフラストラクチャサービスに関連する通信の問題が発生した場合に役立つログです。ログを有効にするには、WCFトレースを有効にする必要があります。詳細については、「Windows Communication Foundationトレース」を参照してください。

管理コンソールに関連するログ

WEM管理コンソールに関連するログを収集できます。管理コンソールがインストールされているマシンで収集できるログは次のとおりです。

- **Citrix WEM Console Trace.log**。WEM管理コンソールの問題をトラブルシューティングできるログです。デフォルトでは、このログファイルはユーザーのプロファイルフォルダー (%userprofile%) に作成されます。ログを有効にするには、次の手順に従ってデバッグモードを有効にします。

  a. スタートメニューから**WEM管理コンソール**を開き、**接続**をクリックします。
  b. **新しいインフラストラクチャサーバー接続**ウィンドウで、情報を確認してから**接続**をクリックします。
  c. **バージョン情報**タブで、**オプション**をクリックし、**デバッグモードを有効にする**を選択します。
  d. 変更を適用するには、**適用**をクリックします。

- **WCFトレース**。WEM管理コンソールとWEMデータベース間の通信に関連する問題が発生した場合に役立つログです。ログを有効にするには、WCFトレースを有効にする必要があります。詳細については、「Windows Communication Foundationトレース」を参照してください。

WEMデータベースに関連するログ

WEMデータベースに関連するログを収集できます。WEMデータベース管理ユーティリティを使用してデータベースを作成またはアップグレードすると、ログが作成されます。詳細については、次のログファイルを参照してください。

- **Citrix WEM Database Management Utility Debug Log.log**。WEMデータベースの問題をトラブルシューティングできるログです。このログファイルはデフォルトで作成され、`C:\Program Files (x86)\Norskale\Norskale Infrastructure Services`にあります。

ウィンドウズ コミュニケーション ファンデーション トレース

Windows Communication Foundation (WCF) トレースを表示して、次の問題のトラブルシューティングに役立てることができます。

- エージェントとインフラストラクチャサービス間の通信

- WEMインフラストラクチャサービスに関連する通信
- WEM管理コンソールに関連する通信

エージェントとインフラストラクチャサービス間の通信のトラブルシューティング

WEMエージェントがWEMインフラストラクチャサービスと適切に通信しない場合、VUEMUIAgent.exeサービスのWCFトレースを表示できます。WCFトレースを有効にするには、次の手順に従います。

1. WEMエージェントマシンにログオンします。
2. タスクバーのエージェントアイコンを右クリックし、**終了**を選択してエージェントを閉じます。
3. `%PROGRAMFILES(X86)%\Citrix\Workspace Environment Management Agent`にあるVUEMUIAgent.exe.configファイルを見つけ、ファイルのバックアップコピーを作成します。
4. メモ帳またはワードパッドでファイルを開き、`<configuration>`と`</configSections>`マーカーの間のセクションに次のスニペットを挿入します。
5. ファイルを保存します。

```
<system.diagnostics>

    <sources>

            <source name="System.ServiceModel"

                    switchValue="Information, ActivityTracing"

                    propagateActivity="true">

            <listeners>

            <add name="traceListener"

                type="System.Diagnostics.XmlWriterTraceListener"

                initializeData= "c:\trace\vuemUIAgent-Traces.svclog" />

            </listeners>

        </source>

    </sources>
```

```
</system.diagnostics>
```

6. エージェントマシンで、Cドライブに「Trace」というルートフォルダー (C:\Trace) を作成します。フォルダーが既に存在する場合は、この手順をスキップします。
7. 発生した問題を再現し、VUEMUIAgent.exeプロセスを終了します。
8. `C:\Trace` にある `vuemUIAgent-Traces.svclog` という名前のログファイルを表示します。

Citrix.Wem.Agent.Service.exeサービスのWCFトレースも表示できます。次の手順に従います。

1. WEMエージェントマシンにログオンします。
2. タスクバーのエージェントアイコンを右クリックし、**終了**を選択してエージェントを閉じます。
3. Citrix WEM Agent Host Service を終了します。
4. `%PROGRAMFILES(X86)%\Citrix\Workspace Environment Management Agent` にある Citrix.Wem.Agent.Service.exe.config ファイルを見つけて、ファイルのバックアップコピーを作成します。
5. ファイルをメモ帳またはワードパッドで開き、`</configSections>` マーカーの直後の4行目から、次のスニペットをファイルに挿入します。
6. ファイルを保存します。

```
<system.diagnostics>

    <sources>

            <source name="System.ServiceModel"

                    switchValue="Information, ActivityTracing"

                    propagateActivity="true">

            <listeners>

            <add name="traceListener"

                type="System.Diagnostics.XmlWriterTraceListener"

                initializeData= "c:\trace\NorskaleAgentHostService-
Traces.svclog" />
```

```
            </listeners>
        </source>
    </sources>
</system.diagnostics>
```

7. エージェントマシンで、Cドライブ (C:\Trace) に「Trace」というルートフォルダーを作成します。フォルダーがすでに存在する場合は、この手順をスキップします。
8. Citrix WEM Agent Host Service という Windows サービスを開始し、発生した問題を再現します。
9. `C:\Trace` にある `NorskaleAgentHostService-Traces.svclog` という名前のログファイルを表示します。

WEM インフラストラクチャサービスに関連する通信のトラブルシューティング

WEM インフラストラクチャサービスに関連する通信の問題が発生した場合は、Norskale Broker Service の WCF トレースを表示できます。WCF トレースを有効にするには、次の手順に従います。

1. WEM インフラストラクチャサービスがインストールされているマシンにログオンします。
2. Norskale Infrastructure Service を終了します。
3. `%PROGRAMFILES(X86)%\Norskale\Norskale Infrastructure Services` にある Norskale Broker Service.exe.config ファイルを見つけて、ファイルのバックアップコピーを作成します。
4. ファイルをメモ帳またはワードパッドで開き、`<configuration>` マーカーの直後の3行目から、次のスニペットをファイルに挿入します。

```
<system.diagnostics>
    <sources>
            <source name="System.ServiceModel"
                    switchValue="Information, ActivityTracing"
                    propagateActivity="true">
```

```
            <listeners>

            <add name="traceListener"

                type="System.Diagnostics.XmlWriterTraceListener"

                initializeData= "c:
\trace\NorskaleInfrastructureBrokerService-Traces.svclog" />

            </listeners>

        </source>

    </sources>

</system.diagnostics>
```

5. ファイルを保存します。
6. WEM インフラストラクチャサービスマシンで、Cドライブ (C:\Trace) に「Trace」というルートフォルダーを作成します。フォルダーがすでに存在する場合は、この手順をスキップします。
7. Norskale Infrastructure Service を開始し、発生した問題を再現します。
8. `C:\Trace` にある `NorskaleInfrastructureBrokerService-Traces.svclog` という名前のログファイルを表示します。

WEM 管理コンソールと WEM データベース間の通信のトラブルシューティング

WEM 管理コンソールと WEM データベース間の通信に関連する問題が発生した場合は、Norskale Administration Console.exe サービスの WCF トレースを表示できます。WCF トレースを有効にするには、次の手順に従います。

1. WEM 管理コンソールマシンにログオンします。
2. WEM 管理コンソールを閉じます。
3. `%PROGRAMFILES(X86)%\Norskale\Norskale Administration Console` にある Norskale Administration Console.exe.config ファイルを見つけ、ファイルのバックアップコピーを作成します。
4. ファイルをメモ帳またはワードパッドで開き、`<configuration>` マーカーの直後の3行目から、次のスニペットをファイルに追加します。

```
<system.diagnostics>

    <sources>

            <source name="System.ServiceModel"

                    switchValue="Information, ActivityTracing"

                    propagateActivity="true">

            <listeners>

            <add name="traceListener"

                type="System.Diagnostics.XmlWriterTraceListener"

                initializeData= "c:\trace\WEMConsole-Traces.svclog" />

            </listeners>

        </source>

    </sources>

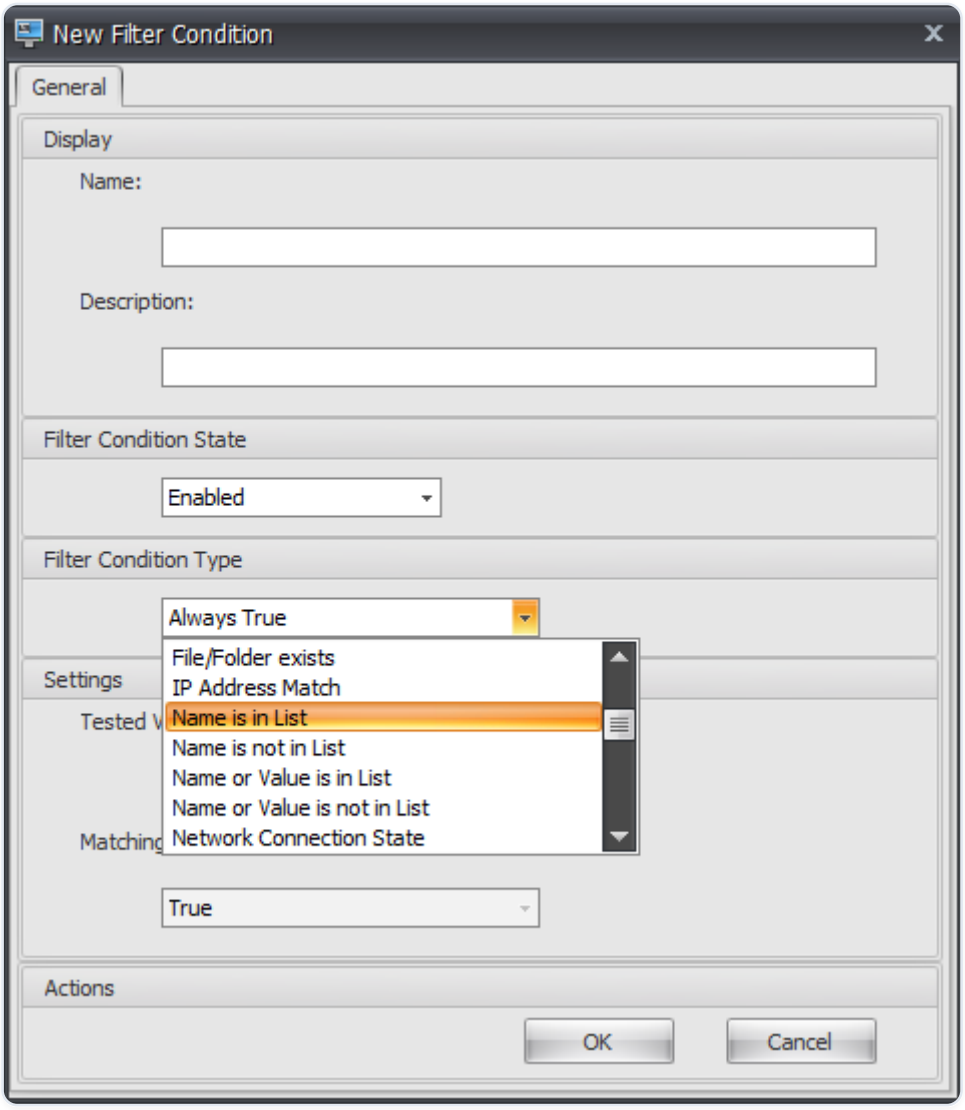
</system.diagnostics>
```

5. ファイルを保存します。
6. 管理コンソールマシンで、Cドライブ (C:\Trace) に「Trace」というルートフォルダーを作成します。フォルダーが既に存在する場合は、この手順をスキップします。
7. WEM 管理コンソールを開き、発生した問題を再現します。
8. `C:\Trace` にある `WEMConsole-Traces.svclog` という名前のログファイルを表示します。

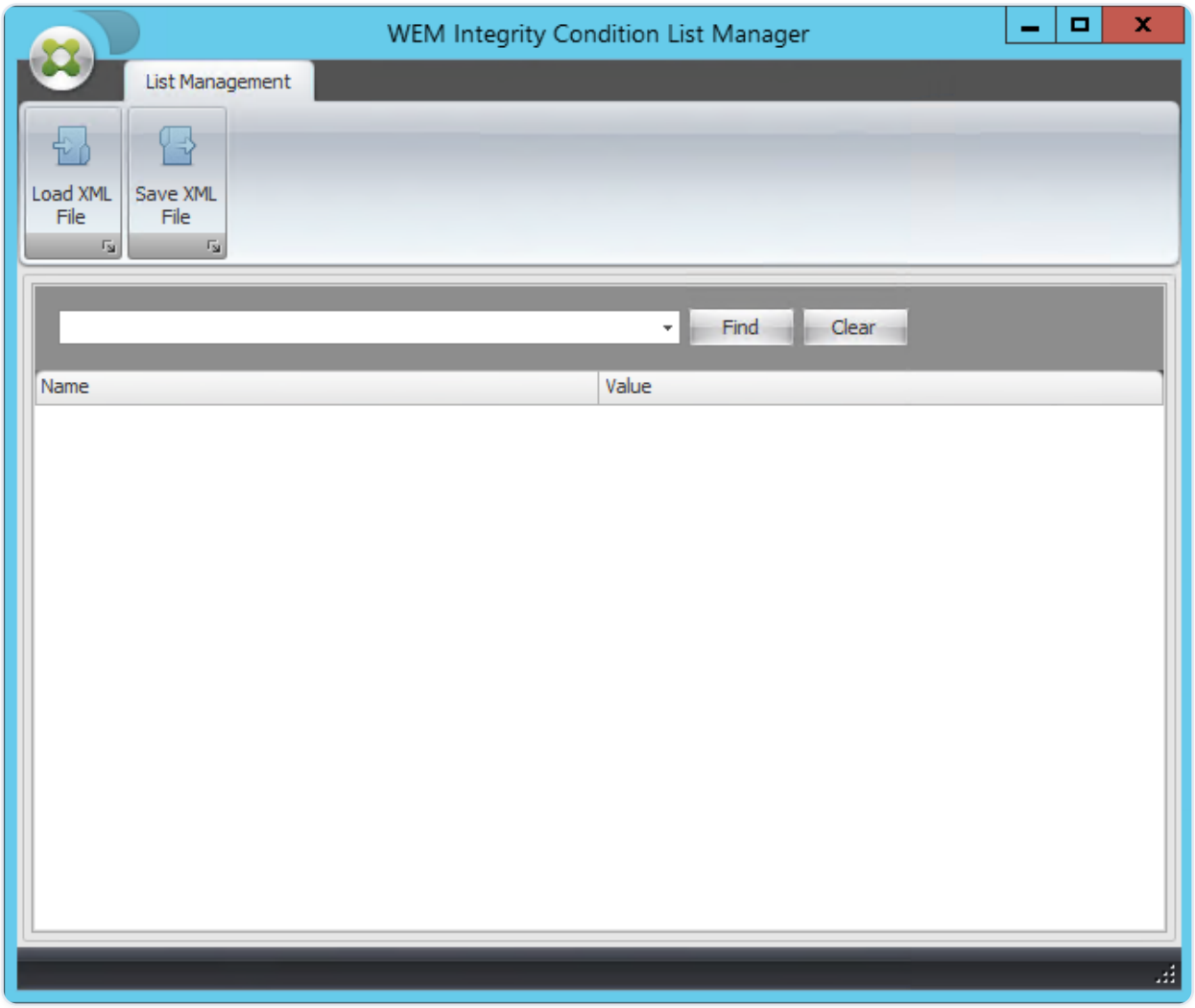
WEM整合性条件リストマネージャー

WEM整合性条件リストマネージャーは、フィルタリング用のXMLファイルを作成するのに役立つ強力なツールです。このツールは、次のフィルター条件タイプで使用されます: **リストに名前がある、リストに名前がない、リストに名前または値がある、リストに名前または値がない**。これらの条件を管理コンソールで使用する方法の詳細については、「フィルター」を参照してください。

この記事では、WEM整合性条件リストマネージャーを使用してフィルタリング用のXMLファイルを作成する方法について説明します。たとえば、**リストに名前がある**と組み合わせてWEM整合性条件リストマネージャーを使用してアクションをフィルタリングするとします。

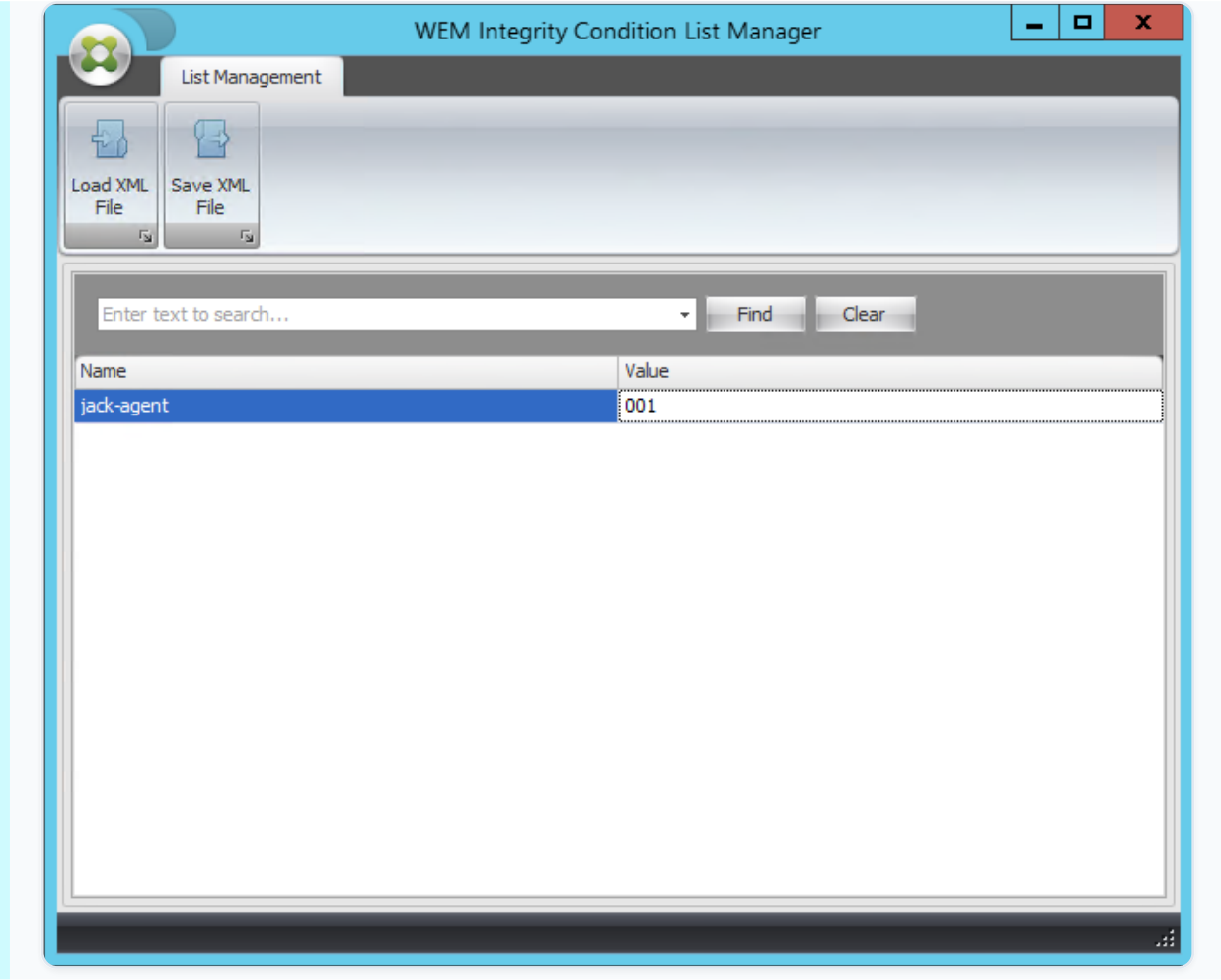


1. WEM整合性条件リストマネージャーを開きます。

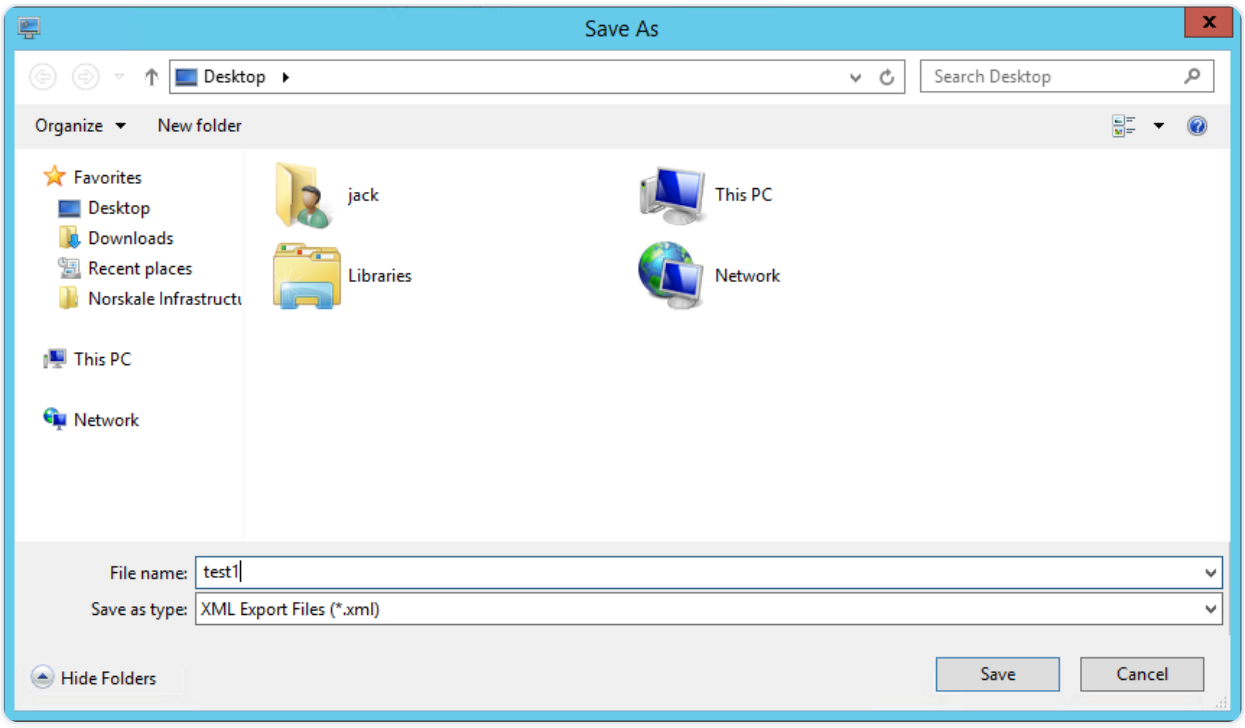


2. 空白領域を右クリックし、コンテキストメニューで **［追加］** を選択します。
3. **［名前］** フィールドに名前を入力します。

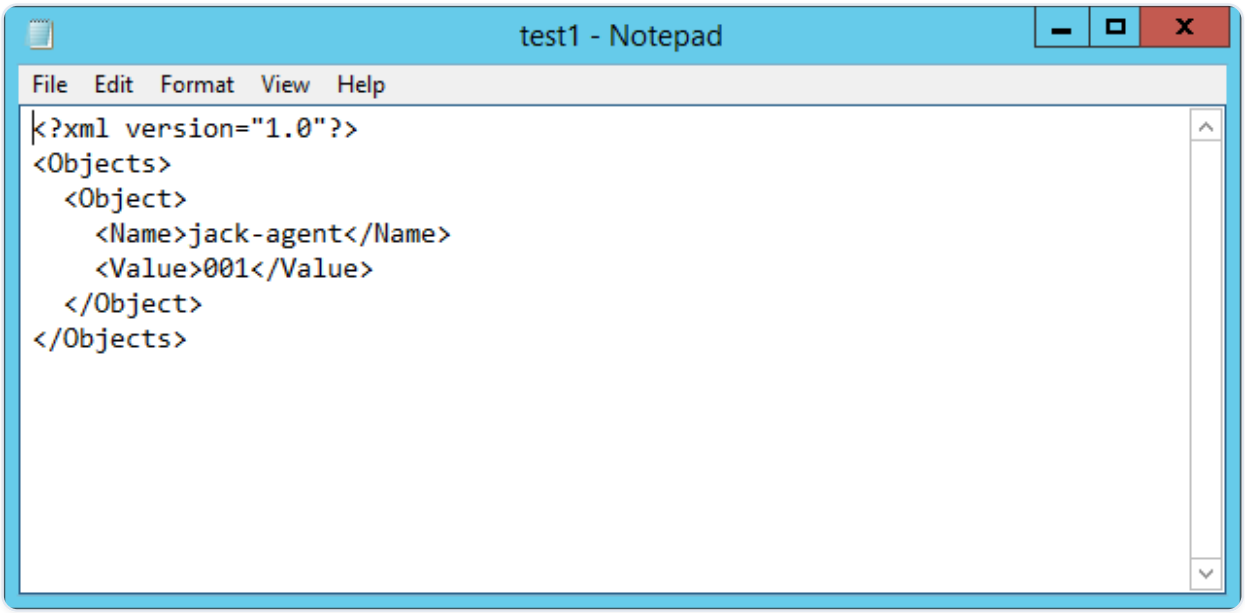
> **注:**
>
> WEMエージェントが実行されているマシン（エージェントホスト）の名前を入力します。



4. **［XMLファイルの保存］** をクリックし、目的のフォルダーを参照して、**［保存］** をクリックします。



5. 保存したXMLファイルを開き、提供した情報が正しく保存されていることを確認します。



6. 保存したXMLファイルをエージェントホスト上のフォルダーにコピーします。

> **注:**
>
> この機能は、XML ファイルを管理コンソールマシンに保存した場合、動作しません。

7. **管理コンソール \> フィルター \> 条件 \> フィルター条件リスト**タブに移動し、**追加**をクリックします。

   管理コンソール 1(/en-us/workspace-environment-management/2308/media/wem-integrity-condition-list-manager-06.png)

8. 情報を入力し、**OK**をクリックします。

   新しいフィルター条件(/en-us/workspace-environment-management/2308/media/wem-integrity-condition-list-manager-07.png)

> **注:**
>
> - **フィルター条件の種類**。「**名前がリストにある**」を選択します。
> - **XML リストファイル**: `C:\Users\<user1>\Desktop\test1.xml` (エージェントホスト上のファイルアドレス)
> - **テスト値**。WEM 整合性条件リストマネージャーの**名前**フィールドに入力した名前に対応する動的トークンを入力します。この例では、エージェントが実行されているマ

> シン (エージェントホスト) の名前を入力しました。したがって、動的トークン「##ComputerName##」を使用する必要があります。動的トークンの使用方法について詳しくは、「動的トークン」を参照してください。

9. **管理コンソール \> フィルター \> ルール \> フィルター規則リスト**タブに移動し、**追加**をクリックします。

   管理コンソール 2(/en-us/workspace-environment-management/2308/media/wem-integrity-condition-list-manager-08.png)

10. **名前**フィールドにフィルター名を入力します。

    新しいフィルター規則 1(/en-us/workspace-environment-management/2308/media/wem-integrity-condition-list-manager-09.png)

11. 設定済みの条件を**利用可能**ペインから**設定済み**ペインに移動し、**OK**をクリックします。

    新しいフィルター規則 2(/en-us/workspace-environment-management/2308/media/wem-integrity-condition-list-manager-10.png)

12. **管理コンソール \> アクション \> アプリケーション \> アプリケーションリスト**タブに移動し、アプリケーションを追加します。

    管理コンソール 3(/en-us/workspace-environment-management/2308/media/wem-integrity-condition-list-manager-11.png)

13. **管理コンソール \> 割り当て \> アクションの割り当て**タブに移動します。

    管理コンソール 4(/en-us/workspace-environment-management/2308/media/wem-integrity-condition-list-manager-12.png)

14. 目的のユーザーまたはユーザーグループをダブルクリックします (この例では、エージェントホストを選択します)。

    管理コンソール 5(/en-us/workspace-environment-management/2308/media/wem-integrity-condition-list-manager-13.png)

15. アプリケーションを**利用可能**ペインから**割り当て済み**ペインに移動します。

    フィルターの割り当て 1(/en-us/workspace-environment-management/2308/media/wem-integrity-condition-list-manager-14.png)

16. フィルターを選択し、**OK**をクリックします。

フィルターの割り当て 2(/en-us/workspace-environment-management/2308/media/wem-integrity-condition-list-manager-15.png)

17. 割り当てられたアプリケーションのオプションを有効にします (この例では、**デスクトップの作成**と**タスクバーにピン留め**を有効にします)。

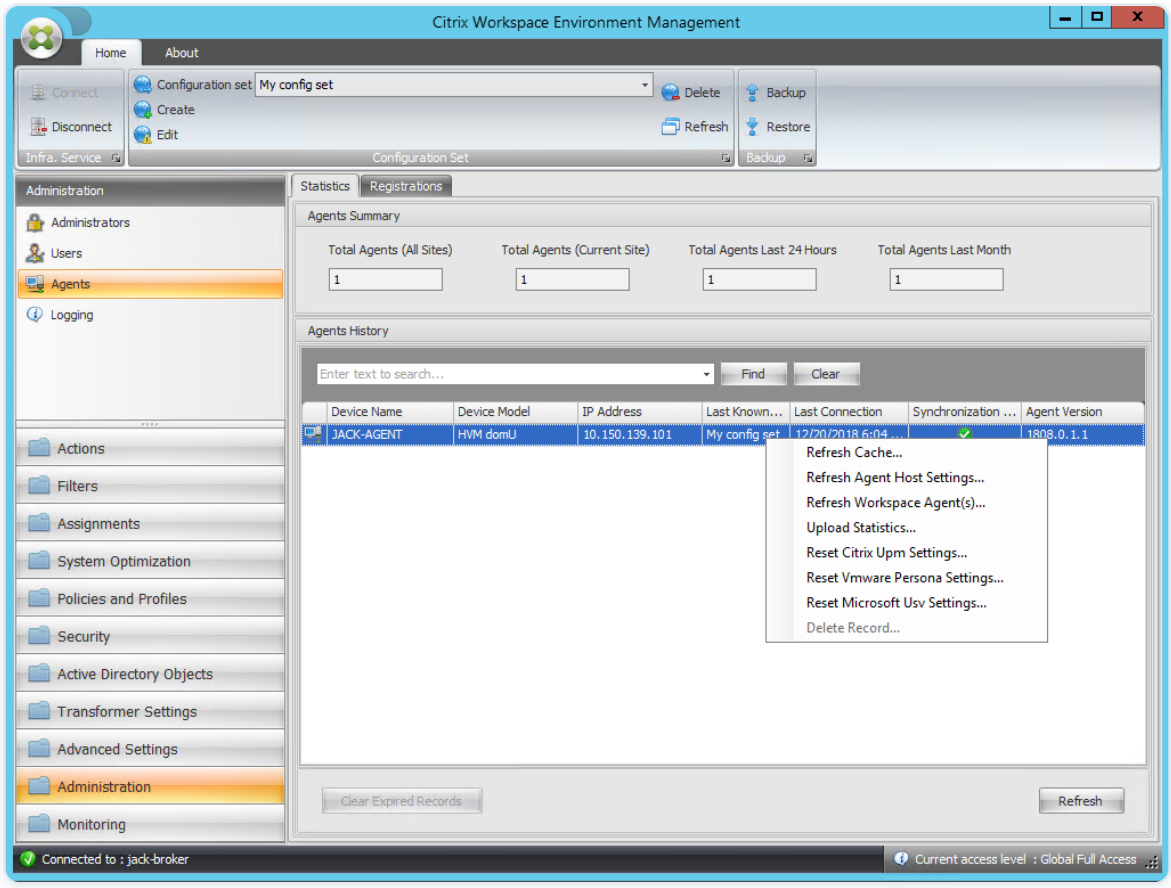
    管理コンソール 6(/en-us/workspace-environment-management/2308/media/wem-integrity-condition-list-manager-16.png)

18. **管理コンソール \> 管理 \> エージェント \> 統計**タブに移動し、**更新**をクリックします。

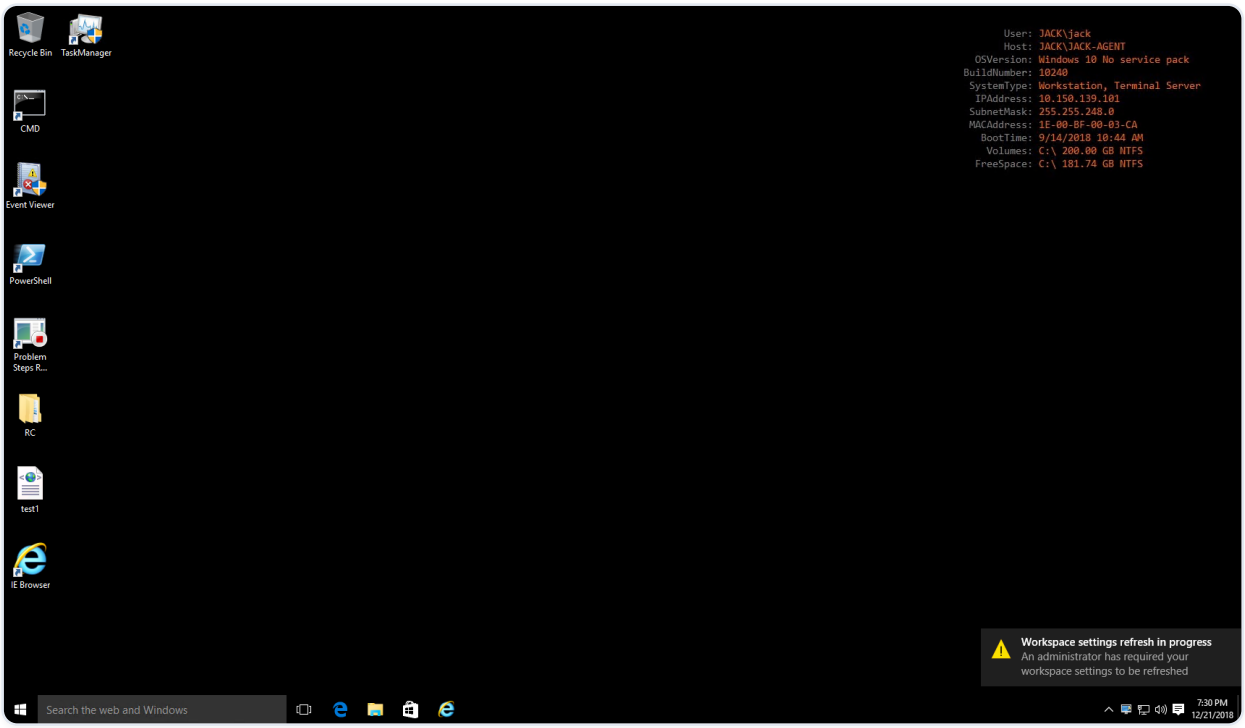
    管理コンソール 7(/en-us/workspace-environment-management/2308/media/wem-integrity-condition-list-manager-17.png)

19. エージェントを右クリックし、コンテキストメニューから**Workspace Agent(s) の更新**を選択します。

> **注:**
>
> 設定を有効にするには、エージェントが実行されているマシンに移動し、Citrix WEM Agentを更新することもできます。



20. エージェントが実行されているマシン（エージェントホスト）に移動し、構成された条件が機能することを確認します。



この例では、アプリケーションはエージェントマシンに正常に割り当てられました。デスクトップに作成され、タスクバーにピン留めされました。

XML プリンターリストの構成

Workspace Environment Management™ には、XML プリンターリストファイルを使用してユーザープリンターを構成する機能が含まれています。

XML プリンターリストファイルを作成したら、管理コンソールで **Action Type** オプションを **Use Device Mapping Printers File** に設定して、プリンターアクション を作成します。

> **注:**
>
> 特定の Windows 資格情報を必要としないプリンターのみがサポートされています。

XML プリンターリストファイルの構造

XML ファイルは UTF-8 でエンコードされており、次の基本的な XML 構造を持っています。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>



    <ArrayOfSerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter
xmlns:xsd="http://www.w3.org/2001/XMLSchema" xmlns:xsi="http://www.w3.org/
2001/XMLSchema-instance">

    ...

    </
ArrayOfSerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter>
```

すべてのクライアントと関連付けられたデバイスは、次の種類のオブジェクトによって表されます。

```
SerializableKeyValuePair&lt;string, List&lt;VUEMUserAssignedPrinter>>>
```

各デバイスは次のように表されます。

```
    <SerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter>

        <Key>DEVICE1</Key>

        <Value>

            <VUEMUserAssignedPrinter>

               ...

            </VUEMUserAssignedPrinter>

        </Value>

    </SerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter>
```

各デバイスブロックは、特定のクライアントまたはコンピューター名と一致している必要があります。**\<Key>** タグには関連する名前が含まれています。**\<Value>** タグには、指定されたクラ

イアントに割り当てられたプリンターと一致する **VUEMUserAssignedPrinter** オブジェクトのリストが含まれています。

```
    <?xml version="1.0" encoding="utf-8"?>



 <ArrayOfSerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter
xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance" xmlns:xsd="http://
www.w3.org/2001/XMLSchema">

        <SerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter>

            <Key>DEVICE1</Key>

            <Value>

                <VUEMUserAssignedPrinter>

             ...

                </VUEMUserAssignedPrinter>

            </Value>

        </SerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter>

       </
ArrayOfSerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter>
```

VUEMUserAssignedPrinter タグの構文

構成された各プリンターは、次の属性を使用して **\<VUEMUserAssignedPrinter>** タグで定義する必要があります。

\<IdPrinter>。これは、構成されたプリンターの Workspace Environment Management プリンター ID です。各プリンターは異なる ID を持つ必要があります。**注** Workspace Environment Management 管理コンソールで構成された XML プリンターリストアクションも、独自の ID を持つプリンターアクションであり、XML リストで個別に構成されたプリンターの ID とは異なる必要があります。

\<IdSite>。関連する Workspace Environment Management サイトのサイト ID が含まれており、既存のサイトの ID と一致する必要があります。

\<State>。プリンターの状態を指定します。1 はアクティブ、0 は無効です。

\<ActionType>。常に 0 である必要があります。

\<UseExtCredentials>. 0である必要があります。特定のWindows資格情報の使用は現在サポートされていません。

\<isDefault>. 1の場合、プリンターはデフォルトのWindowsプリンターです。0の場合、デフォルトとして構成されていません。

\<IdFilterRule>. 常に1である必要があります。

\<RevisionId>. 常に1である必要があります。プリンターのプロパティが後で変更された場合は、この値を1増やしてエージェントホストに通知し、プリンターアクションが再処理されるようにします。

\<Name>. これは、Workspace Environment Managementエージェントホストによって認識されるプリンター名です。このフィールドは空白に**できません**。

\<Description>. これは、Workspace Environment Managementエージェントホストによって認識されるプリンターの説明です。このフィールドは空白にできます。

\<DisplayName>. これは使用されず、空白のままにする必要があります。

\<TargetPath>. これはプリンターへのUNCパスです。

\<ExtLogin>. 接続用のWindows資格情報を指定する際に使用されるWindowsアカウント名が含まれます。。

\<ExtPassword>. 接続用のWindows資格情報を指定する際に使用されるWindowsアカウントのパスワードが含まれます。。

\<Reserved01>. これには詳細設定が含まれています。**いかなる方法でも**変更しないでください。

```
&gt;&lt;VUEMActionAdvancedOption&gt;&lt;Name&gt;SelfHealingEnabled&lt;/
Name&gt;&lt;Value&gt;0&lt;/Value&gt;&lt;/VUEMActionAdvancedOption
```

特定のプリンターオブジェクトの自己修復をアクティブにするには、上記のコンテンツをコピーして貼り付け、強調表示されている**0**の値を**1**に変更するだけです。

プリンターオブジェクトの例

次の例では、クライアントまたはコンピューター**DEVICE1**に2つのアクティブなプリンターを割り当てます。

- **HP LaserJet 2200 Series** (UNCパス `\\server.example.net\HP LaserJet 2200 Series`) (デフォルトプリンター)
- **Canon C5531i Series** プリンター (UNC パス `\\server.example.net\Canon C5531i Series`)

また、クライアントまたはコンピューター DEVICE2 にアクティブなプリンターを 1 台割り当てます。

- **HP LaserJet 2200 Series** (UNC パス `\\server.example.net\HP LaserJet 2200 Series`)

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8"?>

  <ArrayOfSerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter
xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance" xmlns:xsd="http://
www.w3.org/2001/XMLSchema">

    <SerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter>

        <Key>DEVICE1</Key>

        <Value>

            <VUEMUserAssignedPrinter>

                <IdPrinter>1</IdPrinter>

                <IdSite>1</IdSite>

                <State>1</State>

                <ActionType>0</ActionType>

                <UseExtCredentials>0</UseExtCredentials>

                <isDefault>1</isDefault>

                <IdFilterRule>1</IdFilterRule>
```

```
                <RevisionId>1</RevisionId>

                <Name>HP LaserJet 2200 Series</Name>

                <Description />

                <DisplayName />

                <TargetPath>\\server.example.net\HP LaserJet 2200 Series</
TargetPath>

                <ExtLogin />

                <ExtPassword />

                <Reserved01>&lt;?xml version="1.0" encoding="utf-8"?
&gt;&lt;ArrayOfVUEMActionAdvancedOption xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/
XMLSchema-instance" xmlns:xsd="http://www.w3.org/2001/
XMLSchema"&gt;&lt;VUEMActionAdvancedOption&gt;&lt;Name&gt;SelfHealingEnabl
ed&lt;/Name&gt;&lt;Value&gt;0&lt;/Value&gt;&lt;/
VUEMActionAdvancedOption&gt;&lt;/ArrayOfVUEMActionAdvancedOption&gt;</
Reserved01>

            </VUEMUserAssignedPrinter>

        </Value>

      <Value>

            <VUEMUserAssignedPrinter>

                <IdPrinter>2</IdPrinter>

                <IdSite>1</IdSite>

                <State>1</State>

                <ActionType>0</ActionType>

                <UseExtCredentials>0</UseExtCredentials>

                <isDefault>0</isDefault>
```

```
                <IdFilterRule>1</IdFilterRule>

                <RevisionId>1</RevisionId>

                <Name>Canon C5531i Series</Name>

                <Description />

                <DisplayName />

                <TargetPath>\\server.example.net\Canon C5531i Series</
TargetPath>

                <ExtLogin />

                <ExtPassword />

                <Reserved01>&lt;?xml version="1.0" encoding="utf-8"?
&gt;&lt;ArrayOfVUEMActionAdvancedOption xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/
XMLSchema-instance" xmlns:xsd="http://www.w3.org/2001/
XMLSchema"&gt;&lt;VUEMActionAdvancedOption&gt;&lt;Name&gt;SelfHealingEnabl
ed&lt;/Name&gt;&lt;Value&gt;0&lt;/Value&gt;&lt;/
VUEMActionAdvancedOption&gt;&lt;/ArrayOfVUEMActionAdvancedOption&gt;</
Reserved01>

            </VUEMUserAssignedPrinter>

        </Value></
SerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter>

      <SerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter>

        <Key>DEVICE2</Key>

        <Value>

            <VUEMUserAssignedPrinter>

                <IdPrinter>1</IdPrinter>

                <IdSite>1</IdSite>

                <State>1</State>
```

```
                <ActionType>0</ActionType>

                <UseExtCredentials>0</UseExtCredentials>

                <isDefault>0</isDefault>

                <IdFilterRule>1</IdFilterRule>

                <RevisionId>1</RevisionId>

                <Name>HP LaserJet 2200 Series</Name>

                <Description />

                <DisplayName />

                <TargetPath>\\server.example.net\HP LaserJet 2200 Series</
TargetPath>

                <ExtLogin />

                <ExtPassword />

                <Reserved01>&lt;?xml version="1.0" encoding="utf-8"?
&gt;&lt;ArrayOfVUEMActionAdvancedOption xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/
XMLSchema-instance" xmlns:xsd="http://www.w3.org/2001/
XMLSchema"&gt;&lt;VUEMActionAdvancedOption&gt;&lt;Name&gt;SelfHealingEnabl
ed&lt;/Name&gt;&lt;Value&gt;0&lt;/Value&gt;&lt;/
VUEMActionAdvancedOption&gt;&lt;/ArrayOfVUEMActionAdvancedOption&gt;</
Reserved01>

            </VUEMUserAssignedPrinter>

        </Value></
SerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter>

   </ArrayOfSerializableKeyValuePairOfStringListOfVUEMUserAssignedPrinter>
```

用語集

この記事には、Workspace Environment Management™ (WEM) ソフトウェアおよびドキュメントで使用される用語と定義が含まれています。

オンプレミス用語のみ

Citrix Cloud™ サービス用語のみ

Admin Broker Port。「管理ポート」のレガシー用語です。

管理コンソール。インフラストラクチャサービスに接続するインターフェイスです。管理コンソールを使用して、リソースの作成と割り当て、ポリシーの管理、ユーザーの承認などを行います。

Citrix Cloud では、Workspace Environment Management サービスの管理コンソールは、Citrix Cloud ベースの Citrix virtual apps™ サーバーでホストされます。Web ブラウザーを使用して、サービスの **Manage** タブから管理コンソールを使用して WEM のインストールを管理します。

管理ポート 。管理コンソールがインフラストラクチャサービスに接続するポートです。ポートの既定値は 8284 で、AdminPort コマンドライン引数に対応します。

エージェント。Workspace Environment Management エージェントは、エージェントサービスとセッションエージェントの2つのコンポーネントで構成されます。これらのコンポーネントはエージェントホストにインストールされます。

Agent Host executable。「セッションエージェント」のレガシー用語です。

Agent Host machine。「エージェントホスト」のレガシー用語です。

Agent Host service。「エージェントサービス」のレガシー用語です。

Agent Broker Port。「エージェントサービスポート」のレガシー用語です。

Agent Cache Synchronization Port。「キャッシュ同期ポート」のレガシー用語です。

エージェントホスト。エージェントがインストールされているマシンです。

エージェントホスト構成GPO。エージェントのインストール時にADMまたはADMXファイルとして提供されるグループポリシーオブジェクト (GPO) 管理用テンプレート。管理者はこれらのファイルをActive Directoryにインポートし、その後、適切な組織単位に設定を適用します。

エージェントポート 。インフラストラクチャサービスから指示を受信するエージェントホスト上のリスニングポート。たとえば、管理コンソールからエージェントを強制的に更新するために使用されます。ポートのデフォルトは49752です。

エージェントサービス。VDAまたはTransformerのユースケースにおける物理Windowsデバイスに展開されるサービスです。管理コンソールを使用して構成する設定を適用する責任があります。

エージェントサービスポート 。エージェントがインフラストラクチャサーバーに接続するポート。ポートのデフォルトは8286で、AgentPortコマンドライン引数に対応します。

エージェント同期ブローカーポート。「キャッシュ同期ポート」のレガシー用語。

ブローカー。「インフラストラクチャサービス」のレガシー用語。

ブローカーアカウント。「インフラストラクチャサービスアカウント」のレガシー用語。

ブローカーサーバー。「インフラストラクチャサーバー」のレガシー用語。

ブローカーサービスアカウント。「インフラストラクチャサービスアカウント」のレガシー用語。

キャッシュ同期ポート 。エージェントキャッシュ同期プロセスがインフラストラクチャサービスに接続し、エージェントキャッシュをインフラストラクチャサーバーと同期させるためのポート。ポートのデフォルトは8285で、AgentSyncPortコマンドライン引数に対応します。

Citrixライセンスサーバーポート 。Citrixライセンスサーバーがリッスンしており、インフラストラクチャサービスがライセンス検証のために接続するポート。ポートのデフォルトは27000です。

Citrix Cloud Connector™ 。リソースロケーション内のマシンがCitrix Cloudと通信できるようにするソフトウェア。各リソースロケーションで少なくとも1台のマシン（クラウドコネクタ）にインストールされます。

構成セット。Workspace Environment Managementの構成設定のセット。

コネクションブローカー。「インフラストラクチャサーバー」のレガシー用語。

データベース。Workspace Environment Managementの構成設定を含むデータベース。

Workspace Environment Management のオンプレミスバージョンでは、データベースは SQL Server インスタンスに作成されます。Citrix Cloud では、Workspace Environment Management サービスの設定は Microsoft Azure SQL Database サービスに保存されます。

データベースサーバーアカウント 。データベース作成ウィザードが SQL インスタンスに接続して Workspace Environment Management データベースを作成するために使用するアカウント。

DSN。データソース名 (DSN) には、データベース名、ディレクトリ、データベースドライバー、ユーザーID、パスワード、その他の情報が含まれます。特定のデータベース用に DSN を作成すると、アプリケーションでその DSN を使用してデータベースから情報を呼び出すことができます。

インフラストラクチャサーバー 。Workspace Environment Management インフラストラクチャサービスがインストールされているコンピューター。

インフラストラクチャサーバー管理ポート。「管理ポート」のレガシー用語。

インフラストラクチャサービス。インフラストラクチャサーバーにインストールされているサービスで、さまざまなバックエンドコンポーネント (SQL Server、Active Directory) をフロントエンドコンポーネント (管理コンソール、エージェントホスト) と同期します。このサービスは以前「ブローカー」と呼ばれていました。

Citrix Cloud では、インフラストラクチャサービスは Citrix Cloud でホストされ、Citrix によって管理されます。これらは、さまざまなバックエンドコンポーネント (Azure SQL Database サービス、管理コンソール) をフロントエンドコンポーネント (エージェント、Active Directory) と同期します。

インフラストラクチャサービスアカウント 。インフラストラクチャサービスがデータベースに接続するために使用するアカウント。デフォルトでは、このアカウントは vuemUser SQL アカウントですが、データベース作成時に、インフラストラクチャサービスが使用する他の Windows 資格情報をオプションで指定できます。

インフラストラクチャサービスサーバー。「インフラストラクチャサーバー」のレガシー用語。

インフラストラクチャサービス。インフラストラクチャサービスインストールプロセスによってインフラストラクチャサーバーにインストールされるサービス。

Citrix Cloud では、インフラストラクチャサービスは Citrix Cloud でホストされ、Citrix によって管理されます。これらは、さまざまなバックエンドコンポーネント (Azure SQL Database サービス、管理コンソール) をフロントエンドコンポーネント (エージェント、Active Directory) と同期します。

初期管理者グループ 。データベース作成時に選択されるユーザーグループ。このグループのメンバーのみが、管理コンソールのすべての Workspace Environment Management サイトに対するフルアクセス権を持ちます。デフォルトでは、このグループがこのアクセス権を持つ唯一のグループです。

統合接続 。データベース作成ウィザードが SQL アカウントではなく、現在の Windows アカウントを使用して SQL インスタンスに接続すること。

キオスクモード。エージェントが Web またはアプリケーションランチャーとなり、ユーザーを単一のアプリまたはデスクトップエクスペリエンスにリダイレクトするモード。これにより、管理者はユーザー環境を単一のアプリまたはデスクトップにロックダウンできます。

監視ブローカーポート。「WEM 監視ポート」のレガシー用語。

混合モード認証 。SQL Serverにおいて、Windows認証とSQL Server認証の両方を有効にする認証モードです。これは、インフラストラクチャサービスがデータベースに接続するためのデフォルトのメカニズムです。

ライセンスサーバーポート。「Citrix License Server port」のレガシー用語です。

ネットワークドライブ。LAN、サーバー、またはNASデバイス上の物理ストレージデバイスです。

リソースの場所 。サブスクライバーにサービスを提供するために必要なリソースを含む場所（パブリックまたはプライベートクラウド、支店、データセンターなど）です。

SaaS 。*Software as a service*は、サードパーティプロバイダーがアプリケーションをホストし、インターネット経由で顧客に提供するソフトウェア配布モデルです。

セルフサービスウィンドウ。エンドユーザーがWorkspace Environment Managementで構成された機能（アイコン、デフォルトプリンターなど）を選択できるインターフェイスです。このインターフェイスは、「UIモード」のセッションエージェントによって提供されます。

サービスプリンシパル名 (SPN)。サービスインスタンスの一意の識別子です。SPNは、Kerberos認証によってサービスインスタンスをサービスログオンアカウントに関連付けるために使用されます。

セッションエージェント。ユーザーセッションのアプリショートカットを構成するエージェントです。エージェントは「UIモード」と「コマンドライン」モードで動作します。UIモードは、ステータスバーアイコンからアクセスできるセルフサービスインターフェイスを提供し、エンドユーザーはそこから特定の機能（アイコン、デフォルトプリンターなど）を選択できます。

サイト。「構成セット」のレガシー用語です。

SQLユーザーアカウント 。インストール中に作成される「vuemUser」という名前のSQLユーザーアカウントです。これは、インフラストラクチャサービスがデータベースに接続するために使用するデフォルトのアカウントです。

トランスフォーマー。Workspace Environment Managementエージェントが制限されたキオスクモードで接続する機能です。

仮想ドライブ。**subst**コマンドまたは**DefineDosDevice**関数を使用して作成されたWindows仮想ドライブ（MS-DOSデバイス名とも呼ばれます）。仮想ドライブは、ローカルファイルパスをドライブ文字にマッピングします。

仮想IPアドレス (VIP)。実際の物理ネットワークインターフェイス（ポート）に対応しないIPアドレスです。

VUEM。Virtual User Environment Management。これは、製品の一部の箇所に表示されるレガシーなNorskale用語です。

vuemUser 。Workspace Environment Managementデータベース作成時に作成されるSQLアカウントです。これは、Workspace Environment Managementインフラストラクチャサービスがデータベースに接続するために使用するデフォルトのアカウントです。

WEM Broker。「インフラストラクチャサービス」のレガシー用語。

WEM monitoring port 。監視サービスによって使用されるインフラストラクチャサーバー上のリスニングポート。ポートはデフォルトで8287です。（未実装）

WEM UI Agent executable。「セッションエージェント」のレガシー用語。

Windows account impersonation。サービスがWindowsアカウントのIDで実行される場合。

Windows AppLocker。ファイルの一意のIDに基づいて、組織内で特定のアプリケーションを実行できるユーザーまたはグループを指定できるWindows機能。AppLockerを使用すると、アプリケーションの実行を許可または拒否するルールを作成できます。

Windows authentication。SQL Serverにおいて、特定のWindowsユーザーアカウントとグループアカウントがSQL Serverへのログインを信頼されるデフォルトの認証モード。SQL Serverの代替認証モードは混合モード認証です。

Windows security。「Windows認証」のレガシー用語。

Workspace Environment Management (WEM) service 。WEM管理コンポーネントをSaaSサービスとして提供するCitrix Cloudサービス。